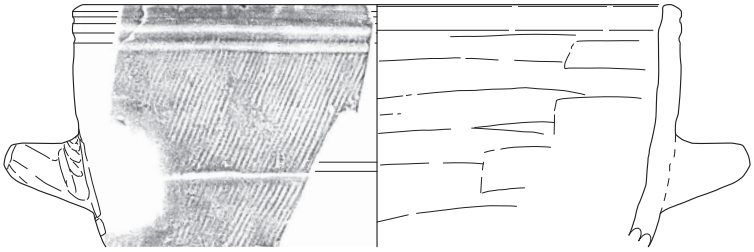
愛知県東海市

平成 25 年度

畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告書



2015 年

東海市教育委員会

愛知県東海市

平成 25 年度

畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告書

2015 年

東海市教育委員会

1　畑間遺跡から常蓮寺を望む（西北から）

1　弥生土器（２地点 146SK・010SK 出土）

2　山茶碗と皿（１地点 060SK・２地点 223SK ほか出土）

序

はるか昔、万葉集の時代に「知多の浦」と歌われた遠浅の海が広がる伊勢湾に面する愛知県東海市は、北は名古屋市に接する知多半島の付け根に位置します。愛知県の語源となったとされる「あゆち潟」が広がっていた地域でもありますが、現在では海浜部の埋め立てが進み、我が国でも有数の工業地帯へとその姿を変えています。

この万葉集の時代よりもはるか以前、縄文時代から先人達は生活の足跡を残してきました。本書で報告する畑間、東畑、郷中遺跡もそうした先人達の暮らしぶりを現在に伝えている貴重な文化財です。

東海市では中心街整備事業にともない、失われてしまう埋蔵文化財を記録保存する発掘調査を平成１１年度から続けてきました。本書では平成２５年度に行われた調査成果を報告します。

今後、本書が既刊の報告書と合わせて地域の歴史研究に活用され、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

なお、調査に際しては、地元の皆様ならびに関係者、関係諸機関より多大なる御理解、御協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成２７年３月

愛知県東海市教育委員会

教育長　加　藤　朝　夫

例言

1．　本書は、愛知県東海市大田町に所在する畑間（はたま）遺跡・東畑（ひがしはた）遺跡・郷中（ごうちゅう）遺跡の発掘調査報告書である。

2．　本調査は東海太田川駅周辺土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として、東海市教育委員会が同事業施行者である東海市長から依頼を受け、株式会社アコード名古屋営業所と業務委託契約を結び、「畑間・郷中遺跡発掘調査業務委託」として実施した。

3．　現地調査は、平成 25 年 8 月 26 日から平成 26 年 1 月 21 日まで実施し、遺物洗浄・注記等の 1 次整理作業は現地調査と併行して実施し、平成 26 年 3 月 26 日に終了した。

4．　遺物実測等の 2 次整理作業および本書の作成は、東海市教育委員会と株式会社アコード名古屋営業所が業務委託契約を結び、「畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告書作成業務委託」として実施した。

5．　報告書作成業務は平成 26 年 6 月 21 日から開始し、平成 27 年 3 月 31 日に本書を刊行した。

6．　発掘調査面積は以下の通りである。

　　郷中遺跡（1 地点）　313.73㎡

　　畑間遺跡（2 地点）　630.17㎡

　　東畑遺跡（3 地点）　25.52㎡

7．　現地調査および整理作業は東海市教育委員会（社会教育課主任　宮澤浩司）監督のもと、中村毅（株式会社アコード調査技師）が担当した。

8．　現地調査における労務・安全衛生管理は大倉崇（株式会社アコード施工監理技士）が担当した。

9．　現地調査における測量業務および遺構図作成は星英司（株式会社アコード測量士）が担当し、測量助手の林貴光と稲垣耕作（株式会社アコード測量助手）がこれを補助した。

10.　遺物整理作業においてはナカシャクリエイテブ株式会社の協力を得た。

11.　本書は宮澤の監督のもと、中村が編集した。

12.　本書は第 1 章第 1 ～ 3 節を宮澤が、第 1 章第 4 節～第 4 章は中村が執筆した。

13.　付論第 1 章は大阪市立大学安部みき子氏、第 2 章は大阪府教育委員会宮崎泰史氏から玉稿を賜った。付論は平成 24 年度 7 地点出土動物骨に関するものである。

14.　本書で掲載した写真は中村が撮影した。ただし付論は除く。

15.　出土遺物と図面、写真、台帳類は東海市教育委員会が保管している。

16.　調査ならびに報告書の作成にあたって、下記の方々および機関からご指導とご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略　50 音順）

青木修　石黒立人　永井宏幸　中野晴久　中村賢太郎　畑山智史　早野浩二　坂野俊哉
愛知県教育委員会　公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
東海市中心街整備事務所

凡例

1．　遺跡の略称はこれまでの略称に今回の調査年度（西暦）を示す 13 を付したもので、以下の通りである。

郷中遺跡（１地点）＝ＧＣ１３

畑間遺跡（２地点）＝ＨＭ１３

東畑遺跡（３地点）＝ＨＨ１３

2．　遺物注記や図面等の記録および本書の記述においても、上記の略称を用いている。

3．　遺構番号は遺跡（調査区）ごとに通し番号を付けた。

4．　遺構の種別記号は『発掘調査のてびき』文化庁文化財部記念物課編 2010 に従った。以下に主なものを記す。

ＳＫ＝土坑　ＳＰ＝柱穴（柱痕跡や形状から判断）　ＳＤ＝溝　ＮＲ＝自然流路

ＳＡ＝柵列　ＳＢ＝掘立柱建物　ＳＩ＝竪穴建物　ＳＸ＝不明遺構・落ち込み等

5．　本書で使用した座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠し、世界測地系にて表記している。方位は座標北を示す。標高は東京湾平均海面（T.P.）を使用した。

6．　層・遺構埋土および遺物胎土の色調は『新版標準土色帖』2006 年版　農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を基準とした。

7．　土質に関しては、粒子の大きさで区分し、小さいものから以下の通りとした。

粘土→シルト質粘土→粘土質シルト→シルト→砂質シルト→

極細粒砂→細粒砂→中粒砂→粗粒砂→礫砂→砂礫

8．　本書で用いた遺物の年代観等に関する参考文献は本文末に記載している。

9．　本書の遺構図は 1 /100・ 1 /50・ 1 /20 を基本とし、一部にその他の縮尺を用いている。

10．　遺物実測図は 1 /4 を基本とし、一部にその他の縮尺を用いている。

目次

第１章　序章

第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
第２節　位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
第３節　既往の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
第４節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
第５節　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

第２章　遺構

第１節　遺構の概要と基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
第２節　郷中遺跡（１地点）の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
第３節　畑間遺跡（２地点）の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
第４節　東畑遺跡（３地点）の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

第３章　遺物

第１節　遺物の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
第２節　縄文〜弥生時代の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
第３節　古墳時代後期〜古代の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
第４節　中世の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

第４章　総括

第１節　包含層（Ⅲ層）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　38
第２節　中世町割り溝の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
第３節　時期別の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46
第４節　さいごに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48

遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
遺物一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　63

付論

第１章　東海市東畑遺跡出土の埋葬馬の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　78
第２章　東畑遺跡出土の埋葬犬について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　94

挿図目次

第 1 図	調査地の位置	1
第 2 図	遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第 3 図	調査区配置図	6
第 4 図	調査区・グリッド位置図	8
第 5 図	基本層序模式図	12
第 6 図	中世溝（1 地点）	14
第 7 図	040SD（1 地点）	15
第 8 図	002SK、060SK（1 地点）	15
第 9 図	土坑（1 地点）	16
第 10 図	040SD（2 地点）	18
第 11 図	130・131SD（2 地点）	20
第 12 図	110・190SD、220SD（2 地点）	21
第 13 図	160・230SD（2 地点）	23
第 14 図	170・210SD、180SD（2 地点）	24
第 15 図	044SK（2 地点）	25
第 16 図	土坑ほか（2 地点）	26
第 17 図	097SK（2 地点）	27
第 18 図	125SK（2 地点）	27
第 19 図	223SK（2 地点）	28
第 20 図	233SX（2 地点）	29
第 21 図	239SK（2 地点）	29
第 22 図	002・003SD（3 地点）	31
第 23 図	石鏃	32
第 24 図	土製品・石製品	32
第 25 図	縄文晩期～弥生時代前期の土器	33
第 26 図	須恵器杯 H	34
第 27 図	239SK（2 地点）出土須恵器	34
第 28 図	灰釉陶器	35
第 29 図	中世遺構（2 地点）出土遺物	37
第 30 図	中世町割り溝群	43

表目次

表 1	既往の発掘調査報告書	5
表 2	遺構数一覧	12
表 3	中世遺構の出土遺物破片数	36
表 4	Ⅲ層出土遺物破片数	40
表 5	町割り溝群一覧	42
表 6	時期区分と時期別遺構数	46

写真目次

写真 1	航空写真（遺跡周辺の環境）	4
写真 2	畑間遺跡調査前状況	9
写真 3	畑間遺跡西区機械掘削状況	10
写真 4	畑間遺跡 130SD 調査状況	10
写真 5	畑間遺跡西区調査状況	10
写真 6	郷中遺跡撹乱掘削状況	10
写真 7	畑間遺跡中区調査状況	11
写真 8	畑間遺跡 160SD 調査状況	11
写真 9	畑間遺跡 223SK 調査状況	11
写真 10	東畑遺跡調査状況	11
写真 11	119SP、121SP（2 地点）	17
写真 12	040SD（2 地点）	18
写真 13	110SD、220SD 断面（2 地点）	19
写真 14	130・131SD 断面（2 地点）	19
写真 15	097SK（2 地点）	27
写真 16	125SK（2 地点）	27
写真 17	砂層の皿状構造	30

図版目次

図版 1	郷中遺跡　平面図
図版 2	郷中遺跡　断面図
図版 3	畑間遺跡　平面図（南西部）
図版 4	畑間遺跡　平面図（北西部）
図版 5	畑間遺跡　平面図（東部）
図版 6	畑間遺跡　平面図
図版 7	畑間遺跡　断面図 1
図版 8	畑間遺跡　断面図 2
図版 9	畑間遺跡　断面図 3
図版 10	東畑遺跡　平面図
図版 11	東畑遺跡　断面図
図版 12	弥生時代の土器
図版 13	古代の土師器・製塩土器
図版 14	古代の須恵器
図版 15	中世の土器・陶磁器 1
図版 16	中世の土器・陶磁器 2
図版 17	中世の土器・陶磁器 3
図版 18	中世の土器・陶磁器 4

写真図版目次

写真図版 1　1　郷中遺跡全景
　　2　郷中遺跡東部
写真図版 2　1　郷中遺跡北壁断面（西側）
　　2　郷中遺跡北壁断面（中央）
　　3　郷中遺跡北壁断面（東側）
写真図版 3　1　001SD、005SD、035SD 検出
　　2　001SD、005SD、035SD
写真図版 4　1　035SD、001SD 断面
　　2　021SD、020SD 断面
写真図版 5　1　040SD
　　2　040SD 断面
写真図版 6　1　040SD 検出
　　2　002SK
　　3　007SK
　　4　009SK
　　5　060SK
写真図版 7　1　畑間遺跡西区全景南西部
　　2　畑間遺跡西区全景北東部
写真図版 8　1　畑間遺跡東区全景
　　2　畑間遺跡中区全景
写真図版 9　1　畑間遺跡西区北東部検出
　　2　畑間遺跡西区南西部検出
写真図版 10　1　畑間遺跡西区西壁断面
　　2　畑間遺跡西区北東部東壁断面
写真図版 11　1　畑間遺跡中区北壁断面
　　2　畑間遺跡東区南壁断面
　　3　畑間遺跡東区東壁断面
写真図版 12　1　110SD
　　2　110SD 断面
写真図版 13　1　190SD 検出
　　2　190SD 断面
写真図版 14　1　160・230SD 検出
　　2　160・230SD
写真図版 15　1　160・230SD 断面
　　2　160・230SD 断面
写真図版 16　1　170・210SD
　　2　170・210SD 断面
写真図版 17　1　170SD 下層検出西側屈曲部
　　2　170SD 下層検出東側
写真図版 18　1　223SK 遺物出土状況
　　2　233SX
写真図版 19　1　010SK
　　2　010SK 出土土器
　　3　146SK 出土土器
　　4　146SK
写真図版 20　1　東畑遺跡第 1 面全景
　　2　東畑遺跡第 1 面検出
写真図版 21　1　東畑遺跡第 2 面全景
　　2　東畑遺跡第 2 面検出
写真図版 22　1　東畑遺跡南壁断面
　　2　東畑遺跡西壁断面
写真図版 23　1　002・003SD
　　2　002・003SD 断面
写真図版 24　遺物　須恵器・山茶碗ほか
写真図版 25　遺物　弥生土器・輸入陶磁器・土製品ほか
写真図版 26　遺物　弥生土器
写真図版 27　遺物　土師器・製塩土器・須恵器
写真図版 28　遺物　須恵器・灰釉陶器
写真図版 29　遺物　中世の土器・陶磁器 1
写真図版 30　遺物　中世の土器・陶磁器 2

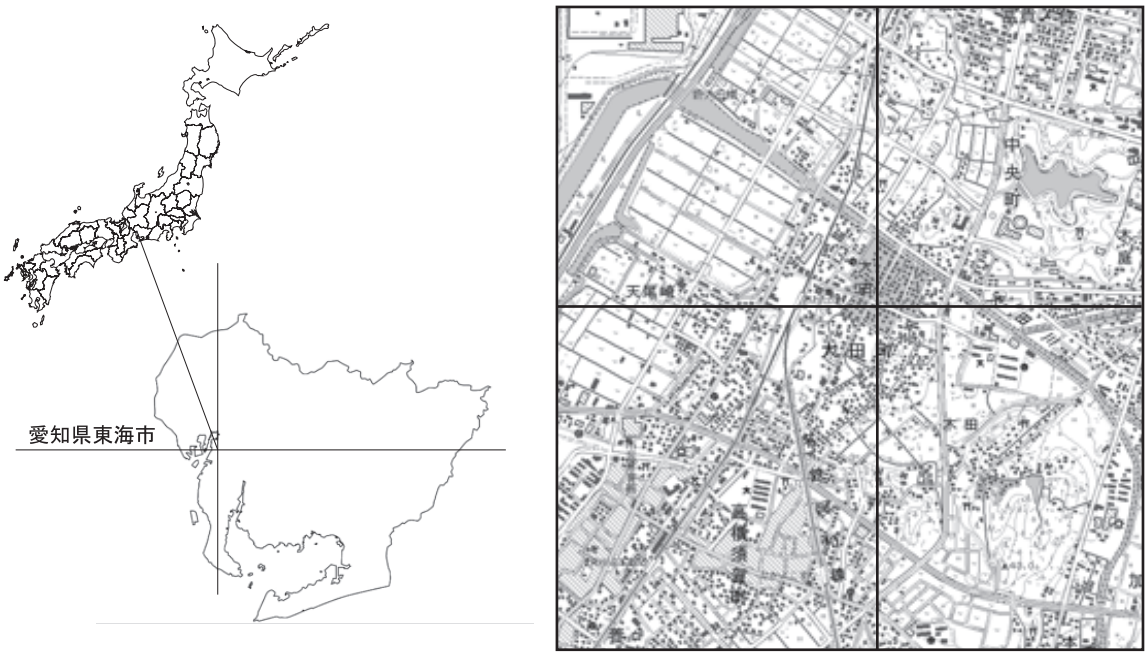
第1章　序章

第1節　調査に至る経緯

畑間遺跡、東畑遺跡及び郷中遺跡は愛知県東海市大田町に位置する（第1図）。平成8年度から10年度にかけて愛知県教育委員会が実施した知多半島遺跡詳細分布調査（註1）によると、畑間遺跡は古墳時代から中世にかけての遺物散布地、郷中遺跡及び東畑遺跡は弥生時代から中世にかけての遺物散布地とされている。

本市では、名古屋鉄道太田川駅周辺地区を中心市街地として位置づけており、平成4年度から土地区画整理事業及び鉄道高架事業を実施している。これらの事業に伴い、事業区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地について、その範囲および性格を把握するために平成8年度に試掘調査を実施した（註2）。この調査によって、事業区域内には畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡をはじめ、後田遺跡、龍雲院遺跡が存在することが確認された。この試掘調査の結果に基づき土地区画整理事業担当部局である中心街整備事務所と協議・調整をはかり、平成11年度から東海市教育委員会によって、主として道路整備用地の記録保存を目的とした緊急発掘調査を継続して実施している。平成25年度末時点での調査済み面積は18,475㎡である。

平成25年度の調査は、原因者である東海太田川駅周辺土地区画整理事業施行者代表者の東海市長から平成25年5月27日付け中第56号にて文化財保護法第94条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知があり、平成25年6月14日付け25教生第759号にて愛知県教育委員会教育長から発掘調査指示があった。これを受けて、畑間遺跡、郷中遺跡範囲内の2地点940㎡について、原因者である東海太田川駅周辺土地区画整理事業施行者代表者の東海市長から平成25年6月18日付け中第77号にて発掘調査依頼があり、平成25年6月18日付け社第153号にて東海市教育委員会教育長から発掘調査を実施する旨回答し、現地調査業務及び1次整理作業について、平成25年7月25日に株式会社アコード名古屋営業所と業務委託契約を締結した。



第1図　調査地の位置

第２節　位置と歴史的環境（図２・写真１）

畑間、東畑、郷中遺跡は知多半島西岸の伊勢湾に面した海岸平地に展開する砂堆上に立地する遺跡である。知多半島西岸部には海岸部に向けて開けた海岸平地がいくつか展開するが、畑間、東畑、郷中遺跡が立地する東海市大田町周辺から、知多市北部の寺本にかけて南北に延びる海岸平地はその中でも最大のものである。この平地を構成する地層は沖積層であり、縄文海進の時期には水面下にあったとみられる。その証左として、畑間、東畑、郷中遺跡の東側に延びる丘陵上に展開する高ノ御前遺跡が挙げられる。高ノ御前遺跡からは市内最古の縄文時代前期の土器が出土している。高ノ御前遺跡の現在の海抜高は 12 m程である。

その後、畑間、東畑、郷中遺跡周辺が陸地化したのは、海水面が後退する縄文時代中期から後期にかけてとみられ、東畑遺跡からは当該期の縄文土器が少なからず出土する。恐らく縄文時代中期から後期には砂堆と呼ばれる砂の高まりが形成され、現在遺跡の範囲として捉えている海岸平地が陸地化していたと考えられる。

砂堆とは、伊勢湾を河口に持つ木曽川や、知多半島の丘陵部から流れる小河川や、波による陸地の浸食等、様々な作用によって供給された砂が、伊勢湾の沿岸流等によって運ばれて海岸に沿って堆積したものと考えられており、その形成時期の違いによって本遺跡周辺では３条の砂堆列がみられる。最も海岸から奥の砂堆列から順に第１、第２、第３砂堆と呼んでおり、畑間、東畑、郷中遺跡は第１砂堆に位置する（写真１）。

第１砂堆は最も東西幅が広く大規模であるが、南北方向は丘陵部に規制され、１km 程にとどまる。この丘陵部には北側の丘陵上に真言宗の古刹である弥勒寺が、南側丘陵上に天台宗の古刹である観福寺が所在しており、両者に挟まれた位置に畑間・東畑遺跡の集落が展開することは示唆的である。この他第１砂堆状には、最も北側の弥勒寺が立地する丘陵山裾に王塚古墳（古墳時代・滅失）、神宮前遺跡（古墳～中世）が所在する。王塚古墳は、昭和初期の道路拡幅の際に石室などが出土したと伝えられ、出土遺物の一部（須恵器短頸壺・坏蓋）が東海市立郷土資料館に所蔵されている他は詳らかではない。同じく神宮前遺跡についても遺物散布地として知られてはいるが、発掘調査が実施されておらず、詳細は不明である。なお、王塚古墳、神宮前遺跡の両遺跡のすぐ南を流れる大田川は、江戸時代初期に尾張藩２代藩主徳川光友により、横須賀御殿の建築に際して新たに開削された流路であり、現在では大田川によって断絶されているこれらの遺跡は、近世までは畑間、東畑遺跡とつながっていたことから、現在の景観とは異なる一体の遺跡群としてとらえる必要があろう。

第２砂堆は第３砂堆と比べて幅が狭く小規模である。名鉄太田川駅の辺りから北側の大宮神社辺りまで広がっている。この砂堆上には後田遺跡（古墳～平安）が位置する。後田遺跡周辺は宅地化が進んでいるが、製塩土器が採集されており、後述する上浜田遺跡、下浜田遺跡と密接に関連した遺跡であると考えられる。この砂堆の北端に位置する大宮神社は創建時期が不詳であるが、東海市史によると、平安時代に大郷（大田町周辺）が熱田神宮の荘園となるに伴って、荘園鎮守神として熱田から勧請されたと推定されている。

第３砂堆は形成時期が最も新しいが、最も規模が大きく、旧海岸線沿いに知多市北部まで延びている。知多市域ではこの第３砂堆上に弥生時代以降大規模な集落が形成された。本市域では古墳時代中期以降の著名な製塩遺跡として知られる松崎遺跡（古墳～平安）や上浜田遺跡（古墳～平安）、下浜田遺跡（奈良～平安）が存在する。

36	浜新田堤防	51	龍雲院遺跡	62	烏帽子遺跡	135	上浜田遺跡
37	松崎遺跡	**52**	**東畑遺跡**	116	上前田遺跡	136	御州浜庭園跡
41	後浜新田堤防	53	高ノ御前遺跡	117	西広１号遺跡	140	川南新田堤防
42	下浜田遺跡	54	太田川第3踏切貝塚	118	西広２号遺跡	143	滝川半斎屋敷
43	後田遺跡	55	庄之脇遺跡	119	山畑遺跡	144	横須賀代官所
44	神宮前遺跡	56	木田城跡	121	横須賀御殿跡		
45	王塚古墳	57	木田遺跡	**122**	**郷中遺跡**		
46	峰畑貝塚	58	下畑遺跡	123	弥勒寺遺跡		
47	北屋敷遺跡	59	前畑遺跡	133	丸根古墳		
50	**畑間遺跡**	60	北広遺跡	134	大池北貝塚		

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

写真１　航空写真（遺跡周辺の環境）

撮影　国土地理院
年月日　1961 年 5 月 1 日
高度　2000m
周辺の状況を加筆（上が北）
参考文献 1 より引用

概観すると、畑間、東畑、郷中遺跡の所在する大田町周辺では、最も奥側の第１砂堆上に中心的な集落が立地し、第２、第３砂堆が積極的に利用されるのは古墳時代以降ということになる。これは第３砂堆上に弥生集落が展開する知多市とは様相を異にする。その理由としては、大田町周辺では内陸側に奥まった、いわば谷状地形であったことから、第１砂堆が大きく発達し、居住に適していたことが考えられる。

この大田町周辺には上記の遺跡の他、主に弥生時代の集落である烏帽子遺跡（縄文～近世）、尾張藩２代藩主徳川光友の浜御殿である横須賀御殿跡などの遺跡が所在する。また、近世には第３砂堆の先海岸部が新田開発されて埋め立てられた。川北新田、川南新田、浜新田がそれである。中でも浜新田からは圃場整備に伴って新田堤防の圦（いり）が出土している。こうした近世の新田開発や大田川の付け替えに加え、現代の埋立てによって弥生時代以来の景観は失われているが、遺跡の分布や僅かに残る砂堆の痕跡などから、かつての環境を復元することができる。

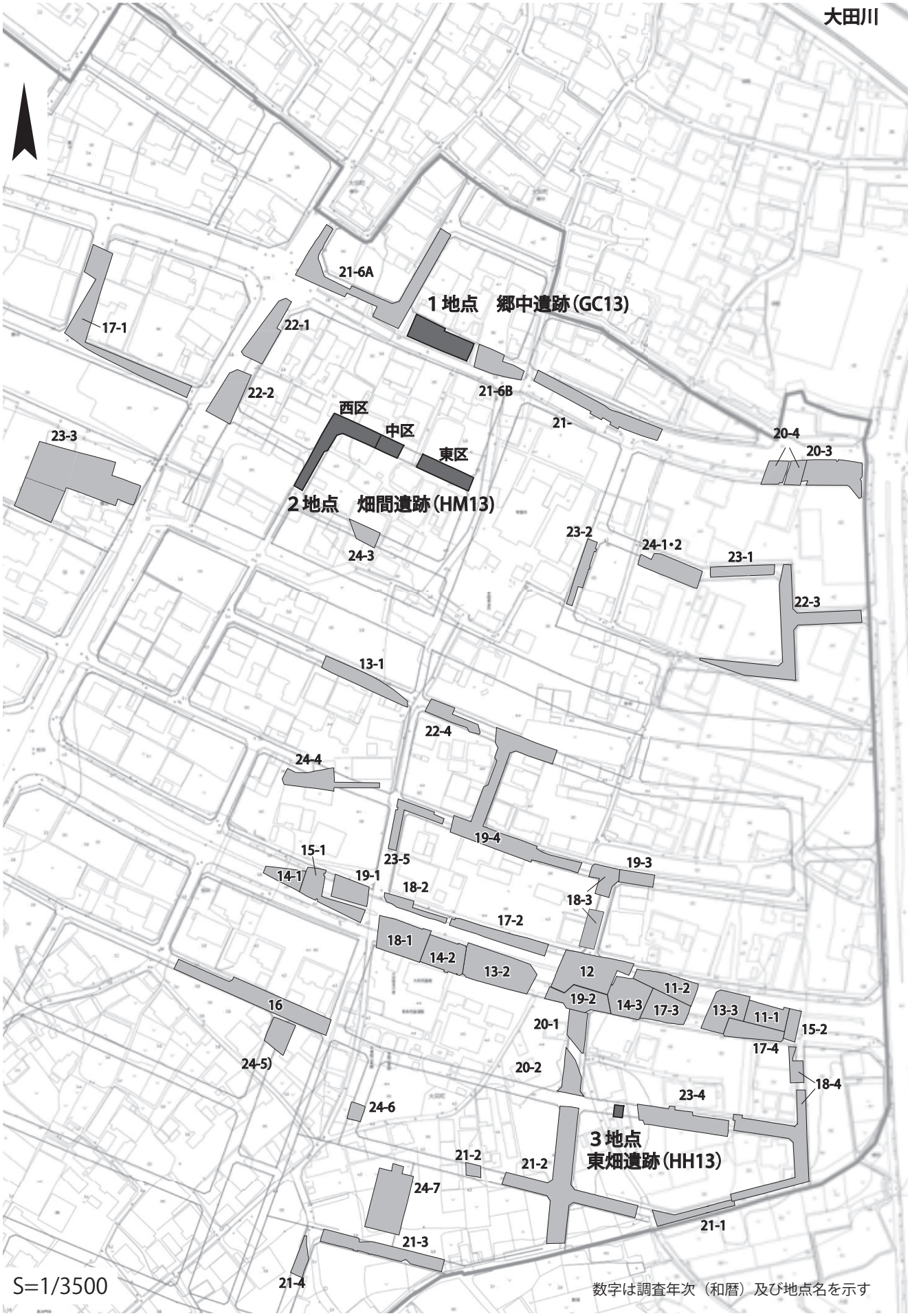
第３節　既往の調査

畑間遺跡、東畑、郷中遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地として知られてはいたが、これまで発掘調査は実施されていなかった。初めて調査されたのは、前述したとおり平成８年度に実施された中心街整備事業に先立つ試掘調査である。調査では土地区画整理事業が予定されていた区域内に 20 箇所のトレンチを試掘した。このうち畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡に関係するトレンチは 16 箇所に上る。この試掘調査によって従前範囲が不明であった各遺跡について、概略ではあるが遺跡の範囲を特定することができた。各遺跡の時期については、畑間遺跡については中世から近世の時期、東畑遺跡については弥生時代中期から古墳時代前期の時期と古代から中世の時期であることが推測された。

その後、平成 11 年度から中心街整備事業に伴う緊急発掘調査により畑間遺跡、東畑遺跡それぞれの発掘調査が行われ、各遺跡の様相が明らかとなってきた。既往の調査地は第３図に示した通りであるが、各年次の調査は土地区画整理事業に伴う家屋移転の進捗に応じて調査を実施しており、小規模な調査とならざるを得ない。調査開始時の平成 11 年度から平成 19 年度までは東海市教育委員会直営で調査を実施した。この間の調査成果については概要報告（註３）を行うと共に、並行して整理作業を実施し、平成 25 年度に報告書を刊行した。既往の調査で刊行した発掘調査報告書は表１のとおりである。

調査年次	書名	発行機関	編集機関	発行年
平成20年度	愛知県東海市畑間・東畑遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	国際航業株式会社	2009年(平成21年)
平成21年度	愛知県東海市畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	安西工業株式会社名古屋支店	2012年(平成24年)
平成22年度	愛知県東海市平成22年度畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社島田組中部営業所	2012年(平成24年)
平成23年度	愛知県東海市畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	国際文化財株式会社西日本支店	2013年(平成25年)
平成24年度	愛知県東海市平成24年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社島田組中部営業所	2014年(平成26年)
平成11年度～19年度	愛知県東海市畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告－平成11～19(1999～2007)年度調査－	東海市教育委員会	国際文化財株式会社西日本支店	2014年(平成26年)

表１　既往の発掘調査報告書


大田川
1地点　郷中遺跡（GC13）
2地点　畑間遺跡（HM13）
3地点
東畑遺跡（HH13）
西区
中区
東区
21-6A
21-6B
21-
17-1
22-1
22-2
23-3
20-4
20-3
23-2
24-1・2
23-1
22-3
24-3
13-1
22-4
24-4
19-4
19-3
15-1
14-1
19-1
23-5
18-2
18-3
17-2
18-1
14-2
13-2
12
11-2
19-2
14-3
17-3
13-3
11-1
15-2
16
20-1
17-4
24-5
20-2
18-4
23-4
24-6
21-2
21-2
24-7
21-1
21-3
21-4
S=1/3500
数字は調査年次（和暦）及び地点名を示す

第３図　調査区配置図

第４節　調査の方法

遺跡略号・調査区・遺構番号・遺構種別

遺跡調査略号は既往調査を踏襲し、それぞれに 2013 年度を示す１３を付し、郷中遺跡は「ＧＣ１３」、畑間遺跡は「ＨＭ１３」、東畑遺跡は「ＨＨ１３」とした。図面や遺物注記などの記録にこの表記を用いている。

調査区は１～３地点に設定されており、１地点が郷中遺跡、２地点が畑間遺跡、３地点が東畑遺跡にあたる。２地点（畑間遺跡）は生活道の確保等の事情から調査区を３分割して行ない、現地調査時の記録ではそれぞれ西区・中区・東区（第３図）とした。

遺構番号は各地点で種別に関係無く通し番号を付けた。遺構種別は凡例に示した通りである。もっとも種別記号つまり個々の遺構の性格は様々な解釈や今後の周辺の調査結果によって変わり得るものであろう。遺構番号は作業上の絶対性があるが、遺構種別は考古学的にも相対的であると考えており、遺構表記は 001SK のように、先に番号、後に種別を付した。なお、各地点ごとに番号を付けたため本報告では区別を要する際には遺構番号の後に地点名を付して区別する。

調査記録

遺構の図面記録は基本的に電子平板によるデジタル測量を行なった。重要な遺構は写真測量なども併用した詳細な測量を行っている。重要な出土遺物に関しては、出土状況図の作成に加え、出土地点を座標で計測し、それぞれの遺物に取上げ番号を付けた。

写真記録は 35 ｍｍフィルムのカラーリバーサルと 1000 万画素以上のデジタル一眼レフカメラを使用した。作業状況の記録はデジタルカメラのみを使用した。

測量・グリッド設定（第４図）

調査における測量は２級基準点を基点とし、従来通り世界測地系座標による。また、遺物の取上げや遺構位置の記録等に、これまで同様にグリッドを５ｍに設定した。この５ｍグリッドは国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を基軸とし、７Ｊ 10 ｔのような４ケタのアルファベットと数字で表記される。この表記は、国土座標において 1000 ｍ× 1000 ｍの大区画を設定し、その中での位置を示すものである。大区画をさらに 100 ｍ× 100 ｍに分割し、北～南方向を１～ 10 の数字で、西～東方向をＡ～Ｊで示す。この一例が７Ｊである。次に、各 100 ｍグリッドをさらに５ｍ×５ｍの小グリッドに分割し、北～南方向を１～ 20、西～東方向をａ～ｔで示した。これらの業務は測量士が担当した。

遺構の検出・掘削および撹乱

既往調査と同様に基本的には１面調査である。層序については第２章を参照されたいが、まず表土や客土などの近現代層（Ⅰ層）と近世層（Ⅱ層）の大部分を重機によって掘削し、以下包含層（Ⅲ層）を人力によって掘り下げ、地山面（Ⅴ層上面）を調査面とした。

ただし、完全に地山面を検出する以前の包含層掘削段階で認識出来た遺構にも対応し、調査・記録を行なっている。ゆえに各遺構の検出レベルには差がある。なお、東畑遺跡については、日程等も考慮した上で２面調査を実施した。

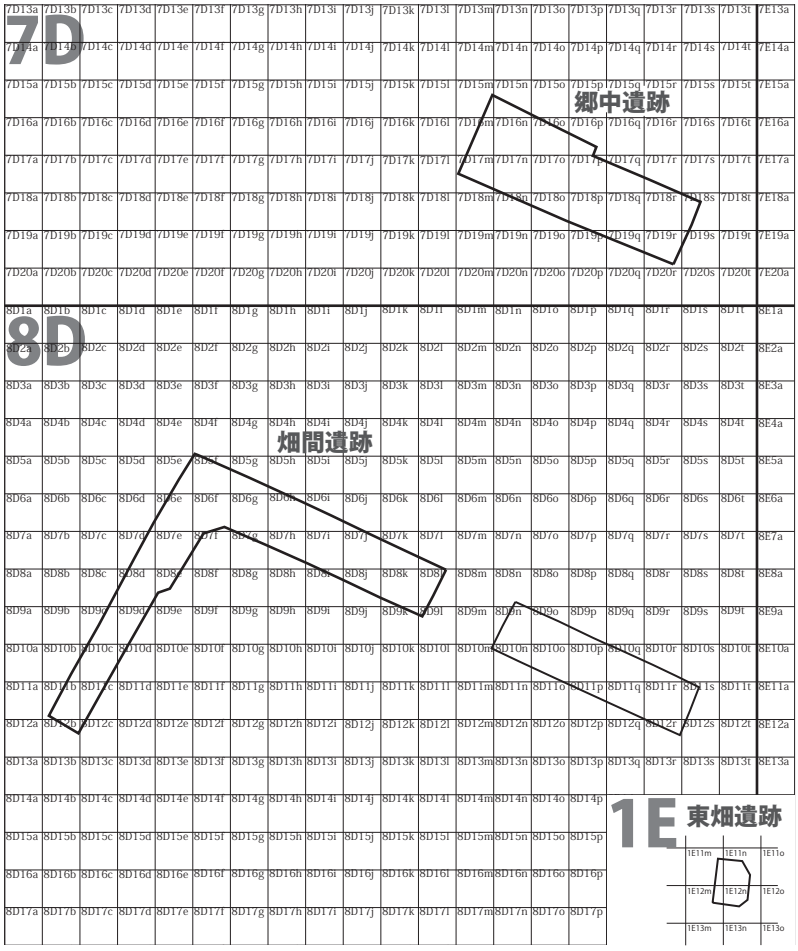
今回の調査では遺構と撹乱の分別は不明確になってしまった。Ⅱ層からの掘り込みが確認できたものや 18 世紀後半以降の陶磁器や物品が出土するものは撹乱としたが、遺構とした中に原則的には撹乱とするものが含まれていることは間違いない。また、遺構として調査・記録したものが、出土遺物から後日撹乱と判明したものもある。現地調査中に判明した場合は撹乱としたが、調査終了後につい

ては近世もしくは近現代遺構として記録を残している。ただし次章以降で触れる中世溝を踏襲する近世溝については調査対象＝遺構としている。

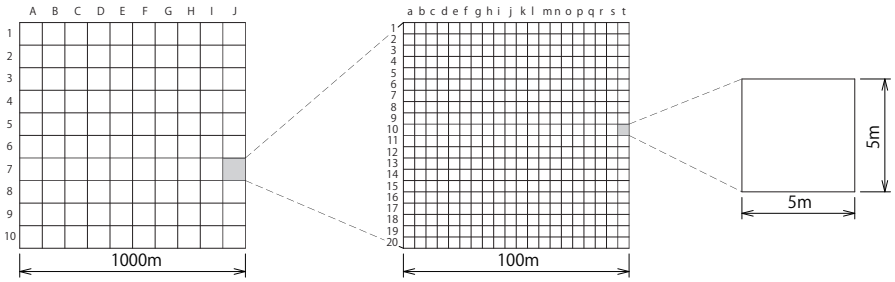
記録整理・遺物整理・報告書作成

写真や図面等の調査記録の台帳作成や整理業務は現地調査と併行して行っていたが、現地調査終了後に校正等を行ないまとめた。遺物への注記はジェットマーカーの自動注記マシーンを用い、遺跡略号と遺構番号・種別を注記した。先述の取上げ番号を付けた遺物は、重要遺物として、取上げ番号も注記した。

遺物の実測は通常の手測り実測であるが、トレースはデジタルトレースを行なった。報告書の作成においては、遺構図、写真図版も含め、すべてデジタル編集で行なった。



S=1/5000



第４図　調査区・グリッド位置図

第５節　調査の経過

委託契約成立後の平成 25 年 7 月 26 日から準備作業を開始した。当初は郷中遺跡（１地点）から調査を始める予定であったが、移転状況から先に畑間遺跡（２地点）の西半分（以下、西区と表記）から調査を開始することになった。

写真２　畑間遺跡調査前状況（西から）

現地調査は社会教育課職員の監督の下、8 月 26 日に開始した。まず畑間遺跡西区の重機による表土掘削を開始し、29 日には完了した。層序等の詳細は第２章を参照されたいが、Ⅱ層上面まで重機による掘削を行ない、そこから人力による掘り下げと遺構の検出・調査を併行して行ない、最終的に地山面まで到達した。砂層であるため、遺構の輪郭が崩壊しやすく、非常に注意を要する遺跡であった。9 月には調査区北西部で近代墓の埋葬人骨が２体見つかった（註４）。連日 35℃を超える猛暑が続いたが、スタッフの体調に配慮しながら調査を進め、9 月 20 日に全景撮影に至った。その後、補足調査を行い 9 月 27 日に畑間遺跡西区の調査は完了した。

続いて、郷中遺跡（１地点）の重機による表土掘削を 10 月２日より開始した。この調査区は最近の盛り土が 50cm 以上あったことから、先に盛り土だけを掘削し、再度近世以降の土層を重機にて掘削した。表土掘削段階で多くの近世後半から近代の撹乱が確認され、遺構面の多くが失われていることが判明した。安全に考慮しつつ、重機掘削と併行して人力による撹乱の掘削も進めた。10 月４日には重機による表土掘削が終了、その後、10 月 10 日までは撹乱掘削が続いた。遺構は少なく、全景撮影は 10 月 22 日に実施、同日中に補足調査も行ない、調査は完了した。

続いて、畑間遺跡東半の調査を行なったが、周辺住民の生活道の確保および埋設管の問題から調査区は２つに分割された。それぞれを中区と東区とした。重機による表土掘削は 10 月 30 日に開始し、11 月１日に終了した。多くの溝が検出され掘削土量は多かったが、過ごしやすい季節であり調査は順調に進み、11 月 19 日に全景撮影に至った。その後、補足調査を行ない、11 月 22 日に畑間遺跡中区と東区の調査を完了した。

調査中に東畑遺跡にあたる地点 25㎡について、区画整理の進捗上、調査する必要が生じたことから、平成 25 年 12 月５日付けで変更契約を締結し、調査地点を追加した。追加した調査地点については３地点とし、２地点東側の調査終了後、平成 26 年１月 15 日から調査を実施した。同年１月 21 日に現地調査は終了した。

出土遺物と図面等の整理作業および報告書作成は現地調査と併行して開始した。遺物の洗浄は現場事務所にて雨天の日等を利用して行なった。遺物の注記作業および図面の整理・校正は平成 26 年１月～３月の間に行なった。同年３月 25 日付けでこれらの成果品を納入した。

平成 26 年度には報告書作成を行った。東海市教育委員会と株式会社アコード名古屋営業所は２次整理作業及び報告書作成業務について、業務委託契約を平成 26 年６月 20 日に締結した。その後社会教育課職員の監督の下、株式会社アコードの整理事務所において、遺物の接合や実測等の記録化作業などの２次整理作業及び報告書作成業務を実施し、本報告書の刊行に至った。

《調査日誌抄録》

130826（月）曇り一時雨
　本日より畑間遺跡（2地点西区）の調査を開始。2時から調査区東側より機械掘削を開始。
130828（水）晴
　機械掘削は一旦方向を変え、南端から開始した。遺物は8世紀ごろの須恵器杯蓋や須恵器のタタキ甕など古代のものが含まれる。掘削と並行して壁面整形、北壁・西壁トレンチ掘削を行った。
130830（金）晴時々曇り
　包含層上面の精査を行った。まずは撹乱や上層（近現代層）の残る部分を明瞭にし、その掘削を行った。この作業を全体で行い、その後、どの層上面で本調査を行うのか等、調査方針を決定する。
130905（木）曇り後晴
　調査区南側エリアは、南端から北まで精査を再度行った。この作業は一部に残るⅡ層の掘り下げも兼ねている。調査区西端には、ほぼ調査区と併行する落ち込みがある。当初は近代陶器等が含まれることから単純に撹乱と考えていたが、埋土が変わった（上層は汚い斑土、下層は暗灰色の中粒砂）下層には中世遺物しか含まれていない。中世の大きな溝や落ち込みによって残された窪みが近世以降に埋まった可能性もある。落ち込み遺構＝040SXとした。
130910（火）曇り
　柱穴や溝は半掘もしくはベルトを残し掘削し、順次記録を進めた。調査区北東、北壁沿いに暗色の極細粒砂層が広がっていた。この落ち込みを110として掘り下げた。その下に溝があるようだが、水が染み出てくるため詳細不明。004SKは長方形の土坑で墓の可能性を考慮し4分割で掘削調査したが、墓と考える積極的な証拠は見出せなかった。
130917（火）晴
　台風による雨水の排水、崩落した壁面の整形等の後始末を行なった。
130918（水）晴
　グリッド8D5g、調査区中央北壁付近で埋葬人骨が検出された。近世以降の新しい埋葬の可能性が高い。
130920（金）晴
　畑間遺跡（2地点西区）の全景撮影を高所作業車から行なった。電線や敷地の関係で、調査区全体を撮影することができず、南側と東側を分けて撮影した。
130925（水）晴
　調査区中央（8D6e）あたりにやや暗色を呈し、締まりの強い層が幅広い溝状（153SX）に見られた。地山層の一部と考えていたが、確認調査として掘削したところ、弥生土器片が多く出土した。
131001（水）晴
　郷中遺跡（1地点）の機械掘削開始。
131008（火）曇り
　撹乱の掘削を行なった。18世紀後半～現代の撹乱が非常に多い。
131011（金）晴
　調査区東側の検出と撹乱の掘削を行なった。調査区北東隅には2条の溝がある。09年調査のSD5が同じ方向の溝である。
131015（火）雨
　雨天のため調査休止。台風接近のため現場養生見回り等行なった。
131022（火）曇り
　全景撮影と北壁断面の撮影を行なった。これにて郷中遺跡の調査完了。

写真3　畑間遺跡西区機械掘削状況

写真4　畑間遺跡130SD調査状況

写真5　畑間遺跡西区調査状況

写真6　郷中遺跡撹乱掘削状況

131030（水）晴
　畑間遺跡（2地点東半）の機械掘削開始。調査区の北側には110SDに続く溝があるようで遺物が多い。2地点東半の調査区は生活道確保等の事情によって二つに分断されている。よって、それぞれを東区と中区とする。
131105（火）晴
　東区西端は近世の撹乱が多い。ただし、撹乱と遺構の区別が確定的でないので、遺構（近世前半以前）の可能性のあるものは遺構として調査・記録を行なう。
131111（月）曇り時々晴
　東区のみ作業を行なう。東西溝170の掘削を行なった。プランでは溝中央＝最上層の貝殻充填層とそれ以外に分かれるだけと思われたが、断面等の観察で複数の溝の重なりであることが判明した。
131112（火）曇り
　170SDと重なる最古層の溝を210として掘削した。210からの出土遺物は少なく、弥生土器や須恵器が主である。ただし、170と全く同じプランの溝であることから210だけが古い遺構とは考えにくい。
131113（水）晴
　160SD西端でまとまって遺物が出土した。土坑と判断し、223SKとした。この出土状況を撮影した。
131118（月）晴
　明日の全景にむけた準備作業を行なった。中区は検出過程でいくつかの遺構を見つけ調査した。中日新聞東海通信局の取材（記者＝有川正俊氏）。
131119（火）晴
　全景撮影を行なった。中区では包含層もしくは地山の違いと考えていた土質の違うところを調査した。その結果、中区南中央の小礫を含む中粒砂層は大きな土坑と判明。明日は会社業務の都合により調査休止。
131121（木）晴
　補足調査を行なう。中区の大きな土坑（233SK）は径4m深さ50cm以上をはかる。井戸であろう。ただし、井戸枠等はまったくない。
131122（金）晴
　東区の西壁、南壁の記録を行なった。一部確認のための掘削等を行ない調査終了。
140115（水）曇り
　東畑遺跡（3地点）の調査開始。機械により表土から旧耕作土を掘削した。Ⅱ層掘削後、Ⅲ層（平成23年度調査のⅢ層か？）の上面で遺構検出を行ない、撮影した。2011年度調査の011SDに続く溝が検出された。報告書では、この溝は地山からの遺構であり、かつ高蔵式期の竪穴建物より古い遺構とされているが、検出した溝は明らかに包含層上面からの遺構である。
140116（木）晴
　Ⅲ層上面（第1面）の遺構調査を進めた。002SDの遺物には中世の遺物も含まれる。この溝と重なり暗褐色埋土の003SDがある。当初は003SDも002と南北に並び、わずかに切り合う溝と思ったが、トレンチで確認した結果、002SDの下にも広がる幅約2m、深さ約50cmの大きな溝であることが判明した。平成23年度調査の011SDは中世遺物を含む002SDではなく（この溝は認識できなかったもしくは失われていた？）、003SDであろう。
140121（火）晴
　午後には最終的な全景と南・西壁面断面の撮影・記録を行なった。調査終了。

写真7　畑間遺跡中区調査状況

写真8　畑間遺跡160SD調査状況

写真9　畑間遺跡223SK調査状況

写真10　東畑遺跡調査状況

第２章　遺構

第１節　遺構の概要と基本層序

１．遺構の概要

今回の調査で検出された遺構の総数は 315 基になる。調査区・種別の遺構数は表２の通りである。種別では柱穴と土坑が多い。しかし、柱穴は明確に建物を構成すると判断できるものはなく、土坑も多くは性格不明である。ただし、溝に関しては、一定量の出土遺物や主軸の方位などから時期や性格について推察することが可能である。

	郷中遺跡	畑間遺跡	東畑遺跡
SD	9	28	7
SK	20	77	13
SP	26	82	5
SX	5	31	12
遺構数	60	218	37
面積（㎡）	313	630	25
密度/㎡	0.19	0.34	1.48

表２　遺構数一覧

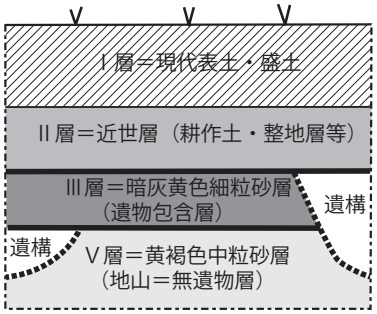
主に弥生時代（中期と終末期）、古代（奈良時代）、中世（鎌倉時代）の遺構が存在する。しかし、弥生時代や古代の遺構については、まとまって遺物が出土した遺構、竪穴建物や溝のような性格が明確な遺構は無く判断は難しい。多くの遺構は帰属時期の決め手に欠けている。近世・近代以降のものも多いと思われる。出土遺物や層位関係等から判断できたものについては、当遺跡の区分案（註５）に沿った時期を一覧表に記し、時期別遺構数は第４章第３節（表６）に掲載している。

次節から各遺跡検出の遺構について詳述してゆく。まず概要を述べ、次に重要な遺構について種別ごとに記述する。他の遺構に関しては、遺構一覧表と全体図を参照されたい。

２．基本層序と遺構面（第５図）

基本層序は各地点とも共通であり、本節でまとめて記述する。基本的には 2014 年に刊行された平成 11 ～ 19 年度の調査報告書で示されたⅠ～Ⅴ層に分けた層序と一致する。現代表土や盛土がⅠ層、耕作土や整地層等などの近世層がⅡ層である。Ⅱ層は様々な性質の層があるが、郷中遺跡（１地点）と畑間遺跡（２地点）では多量の貝殻の存在が特徴的である。東畑遺跡（３地点）では、他の２地点に比べⅡ層は薄く、耕作土のみである。Ⅲ層は暗灰黄色～にぶい黄褐色の細粒砂層、いわゆる遺物包含層である。今回の調査区では縄文～弥生時代の包含層（Ⅳ層）はなく、Ⅲ層の下はⅤ層である。Ⅴ層はいわゆる地山（基盤層）であり、灰白色～黄褐色の中粒砂層である。

ここで問題となるのはⅢ層の時期である。既往調査では、Ⅲ層（もしくはⅢ層相当の層）を中世以降に形成されたと認識し、中世遺構も地山上面からと報告されている事例がある。しかし、今回の調査で検出された中世遺構はすべてこのⅢ層上面からの遺構である。またⅢ層と遺構埋土の類似による認識の困難さなどからⅢ層上面から遺構が形成されていることが見逃されていた可能性もある（註６）。確かにⅢ層上面で確実に遺構を認識することは困難であり、本調査も期間等の制約も考慮した上で、Ⅲ層段階で認識できた遺構は調査しつつも、基本的にはⅤ層上面を検出面とする１面調査とした。ただし、東畑遺跡（３地点）に関してはⅢ層上面とⅤ層上面の２面調査を実施した。Ⅲ層の形成時期等の問題は、第４章第１節で触れており参照されたい。



第５図　基本層序模式図

第２節　郷中遺跡（１地点）の遺構

１．概要（図版１・２）

郷中遺跡（１地点）は、あたかも佐渡島状の平面形を呈する第１砂堆西側のくびれ部付近に位置する。当時は調査出来なかった平成 21 年度調査６Ａ区と６Ｂ区の中間地点である。

郷中遺跡（１地点）からは計 60 の遺構が見つかった。その内訳は土坑 20 基、柱穴 26 基、溝９条、その他・不明が５基である（表２）。この調査区は近世後半～近現代の開発に伴う撹乱が非常に多く、残存する遺構面は極めて狭いものであった。また、開発時の削平等の結果、包含層（Ⅲ層）の残存状況も良くなかった。調査区中央北側と南東の大きな撹乱は現代撹乱、西南側の比較的小さな撹乱は近世後半～近代のものが主であった。第１章でも述べたように、Ⅱ層からの掘り込みや明らかに新しい埋土や遺物から近世後半以降と判断出来るものは撹乱としたが、判断出来ないものは遺構として調査している。調査区西南部で検出された 030SP・060SP・061SP は根石の据えられた柱穴である。これらは掘立柱建物を構成するものであるが、遺物などからその時期は近世と考えられる。遺物も無い時期不明遺構の中にも撹乱相当の新しいものもあると思われ、遺構の帰属年代の判断も難しい。しかしながら、既往の調査成果などから考えて、主な遺構の帰属年代は 12 ～ 14 世紀ごろを主とした中世と考えられる。弥生土器や古代の須恵器なども比較的多く出土しているが、多くは包含層や中世遺構への混入遺物である。

調査区の東北側には溝が集中して存在する。020SD は平成 21 年度調査のＳＤ５と同一の溝と考えられる。ほかに数条の同方向の溝が確認できた。040SD は当初は円墳や周溝墓と思われたが、中世の溝である。調査区の中央南側で長軸１m以上の楕円形から隅丸方形の土坑が数基見つかっている。ただし、特に遺構の性質を示すような遺物や埋土の状況は観察されなかった。その多くは中世の土坑であるが、002SK と 016SX は古代以前の遺構の可能性が高い。

２．溝

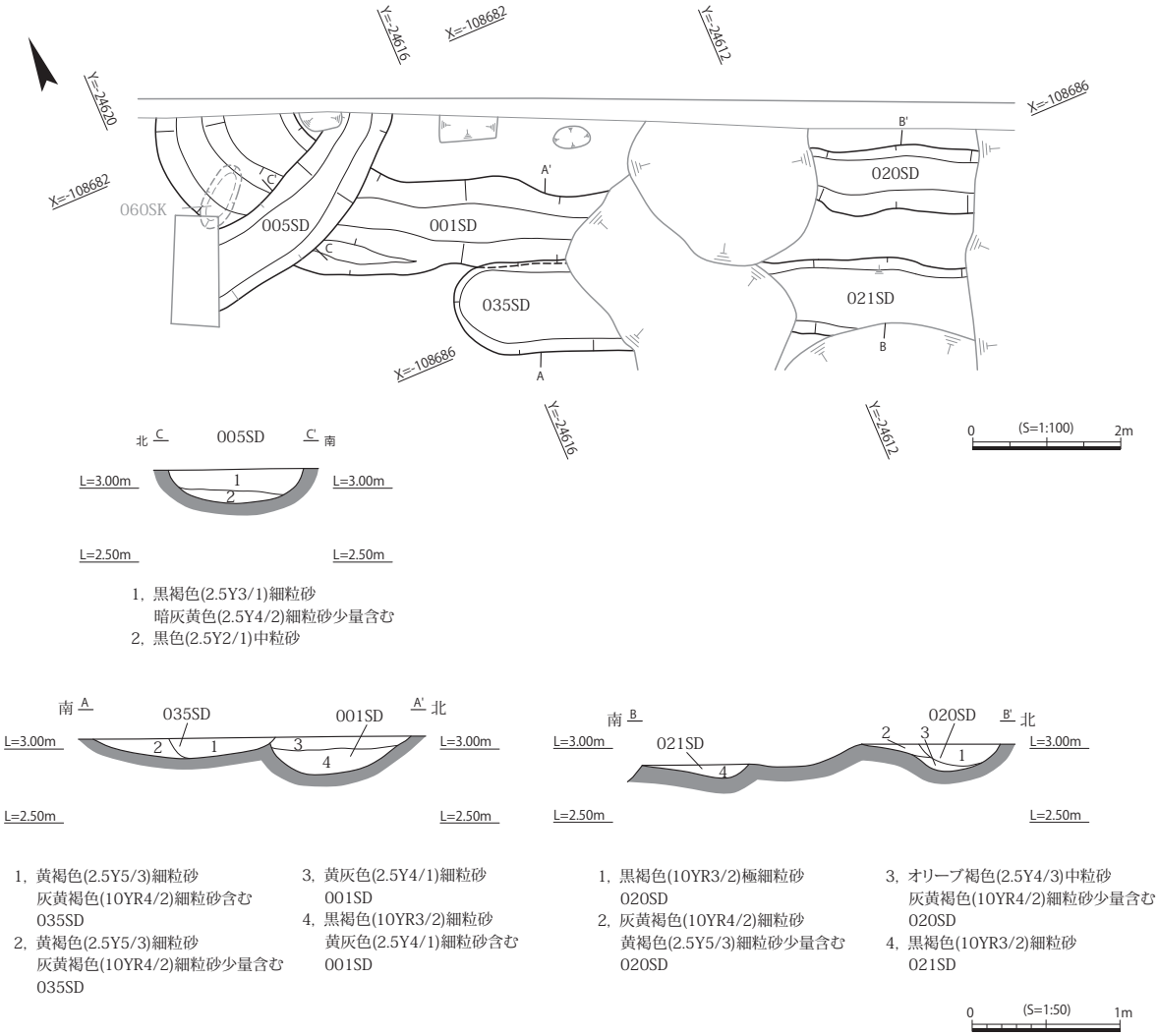
００１ＳＤ、０２０ＳＤ、０２１・０３５ＳＤ（第６図）

調査区北東部で検出した東西方向の溝群である。主軸は E-20°-S である。001SD は調査区中央で北壁に向かって曲がり、調査区外に延びる。撹乱を挟み東側で少し主軸がずれて位置する 020SD は平成 21 年度調査６Ｂ地点 005SD と同一溝である。

021SD は 020SD の南に位置する。平成 21 年度調査６Ｂ地点では撹乱のため失われているようだ。035SD と 021SD では後者の方が深いが、同一溝と考えて問題無いであろう。調査時に別番号を付したため変更はしなかった。001SD と 035SD は、断面観察から 035SD が新しいと判断したものの、切り合う部分が極めて小さく不安も残る。

001SD と 020SD の関係性についてであるが、これは主軸がずれた状態で一連の溝が続いているものと考えている。このように主軸がすれたり、隙間の空いた位置関係で溝が連続する様相は畑間遺跡（２地点）の溝群にも見られる。しかし、この‘ずれ’が当時の生活面でも見られたもので、そこが通路等の機能を有していたのか、単なる掘削単位で溝底部のみの現象に過ぎないのか、その検討は課題である。このような溝は県内の他の遺跡でも報告されている（註７）。

出土遺物はいずれの溝も少なく、001SD では弥生土器の破片が多い。しかし、尾張型第５～７型式の山茶碗の破片が含まれており、020SD からはほぼ完形の尾張型第８型式の山茶碗（図版 15-162）が出土している。また、020SD と同一溝である平成 21 年度の 005SD からも同時期の遺物が出土しており、これらの遺構の帰属時期は 13 世紀～ 14 世紀初めと考えられる（註８）。



第６図　中世溝（１地点）（001SD、020SD、021・035SD）

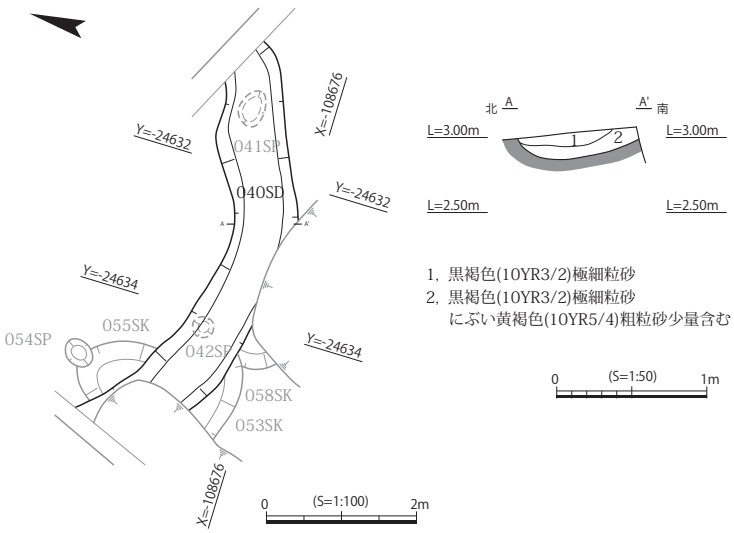
００５ＳＤ（第６図）

調査区中央北側で検出した 001SD と交差する溝である。調査区の西側では検出されなかったが、この位置で収束するならば、曲げる必要はないと思われる。西に延びていたと考え、何度も検出作業を行なったが、確認できなかった。西側は溝が浅く後世の削平で失われていた可能性もあるが、不可解である。出土遺物は少ないが、弥生土器もしくは古式の土師器片ばかりである。しかし、切り合い関係からその帰属時期は 14 世紀以降と考えられる。

０４０ＳＤ（第７図）

調査区北西部で検出した溝であり、そのプランは周溝のような孤を描く。溝の幅は約 80cm ほどで 001SD などよりも狭い。溝底から 041・042SP の２基の柱穴が検出されたが、これが 040SD と関連するのかはよく分からない。西に位置する平成 21 年度調査６A 区では見つかっていない。

埋土は他の遺構に比べ黒みが強く、これは既往調査では弥生時代の遺構に特徴的な埋土とされるが、出土遺物には東濃型山茶碗片が含まれている。弥生土器などの古い遺物の方が多く、調査時は弥生時代の遺構かと考えたが、040SD に切られる 055SK などからも山茶碗が出土しており、帰属時期は 14 世紀以降と考えて問題ない。



第７図　040SD（１地点）

３．土坑

００２ＳＫ（第８図）

調査区中央で検出された土坑である。多くが撹乱で破壊されているが円形プランと思われる。須恵器の甑（図版 14-120）が出土している。後述する 007SK などに比べ、埋土は暗色を呈し締まりが強いなどの違いが観察された。

また、002SK が切る 016SX も弥生土器のみで中世遺物は含まない。

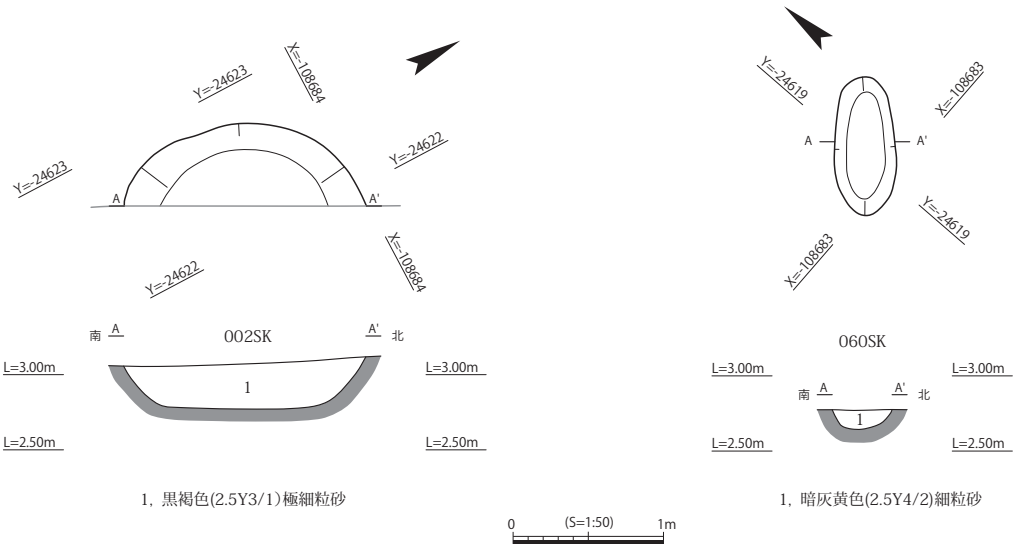
これらのことから、002SK は古代の、016SX は弥生時代の遺構である可能性が高いと考えている。

０６０ＳＫ（第８図）

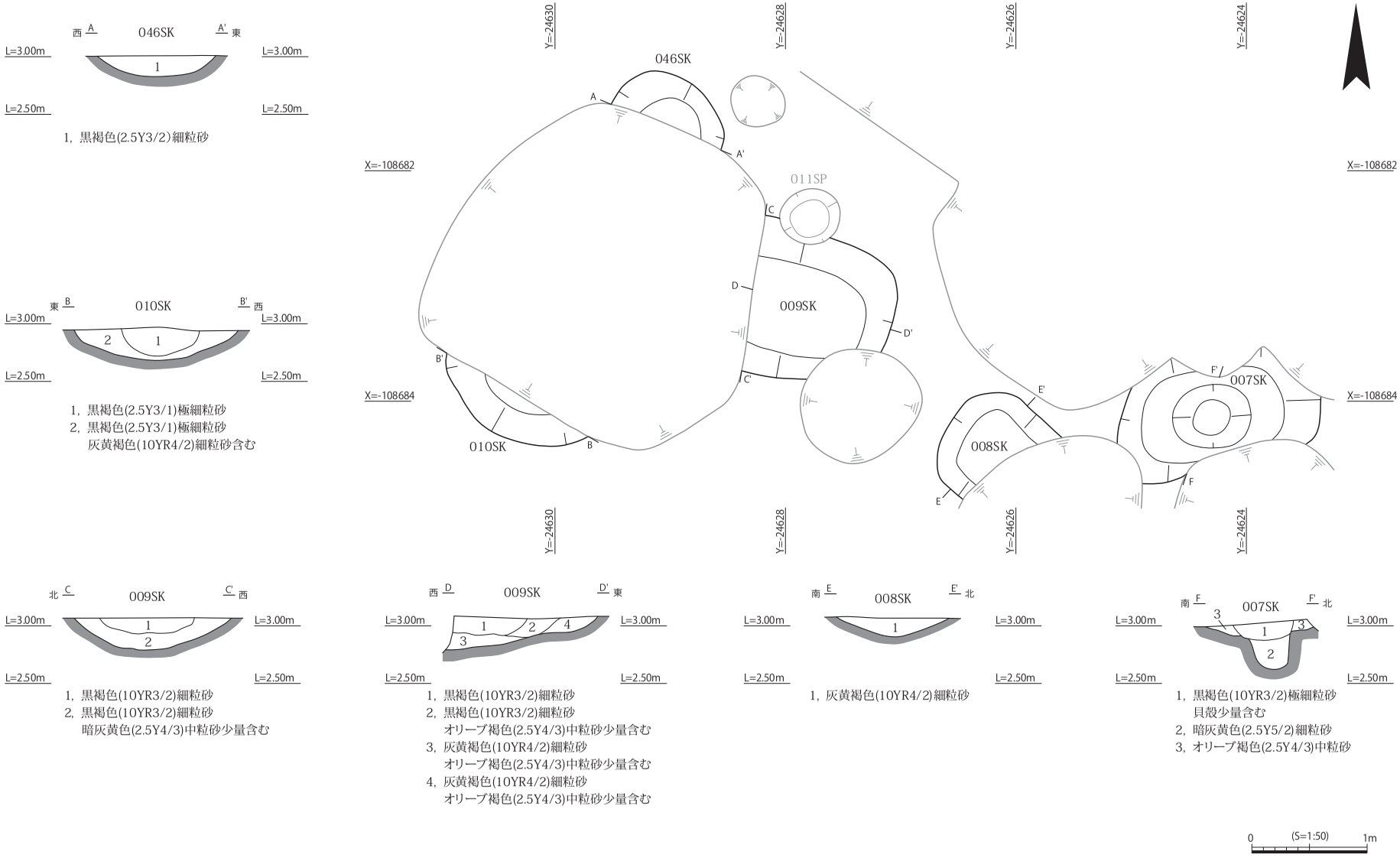
001SD の底で検出した楕円形の土坑である。001SD 掘削時、この 060 SK が見つかる地点でのみ尾張型第７型式の山皿が数枚まとまって出土した。これは検出漏れの結果であり、これらの山皿は本来は 060SK に帰属するものと判断している。山皿は、一定程度の集中はしていたが意図的な配置は見出されず、一括性はあるものの、無造作に廃棄したものと考えられる。

００７ＳＫ、００８ＳＫ、００９ＳＫ、０１０ＳＫ、０４６ＳＫ（第９図）

調査区中央で検出された一群の土坑である。撹乱で部分的に破壊されているが、そのプランは隅丸長方形から楕円形、短軸が 1.5 m程度、長軸は２m程度であろう。007SK は中央部がピット状に深く掘られている。貝殻片が少量出土したのみである。009SK は土坑墓の可能性も想定し観察したが、特にそのような状況は認められない。８～ 10 型式ごろの東濃型山茶碗の小破片も出土している。他の土坑からの出土遺物は無かった。帰属時期の決定は難しいが、13 ～ 15 世紀、中世の土坑と考えている。



第８図　002SK、060SK（１地点）



第９図　土坑（１地点）（007SK、008SK、009SK、010SK、046SK）

第３節　畑間遺跡（２地点）の遺構

１．概要（図版３～９）

畑間遺跡（２地点）は、１地点の南約 50 mほど、佐渡島状の平面形を呈する第１砂堆西側のくびれ部付近に位置する。畑間遺跡は第一砂堆の南西側を中心に広がっており、今回の調査地はその北西側縁辺である。

畑間遺跡（２地点）からは計 218 の遺構が見つかった。その内訳は土坑 77 基、柱穴 82 基、溝 28 条、その他・不明が 31 基である（表２）。これらの遺構の帰属時期は 12 ～ 14 世紀ごろを主とした中世と考えられる。その中で 010SK、146SK、150SK、153SX は弥生時代の遺構である。既往の調査では、弥生時代の遺構は黒色の強い埋土を特徴としているが、010SK などの埋土は地山層（Ｖ層）に類似し明るい。010SK と 146SK は土坑の底部から残存率の高い１個体の土器が出土した。ともに弥生終末期の土器であった。弥生時代の竪穴建物や溝など、生活の場を示すような遺構は無く、今回の調査区は集落の中心からは外れた場所なのだろう。他に調査区西南端で古代の須恵器が、西北端では灰釉陶器が比較的多く出土していることは注意を要する。郷中遺跡同様に近世以降の遺構も多いと思われるが、古い遺物が少量だけ出土する遺構については判断が難しい。

畑間遺跡の調査成果の主たるものは中世溝群である。これらの中世溝群は調査区の方向性、つまり現在の町割り（E-20 ～ 30° -S) にほぼ沿った方向で掘削されている。このような溝は既往調査でも検出されており、この地域の区画の方向性が中世以来のものであることが指摘されていたが、今回の成果はそれを補強するものとなった。溝の底面レベルは基本的に東→西（海岸方向）に下がる傾向を示す。方向性も底面レベルも地形に沿った事象であろう。

今回の調査では、わずかに間が空いて同方向に再度掘削された溝や、近接もしくは重なり合う同方向の溝群といった状況が多く確認された。これらの各溝の単位をどのように解すべきか、その点は検討を要する。また、これらの溝のうち、東から延びる 170SD と西から延びる 190SD の二つの溝がほぼ同じ地点で南に曲がっている。西区から続く 110SD は 190SD が同一溝であり、160SD は別溝と考えられる。160SD やその南の 170SD などは東側に延びて平成 24 年度調査１．２区の SD2070 と連なる可能性がある。一方、南北方向の溝は調査区西壁際で検出した 040SD のみである。これらは屋敷地の区画溝と考えられる。なお、これらの溝の帰属時期についてであるが、出土する遺物の多くが尾張型山茶碗５～７型式を中心とすることから 13 世紀と考えられる。また、上層に同じ方向の近世溝が再掘削されていることも注意を要する。中世以来の町割りが近世再開発において踏襲されたことを示すものであろう。溝群については第４章で触れており参照されたい。

土坑については、その多くは性格不明である。233SX や 144SK、239SK などは大きさ等から井戸の可能性もある。

柱穴は西区の北西部に多かった。025SP、121SP、122SP、123SP などは１間×１間の建物もしくは竪穴建物の主柱穴と見なすことは可能であり、他にも３基程度が並ぶものはあるが、積極的に建物と判断出来る事例は無い。また、その時期も判定は困難である。

写真 11　119SP、121SP（２地点）（南から）

2．溝

040SD（第10図）

調査区西端で検出された溝である。西側の肩は調査区外のため当初は遺構種別を不明遺構（SX）としていたが、調査区内のプランや110SDなどの東西方向の溝に直交する方向性などから溝と判断した（註9）。この溝は多量の近世陶器が出土した上層と、中世の遺物だけを含む下層に分かれる。主軸はN-26°-Eである。なお、040SD以北の019・037SXはこの溝に伴う浅い落ち込みであり、040SD上層相当の遺構と考えている。

下層の遺物は第7型式の山茶碗など13世紀後半、上層は14～15世紀の古瀬戸から18世紀の近世陶磁器までを含み、かなりの時期差がある。13世紀後半に埋まった後も、浅い窪みが残り、区画や境界として機能し続け近世に再掘削されたのであろう。後述する110SDや170SDもほぼ重なる位置に近世溝が掘削されており、これは本遺跡に共通する状況と考えている。なお、040SDは上下層とも近世溝で、下層は偶然に近世陶器が含まれなかったという可能性もある。しかし、後述する他の溝の事例から考えて、中世溝の跡地に近世溝が再掘削されたと判断した。

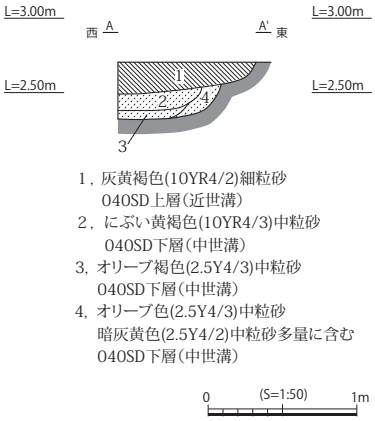
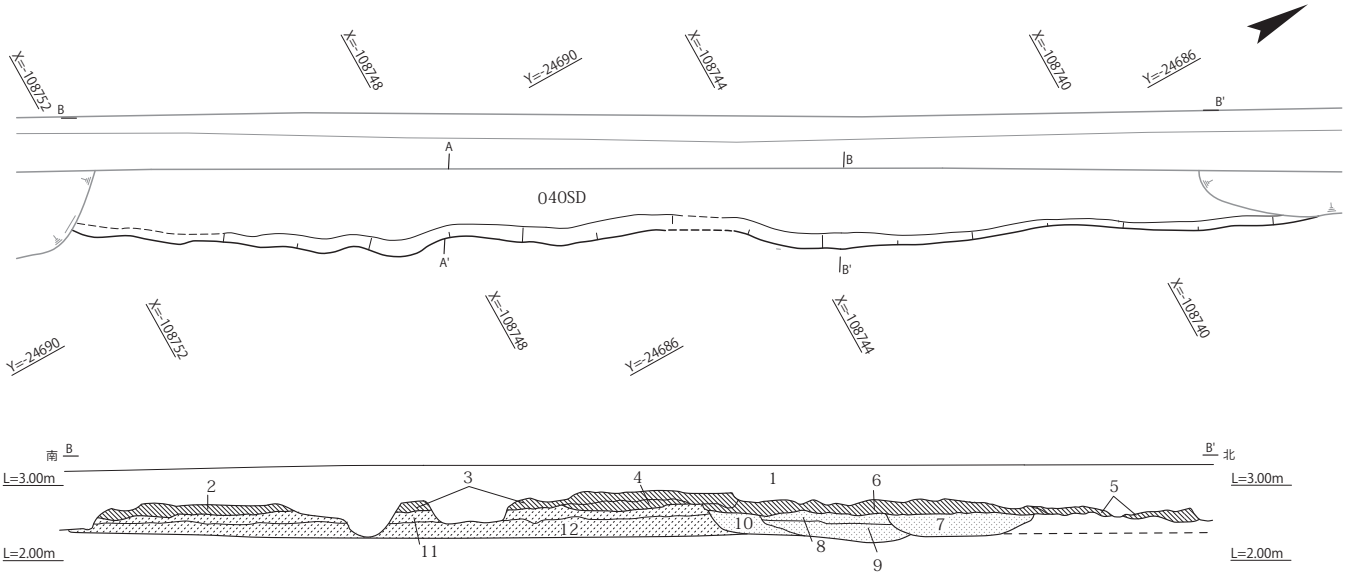


写真12　040SD（2地点）（北から）



1，現代表土
2，暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
貝殻片含む　040SD上層もしくはL2
3，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
040SD上層（近世溝）
4，オリーブ褐色(2.5Y4/3)極細粒砂
040SD上層（近世溝）
5，オリーブ褐色(2.5Y4/3)極細粒砂
040SD上層（近世溝）
6，灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
040SD上層（近世溝）
7，黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂
近世遺構
8，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
近世遺構
9，暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
近世遺構
10，オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂
近世の別遺構
11，にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
040SD下層（中世溝）
12，オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂
040SD下層（中世溝）

上層（近世）　下層（下層）　近世遺構

0 (S=1:100) 2m

第10図　040SD（2地点）

１１０・１９０ＳＤ、２２０ＳＤ（第12図）

西区の北壁際から東区の南壁際に延びる東西溝である。主軸はＥ -33°-S である。110SD と190SD は調査区が離れており、別番号を付けたが、測量成果から同一溝と考えて間違いない。調査出来なかった部分も含め 40 mの長さを確認した。ただし、後述する 130・131SD も同一溝の可能性が高い。別遺構として検出したが、掘削単位を示すのものとも考えられる。ただし、わずかに主軸はずれており、断面形状や深さも異なり断定は出来ない。

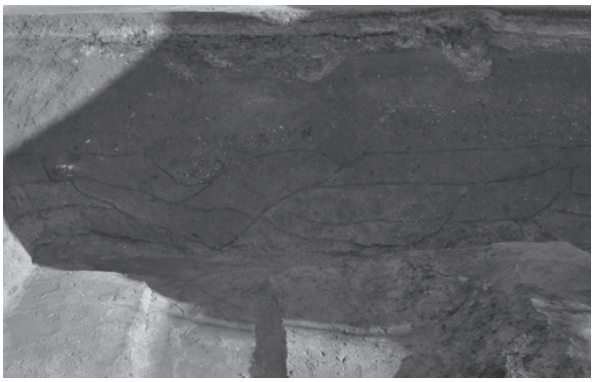


写真 13　110SD、220SD 断面（西から）

一方、東側の 190SD は後述の 170SD の直前で南に曲がり、調査区外に延びていく。底面レベルは190SD 一帯は T.P.2.65m 前後、110SD 西端では T.P.2.50m 程度で大きくは西に下がっている。

110SD の上には近世溝（002SD と 220SD）が掘削されている。中区の 110SD 調査時は、湧水のため詳細な観察が困難であった上、110SD が北壁に沿っているとの思い込みのため 220SD の存在を認識出来ず 110SD と 220SD を同時に掘削してしまった。調査途中、壁面観察等で 110SD が北壁から離れて南に向かっていること、110SD を上から切り込む溝（220SD）が存在していることに気付いた。この 220SD は 110SD とわずかに主軸をずらす近世溝である。220SD は東区西壁で観察され、後述の160SD・230SD の上に延びていく（第 13 図を参照）。ただし、東区東壁では確認できない。220SD の西端は中区の中央辺り、東端は不明であるが東区の半ばと推定して、東西 30 ～ 40 m程度の溝であったと考えられる。また、220SD の上には貝殻片を含みオリーブ色を呈する埋土が特徴的な 002SD が存在する。002SD は部分的に幅 30cm、深さ 10cm 程度が残るのみである。

110SD の出土遺物には、上述の不備のため一部（中区）で近世陶器片が含まれているが、190SD は第６～７型式の山茶碗など中世遺物のみである。110・190SD の帰属時期は 13 世紀の中に収まると考えられる。220SD は 18 世紀、002SD は 18 世紀後半以降であろう。

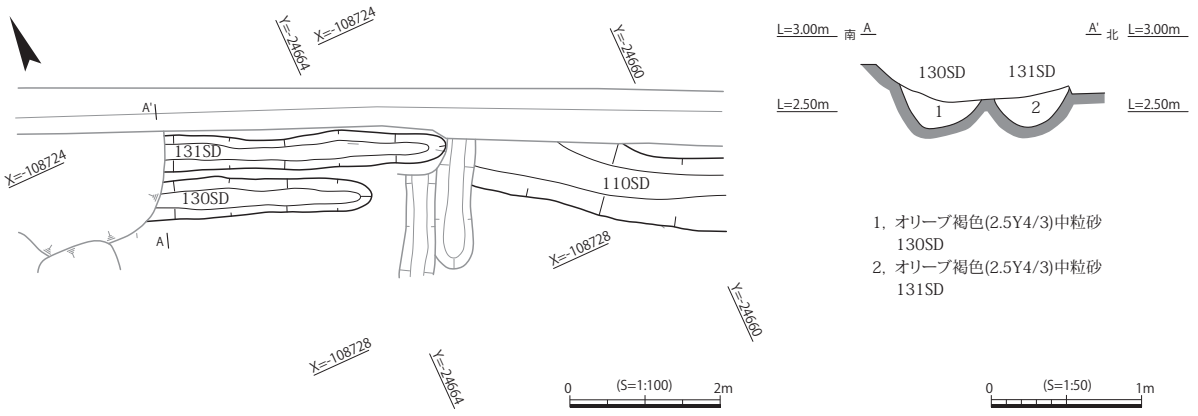
１３０・１３１ＳＤ（第11図）

調査区西端北壁際、２条の並ぶ溝である。上部は撹乱があり、底部のみが検出された。110SD が収束する辺りから存在する。方向性はほぼ同じであることから一連の溝かもしれないが、110SD とは断面形状が異なり、130・131SD はどちらも V 字状を呈する。主軸は 110SD より少し北に傾くが、Ｅ -30°-S である。

出土遺物はともに少ない。131SD からは第７型式の山茶碗などの小片が出土しているが、一方、130SD からは大窯期の小皿が出土した。遺物も少なく、範囲も狭いことから帰属時期の決め手は欠くが、13 世紀に掘削され、以後埋没と掘削を繰り返したと思われる。

写真 14　130・131SD 断面（２地点）（南から）

これらの溝は何度も掘り返されており、その時間的な関係性を厳密に把握するのは困難である。しかし大きく見ればやはり 130・131SD と



第 11 図　130・131SD（２地点）

110SD は同じ溝と言うべきであり、110SD との断面形状の違いも掘削時期･単位が異なるゆえであろう。元来は 110・190SD から 130・131SD へと連続する長い溝があったが、110SD 以東は 13 世紀に埋没して以後には再掘削されなかったが、130・131SD は 14 世紀以降に再掘削されたのではないだろうか。これらの溝については第 4 章でも触れており参照されたい。

１６０・２３０ＳＤ（第 13 図）

東区北壁側で検出された溝である。主軸は 160SD でＥ -21° -S、230SD でＥ -24° -S である。160SD は 230SD 埋没後に再掘削された溝であり、主軸もわずかにずれているが、遺物に時期差もなく大きくは同一溝と捉えている。東西ともに調査区外に延びている。東端では多くの遺構を検出したが、これらは 1 地点の 001SD や 020SD などと同様にわずかに主軸がずれた同一溝群の一部かもしれない。底面レベルは 110SD 西側で T.P.2.65m 程度、東側では T.P.2.82m 前後であり、西に下がっている。160・230SD の南には同方向の溝（170SD・210SD と 180SD）がある。160・230SD に比べて 170・210SD と 180SD は遺物が少なく、これらの前後関係を判断するのは難しい。なお、これらの溝は平成 24 年度調査の SD2070 と同一溝の可能性がある。

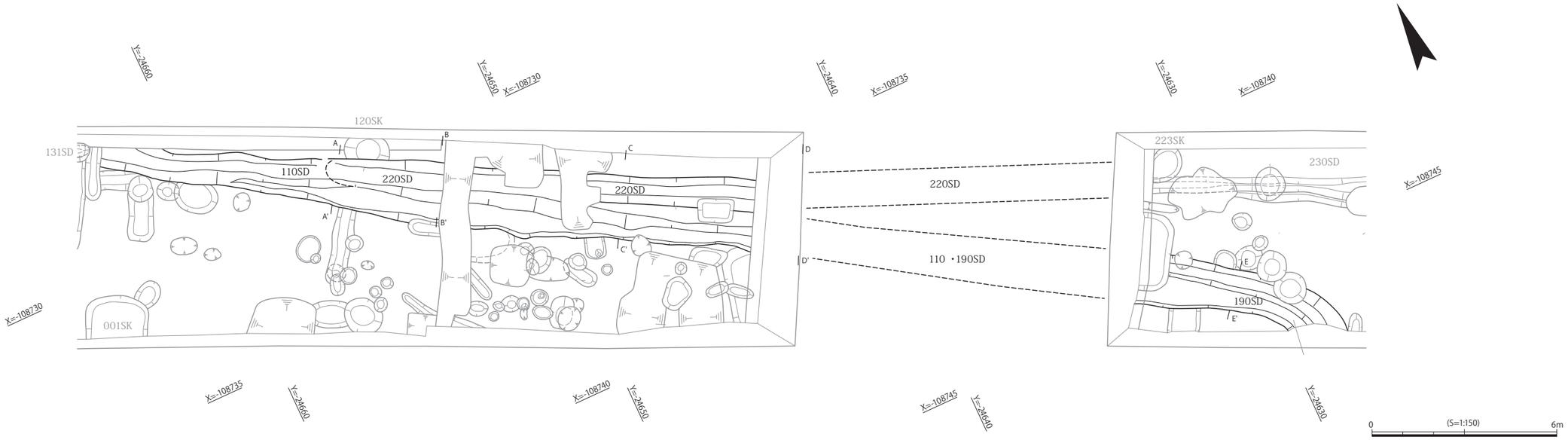
溝群の中では出土遺物が最も多く、出土した山茶碗の多くは第７～８型式のものである。遺構の帰属時期は他の溝同様に 13 世紀後半であろう。

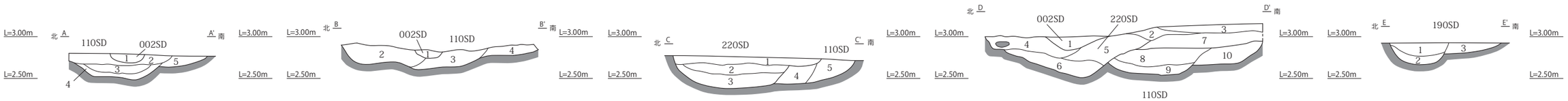
１７０・２１０ＳＤ（第 14 図）

東区で検出した東西方向の溝である。主軸はＥ -15° -S、110SD や 160SD に比べ主軸はわずかに北に傾く。掘削時には黒色埋土と貝殻片が特徴的な 170SD（これを上層と下層）と淡い色調を呈する北側部分＝ 210SD に分けたのみであり、詳細に掘削が出来なかった。しかし、断面観察から少なくとも６つの溝もしくは掘削段階があることが分かった。また、その様相は底部で平面的に明瞭に検出され観察できた（写真図版 17）。

最も新しい溝は 170SDa とした。断面図では中央ベルトのみに見られる。大部分は近代以降の削平等で失われている。170SDb は多量の貝殻を含む。これらを調査時には上層とした。170SDa は近世遺物を含む。170SDb と c は出土遺物は少ないが中世遺物のみである。層位的にはⅡ層からの遺構つまり近世溝の可能性もある。

170c は東壁から数mで収束しており、他よりも少し深い。次に 170SDd が下層に存在する。底部しか残っていないためか埋土は地山層を多く含む。平面的には南側に掘削されている。一方、北側に掘削





1. 灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂
   002SD
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
   110SD
3. オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂
   110SD
4. 灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂
   110SD
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
   110SD

1. 灰オリーブ色(5Y5/2) 細粒砂
   貝殻片含む
   002SD
2. 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂
   110SD
3. 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
   110SD
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
   110SD

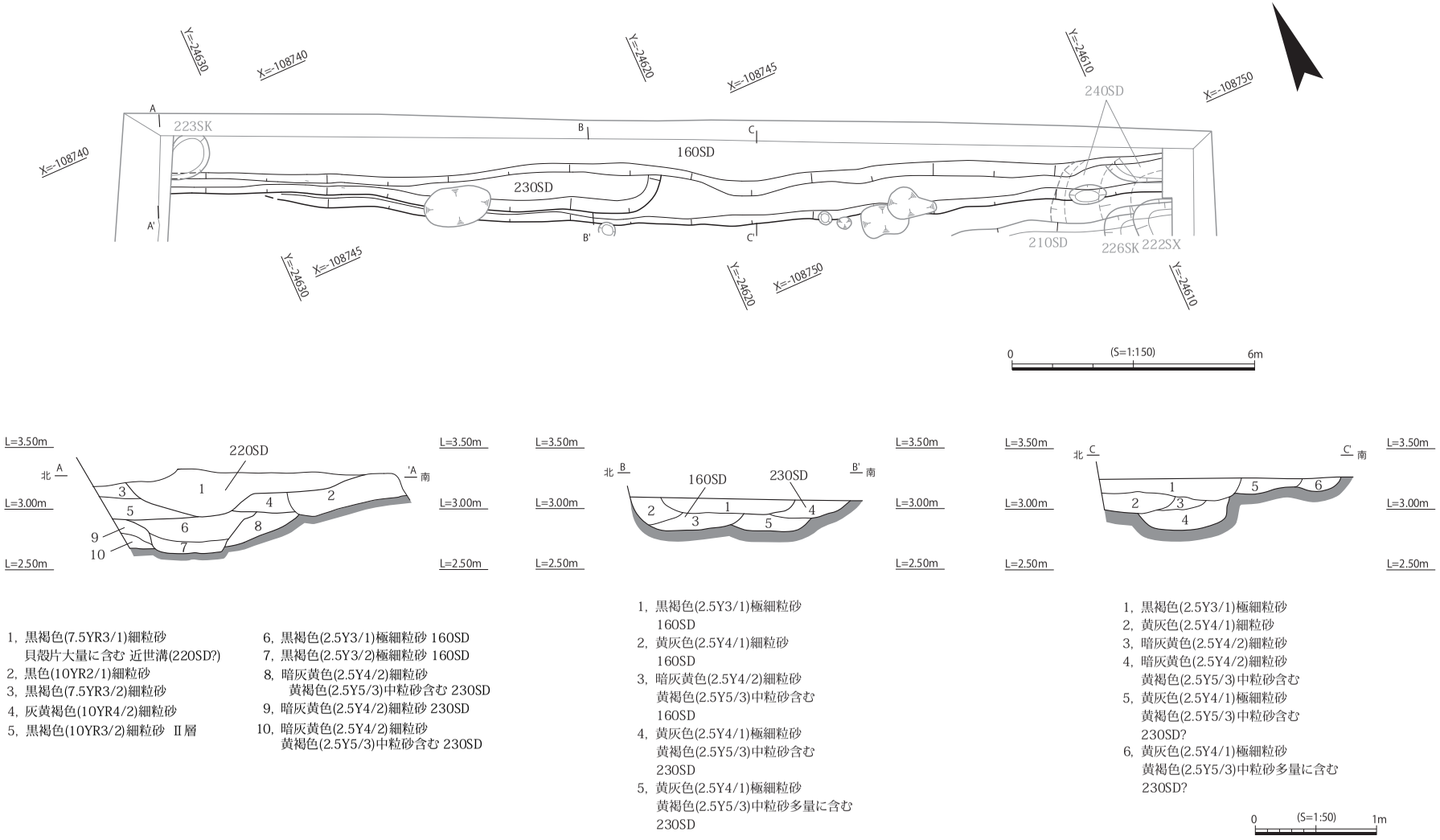
1. 灰色(5Y4/1)極細粒砂～細粒砂
   やや粘性あり
   220SD
2. 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
   灰色(5Y4/1)極細粒砂少量含む
   220SD
3. 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
   220SD
4. 灰色(5Y4/1)中粒砂
   暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂含む
   110SD
5. 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
   110SD

1. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂
   貝殻片に含む
   002SD
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂
   貝殻片に含む
4. 灰色(5Y4/1)極細粒砂～細粒砂
   やや粘性あり
   220SD
5. オリーブ黒色(5Y3/1)極細粒砂～細粒砂
   やや粘性あり
   220SD
6. 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
   220SD
7. 黒褐色(2.5Y3/2)
   L2
   3の層よりやや明るい
8. 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
   110SD
9. 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
   黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
   110SD
10. 灰色(5Y4/1)中粒砂
    暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂含む
    110SD

1. オリーブ黒色(5Y3/2)極細粒砂
2. オリーブ黒色(5Y3/2)極細粒砂
   オリーブ黄色(5Y6/3)粗粒砂含む
3. 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂

0 (S=1:50) 1m

第 12 図　110・190SD、220SD（2地点）

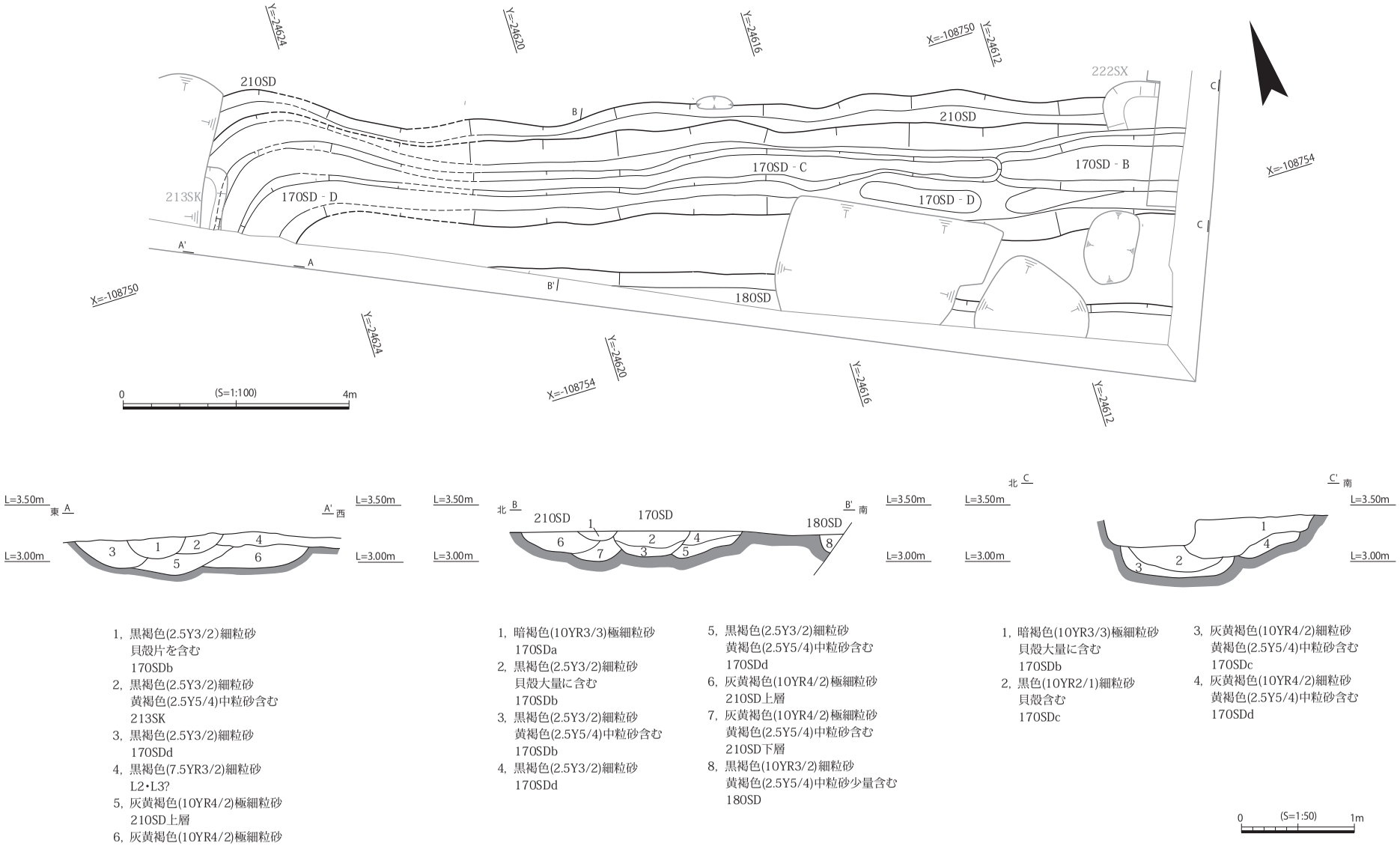


1, 黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂
貝殻片大量に含む 近世溝(220SD?)
2, 黒色(10YR2/1)細粒砂
3, 黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂
4, 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
5, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂 Ⅱ層
6, 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂 160SD
7, 黒褐色(2.5Y3/2)極細粒砂 160SD
8, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む 230SD
9, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂 230SD
10, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む 230SD

1, 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
160SD
2, 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂
160SD
3, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む
160SD
4, 黄灰色(2.5Y4/1)極細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む
230SD
5, 黄灰色(2.5Y4/1)極細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂多量に含む
230SD

1, 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
2, 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂
3, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
4, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む
5, 黄灰色(2.5Y4/1)極細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む
230SD?
6, 黄灰色(2.5Y4/1)極細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂多量に含む
230SD?

第13図　160・230SD（2地点）



1，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
貝殻片を含む
170SDb
2，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
213SK
3，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
170SDd
4，黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂
L2・L3?
5，灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
210SD上層
6，灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
210SD下層

1，暗褐色(10YR3/3)極細粒砂
170SDa
2，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
貝殻大量に含む
170SDb
3，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
170SDb
4，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
170SDd
5，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
170SDd
6，灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
210SD上層
7，灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
210SD下層
8，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂少量含む
180SD

1，暗褐色(10YR3/3)極細粒砂
貝殻大量に含む
170SDb
2，黒色(10YR2/1)細粒砂
貝殻含む
170SDc
3，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
170SDc
4，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
170SDd

0　(S=1:50)　1m

第14図　170・210SD、180SD（2地点）

されているのが 210SD である。ともに中世の溝である。170SDd と 210SD の前後関係は切り合い等からは不明である。170SDb ～ d および 210SD の出土遺物は少なく、210SD では弥生土器や須恵器など古い遺物が多い。しかし、主として第６～７型式の山茶碗が出土しており、これらが埋没時期を示すものと考えられる。おそらく古い混入遺物の多い 210SD が最も最初に掘削され、その後 170SDd → b と山茶碗１型式程度の時間幅の中で埋没と掘削が繰り返されたのであろう。その後、再開発にあたり、窪地化もしくは何らかの区画として残っていた同じ位置に 170SDa が再度掘削されたと考えられる。

これらの溝は東区の中央、190SD の手前で同じように南に屈曲している。この二つの溝はもう少し南で合流しているのかもしれない。いずれにせよ、両溝が曲がるこの位置は中世から近世に至るまで、何らかの境界を示す位置であったことは間違いない。また、160・230SD と同じく、170・210SD も平成 24 年度調査の SD2070 と同一溝の可能性がある。なお、底部のレベルは 170SDc を除き、基本的には西に下がっているが、差異は小さい。

１８０ＳＤ（第 14 図）

東区南壁際で北側の肩だけが検出された遺構である。大部分が調査区外であり断定は出来ないが、170・210SD と同じ主軸方向の溝と考えられる。出土遺物は少ないが、出土している山茶碗は第４型式である。しかし、切り合い関係から 180SD より古いと判断した遺構（225SP）から細片であるが古瀬戸が出土しており、時期の決定は保留しておきたい。

３．土坑・その他の遺構

０１０ＳＫ、１５０ＳＫ（第 16 図）

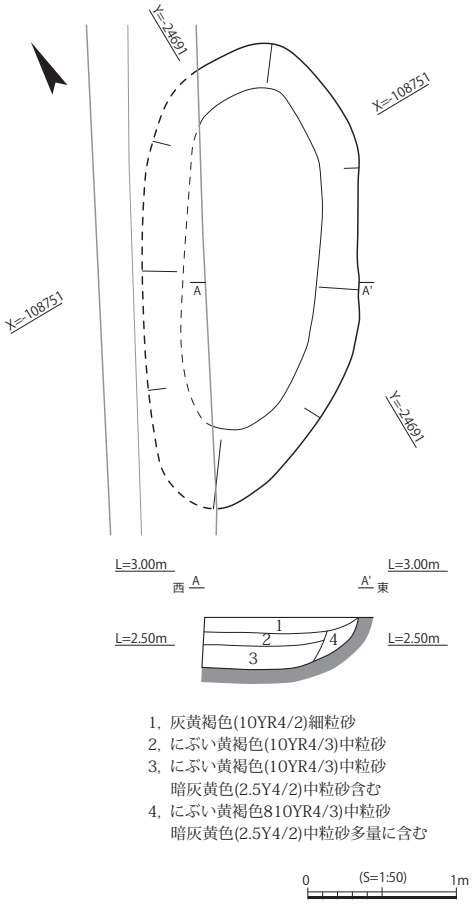
010SK は西区東側で検出した円形土坑である。010SK の底部中央からは残存率約 90％の廻間式期のひさご形壺（図版 12-41）が出土した。口縁部を意図的に打ち欠いているかもしれない。壺内部には何も無かった。出土状況に特異な様相は見出されないが、埋納土坑の可能性もある。

150SK は 010SK に切られる浅い土坑である。パレス壺（図版 12-40）が出土した。破片資料であり非常に磨滅していた。

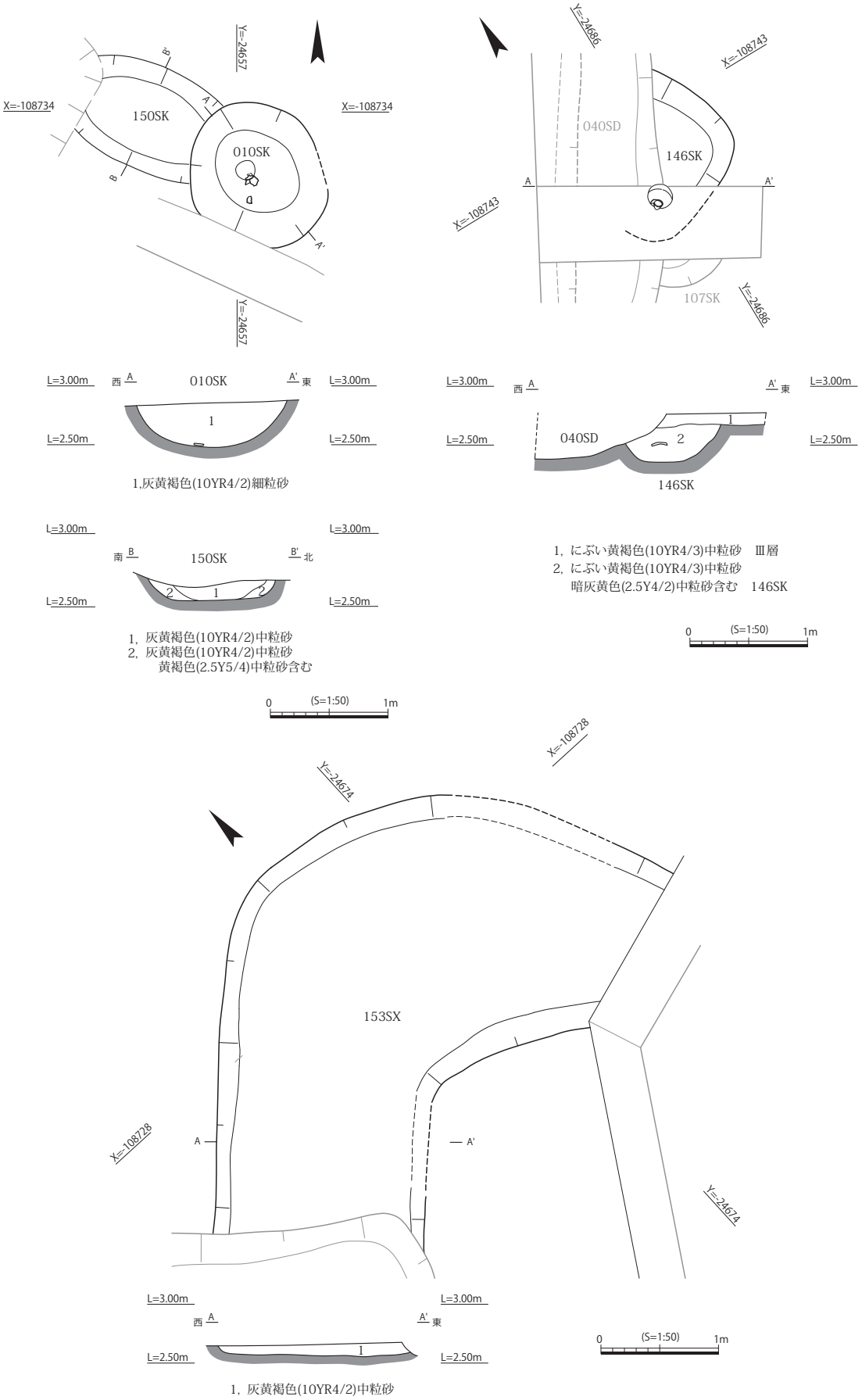
０４４ＳＫ（第 15 図）

西区南西隅、040SD の南端、040SD 上層の底＝下層の上面で検出した。西側はトレンチ掘削のため記録出来なかったが、壁に達していないことから楕円形土坑と考えられる。

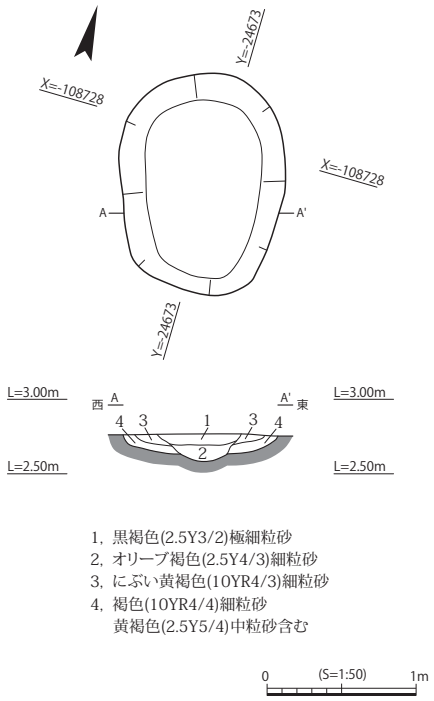
尾張型第７型式の山茶碗や常滑焼が出土した。常滑焼甕の破片が比較的多かった。040SD の南端に位置すること、遺物の時期差も無いことから埋没後すぐに窪地を利用して掘削された廃棄土坑であろう。出土遺物から、その帰属時期は 13 世紀後半と考えられる。



第 15 図　044SK（2 地点）



第16図　土坑ほか（2地点）（010SK、150SK、146SX、153SX）



第17図　097SK（2地点）

写真15　097SK（2地点）（南から）

写真16　125SK（2地点）（南から）

０９７ＳＫ（第17図）

西区北西部で検出した楕円形土坑である。８世紀頃の須恵器が少量であるが出土している。中世遺物は含まれないことから古代の遺構の可能性がある。

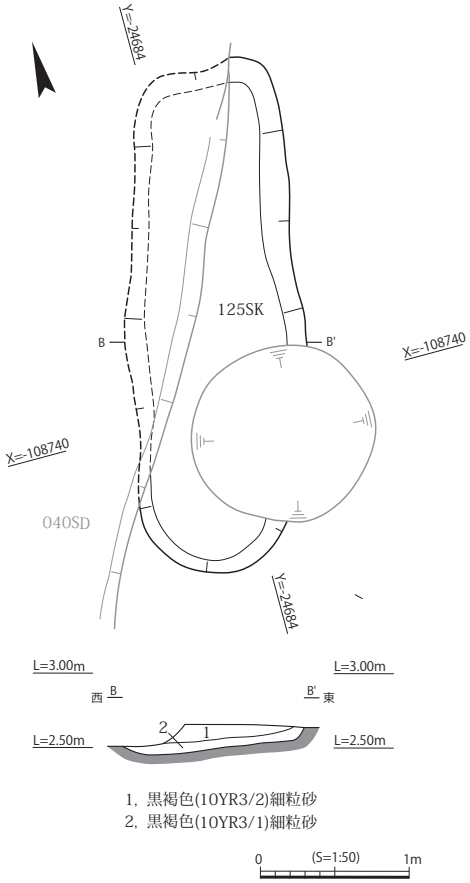
１２５ＳＫ（第18図）

西区西部で検出した隅丸長方形土坑である。プランから墓坑の可能性等も考えられたが、何ら積極的な根拠は無い。

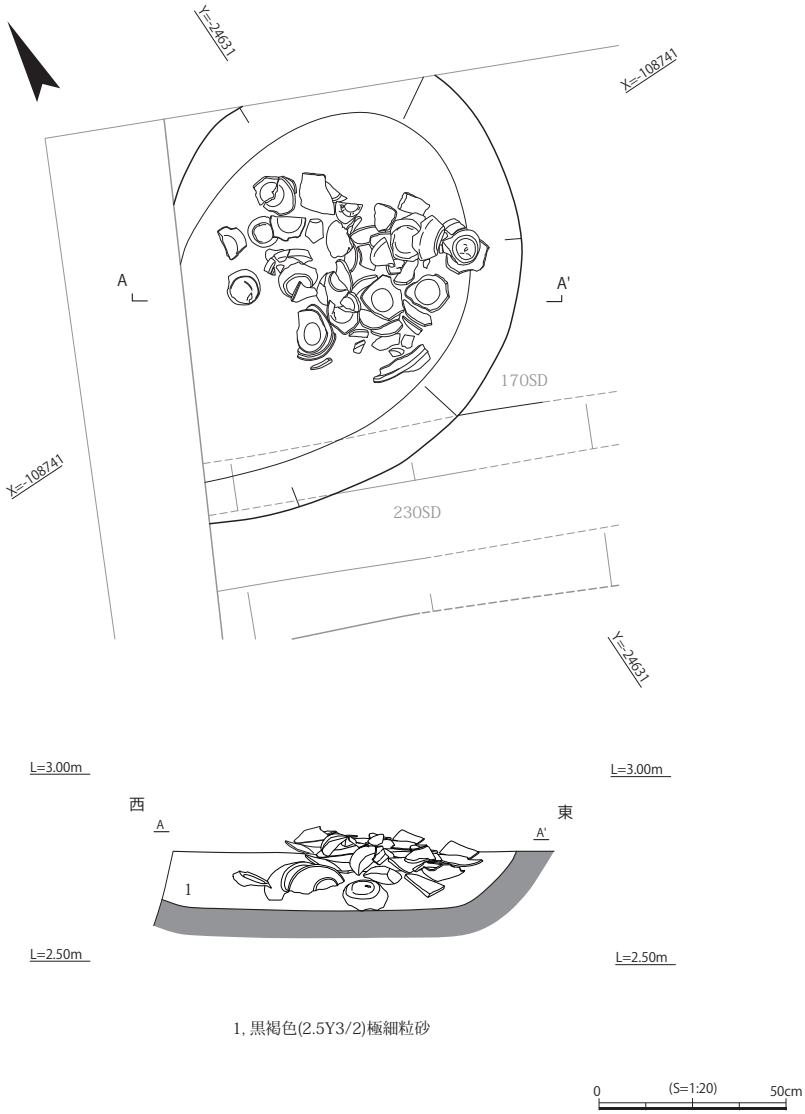
出土遺物は小破片のみであるが、尾張型６型式ごろの山茶碗がある。ただし隣接する同様の土坑115SKからは近世陶器が出土しており、125SKの帰属時期を13世紀と断定するのは躊躇を覚える。

１４６ＳＫ（第16図）

040SDに切られる土坑である。隅丸方形プランの土坑と思われる。廻間式期の壺（図版12-42）が底部中央から出土した。その他に出土遺物はわずかであり、壺内部からも何も無かった。出土状況は特に意図的な配置を窺わせるものではないが、010SKなど同様の事例から何らかの意味をもつ遺構かもしれない。



第18図　125SK（2地点）



第 19 図　223SK（２地点）

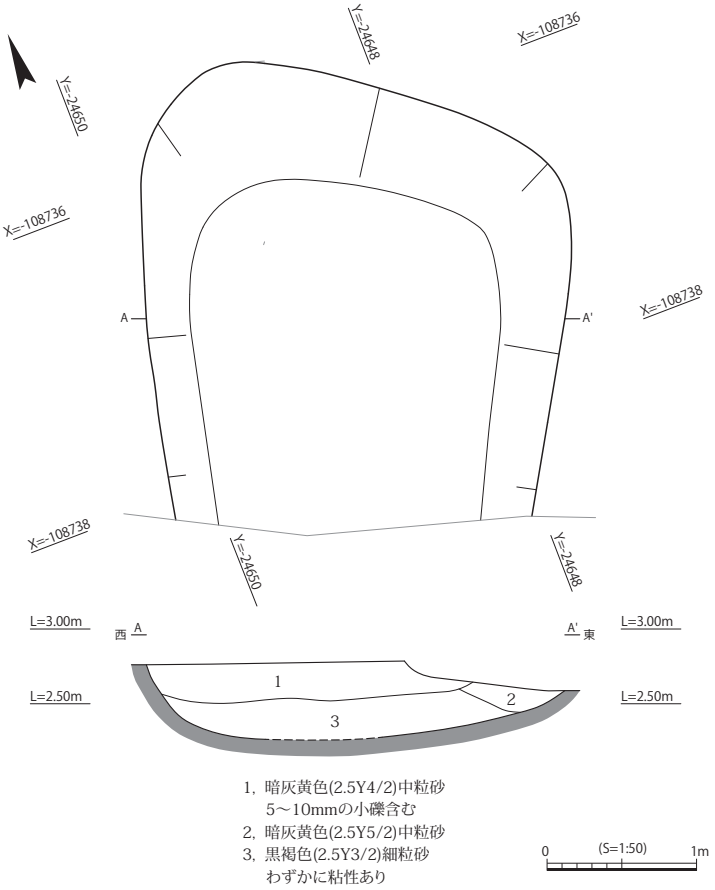
１５３ＳＸ（第 16 図）

西区西部で検出された不定形の落ち込みである。深さは５～ 10 ｃｍ程度である。弥生土器片が出土した。埋土は非常に地山層に類似し、わずかに暗く締まりが強いだけであった。プランを検出し掘削したところ遺物が出土し、遺構と判断した。ただし、人為的に掘削された遺構と言うべきか疑問である。溝の底部だけが残った可能性もあるが、浅い窪みに遺物が残っただけかもしれない。

２２３ＳＫ（第 19 図）

東区東北際で検出した円形土坑である。160・230SD 埋土内に掘削された土坑である。出土遺物の詳細は第３章を参照されたいが、山茶碗を主とし、常滑焼の羽釜と伊勢型鍋で構成されており、饗宴後の一括廃棄の可能性がある。

山茶碗は第７～８型式である。160・230SD の出土遺物と時期差がないことから、まだ浅い窪み状であった埋没途中に掘削されたのではないだろうか。



第 20 図　233SX（２地点）

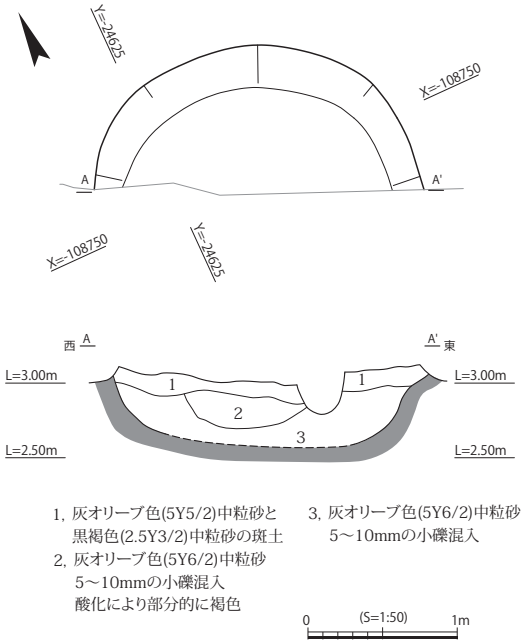
２３３ＳＸ（第 20 図）

中区南壁際で検出した。調査区外に続くため正確なプランは不明であるが隅丸方形であろう。湧水による崩落のため底面レベルの記録は不正確で、図の記録よりも深いと思われる。大きさから井戸掘方の可能性が考えられる。ただし、埋土の堆積状況や井戸枠等の検出など積極的な根拠はない。埋土は地山と類似しており、認識しづらかったが、遺物を含み地山よりも小礫を含む点で判別できた。第７型式の山茶碗や常滑焼甕の体部片などが出土しており、遺構の帰属次期は 13 世紀後半と考えられる。

２３９ＳＫ（第 21 図）

東区南壁際で検出した。調査区外に続くため正確なプランは不明であるが円形土坑であろう。壁際のため底まで調査できていない。

折戸 10 号窯式期の須恵器が数点出土しており、8 世紀後半の遺構と考えられる。



第 21 図　239SK（２地点）

第４節　東畑遺跡（３地点）の遺構

１．概要（図版 10・11）

今回の調査区は平成 23 年度調査 4 地点の西側に位置する。この平成 23 年度調査では弥生時代の竪穴建物や土器棺列、方形周溝墓などが見つかっており、今回の調査でも貴重な弥生時代の遺構の存在が期待された。この成果を受け、包含層（Ⅲ層）の残存状況が良好なことや調査日程なども考慮した上で、東畑遺跡においては包含層（Ⅲ層）上面と地山（Ⅴ層）上面との計 2 面の調査を行なった。しかしながら、期待に反し、竪穴建物や墓のような遺構は無く溝と小さな土坑だけであった。出土遺物も非常に少ない。土器は小破片が多く、石器は石鏃 1 点のみであった。特記すべき遺構・遺物は無かったものの、遺構密度が今回の調査区の中で最も高い点だけは注意を要する。

東畑遺跡からは計 37 の遺構が見つかった。その内訳は土坑 13 基、柱穴 5 基、溝 7 条、その他・不明が 12 基である（表２）。他の調査区と同じく、柱穴に建物を構成するものは無く、土坑は性格不明である。006SX は浅い不整円形の土坑である。西壁面の観察では端部がやや深くなっており一見竪穴建物の壁溝とも思えるが、緩やかな掘り込みや規模、床面らしき層の不在など、その可能性は低い。調査区北西部には多くの遺構が密集している。小土坑群と判断し調査したが、その一部は人為的に形成された層、例えば方形周溝墓の盛土や整地層の可能性も考えられる。これについては、隣接地のさらなる調査に期待するほかに無い。調査区南東部では平成 23 年度調査で見つかっている砂層の皿状構造（写真 17）が同様に存在した。これは水分の過飽和状態下で振動（地震か）が加わることによって発現する構造とのことである。確認のため掘削したが、無遺物層であった。

写真 17　砂層の皿状構造

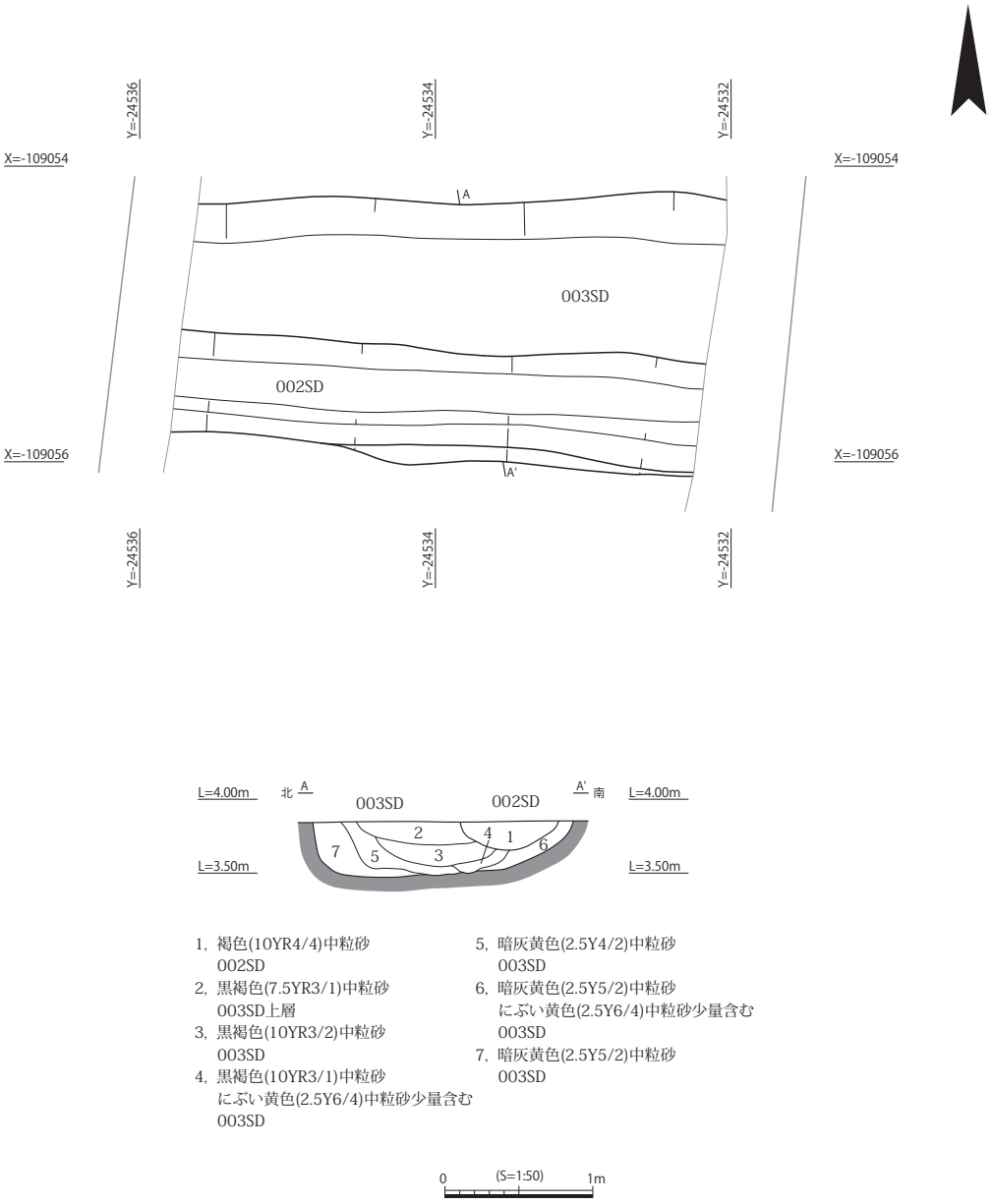
遺構の年代は判断する材料に乏しいが、やはり中世と弥生時代中期が主と思われる。個別遺構としては 002SD と 003SD のみ報告し、他の遺構については調査区平面図・断面図および遺構一覧表を参照されたい。

２．溝

００２・００３ＳＤ（第 22 図）

調査区の中央を貫く溝で、ほぼ重なる位置に掘削された 2 条の溝である。ともにⅢ層上面からの遺構である。002SD からは小片であるが大窯期の碗が出土している。一方、003SD からは石鏃（第 23 図）が出土したが、他は弥生土器の小破片ばかりである。遺物からの帰属時期の判断は難しい。

002・003SD は平成 23 年度調査 4 地点の 011SD と同一溝であることは間違いない。しかし、層位や認識に大きな齟齬がある。平成 23 年度調査では断面図などの記録からみれば、この溝は地山面（Ⅴ層上面）からの掘り込みと認識されている（註 10）。しかし、今回の調査では、002・003SD は平面および断面の観察ともにⅢ層上面からの存在が確認できた（写真図版 20 参照）。よって、この溝は弥生時代の遺構ではなく中世の溝と考えられる。



第 22 図　002・003SD（3 地点）

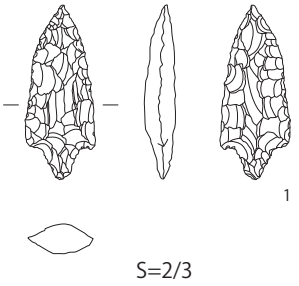
第３章　遺物

第１節　遺物の概要

出土した遺物は整理用コンテナ 26 箱分であった（註 11）。調査区ごとの箱数は、郷中遺跡（１地点）が２箱、畑間遺跡（2 地点）が西区８箱、中区と東区で 15 箱の計 23 箱、東畑遺跡（３地点）が１箱である。調査地点による出土遺物の傾向に大きな差はない。ただ、２地点では東側の方が出土量が多く、弥生土器については１、２地点は終末期、３地点は中期が多いと言える。

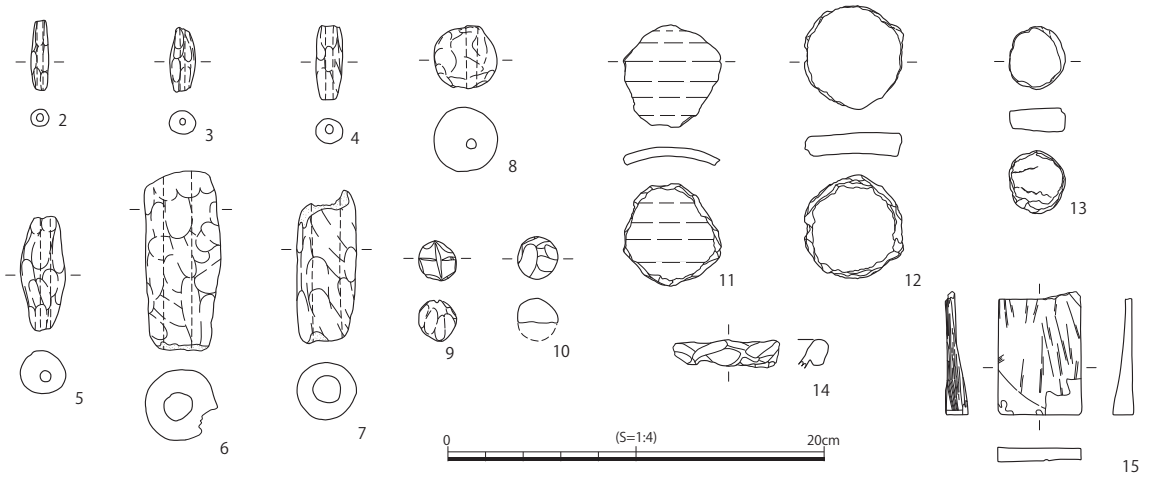
遺物の年代は縄文時代から近世まで多岐にわたるが、大部分が中世、特に 13 世紀を中心とした時期（山茶碗第５～８型式）のものである。第２章でも述べたように、弥生時代から古代の遺物が一つの遺構からまとまって出土した事例は無かった。古墳時代前期～中期の遺物は確実なものはなかった。縄文～弥生時代および古代の土器は少量の破片資料も出来るだけ多く掲載した。古代の遺物は８世紀ごろの須恵器や製塩土器が比較的多く出土している。

土器・陶磁器以外の遺物は極めて少ない。よって、ここでまとめて報告しておく（第 23、24 図）。石器は１点のみである。003SD（3 地点）から下呂石製の有茎石鏃（１）が出土した。石製品は砥石（15）があり、ほかに数点出土している。木製品・金属品は報告するような製品はなかった。瓦の出土は少なく近世以前の軒瓦はなかった。土製品は土錘（２～８）、陶丸（９、10）、加工円盤（11 ～ 13）などが出土している。土錘は球形のもの（８）もある。９は２地点から出土した陶丸、「+」の刻み目がある。同じものが平成 23 年度調査でも出土している。加工円盤は、11 は天目茶碗、12、13 が常滑焼を素材とする。14 は不明土製品、甕や鉢の口縁突帯かもしれない。



第 23 図　石鏃

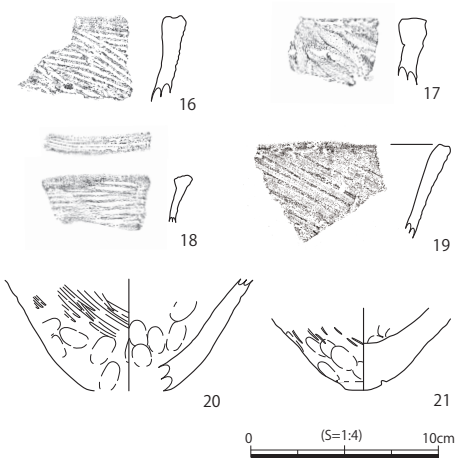
次節からは、縄文～弥生時代終末期・古墳時代後期～古代・中世の３時期にわけて土器・陶磁器を報告する。本文では個々の土器の形状や調整技法等の詳述は避け、これらは実測図による表現と観察表に委ね、出土状況や全体の傾向を中心に記述した。中世遺物が一定量の遺物が出土している２地点の 044SK、110・190SD、160・230SD、223SK については遺構単位で報告する。土器・陶磁器の年代観等については文末掲載の基本参考文献に基づく（註 12）。



第 24 図　土製品・石製品

第２節　縄文～弥生時代の遺物（図版 12）（第 25 図）

時期的には主に縄文時代晩期から弥生時代前期、弥生時代中期後半、弥生時代後期～終末期（註 13）の３つの時期の土器があり、この傾向は既往調査の成果に類する。郷中遺跡（１地点）と畑間遺跡（２地点）からは弥生時代後期～終末期の土器が多く、東畑遺跡（３地点）からは弥生時代中期後半の土器が多い。最も注目すべき土器は円窓付土器（30）、東海市から初出土例である。



第 25 図　縄文晩期～弥生時代前期の土器

縄文晩期から弥生時代前期の土器（第 25 図）は少量である。16 ～ 19 は縄文晩期から弥生前期の条痕文系深鉢の口縁部である。いずれも畑間遺跡（２地点）の包含層や新しい時期の遺構からの出土である。16 ～ 18 は口縁内面が肥厚する形状が特徴的である。20、21 は尖底状の甕底部、近接する烏帽子遺跡で類似のものが報告されている（註 14）。

22 ～ 29（図版 12）は弥生時代中期～終末期の土器である。22 ～ 25 は中期の甕口縁部である。22 ～ 24 は条痕文系、25 は瓜郷式の口縁部である。これらはいずれも口縁内面が施文される。22 と 23 は刺突文、24 は押圧文、25 は波状文を施す。26 は凹線紋系の甕、28 は壺の頸部、瓜郷式系の大型壺であろう。29 は古井式の鉢か。尾張および三河の多様な系統のものがみられる。これらの多くは３地点から出土したものである。

30 ～ 42 は弥生時代後期から終末期のものである。1 地点と 2 地点からの出土が多い。円窓付土器（30）は 1 地点の中世溝から出土した。やや外方向に張る肩部の形状から山中式期のものと思われる。31 は外面に赤彩円紋が施された小型の壺である。35 と 37 は廻間Ⅰ式の台付甕である。32 ～ 34 は高杯、山中式期のものであろう。

38 ～ 42 は廻間Ⅰ式の壺である。38 ～ 40 はパレス壺、39 と 40 は外面の赤彩が一部残る。39 は 153SX（２地点）から出土した。図の印象と異なり残存率は低い破片資料である。40 は 150SK（２地点）から出土したものである。これらのパレス壺はいずれも表面が磨滅している。

41 は 010SK（２地点）、42 は 146SK（２地点）、それぞれ土坑の底部中央からほぼ完形で出土した。41 は口縁部の一部が U 字状に失われているが、これは意図的に打ち欠いている可能性がある。

第３節　古墳時代後期～古代の遺物（図版 13、14）（第 26 ～ 28 図）

古墳時代後期から古代の遺物は中世の遺構やⅡ・Ⅲ層から出土している。特に 8 世紀を中心とする時期、猿投窯編年では岩崎 17 ～折戸 10 号窯様式期の須恵器を主とする。土師器は甕が多く、皿や碗は確認できなかった。製塩土器も同じく 8 世紀ごろの知多式 4 類の脚部片が多く出土した。8 世紀の遺構はわずかであったが、本来は遺構が存在していたことを示すものであろう。前後する時期の遺物は少ないが、須恵器の杯 H や灰釉陶器は出来る限り抽出・図示した。

43 ～ 55（図版 13）は古代の土師器甕である。42 ～ 47 は濃尾型甕。底部に木葉痕のみられるものがある。46 は磨滅しており不鮮明であるが「×」のような線刻がみられる。49 ～ 52 は口縁端部のつまみ上げが特徴的な尾張伊勢型甕、52 は 10 世紀ごろのものである。53 ～ 55 は三河系の長胴甕であろう。口縁部の外反は弱くハケ調整が見られることから 7 世紀～ 8 世紀前半のもの。

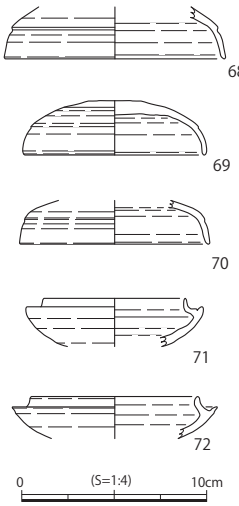
56 ～ 67（図版 13）は製塩土器である。いずれも知多式３～４類の脚部である。56 ～ 58 はやや胎土が粗い。出土した製塩土器の多くは４A 類である。57、63 ～ 65 は成形時の指オサエがみられることから３類とすべきものであろう。

須恵器は 1、２地点の包含層や中世遺構などから出土している。既往の調査では報告事例少なく、今回の１、２地点は比較的須恵器が多いようだ。特に１地点は杯 H（68 ～ 72）や 97、116 など比較的古相の須恵器が多く出土しているように思われる。

68 ～ 72（第 26 図）は須恵器の杯 H とその蓋である。68 が最も古相のものである。径 10cm を超えるが天井部の稜は弱く、東山 44 号窯式期に属すものと考えられる。69 は東山 44 号窯式、70 ～ 72 は小型化した法量や杯身の内頃した低い口縁部などから７世紀後半の岩崎 17 号窯式期のものか。すべて１地点からの出土である。

第 27 図の 73 ～ 77 は 239SK（２地点）から出土した須恵器である。杯蓋はわずかに屈曲し陣笠状を呈する。折戸 10 号窯式期の土器群であろう。

図版 14（78 ～ 120）は包含層や中世遺構などから出土した須恵器である。その多くは奈良時代、猿投編年では岩崎 41 号窯式～折戸 10 号窯式期に属するが、一部には先行する時期のものも含まれる。78 ～ 87 は有台杯である。高台の断面形状は、78 のような端部の丸みのあるもの、79 のように端部が外に反るようなもの、80 のように方形で外端面が接地するものなど多様である。89 ～ 93 は無台の碗杯。90 と 91 は底部にヘラ記号が刻まれている。91 は 90 に比べ腰に張りのある形状をなす。



第 26 図　須恵器杯 H

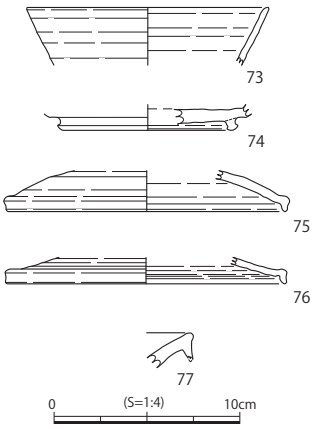
95 の双耳杯、96 の盤ともに高台端面の中央が窪む形状をなす。O-10 号窯式期の製品である。

杯蓋（97 ～ 106）はかえりの無いもの、扁平なツマミのものが多い。端部にかえりがある 97 や宝珠ツマミの 98 は古相の製品で７世紀後半、岩崎 17 号窯式期ごろ。その他の杯蓋は岩崎 25 号窯式～鳴海 32 号窯式のものである。239SK 出土の杯蓋に比べ扁平で直線的な形状である。107 は天井部の平らなタイプのものであろう。

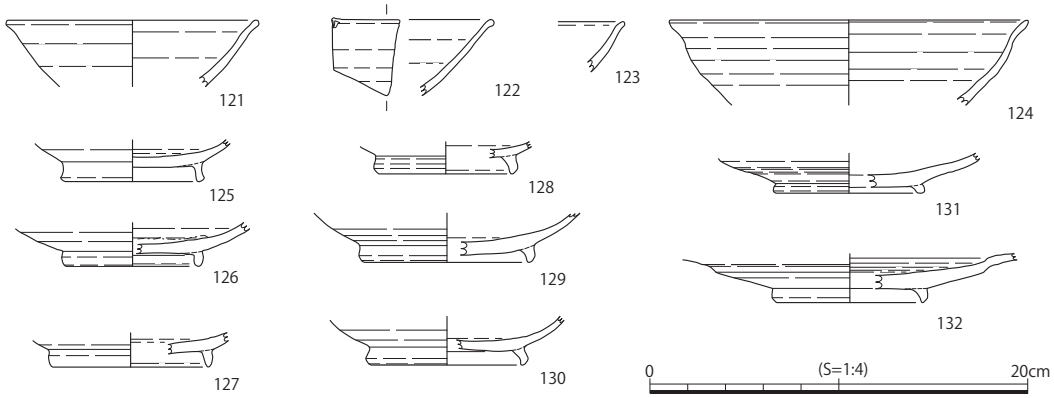
108 ～ 111 は高杯である。108 は東山 50 号窯式、109 ～ 111 は岩崎 17 ～岩崎 41 号窯式期にごろと思われる。

115 と 116 は大甕の口縁部である。115 は３条の沈線とクシ状工具による列点文が、116 は波状文を施す。７世紀後半の製品か。図示はしていないが、甕の胴部片も出土している。

117 は陶臼と呼ばれる器種の底部である。118 は瓹の底部であるが、切断面を丁寧に磨いており碗のような形状で再利用したものである。119 は把手であろうが、良く分からない。120 は１地点の 002SK から出土した甑である。口縁端部に丁寧なナデと２条の沈線を施す。体部外面にはタタキ目がみられ、１条の沈線が施されている。



第 27 図　239SK（２地点）出土須恵器



第 28 図　灰釉陶器

第 28 図（121 ～ 132）は灰釉陶器である。黒笹 90 号窯式期のものが主である。121 ～ 124 は椀の口縁部、端部が外反し薄手である。122 は輪花椀であろう。125 ～ 132 はいずれも椀皿類の高台部のみの資料である。高台部の形状はいわゆる三日月高台のものが多い（128 ～ 130、132）。132 は段皿である。

黒笹 90 号窯式期のものが多いが、高台の高い 125 は東山 72 号窯式期のものと考えられる。なお、15 点中 4 点が 2 地点の西端（040SD と 144SK) から出土している。

第 4 節　中世の遺物

今回出土した遺物の大部分がこの時期のものである。畑間遺跡（2 地点）からの出土が大半を占め、その中でも最も多くの遺物が出土した遺構は 160・230SD である。同調査区の 110・190SD は最も長い溝であり、ここからの遺物も多かった。土坑では畑間遺跡の 044SK と 223SK が出土遺物が多い。これら 4 つの遺構については、破片数計測データ（註 15）も提示し、遺構単位で報告する。

畑間遺跡（２地点）０４４ＳＫ出土遺物（図版 15）（表３）

133 ～ 149 は 044SK 出土の土器・陶磁器である。044SK は 040SD の南端、040SD 下層埋土上面で検出した土坑である。223SK に比べ各個体の残存率は低い。出土遺物で最も多いのは山茶碗であるが、50％を超えておらず、破片数計測を行った他の 4 遺構の中でもっとも山茶碗比率が低い。破片の大きな常滑甕が破片数比率でも 1/3 を超えており、常滑焼甕の目立つ遺構であった。

133 ～ 135 は山茶碗、136 ～ 139 は山皿、尾張型第 7 型式に属する。140 は山茶碗系の鉢、片口部分である。外面に不定方向の指ナデが施されている。141 ～ 142 は山茶碗系の鉢である。142 は山茶碗より古い時期のものである。143 と 144 は常滑焼の鉢、145 と 146 は常滑焼の甕である。147 は古瀬戸前期様式の壺底部である。加工円盤（148、149）が 2 点出土している。148 は常滑焼甕の胴部片、149 は土師器皿の底部を加工したものである。

畑間遺跡（２地点）１１０・１９０ＳＤ出土遺物（図版 15）（表３）

最も長く検出した溝である。破片数の約 7 割が山茶碗である。つづいて 2 割ほどが常滑焼の甕、そして数％の土師器の鍋があり、これは後述する 160・230SD とほぼ一致する数値である。ただし、160・230SD に比べ残存率の低いものが多い。山茶碗（153 ～ 158）と山皿（159 ～ 161）は尾張型第 6 型式ごろのものである。片口鉢は 163 と 164 の二つの型式のものがある。後者は 15 世紀の製品である。162 は土師器皿、回転糸切り痕が底部にみられる。一部に時期差のある遺物が存在するが、13 世紀の中に収まる遺物が主である。

器種	器形	044SK		110・190SD		160・230SD		223SK	
山茶碗	椀	73	47%	303	68%	369	71%	82	79%
	皿	11	7%	12	3%	9	2%	2	1.9%
	鉢	6	4%	3	0.6%	8	1.5%	2	1.9%
常滑焼	甕	55	36%	95	21%	94	18%	3	2.9%
	壺	0		0		0		1	0.9%
	鉢	0		0		2	0.3%	2	1.9%
	羽釜	0		0		0		8	7.7%
古瀬戸	碗皿類	1	0.6%	0		0		0	
	鉢盤類	0		2	0.4%	1	0.15%	0	
	壺	1	0.6%	0		0		0	
輸入陶磁器	碗皿類	0		0		2	0.3%	0	
	ほか	0		0		0		0	
土師器	碗皿類	0		1	0.2%	0		0	
	鍋釜	7	5%	33	7%	30	6%	3	2.9%
	ほか	0		0		1	0.15%	0	
		154	100%	449	100%	516	100%	103	100%
弥生土器	甕壺ほか	5		6		3		0	
古式土師器	甕壺ほか	0		11		0		0	
須恵器	杯椀類（蓋含む）	35		39		41		3	
	壺鉢	0		2		0		1	
	甕	11		11		8		0	
灰釉陶器	碗皿類	0		1		3		0	
製塩土器	製塩土器	0		2		2		0	
不明		30		30		3		0	
		235		552		576		107	

表３　中世遺構の出土遺物破片数

畑間遺跡（２地点）１６０・２３０ＳＤ出土遺物（図版 16）（表３）

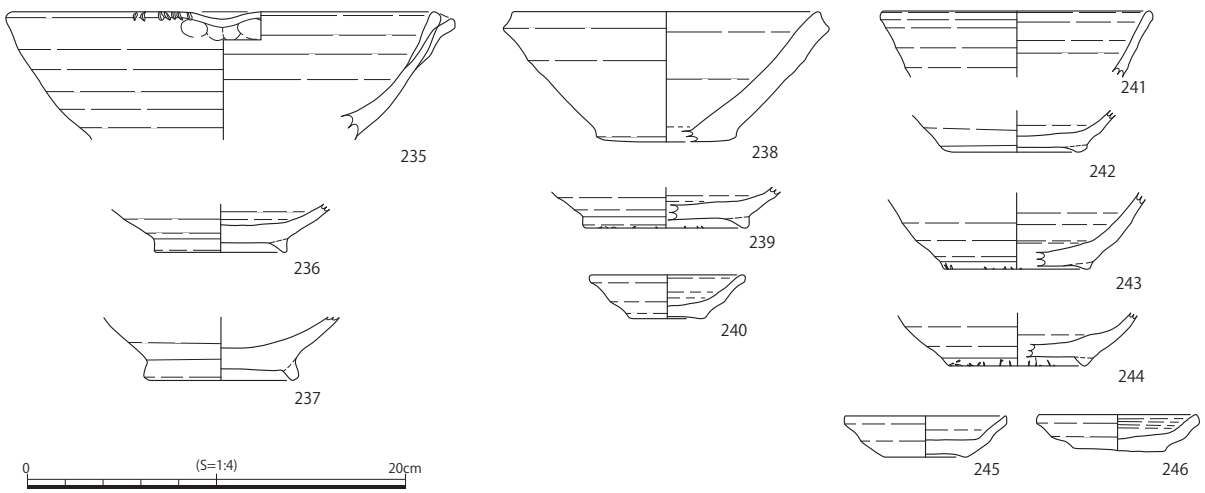
最も多くの遺物が出土した溝である。遺構や出土遺物の検討の結果、掘削もしくは埋没単位と考え、一つの溝として扱う。破片数計測の結果については、先述の 110・190SD とほぼ同じ結果である。ほぼ７割が山茶碗、つづいて２割ほどが常滑焼の甕、そして数％の土師器の鍋である。１点のみ龍泉窯青磁椀（203）が出土している。輸入陶磁器が１点あるものの、破片数の様相からは、110・190SD とは同じ土地利用、社会階層に由来する遺物群と考えられる。ただし、110・190SD よりも残存率の高い個体が多い。176 ～ 191 は山茶碗である。体部の形状はやや丸みのあるものから、直線的なものまでがみられ第６～７型式のものが主である。176 ～ 178 は古相の製品である。188 ～ 191 は白色が強く長石などを多く含む胎土から瀬戸産の可能性が高い。187 は無高台化したものである。無高台のものは尾張型の第８型式とされるが、生産地でも同じ窯で有台のものと無台のものが出土している事例も多く、常滑窯編年の６ａ型式は両者を含むものとされている（註 16）。193 のような高台のない山茶碗の存在が時期差や時期幅を示すものと単純には言えないように思われる。

196 と 197 は山茶碗系、199 は常滑焼系の片口鉢である。200 ～ 203 は常滑焼の壺と甕。200 と 203 は口縁帯が頸部と一体化しており、胴部の形状も含めて 15 世紀ごろのものと考えられる。198 の古瀬戸中期の盤も同時期のものである。これらの遺物に関しては、溝が浅い状態で残っていたものと考え、埋没最終段階の遺物と解したい。

畑間遺跡（２地点）２２３ＳＫ出土遺物（図版 17）（表３）

170・230SD 埋土上面から検出された廃棄土坑である。残存率の高い個体が多い。常滑焼甕は少なく、山茶碗がほぼ８割を占める。被熱痕は見当たらないが、常滑焼の羽釜（231、232）と土師器伊勢型鍋（228）の３個体の煮炊具が出土している。飲食や饗宴後の一括廃棄と考えている。

204 ～ 226 は山茶碗、多くは尾張型第７型式に属する。口縁部のナデが強く、端部が玉縁状や外反



第 29 図　中世遺構（2 地点）出土遺物

するものも多い。204 ～ 206 は高台径が大きく、腰部に丸みがあり、第 4 ～ 5 型式に属する他よりも古相のものである。221 ～ 226 は瀬戸産の可能性が高いものである。

229 と 230 は常滑焼の鉢である。231 と 232 は常滑焼の羽釜である。出土例の少ない製品であり、甕と異なり流通範囲は生産地周辺に限られるという。12 世紀後半から末ごろのものである。233 も常滑焼、小型の壺である。

その他の遺構・包含層からの出土遺物（図版 15、18）（第 29 図）

図版 15 の 162 ～ 175 は 1 地点の中世遺構（001SD、021SD、060SK など）から出土した山茶碗、山皿である。168 ～ 175 は 060SK から出土した山皿、尾張型第 6 ～ 7 型式に属する。

第 29 図の遺物は畑間遺跡（2 地点）の 180SD（235 ～ 237）、170・210SD(238 ～ 240）233SX（241 ～ 246）からの出土遺物である。180SD（235 ～ 237）は第 3 ～ 4 型式、12 世紀の製品である。236 と 237 は内面が摩耗している。170・210SD 出土の 238 は常滑焼の鉢、小ぶりな製品である。外面全体に非常に厚い釉が掛っている。233SX は井戸の可能性がある遺構である。241 ～ 246 は第 6 ～ 7 型式ごろのもの。

図版 18 はその他の遺構および包含層から出土した中世の土器・陶磁器である。13 世紀のものが多いが、14 ～ 16 世紀の遺物も含まれている。

山茶碗は尾張型第 6 ～ 8 型式のもの（247 ～ 252）が多い。251 と 252 は瀬戸産の可能性が高い。253 ～ 255 は東濃型である。東濃型の出土は少なかった。

261 は染付の盤である。輸入品と思われるが産地、時期は不明。わずかに褐色を帯びた乳白色で磁器としては軟質の胎土が特徴的である。262 は玉縁白磁の口縁部である。輸入陶磁器は、この 2 点と 203 の龍泉窯青磁椀および 1 地点出土の龍泉窯青磁椀の破片を含め計 4 点である。

263 ～ 267 は瀬戸の施釉陶器である。263 は古瀬戸後期の四耳壺、二次的に熱を受けて釉が溶けてしまっている。264 と 265 は 130SD（2 地点）からの出土である。264 は古瀬戸後期の鉛釉小皿、265 は大窯期の灰釉小皿である。267 は古瀬戸後期の折縁深皿。

268 ～ 270 は土師器皿でいずれも底部に回転糸切り痕がみられる。268 は底部に焼成前に穿孔されている。269 と 270 は口縁部に煤が付着し、燈明皿として利用されたものであろう。271 は内耳鍋、272 は土師器の羽釜、前者は 16 世紀、後者は 15 世紀後半に位置づけられる。

第４章　総括

第１節　包含層（Ⅲ層）について

１．はじめに

基本層序は第２章で述べたように遺跡全域でほぼ共通する。しかしながらⅢ層とされる遺物包含層については、その形成時期や上面遺構の帰属時期などの点が不明確なままであり、検討すべき課題である。Ⅲ層は平成 11 ～ 19 年度調査報告（文献６）において、『縄文時代～中世の遺物包含層、暗褐色砂層または黒褐色砂層。出土遺物は地区によって中心となる時代・時期は異なる』とされている。ただし、主たる報告対象が古墳時代以前の遺構であり、これらの遺構がⅤ層上面からということもあってⅢ層の形成時期や中世遺構との関係には触れていない。

本年調査において、Ⅲ層は中世以前に形成された層であり、中世遺構はその上面から存在すると判断した。先に結論を述べれば、Ⅲ層は遺物・遺構ともに少ない 10 ～ 11 世紀の間に堆積し、12 ～ 13 世紀に撹拌を受けて形成された層と考えている。しかし、既往調査においてこの結論と矛盾する報告もあり、これらを検討する必要がある。次節で述べる中世溝群を考える上でもⅢ層の問題は前提条件となるので本章の初めに論じておきたい。

２．既往調査成果の検討

ここでは既往調査から数地点の層序について取り上げて検討する。なお、括弧内の層位は今回の基本層序との対応関係を推定して示したものである。各調査地点の位置は第３図を参照されたい。

平成 20 年度調査３・４地点（畑間遺跡）（文献１）

基本層序は表土層（Ⅰ層）→遺物包含層（Ⅱ・Ⅲ層）→基盤層（Ⅴ層）の３層に分けられている。遺物包含層は２つに分かれるようだが詳細には触れていない。この調査区では包含層上面との２面調査が実施された。上面で検出された遺構は帰属時期の不確定なものが多いが、少なくとも大窯期以降のようである。おそらくⅡ層上面であろう。15 世紀以前の遺構はすべて下面（Ⅴ層上面）からの遺構として調査されている。しかし、断面記録からは、15 ～ 16 世紀の土師器皿集積遺構のある 034SD や 12 ～ 13 世紀と比定されている 038SE などは包含層上面からの遺構と読み取れる。よって作業上の検出面は別として、中世遺構は層位的には、遺物包含層のうち中世遺物を主としている層つまりⅢ層からの遺構と考えられる。

平成 21 年度調査５地点（畑間遺跡）・６地点（郷中遺跡）（文献２）

東西に連続する調査区で本年１地点の東西に位置する。基本層序は表土層（Ⅰ層）→遺物包含層（Ⅱ・Ⅲ層）→基盤層（Ⅴ層）の３層に分けられている。包含層は弥生時代から近世の遺物を含むとされ、弥生時代から中世に到る遺構すべてが基盤層からとのことである。しかし、本年１地点同様に近世以降の撹乱が多く、層位や遺構面の詳細な検討は困難である。

平成 22 年度調査１・２地点（郷中遺跡）（文献３）

本年２地点の 50 mほど西に位置する。基本層序は表土層（Ⅰ層）→遺物包含層（Ⅱ・Ⅲ層）→基盤層（Ⅴ層）の３層に分けられており、包含層は近世の遺物を含むとされる。基盤層上面の１面調査であるが、検出された遺構は包含層上面からの遺構であり、その年代は主に 17 世紀と報告されている。しかし、中世遺物のみが出土する遺構（SD2036) の存在を指摘し、包含層の正確な時期決定の必要性と上面遺構からの遺物混入のためにそれが困難であることが述べられている。

平成 23 年度調査４地点（東畑遺跡）（文献４）

基本層序は表土層（Ⅰ層）→中世～近世の遺物包含層（Ⅱ層）→弥生時代の遺物包含層（Ⅲ層）→Ⅲ状構造の層（Ⅴ層）→基盤層（Ⅴ層）の５層に分けられている。この調査区に関しては、隣接する本年３地点の報告（第２章第４節）のところでも触れているが、基盤層上面からの遺構と報告されていた溝（23 年度 011SD）が、今回Ⅲ層上面から検出することができ、出土遺物からも中世溝と判明した（3 地点の 002・003SD）。このことから、23 年度報告において弥生時代の遺物包含層とされていた層が、弥生時代以降に形成された層、つまりⅢ層であることが明らかになった。

平成 24 年度調査１・２地点（畑間遺跡）（文献５）

基本層序は客土（Ⅰ層）→耕土（Ⅰ層）→耕土または堆積層（Ⅱ層）→耕土または堆積層で中近世の遺物包含層（Ⅱ・Ⅲ層）→地山（Ⅴ層）の５層に分けられている。地山より上には江戸時代以前の堆積は全くみられないとされるが、断面記録からは中世に比定されている遺構（SD2010 や SD2077 など）が包含層上面から掘削されている状況が読み取れる。層序の理解と遺構の時期決定に明らかな混乱が生じている。

平成 24 年度調査５地点（畑間遺跡）（文献５）

基本層序は表土（Ⅰ層）→近世～近代包含層（Ⅱ層）→耕土（Ⅱ層）→中世以降の遺構ベース土（Ⅲ層）→地山（Ⅴ層）の５層に分けられている。中世の遺構は中世以降の遺構ベース土上面から掘削されていたと報告されており、この層は中世に堆積していたと述べられている。本年調査の見解と一致する。

問題点と課題

既往調査成果を再検討すれば、以下の事柄が浮かび上がった。１つは多くの調査地点で基盤層直上の包含層上面から中世の遺構が存在する可能性が極めて高いことである。またⅢ層とその上面からの遺構埋土の類似ゆえに認識が困難であり、その結果、包含層の形成時期が中世以降と誤認されてきた可能性も示された。確かに平成 20 年度調査報告では弥生時代と中世の遺物包含層の分離が困難であること、平成 22 年度調査報告では包含層として取り上げた遺物に本来の包含層遺物より新しい時期の遺物を含んでいる可能性について触れられており、既に問題は指摘されていた。しかしながら、次節で取り上げる中世溝群のように多くの調査地点の成果を合わせて検討する機会がなかったため指摘だけに留まっていた。

３．出土遺物とⅢ層の形成時期

通常、包含層の時期はそこから出土する遺物の年代によって決定される。包含層に含まれる遺物は層形成以前の地上に存在した遺物（包含層遺物 A）、形成過程で含まれた遺物（包含層遺物 B）、形成後の撹乱・撹拌作用の結果混入した遺物（包含層遺物 C）があると考える。遺物 C は層上面で人間活動が行なわれ遺構が形成されてゆく中で、自然・人為の様々な撹乱・撹拌作用（窪みへの遺物の埋没、小動物や植物の動き）によって混入する。

本年の調査においては、包含層遺物の取り上げの際、Ⅱ層からの撹乱が多いことやⅡ層下層とⅢ層の分別が掘削時には困難であることを考慮し、大部分はⅡ～Ⅲ層として取り上げた。Ⅱ層の掘削が完了したと判断した場合のみをⅢ層として取り上げた（註 17）。その上で２地点のⅢ層出土遺物の破片数を計測したのが表４である。この結果、中世遺構では５～７割を占める山茶碗は３割に満たず、須恵器と弥生土器が多いことが判明した。また、古瀬戸は１点もなく、14 世紀以降の遺物は含まれていない。Ⅲ層出土の山茶碗は第７型式までのものであり、包含層遺物 C と考えられる（一部には遺構埋土との類似

による認識漏れ遺構に由来するものが含まれよう)。少なくとも古瀬戸や東濃型山茶碗など 14 ～ 16 世紀の遺物がないことから、Ⅲ層の堆積がそれ以前に遡ることは間違いない。Ⅲ層は中世以前、おそらく遺構・遺物ともに少ない 10 ～ 11 世紀の間に堆積し、12 ～ 13 世紀の開発行為に伴う撹拌作用を経て形成された層と考えられる。

既往調査においては、Ⅲ層相当の包含層を中世以後に形成されたものとし、中世遺構をⅤ層上面からと判断しているような報告事例があったわけだが、その根拠となる遺物は包含層と遺構埋土の類似に由来する検出漏れ遺構と少量の包含層遺物 C の可能性が非常に高い。

本調査の成果と既往調査の再検討から、包含層＝Ⅲ層は古代～中世にかけて形成され、中世遺構の多くがその上面から存在している可能性が高いと考えられる。

器種	器形	Ⅲ層	
山茶碗	椀	159	26%
	皿	3	0.5%
	鉢	5	0.8%
常滑焼	甕	29	5%
	壺	1	0.2%
	鉢	1	0.2%
	羽釜	0	
古瀬戸	碗皿類	0	
	鉢盤類	0	
	壺	0	
輸入陶磁器	碗皿類	0	
	ほか	0	
土師器	碗皿類	0	
	鍋釜	22	3.6%
	ほか	0	
弥生土器	甕壺ほか	162	26%
古式土師器	甕壺ほか	26	4.2%
	杯椀類	98	16%
須恵器	壺鉢	27	4.4%
	甕	25	4.1%
灰釉陶器	碗皿類	13	2%
製塩土器		19	3%
不明		25	4%
		615	100%

表４　Ⅲ層出土遺物破片数

４．包含層の変遷

古代以前の遺構はⅣ層上面に形成されたと考えられる。ただしⅣ層の多くは古代～中世にかけて失われたようである。Ⅳ層が失われた原因として大規模な削平は考えられない。風や流水などの自然による流失であろう。

10 ～ 11 世紀は人間活動の痕跡があまり見出せない状況となり、この時期にⅢ層が堆積したと考えている。そして、12 世紀後半になりⅢ層上面に区画溝の開削など多くの遺構が残されるようになる。その後、14 世紀以降は遺構・遺物が減少し、活動の縮小が窺える。しかし、既往調査における 14 ～ 16 世紀の遺構もⅢ層上面からとみられ、この時期にⅡ層が堆積したとは考えられない。

Ⅱ層は近世に形成された層である。近世層であるⅡ層は包含層遺物 B として多くの中世遺物を含んでおり、これまで中世遺物包含層とされた層の多くはⅡ層にあたるのではないだろうか。近世再開発時には盛り土が行われ、Ⅱ層はそれが基盤となって形成された可能性が高い(註 18)。なお近世再開発の結果、中世の堆積が失われたとの見解（註 19）が示されているが、大規模な削平を行なって地面を下げる利点は少なく、同じ労力を用いるなら土を盛った方が合理的である。しかし、盛り土が行われずⅢ層上面で近世の人間活動が行われた場合、包含層遺物 C としてⅢ層に近世遺物が混入し、その結果、Ⅲ層のⅡ層化とも言うべき事象が起こり、結果として中世の堆積が失われることは考えられる。その場合、Ⅲ層とⅡ層の分離は非常に困難となる。層序の問題の背景にはこの事象を考える必要もあるかもしれない。

５．今後の課題

Ⅲ層の細分は当然可能であり、今後の課題である。Ⅲ層のすべてが 10 ～ 11 世紀に形成されたわけではなく、前後の時期に形成された包含層も部分的には存在すると思われるが、大筋としては間違いないと考えている。また本節の見解は、主として１・２地点および周辺の既往調査区の成果による。３地点周辺の南側については、古代～中世の包含層があることは間違いないが、今回の調査成果から詳細を検討することはできない。遺構の展開も含め南北での差異があるように思う。包含層の時期決定は様々な実際上の困難が伴うが、これらの課題に対応するために基本層序と遺構の関係性をより把握することに努める必要がある。

第２節　中世町割り溝の検討（第 30 図・表４）

１．はじめに

今回の調査で現在の町割りと方向性が一致する複数の中世溝が検出された。これらの溝は近世に再度掘削されており、中世に成立した町割りが近世を経て踏襲されてきたことが明らかとなった。同様の事例は既往調査でも指摘されている。例えば、平成 23 年度の龍雲院遺跡で検出された 020SX（12 ～ 15 世紀の流路もしくは溝群）の位置は江戸時代以来続いていた旧家の敷地境と一致していたとのことである。今回は、これらの溝について既往の成果と合わせて、簡単にまとめておきたい。

中世溝は数多く検出されているが、その中から、方位が現在の町割りに沿っている溝、南北溝であれば方位が N-20 ～ 30° -E、東西溝であれば、E-20 ～ 30° -S 程度の溝を同一群に属する溝とし、中世の町割り溝と判断した。中世町割り溝は主に第一砂堆北部（畑間遺跡の北部と郷中遺跡一帯）に展開している。表５は各溝の概要をまとめたもので、これを現在の都市計画図上に図示したのが第 30 図である。これらの溝は幅が１～２ｍ程度、断面形状は碗形といった点もおおよそ共通する。畑間遺跡や東畑遺跡の南部にも同時期の溝はあるが、方位が異なる。このことから、現状では砂堆北部で検出される溝群とは別と考えたい。

２．距離と区画

中世町割り溝は条里制の基本単位でもある１町（約 109 ｍ）を基準としている。例えば 170・210SD の屈曲地点と 24 年度調査１・２区の南北溝 SD2077 間の距離（第 30 図の D-F 間）が約 109 ｍである。さらに２地点の 040SD と 110・190SD の屈曲地点（B-C 間）の距離が約 55 ｍである（註 20）。他に、平成 21 年度調査の６地点の SD5 が南に屈曲する地点と同じ 21 年度調査の南北溝 SD2（I-J 間）との距離が約 50 ｍである。さらに SD2 をそのまま南に延ばすと、先述の 170・210SD の屈曲地点と 24 年度調査１・２区の南北溝 SD2077 の中間に位置し、それぞれへの距離（C-E・E-F）は 55 ｍ前後である。21 年度調査の南北溝 SD2 は方位的には 110・190SD や 044SD と関連する可能性の方が高いが、この場合（B-E）も距離は約 110 ｍである。少し前後する距離になる事例もあるが、当初は１町を基本として区画が設定されていたと考えられる。その後に、分割や再掘削の中で微妙な距離のズレが生じたのであろう。

３．出土遺物と溝の帰属時期

まず本年調査で検出した溝の帰属時期は 110・190SD と 160・230SD は尾張型山茶碗第６～７型式＝ 13 世紀後半である。他の溝は出土遺物が少なく決めてに欠ける。少し先行する可能性もある。既往調査の溝については、表５にまとめたが、やはり尾張型山茶碗５～７型式、12 世紀後半～ 13 世紀後半が主となっている。これらの溝が最初に掘削された時期を決めるのは難しいが、180SD などで第３～４型式の山茶碗などがみられることから 12 世紀前半と考えている。また、15 世紀前後の遺物が少量出土する事例があり、この頃まで浅い状態で残っていたのではないだろうか。

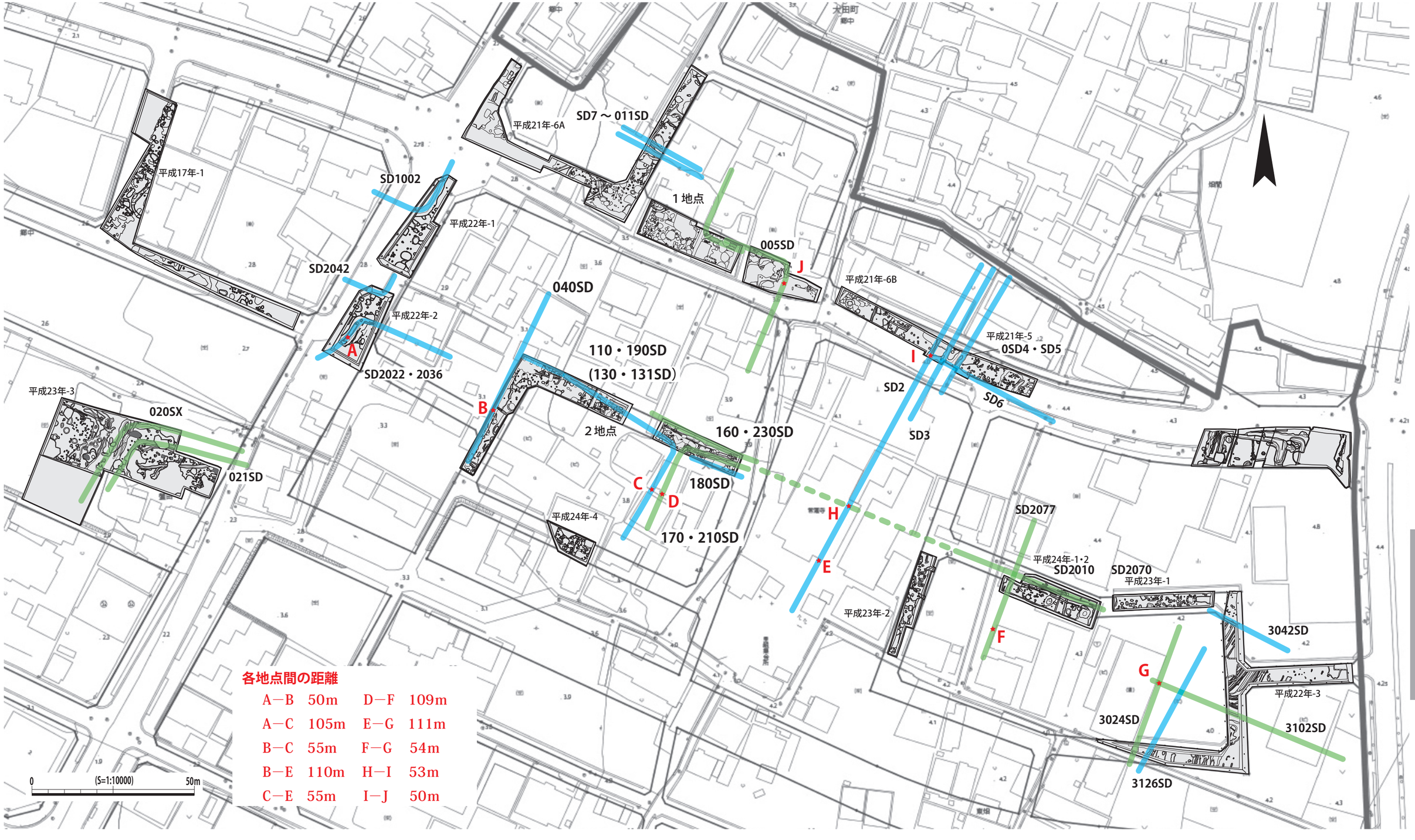
４．溝の再掘削

近世の再掘削とは別に、多くの溝が中世段階（尾張型山茶碗第５～７型式の範囲内）で同じ場所もしくは少し軸をずらした位置で何度も掘削されている。基盤層が砂ゆえに埋まりやすいためであろうか。しかし、なぜ主軸を少しずらして掘削されるのかは分からない。また、一度収束した溝が少し離れた位置から掘削されている事例、つまりわずかに間のある溝がある。ただし、これは掘削単位であって当時は１条の溝として機能していた可能性が高い。同様の事例は他遺跡でもみられる（註 21）。これは溝の

年度	調査区	遺構番号	方位	出土遺物と帰属時期	備考
H21	5地点	SD2	N-27°-E	尾張型山茶碗5～6型式	
		SD3	N-30°-E	尾張型山茶碗6型式	
		SD4	N-34°-E	尾張型山茶碗4～6型式	
		SD5	N-34°-E	尾張型山茶碗5型式	
		SD6	E-27～29°-S　→　N-28～34°-E	尾張型山茶碗6型式	
	6地点	SD5	E-19°-S	尾張型4型式～東濃型11型式	郷中020SDと同一溝
		SD7	E-29～30°-S	尾張型山茶碗5～6型式	
		SD8		詳細不明　SD7を切る最も新しい溝	
		SD9		詳細不明　SD7とSD10Dに切られる最も古い溝	
		SD10		詳細不明　SD9とSD11を切る。	
		SD11		詳細不明	
H22	1地点	SD1002	N-30°-E	17世紀の陶磁器	
	2地点	SD2022	N-30°-E　→　E-30～35°-S	少量の近世陶磁器	
		SD2036		少量の山茶碗や常滑焼	
		SD2042	E-30°-S	少量の中世遺物	
	3地点	SD3042	E-29°-S	詳細不明	
		SD3024	N-19°-E	詳細不明	
		SD3102	E-23°-S	詳細不明	
		SD3126	N-31°-E	少量の山茶碗や常滑焼	
H23	3地点	020SX	N-19～21°-E→?	尾張型4型式～東濃型11型式	1軒の屋敷地の区画溝か
		021SD	N-19～21°-E　→　E-10°-S	詳細不明	
H24	1、2地点	SD2010	E-19°-S	常滑甕片が多い。16世紀大窯製品もあり	SD2070の再掘削溝
		SD2070	E-19～10°-S	12世紀後半～13世紀前半の山茶碗。	2地点170SDなどと同一溝か
		SD2077	N-20°-E	少量の山茶碗や常滑焼	わずかに湾曲
H25	1地点	001SD	E-20°-S	尾張型山茶碗6～7型式	
		020SD		尾張型山茶碗6～8型式	
		021・035SD		尾張型山茶碗6～7型式	
	2地点	040SD	N-26°-E	尾張型山茶碗6～7型式	
		110・190SD	E-33°-S	尾張型山茶碗6～7型式か	
		130・131SD	E-27°-S	14～16世紀の瀬戸製品	
		160・230SD	E-21～24°-S	尾張型山茶碗6～8型式	
		170・210SD	E-15°-S	尾張型山茶碗6～7型式	
		180SD	E-16～18°-S	尾張型山茶碗3～4型式	

主軸方位が30°前後のもの
主軸方位が20°前後のもの

表5　町割り溝群一覧



第30図　中世町割り溝群

機能・目的が排水や防御ではなく、区画とする溝ならば問題ないと思われ、逆にこれが溝の機能・目的を区画と考える根拠ともなる。なお、少し離れた位置に溝が並ぶ場合も想定されるが、その間を道とするには狭く、同時期に側溝として機能していた可能性は低いと考えている。

5．方位

方位は基本的には地形に沿ったものである。溝の方位は 20 ～ 30°の幅の中というよりは、N-20° -E・E-20° -S に近い A 群と N-30° -E・E-30° -S に近い B 群に分かれる。しかし、それぞれに何か共通する要素はない。新旧で対応することもなければ、どちらも同じ位置に何条もの溝が掘削された事例、近世に再掘削された事例もある。

方位については、興味深い事実がある。都市計画図に示されている現代の建物もこの二つの主軸方位のものがあり、それは地下に眠っていた中世溝に対応している。例えば、21 年度調査の 002 ～ 005SD の南北にある建物は同じ N-20° -E である。HM-110・190SD と 170・210SD が南に曲がる地点にあった 2 件の住宅は、北側が 170・210SD と同じ N-30° -E、南側は 110・190SD と同じ N-20° -E なのである。どちらの主軸方位も現代に受け継がれていることから、前後関係はないように思う。

6．溝の変遷と評価

これらの町割り溝はいわゆる屋敷地の区画溝と考えられる。溝の開削時期を判断するのは難しいが、出土遺物からみて、山茶碗 5 ～ 7 型式にかけての時期（12 世紀後半～ 13 世紀後半）が最も盛んに周辺が利用された時期と考えられる。この時期には愛知県内で多くの中世集落が形成されており、それらは溝によって区画された屋敷地を特徴とする（註 22）。よって畑間・郷中遺跡における状況は地域の傾向に一致するものである。建物などの情報がほとんど無いために各区画の土地利用については全く不明であり、その性格等を考察するのは難しい。出土遺物からみれば一般的な中世村落と考えるのが妥当であろう。しかし、町割り溝が 1 町を単位とし、規格が高いことは特徴的である。

これだけ整然と町割りを施した集落も 14 世紀には衰退に向かうのであろうか、溝は埋没してしまう。今回の調査区に限らず 14 世紀以降の遺物・遺構はそれ以前に比較して少ない。常滑窯に関する論考の中で畑間遺跡を窯業生産者の居住域や出荷地の一つではないかと指摘がある（註 23）。規格の高さは特定の産業に関連する集落のイメージには合うだろう。また常滑窯業生産と関連する遺跡であるのならば、その衰退は常滑窯第 7 型式以降の縮小と軌を一にするものと言えよう。しかし、14 世紀の衰退という現象も県内の他の中世集落において同様の事例が多い（註 24）。

遺跡のある大田町はかつて大里村と呼ばれ、文和 3 年（1354 年）の『熱田社領注進目録』に記された大郷郷がこの地に比定されている。大郷郷の記録は正安元年（1299 年）の『熱田社領大郷百姓等陳状案』という文書にもあり、この頃には熱田社領であったわけだが、熱田社領となった時期については分からない（註 25）。町割り溝を伴う開発行為が熱田社領になったことを契機としているとすれば興味深い。もっとも積極的な根拠はないうえ、文献が記されている時期は溝が埋没した段階である。

14 世紀の集落の衰退という現象は、山茶碗の激減に伴う遺物編年の問題もあり（註 26）、本当に衰退したと言えるのかという根本的な問題もある。しかも近世において再度この区画溝が掘削されていることからは、何らかの形で区画・境界として継続されたことは間違いない。遺物の減少ほど衰退傾向を強調すべきではないのかもしれないが、溝が埋没し再度の掘削が無いことから、土地の維持管理体制の弱体化があったと判断しておきたい。

第３節　時期別の成果と課題

今回の調査における成果と課題を時期別にまとめておく。時期区分は 2014 年刊行の平成 11 ～ 19 年度調査報告において提示されており、これに従う。時期区分は表６の通りであるが、古代と中世にあたるⅣ期とⅤ期については、細分されていなかった。今回の調査では遺物では古代、遺構は中世を主とした成果を得たことから、Ⅳ・Ⅴ期をそれぞれ１～３期に細分した。また、江戸時代を暫定的にⅥ期として設定しておく。１～３の細分については、猿投窯などの生産地陶磁器編年を軸とし、既往調査成果も参考に設定した。

時期別遺構数は表６の通りである。表６の各地点遺構数の右欄は細分不可なものの数値である。なお、大多数の遺構は時期不明である。

Ⅰ期（縄文時代～弥生時代前期）

遺構はなく、土器も数点出土したのみである。既往調査でも明確な遺構の存在は認められていない。散発的な活動が行われただけであったのだろう。

Ⅱ期（弥生時代中期）

１地点と２地点では遺構はなく、土器が少量出土したのみである。３地点の第２面遺構は当該期のものと考えている。遺物は小片ばかりだが、中世遺物が含まれないことや周辺の成果からのそのように判断した。ただし、遺構の性格などは不明である。

Ⅲ期（弥生時代後期～古墳時代中期）

当該期の遺物としては、円窓付土器が東海市で初めて出土したことが特筆される。山中式期のものである。ただし、同時期の土器はあまり出土していない。むしろ主体となるのはⅢ－２期にあたる弥生時代終末期（廻間式期）である。２地点では残存率の高い土器が各１点出土した 010SK と 146SK が検出された。２地点では 153SX のように当該期の土器片が出土する遺構が他にもあったが、竪穴建物や溝のような明確な遺構もなく、その時期判定についても不安が残る。既往調査と合わせて考えれば、１地点と２地点一帯は、集落（居住域）の西側縁辺であったと考えられる。Ⅲ－３期にあたる古墳時代中期については遺構・遺物とも無かった。この時期の遺構・遺物が少ないことは既往調査の成果においてもみられる傾向である。

時期		時代・土器型式	１地点		２地点		３地点		計
Ⅰ	1	縄文時代晩期以前	0		0		0		0
	2	縄文時代晩期末～弥生時代初頭							
	3	弥生時代前期（樫王式期～水神平式期）							
Ⅱ	1	弥生時代中期前半（岩滑式期）	0	0	0	0	0	16	16
	2	弥生時代中期後半（貝田町式・瓜郷式期～凹線紋系・古井式期）	0		0		0		
Ⅲ	1	弥生時代後期（八王子古宮式期～山中式期）	0	1	0	0	0	0	6
	2	弥生時代終末期～古墳時代前期（廻間式期～松河戸Ⅰ式期）	0		5		0		
	3	古墳時代中期（松河戸Ⅱ式期～宇田式期）	0		0		0		
Ⅳ	1	古墳時代後期～終末期（東山10号窯式期～東山44号窯式期）	0	0	0	2	0	5	33
	2	奈良時代（東山50号窯式期～黒笹14号窯式期）	3		20		0		
	3	平安時代前期（黒笹90号窯式期～東山72号窯式期）	0		1		0		
Ⅴ	1	平安時代後期（山茶碗第２～４型式期）	0	6	0	16	0	6	94
	2	鎌倉時代（山茶碗第５～８型式期・常滑窯３～６ｂ型式期）	13		46		0		
	3	室町時代（山茶碗第９型式期～瀬戸大窯式期）	2		3		2		
Ⅵ		江戸時代	6		26		1		33

表６　時期区分と時期別遺構数

Ⅳ期（古墳時代後期～平安時代）

Ⅳ期は今回初めて細分した。古墳時代後期～終末期（東山 10 号窯式期～東山 44 号窯式期）をⅣ－１期、奈良時代を中心とした７世紀半ば～９世紀初め（東山 50 窯式期～黒笹 14 号窯式期）をⅣ－２期、９世紀～ 11 世紀（黒笹 90 号窯式期～東山 72 号窯式期）をⅣ－３期とした。Ⅳ－３期は包含層（Ⅲ層）の形成時期と考えている。

当該期の遺構の多くはⅣ－２期のものと考えている。Ⅳ－２期についても確実性の高い遺構は、折戸 10 号窯式期の須恵器が数点出土した２地点の 229SK くらいである。しかし、出土遺物と切り合い関係などから可能性のあるものを含めれば、表６の通りの数となる。また、包含層などから多くの須恵器や知多式４類の製塩土器が出土している。須恵器は主として岩崎 41 号窯式期～折戸 10 号窯式期など８世紀代を中心とする時期のものが多い。既往調査ではⅣ－２期の中でも後半の８世紀後半から９世紀前半の鳴海 32 号窯式期～黒笹 14 号窯式期が主体であったが、今回の遺物には７世紀代を含め、少し先行する時期のものが比較的多くみられた。

Ⅳ－３期は既往調査も含め遺構・遺物ともに極めて少ない。先述のように包含層が堆積した時期と考えている。Ⅳ－３期に衰退する様相は隣接する松崎遺跡などでの製塩活動の盛衰とも重なる（註 27）。このことから本遺跡の展開はそれらと関連している可能性があると考えている。

Ⅴ期（中世）

Ⅴ期も今回初めて細分した。平安時代後半（山茶碗第２～４型式期）をⅤ－１期、鎌倉時代（山茶碗第５～８型式期・常滑窯３～６ｂ型式期）をⅤ－２期、室町時代（山茶碗第９型式期～瀬戸大窯期）をⅣ－３期とした。

この時代の主要な成果は町割り溝の検出であり、その様相については前節で述べている。Ⅳ－１期の遺構は極めて少なく先行するⅢ－３期とともに本遺跡の空白期である。しかし遺物は一定量みられ、Ⅳ－１期の終わり頃に町割り溝の開削が始まったと考えている。そして、Ⅳ－２期には盛期を迎えることとなる。

Ⅳ－３期はⅣ－２期と比較すれば遺構・遺物とも少ないが、既往調査では一定量の遺構・遺物が見つかる地点もあり、その評価は難しい。特にⅣ－３期の出土遺物の少なさは山茶碗生産の縮小による見せかけのものかもしれない。なお、既往調査報告で 12 ～ 13 世紀は山茶碗を主とする供膳形態、14 ～ 16 世紀は土師器鍋などを主とする調理形態の土器が主となることから、後者の方が生活の中心となった結果と述べられている（註 28）が、13 世紀以前と 14 ～ 16 世紀の遺物組成の比較において、後者で調理形態の比率が高くなることは愛知県内の一般的傾向（註 29）であり、その見解は同意できない。この問題は土器・木器・金属器も含めた食器構成の中で考えるべき大きな問題である。この問題ゆえに本遺跡においても 14 世紀以降を衰退期とすることには少し躊躇を覚えるわけであるが、13 世紀後半に溝が埋没していることから、土地の維持管理体制の弱体化があったと理解したい。

Ⅵ期（近世）

中世溝の再掘削を伴う開発行為が行われている。浅い窪地のように残っていた事例に加え、簡易な杭や柵によって継続して境界として機能していたのだろう。この近世再開発の時期や背景についても課題である。17 世紀初頭であれば、安定した近世社会の成立の中で自然発生的に行なわれたもの、17 世紀半ば～後半であれば横須賀御殿造営時の大田川付け替えに伴うもの、18 世紀ならば干拓地拡大を背景にしたものと考えられる。

第４節　さいごに

繰り返しになるが、本年調査成果から考えられる遺跡の変遷とその背景について一調査担当者としての見解を総括しておく。

Ⅰ～Ⅲ期については、新しい所見を述べるような成果は得られなかった。縄文時代から弥生時代前期は第一砂堆が形成される時期、Ⅴ層の形成時期である。散発的に利用されるだけの場所であったのだろう。その後、弥生時代中期に至り、集落が成立する。居住域と墓域が確認されている。古墳時代初頭まで居住域や墓域の移動はあったが大きな変化はなかった。古墳時代中期から後期にかけて遺構・遺物が減少するが、この背景はまったく不明である。本遺跡の南西、すぐ近く第二砂堆に位置する烏帽子遺跡も同様の傾向がみられる。この時期における遺構・遺物の減少の背景を考えるには他遺跡も含めて地域全体の動向を探ってゆく必要がある。

その後、7 世紀後半から 9 世紀初めは調査地点による差異はあるが、遺構・遺物が再度みられるようになる。この時期はちょうど知多式製塩土器４Ａ類の時期と重なる。知多式製塩土器４Ａ類は土器製塩の最盛期のものであり、その衰退期はⅣ－３期とした K-90 号窯式期からである。つまり、土器製塩の盛衰と本遺跡の状況が軌を一としており、製塩遺跡である松崎遺跡の発展と関連する可能性がある。とはいえ、製塩遺跡に対応する主たる集落とは考えられない。衛星的に利用された小規模な居住域であったのではなかろうか。

その後 12 世紀まで無人の野とは言わないが、人間活動の痕跡の薄い時期が続く。12 世紀以降の町割り溝群の開削を伴う中世の再開発の背景は何であったのだろうか。熱田神宮による荘園化であったのだろうか。個人的には溝の規格の高さや常滑窯山茶碗生産の縮小期である 13 世紀後半に集落の衰退傾向が読み取れることから、窯業生産と関連する可能性はあると思う。ただし、工人の居住域であったのか、出荷地などであったのかは分からない。

Ⅳ期とⅤ期の過程は非常に類似する。ともに地域の主要産業が発展するに伴ってこの地に残される人間活動の痕跡が多くなる。現在の東海市の発展が鉄鋼業という主要産業によっていることと共通性を感じる。製塩→製陶→製鉄と物づくりが栄えるごとにこの地に人が集まるのは歴史の巡り合わせであろうか。またどちらの時期についても周辺の遺跡との有機的な関連性を含めて検討してゆく必要があり、本遺跡の成果だけで歴史を語ることは出来ない。この点が今後の課題である。

今回の調査成果の主となるのものは中世町割り溝であった。この溝は近世に再開削され、その町割りは現代まで引き継がれた。そして、その事実が新しい町割りを造る現代の区画整理に伴う発掘調査で明らかとなったことに歴史の繋がりを感じるとともに、これらの歴史が未来へと引き継がれ活かされることを願う。

註

第１章

（註１）　愛知県教育委員会　1999 年『愛知県知多半島遺跡詳細分布調査報告書』

（註２）　東海市教育委員会　1997 年『愛知県東海市東畑遺跡等試掘調査報告』

（註３）　永井伸明・宮澤浩司　2007 年「伊勢湾を望む海辺の遺跡－東畑遺跡等発掘調査概報－」
『研究報告とうかい』創刊号　東海市教育委員会
宮澤浩司　2009 年 「伊勢湾を望む海辺の遺跡（２）－平成 19 年度畑間・東畑遺跡発掘調査の概要－」
『研究報告とうかい』第２号　東海市教育委員会

（註４）　近隣の古老の話から想定された位置で見つかった。化学分析の結果も近代墓であることを示した。化学分析は株式会社パレオ・ラボに依頼し、その分析結果は東海市教育委員会にて保管している。

第２章

（註５）　参考文献６にて提示されたものを今回細分した。第４章を参照。

（註６）　第４章第１節で触れているが、３地点の 002・003SD に続く平成 23 年度４地点（東畑遺跡）の 011SD はそのような誤認例である。（文献４）

（註７）　稲沢市の下津宿遺跡で類例がある。
樋上昇ほか　2013 年　『下津宿遺跡』
（公財）法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター

（註８）　平成 21 年度６B 地点 SD5 の帰属時期については報告書の記述に混乱がみられる。出土遺物は尾張型４～６型式の山茶碗を主としつつも、東濃型 11 型式のものもあるとし、一方でこの溝の埋土に掘削されている SK30 を 12 世紀の遺構としている。SK30 は新しい遺構の可能性が高く、東濃型 11 型式は埋没最終段階の遺物と考え、SD5 開削→埋没は基本的には 13 世紀～ 14 世紀初めの中に収まるものと考えたい。（文献２）

（註９）　本調査の翌年（平成 26 年度）に、２地点の西側が調査され並行する同方向の中世溝が確認された。

（註 10）　註６参照（文献４）

第３章

（註 11）　洗浄・接合前の量であり、コンテナは内寸 414 × 314　× 101mm のものである。

（註 12）　土器編年等については参考文献７～ 22 を参考とした。

（註 13）　廻間式期の遺物については、その一部は古墳時代のものとすべきかもしれないが、本調査に関しては、前代からの連続性の中で弥生終末期としておく。

（註 14）　石黒立人ほか　2003 年　『烏帽子遺跡Ⅱ』（財）愛知県埋蔵文化財センター
烏帽子遺跡からの出土遺物は弥生時代以降も含めて本遺跡と類似の状況がみられる。

（註 15）　様々な計量分析方法があるが、もっとも単純でデータ蓄積と比較が可能な破片数計測が優れていると考えている。ただし、筆者の知識不足から正確さの不安は残る。

（註 16）　中野晴久　2013 年　『中世常滑窯の研究』　愛知学院大学学位請求論文

第４章

（註 17）　Ⅱ層と撹乱は掘削除去してもⅢ層と埋土が類似する遺構に関しては困難であった。

（註 18）　客土による整地が行われている場合、Ⅱ層に含まれる遺物の評価には注意を要する。

（註 19）　文献５

（註 20）　このことから 110・190SD が 130・131SD に続き、一連の溝であったと考えることができる。

（註 21）　註７文献

（註 22）　鈴木正貴ほか　2002 年　『東海の中世集落を考える』　東海考古学フォーラム

（註 23）　註 16 文献

（註 24）　註 22 文献

（註 25）　東海市史編さん委員会編　1990 年　『東海市史　通史編』　東海市
『熱田社領注進目録』に記された同じ知多郡の社領のうち御幣田郷は記録から建久２年（1191 年）には熱田社領であったことが分かり、大郷郷も同様であれば、溝の開削と時期が合うかもしれない。

（註 26）　尾野善裕　1996 年　「東海地方の尾張地域を中心とした中世の土器・陶磁器組成について」
『中近世土器の基礎研究 11』　中世土器研究会
註 22 文献

（註 27）　考古学フォーラム編　2010 年『東海土器製塩研究』考古学フォーラム

（註 28）　文献５

（註 29）　川井啓介　2000 年　「三河地域の中世集落」
『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第１号　（財）愛知県埋蔵文化財センター
註 26 文献

参考・引用文献

既往調査

1　桐山秀穂・宮澤浩司ほか　2009 年　『畑間・東畑遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会

2　有馬啓介・宮澤浩司ほか　2012 年　『畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会

3　筧和也・宮澤浩司ほか　2012 年　『畑間・東畑遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会

4　坂野俊哉・宮澤浩司ほか　2013 年　『畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会

5　筧和也・宮澤浩司ほか　2014 年　『畑間・東畑遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会

6　永井伸明ほか　2014 年　『畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告 - 平成 11 ～ 19 年度調査』
　東海市教育委員会

遺物の年代観・用語等

7　愛知県史編さん委員会編　2003 年　『資料編２　考古２　弥生』愛知県

8　愛知県史編さん委員会編　2005 年　『資料編３　考古３　古墳』愛知県

9　愛知県史編さん委員会編　2010 年　『資料編４　考古３　飛鳥～平安』愛知県

10　愛知県史編さん委員会編　2007 年　『別編　窯業２　中世・近世瀬戸系』愛知県

11　愛知県史編さん委員会編　2012 年　『別編　窯業３　中世・近世常滑系』愛知県

12　赤塚次郎　1990 年　「Ⅴ　考察」『廻間遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター

13　赤塚次郎　1997 年　「廻間Ⅰ・Ⅱ式再論」『西上免遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター

14　赤塚次郎・早野浩二　2001 年「松河戸・宇田様式の再編」
　『愛知県埋蔵文化財センター紀要』第２号　（財）愛知県埋蔵文化財センター

15　赤塚次郎・永井宏幸ほか　『朝日遺跡Ⅷ　総集編』（財）愛知県埋蔵文化財センター

16　石黒立人・加納俊介編　2002 年　『弥生土器の様式と編年　東海編』木耳社

17　尾野善裕　1997 年「東海」『古代の土器 5-1　７世紀の土器（近畿東部・東海編）』
　古代の土器研究会

18　考古学フォーラム編　1996 年『鍋と甕　そのデザイン』考古学フォーラム

19　考古学フォーラム編　2010 年『東海土器製塩研究』考古学フォーラム

20　小林達雄編　2008 年　『総覧　縄文土器』　総覧縄文土器刊行委員会

21　城ヶ谷和弘　1991 年　「古代尾張の土師器」『年報２』（財）愛知県埋蔵文化財センター

22　中世土器研究会編　1995 年『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会

その他

23　小野正敏編　2001 年　『図解・日本の中世遺跡』　東京大学出版会

24　高橋学　2003 年　『平野の環境考古学』　古今書院

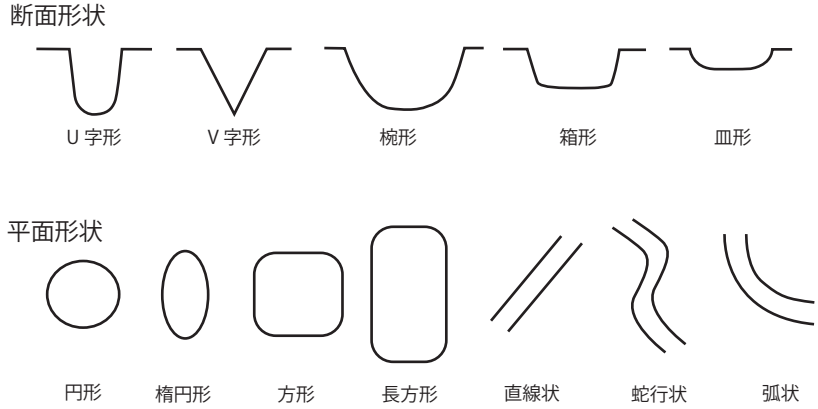
25　東海市史編さん委員会編　1990 年　『東海市史　通史編』　東海市

26　横須賀町史編纂委員会編　1969 年　『横須賀町史』　横須賀町

遺構一覧表

・遺構一覧表凡例

長軸、短軸、深さの単位はｃｍである。
（　）で記した数値は調査区外に続くものなど、調査時に計測できた部分の数値である。
平面形状・断面形状は下記の図による
埋土と出土遺物は主たるものを記した。
時期は下記の本遺跡の時期区分で記した。



時期区分表

時期		時代・土器型式
Ⅰ	1	縄文時代晩期以前
	2	縄文時代晩期末～弥生時代初頭
	3	弥生時代前期（樫王式期～水神平式期）
Ⅱ	1	弥生時代中期前半（岩滑式期）
	2	弥生時代中期後半（貝田町式・瓜郷式期～凹線紋系・古井式期）
Ⅲ	1	弥生時代後期（八王子古宮式期～山中式期）
	2	弥生時代終末期～古墳時代前期（廻間式期～松河戸Ⅰ式期）
	3	古墳時代中期（松河戸Ⅱ式期～宇田式期）
Ⅳ	1	古墳時代後期～終末期（東山10号窯式期～東山44号窯式期）
	2	奈良時代（東山50号窯式期～黒笹14号窯式期）
	3	平安時代前期（黒笹90号窯式期～東山72号窯式期）
Ⅴ	1	平安時代後期（山茶碗第２～４型式期）
	2	鎌倉時代（山茶碗第５～８型式期・常滑窯３～６ｂ型式期）
	3	室町時代（山茶碗第９型式期～瀬戸大窯式期）
Ⅵ		江戸時代

郷中遺跡（１地点）遺構一覧表

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
001	SD	7D17q・17r・18q・18r	(591)	134	29	直線～弧状	椀形	第6図参照	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
002	SK	7D17p・18p	(157)	(55)	34	不明	椀形	第8図参照	須恵器（甑）ほか	Ⅳ-2	
003	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
004	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
005	SD	7D17q	(345)	96	35	弧状	椀形	第6図参照	弥生土器　土師器　須恵器	V-2	
006	SD	7D18p	(151)	50	22	蛇行状	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	土師器　須恵器	Ⅳ-2	
007	SK	7D17p	172	(88)	49	不整形	椀形	第9図参照	貝殻片	V	
008	SK	7D17o	98	(58)	19	不明	椀形	第9図参照	無し	V	
009	SK	7D17o	(126)	(124)	27	不明	椀形	第9図参照	山茶碗（東濃型）	V-3	
010	SK	7D17n・17o	142	(40)	25	不明	椀形	第9図参照	無し	V	
011	SP	7D17o	51	41	15	楕円形	椀形	暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂	山茶碗ほか	V-2	
012	SK	7D17m	120	(71)	17	不明	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	Ⅵ	
013	SP	7D17m	34	(29)	9	円形	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
014	SX	7D18o	(77)	(52)	19	不明	椀形	暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂	無し	不明	
015	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
016	SX	7D17p・18p	98	(74)	24	不明	椀形	黒色（2.5Y2/1）中粒砂	弥生土器	Ⅲ	
017	SK	7D17q	60	36	14	楕円形	椀形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
018	SP	7D17p	38	(34)	14	円形	椀形	黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	無し	不明	
019	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
020	SD	7D18r・18s	(215)	84	24	直線状	椀形	第6図参照	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
021	SD	7D18r	(253)	102	14	直線状	椀形	第6図参照	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
022	SP	7D17q・18q	50	46	12	円形	椀形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
023	SP	7D17q・18q	28	28	15	円形	U字形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
024	SP	7D17q・18q	31	28	10	円形	椀形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
025	SK	7D17q・18q	118	(37)	22	不明	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
026	SP	7D17q	51	(41)	13	円形	椀形	褐色（7.5YR4/4）中粒砂	無し	不明	
027	SK	7D19q	52	26	16	楕円形	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
028	SP	7D17m	59	(26)	7	不明	椀形	黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	無し	不明	
029	SK	7D17m	91	(53)	13	不明	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
030	SP	7D17m	82	62	21	楕円形	椀形	黒色（2.5Y2/1）細粒砂	山茶碗　土師器　平瓦	Ⅵ	
031	SP	7D17m	46	45	20	円形	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	Ⅵ	
032	SK	7D16m・16n	124	(105)	39	円形	椀形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	山茶碗　灰釉陶器　近世陶器ほか	Ⅵ	
033	SD	7D16n	136	39	41	直線状	椀形	黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂	無し	不明	
034	SP	7D18q	36	(23)	12	円形	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
035	SD	7D18q・18r	(198)	124	13	直線状	椀形	第6図参照	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
036	SP	7D17m	33	32	12	円形	U字形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	山茶碗ほか	V	
037	SK	7D15n	(54)	36	9	不明	椀形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
038	SK	7D16n	(64)	60	21	不明	椀形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	山茶碗　常滑焼　土師器ほか	V-2	
039	SD	7D16o	(71)	45	30	不明	椀形	黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	山茶碗　常滑焼　土師器ほか	V-2	
040	SD	7D15n・16n	(497)	79	31	弧状	椀形	第7図参照	山茶碗ほか	V-3	

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
041	SP	7D15n・16n	49	34	11	楕円形	椀形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	無し	不明	
042	SP	7D16n	29	28	29	円形	U字形	黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂	無し	不明	
043	SP	7D18n	52	40	16	円形	椀形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	弥生土器ほか	不明	
044	SP	7D18o	33	(21)	19	円形	U字形	暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂	無し	不明	
045	SP	7D18o	39	37	16	円形	椀形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	須恵器ほか	Ⅳ-2	
046	SK	7D17o	102	(42)	17	不明	椀形	第9図参照	山茶碗	Ⅴ-2	
047	SP	7D16n	46	40	26	円形	椀形	黒色（2.5Y2/1）細粒砂	土師器　山茶碗	Ⅴ-2	
048	SP	7D16n・17n	51	46	8	円形	椀形	オリーブ褐色（2.5Y4/3）細粒砂	無し	不明	
049	SP	7D17m	(51)	45	13	円形	椀形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	無し	不明	
050	SK	7D16n	69	(64)	9	不明	椀形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	土師器　弥生土器	不明	
051	SP	7D17m	50	42	9	円形	椀形	暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂	無し	不明	
052	SK	7D17m	(93)	(82)	15	不明	椀形	暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂	無し	不明	
053	SK	7D16m・16n	(96)	(46)	23	不明	椀形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗　弥生土器ほか	Ⅴ-2	
054	SP	7D15m・15n	41	32	13	円形	椀形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
055	SK	7D15m・15n	(109)	(58)	19	不明	椀形	暗褐色（10YR3/3）極細粒砂	山茶碗ほか	Ⅴ	
056	SP	7D17m	30	25	15	円形	U字形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
057	SP	7D16m	30	26	12	円形	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	山茶碗ほか	Ⅴ-2	
058	SK	7D16n	(55)	(38)	18	不明	椀形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	土師器ほか	Ⅴ	
059	SX	7D18q・19q	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
060	SK	7D17q	92	42	14	楕円形	椀形	第8図参照	土師器	Ⅴ-2	001SD埋土上から存在
061	SP	7D17n	79	58	22	卵型	椀形	黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	無し	Ⅵ	
062	SP	7D17n	45	(40)	13	楕円形	椀形	黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	無し	Ⅵ	
063	SX	7D17q	—	—	21	—	椀形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	無し	不明	調査区北壁面にて観察
064	SX	7D18s	—	—	18	—	椀形	オリーブ黒色（5Y3/2）細粒砂	無し	不明	調査区北壁面にて観察

畑間遺跡（２地点）遺構一覧表

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
001	SK	8D7g・7h	203	(135)	17	不明	皿型	―	須恵器　山茶碗　近世陶器	Ⅵ	
002	SD	8D6h～7j	(816)	38	9	直線状	碗形	灰オリーブ色（5Y5/2）極細粒砂	須恵器　山茶碗　常滑焼　近世陶器	Ⅵ	110SD上の近世溝
003	SK	8D6h	85	83	33	円形		灰オリーブ色（5Y4/2）中粒砂	山茶碗ほか	Ⅵ	
004	SK	8D6h	(115)	79	30	長方形		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	近世陶器　山茶碗	Ⅵ	
005	SK	8D6h・6i	145	(94)	15	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	土師器　山茶碗ほか	Ⅴ-2	
006	SP	8D7i	34	30	8	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	無し	不明	
007	SK	8D7i	70	46	28	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗　常滑焼　土師器ほか	Ⅴ-2	
008	SD	8D7i	(246)	59	16	直線状	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂	常滑焼　山茶碗　須恵器ほか	Ⅴ-2	
009	SP	8D7i	55	54	11	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	無し	不明	
010	SK	8D7i・8i	124	(110)	40	円形	碗形	第16図参照	弥生土器（ひさご壺）ほか	Ⅲ-2	
011	SK	8D7i	89	71	5	円形	皿型	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	無し	不明	
012	SP	8D7i	59	53	12	円形	皿型	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	山茶碗　須恵器ほか	Ⅴ	
013	SK	8D6h	131	(62)	24	不明	碗形	記録なし	無し	Ⅵ	
014	SD	8D6h	(331)	41	20	直線状	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	山茶碗　近世陶器ほか	Ⅵ	
015	SD	8D6h	(173)	(46)	24	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	Ⅵ	
016	SP	8D6g	44	36	24	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	山皿	Ⅴ-2	
017	SP	8D6h	41	35	21	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂	無し	不明	
018	SP	8D6g	50	45	29	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂	土師器　弥生土器	Ⅴ	
019	SX	8D5e・6e・7e	(698)	(67)	13	不明	皿型	黄褐色（2.5Y5/3）細粒砂	製塩土器　常滑焼ほか	Ⅴ	
020	SK	8D7h	(81)	72	28	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）中粒砂	須恵器　山茶碗　常滑焼　近世陶器	Ⅵ	
021	―	8D5g・6g	―	―	―	―	―	―	無し	―	欠番　撹乱と判明
022	―	8D5g	―	―	―	―	―	―	無し	―	欠番　撹乱と判明
023	SP	8D6f	29	(19)	15	円形	U字型	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	製塩土器　山茶碗ほか	Ⅴ	
024	SP	8D6f	30	29	13	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	弥生土器ほか	不明	
025	SP	8D6f	44	33	22	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	山茶碗　土師器ほか	Ⅴ-2	
026	SP	8D6f	44	41	18	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	製塩土器　土師質土器　山茶碗ほか	Ⅴ-2	
027	SP	8D6g	41	36	12	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	須恵器ほか	Ⅳ-2	
028	SP	8D6g	46	(28)	17	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	須恵器ほか	Ⅳ-2	
029	SD	8D6f～6h	(764)	(49)	26	直線状	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	須恵器　土師器　山茶碗　土錘　製塩土器ほか	Ⅴ	
030	SD	8D6g・6h・6f・5g	(1502)	(63)	24	直線状	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	山茶碗　製塩土器　須恵器　近世陶器ほか	Ⅵ	
031	―	8D5g	―	―	―	―	―	―	無し	―	欠番　撹乱と判明
032	―	8D5g・6g	―	―	―	―	―	―	無し	―	欠番　撹乱と判明
033	―	8D5g・6g	―	―	―	―	―	―	無し	―	欠番　撹乱と判明
034	SX	8D5g・5h・6g・6h	386	136	14	不整形	皿型	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	山茶碗　近世陶器ほか	Ⅵ	
035	SP	8D6g	59	(49)	29	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	須恵器蓋　製塩土器ほか	Ⅳ-2	
036	―	8D6g	―	―	―	―	―	―	無し	―	欠番　撹乱と判明
037	SX	8D7d・7e・8d	(661)	(204)	14	不整形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	山茶碗　須恵器　土師器ほか	Ⅵ	
038	SP	8D7e	51	49	28	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	土師器　須恵器ほか	Ⅴ	
039	―	8D7e	―	―	―	―	―	―	無し	―	欠番　撹乱と判明
040	SD	8D8c～11b	(1658)	(106)	41	不整形状	碗形	第10図参照	山茶碗　常滑焼ほか	Ⅴ-2	

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
041	SP	8D7e	47	47	8	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	弥生土器	Ⅴ	
042	SP	8D7e	42	40	29	円形	U字型	灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂	山茶碗　常滑焼	Ⅴ-2	
043	SP	8D7e	40	37	17	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	無し	不明	
044	SK	8D11b	317	146	35	楕円形	碗形	第15図参照	山茶碗　常滑焼　平瓦ほか	Ⅴ-2	
045	SD	8D8d	（340）	74	21	直線状	碗形	オリーブ褐色（2.5Y4/3）細粒砂	山茶碗　須恵器	Ⅴ-2	
046	SK	8D7e・8e	（222）	（100）	23	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	山茶碗　土師器　常滑焼ほか	Ⅴ-3	
047	—	8D8d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
048	—	8D8d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
049	—	8D8d・9d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
050	—	8D9d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
051	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
052	—	8D8d・9d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
053	—	8D9d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
054	SK	8D10c・10d	138	（64）	17	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　土師器	Ⅳ-2	
055	SK	8D10c・10d	61	（22）	21	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
056	SK	8D9c・10c	92	（64）	20	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	無し	不明	
057	—	8D10c	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
058	SK	8D10c	59	（27）	14	方形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	弥生土器		
059	SP	8D10c	32	30	19	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し		
060	SD	8D10c	（228）	（44）	21	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　土師器　常滑焼	Ⅴ	
061	SD	8D10c	178	46	12	蛇行状	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	近世陶器　山茶碗　須恵器	Ⅵ	
062	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
063	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
064	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
065	SK	8D10c・11c	172	57	32	方形	碗形	黒褐色（2.5Y3/2）極細粒砂	近世陶器　山茶碗　平瓦ほか	Ⅵ	
066	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
067	SP	8D11c	29	（16）	11	円形	碗形	記録なし	無し	不明	
068	—	8D11c	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
069	SK	8D11c	53	（38）	8	円形	碗形	黒褐色（2.5Y3/2）極細粒砂	製塩土器ほか	Ⅳ-2	
070	SK	8D11b・11c	（75）	（50）	15	円形	碗形	黒褐色（10YR2/2）極細粒砂	無し	不明	
071	SK	8D12b・12c	（55）	（31）	11	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
072	SK	8D11b	59	（25）	17	円形	碗形	黒褐色（10YR2/2）極細粒砂	無し	不明	
073	SD	8D12b	（121）	53	9	長方形	皿型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	製塩土器　土師器	Ⅳ-2	
074	SK	8D11b・12b	（104）	（43）	12	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　土師器	Ⅳ-2	
075	SD	8D11b	（147）	58	19	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　土師器　山茶碗	Ⅴ	
076	SX	8D11b・11c	（219）	（59）	26	不明	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂	須恵器　須恵器　土師器	Ⅳ-2	
077	SK	8D11b・11c	50	49	9	円形	皿型	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	無し	不明	
078	—	8D11b	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
079	—	8D11b	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
080	—	8D11c	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
081	SD	8D7j	（97）	49	21	直線状	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	山茶碗　常滑焼　須恵器ほか	Ⅴ-2	

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
082	SP	8D7j	48	(20)	15	不明	碗形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	無し	不明	
083	SD	8D7i・8i・8ｊ・7ｊ	(105)	32	13	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	山茶碗　常滑焼　須恵器　土錘ほか	V-2	
084	SP	8D7i	40	37	8	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	無し	不明	
085	—	8D7i	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
086	—	8D6h	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
087	SK	8D6h	72	60	23	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	弥生土器	Ⅲ-2	
088	SP	8D7g	31	28	26	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	
089	SP	8D6g	35	33	26	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	弥生土器	不明	
090	SK	8D6e・7e	(269)	134	19	長方形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂	灰釉陶器　土師器	Ⅳ-2	
091	—	8D6e	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
092	—	8D6e	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
093	SP	8D6e	44	41	27	円形	U字型	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	製塩土器ほか	Ⅳ-2	
094	SP	8D5e・6e	46	44	12	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	
095	SP	8D7d	31	27	11	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
096	SK	8D6e・7e	(715)	(68)	28	長楕円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂	山茶碗　須恵器　常滑焼ほか	V-2	
097	SK	8D6f	148	107	22	楕円形	碗形	第17図参照	須恵器　土師器	Ⅳ-2	
098	SP	8D6f	48	42	15	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　土師器	Ⅳ-2	
099	SP	8D6f	25	24	18	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
100	SK	8D6g	92	71	9	方形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	弥生土器　鉄釘	不明	
101	SP	8D6g	41	39	17	円形	U字型	黄褐色（2.5Y5/3）中粒砂	無し	不明	
102	SP	8D6g	(53)	(17)	16	不明	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	製塩土器ほか	不明	
103	SP	8D7i	41	36	9	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	
104	SX	8D7e	127	32	28	直線状	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	近世陶器　山茶碗　常滑焼	Ⅵ	
105	SP	8D6e	47	37	25	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）中粒砂	弥生土器	不明	
106	—	8D10d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
107	SK	8D9c	(38)	(26)	24	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
108	SP	8D7i	48	42	12	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	弥生土器	不明	
109	SD	8D10c	(152)	28	15	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	製塩土器ほか	不明	
110	SD	8D6h～7j・8k	(2025)	(231)	31	直線状	碗形	第12図参照	山茶碗　常滑焼　土師器ほか	V-2	
111	—	8D10c	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
112	—	8D6h	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
113	SK	8D11b・12b	93	91	8	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	須恵器　土師器ほか	Ⅳ	
114	SP	8D10c	38	(19)	9	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	
115	SK	8D9d	(345)	(120)	31	楕円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂	近世陶器　山茶碗	Ⅵ	
116	SP	8D12b	(54)	(30)	10	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
117	SP	8D6e	53	44	29	円形	U字型	黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	須恵器　土師器　山茶碗ほか	V	
118	SP	8D6e	41	(33)	26	円形	U字型	黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂	須恵器　土師器ほか	Ⅳ-2	
119	SP	8D6f	44	39	18	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	須恵器　常滑焼	V	
120	SK	8D6j・7j	121	(62)	15	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
121	SP	8D6f	39	35	23	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	土師器　山茶碗ほか	V-2	
122	SP	8D6g	35	(31)	11	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	須恵器　土師器	V	

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
123	SP	8D6f	45	43	13	円形	碗形	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	山茶碗　弥生土器	V-2	
124	SP	8D6f	41	37	8	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
125	SK	8D8d・9d	336	121	16	長方形	皿型	第18図参照	山茶碗	V-2	
126	SP	8D6f	42	38	11	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗	V-2	
127	SK	8D6f	63	47	11	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
128	SP	8D6f	35	33	16	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
129	SK	8D6e	73	61	5	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	土師器　弥生土器	不明	
130	SD	8D6g・6h	(275)	50	21	直線状	碗形	第11図参照	古瀬戸　山茶碗ほか	V-3	
131	SD	8D5g～6h	(371)	39	23	直線状	碗形	第11図参照	古瀬戸　山茶碗ほか	V-3	
132	SP	8D6e	39	35	11	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	
133	SP	8D6e	37	32	12	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	
134	SP	8D6e	36	33	11	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
135	SP	8D6e	28	26	11	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	土師器　弥生土器	不明	
136	SP	8D6f	35	34	6	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器	Ⅳ-2	
137	SP	8D6f	52	40	10	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	弥生土器　須恵器	Ⅳ-2	
138	—		—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
139	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
140	—	8D5g	—	—	—	—	—	—	近世陶器　平瓦ほか	—	近代墓
141	—	8D5g	—	—	—	—	—	—	近世陶器　ほか	—	近代墓
142	SX	8D7e	277	83	8	蛇行状	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	土師器　製塩土器　山茶碗ほか	Ⅴ	
143	SK	8D5g・6g	(74)	53	12	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　山茶碗　近世陶器ほか	Ⅵ	
144	SK	8D6e	180	(65)	20	不明	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	灰釉陶器　須恵器	Ⅳ-3	
145	SP	8D8d	35	33	19	円形	U字型	黒褐色（2.5Y3/2）極細粒砂	無し	不明	
146	SK	8D9c	(194)	(48)	26	不明	碗形	第16図参照	弥生土器	Ⅲ-2	
147	SD	8D11b・11c	(251)	134	37	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　土師器　砥石	Ⅳ-2	
148	SP	8D7i	60	54	30	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
149	—	8D8d・9d	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
150	SK	8D7i	(101)	89	8	楕円形	碗形	第16図参照	弥生土器（パレス壺）	Ⅲ-2	
151	—	8D11c	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
152	—	8D11c	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
153	SX	8D6e・6f	(346)	(323)	17	不整形	碗形	第16図参照	弥生土器（パレス壺）ほか	Ⅲ-2	
154	SP	8D6f	41	38	21	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器	Ⅳ-2	
155	SP	8D6f	37	34	16	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
156	SP	8D6f・7f	42	35	12	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	弥生土器	不明	
157	SK	8D5g	221	58	3	長方形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	近世陶器	Ⅵ	
158	SK	8D5g・6g	(121)	(77)	24	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
159	SK	8D5g	(82)	(47)	17	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗　常滑焼	V-2	
160	SD	8D9n～11s	(2482)	(216)	42	直線状	碗形	第13図参照	山茶碗　常滑焼　土師器　青磁　丸瓦ほか	V-2	
161	—	8D9o・9p	—	—	—	—	—	—	土師器　山茶碗　近世陶器　平瓦ほか	—	欠番　撹乱と判明
162	SK	8D10o	100	96	20	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	塼	不明	
163	SX	8D9o	109	(57)	20	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	近世陶器　山茶碗　常滑焼　平瓦ほか	Ⅵ	

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
164	SX	8D9n	250	(95)	17	方形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	近世陶器　山茶碗　常滑焼　平瓦　キセルほか	Ⅵ	
165	SX	8D10n	103	(74)	9	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗	V-2	
166	SK	8D9o	64	56	25	円形	碗形	黒褐色（2.5Y3/2）極細粒砂	須恵器　山茶碗　近世陶器	Ⅵ	
167	SP	8D9o	46	40	14	円形	碗形	暗灰黄色（2.5Y4/2）極細粒砂	無し	不明	
168	SP	8D9o	52	46	16	円形	碗形	オリーブ褐色（2.5Y4/3）細粒砂	土師器　山茶碗　近世陶器	Ⅵ	
169	SK	8D9o・9n・10o・10n	(80)	(77)	22	円形	碗形	黄灰色（2.5Y4/1）細粒砂	無し	不明	
170	SD	8D10o～11s	(1703)	166	50	直線状	碗形	第14図参照	山茶碗　常滑焼　土師器ほか	V-2	
171	SK	8D10o	103	(97)	26	円形	碗形	黄灰色（2.5Y4/1）極細粒砂	近世陶器　山茶碗	Ⅵ	
172	SP	8D10p	57	56	11	円形	碗形	黒色（10YR2/1）極細粒砂	山茶碗	不明	
173	SP	8D10p	41	38	9	円形	碗形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	須恵器	不明	
174	SP	8D10p	41	(29)	15	円形	U字型	黒色（10YR2/1）極細粒砂	無し	不明	
175	—	8D9o	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
176	SP	8D10o	45	26	15	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	土師器	不明	
177	SK	8D8k・8l	115	77	36	長方形	碗形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	土師器　須恵器　近世陶器	Ⅵ	
178	SK	8D10p	(93)	(54)	14	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗　ほか	V-2	
179	SK	8D11p	49	(42)	7	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
180	SD	8D11q・11r・12r	(689)	(61)	23	直線状	碗形	第14図参照	山茶碗　常滑焼ほか	Ⅴ	
181	SP	8D8j	67	44	11	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
182	SP	8D8j	38	30	14	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
183	SK	8D8j	53	(42)	24	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	土師器	不明	
184	SP	8D8j	33	30	10	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
185	SP	8D8j	58	(52)	12	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	山茶碗	Ⅴ	
186	SP	8D8j	23	19	15	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
187	SK	8D8j	107	(73)	40	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	山茶碗　常滑焼	V-2	
188	SP	8D8k	61	53	14	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　山茶碗	V-2	
189	SK	8D8j・8k	125	53	15	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗	V-2	
190	SD	8D9n～10o	(693)	134	33	直線～蛇行状	碗形	第12図参照	山茶碗　常滑焼　土師器　平瓦ほか	V-2	
191	SP	8D7j	(54)	(21)	31	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗　常滑焼　灰釉陶器	V-2	
192	SK	8D7j・8j・8k	(208)	(57)	16	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗ほか	V-2	
193	SP	8D8j	54	40	20	楕円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器	不明	
194	SK	8D8k	(95)	89	20	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗　須恵器ほか	V-2	
195	SK	8D8k	115	(51)	9	不整形	皿型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
196	SP	8D8l	34	32	10	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
197	SK	8D8k	76	39	27	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	常滑焼	不明	
198	SK	8D8k	(85)	39	16	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗	不明	
199	SK	8D8k	(70)	67	29	方形	碗形	暗灰黄色（2.5Y4/2）極細粒砂	山茶碗　常滑焼ほか	不明	
200	SX	8D8k・8l	(240)	(94)	41	不明	碗形	図版8参照	無し	不明	
201	SP	8D8k	36	35	7	円形	皿型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	常滑焼	不明	
202	SD	8D7j・8j	(101)	38	10	直線状	碗形	黒褐色（10YR3/1）極細粒砂	土器土器	不明	
203	SK	8D8k	103	84	21	不整形	碗形	灰色（5Y5/1）中粒砂	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
204	SK	8D9o	109	99	14	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	近世陶器	Ⅵ	

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
205	—	8D11p	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
206	SK	8D11p	(79)	(40)	10	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	
207	—	8D10q	—	—	—	—	—		無し	—	欠番　撹乱と判明
208	SP	8D11r	36	30	12	円形	皿型	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
209	SK	8D11r	91	48	21	楕円形	碗形	オリーブ黒色（5Y3/1）シルト質粘土	製塩土器　常滑焼	V-2	
210	SD	8D10o～11s	(1564)	(93)	22	直線状	碗形	第14図参照	山茶碗　常滑焼　土師器　須恵器ほか	V-2	
211	SK	8D10q	62	(61)	21	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	山茶碗ほか	V-2	
212	SP	8D10q	35	30	16	円形	U字型	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	無し	不明	
213	SK	8D10o	(110)	(42)	19	不明	皿型	黒褐色（7.5YR3/2）細粒砂	山茶碗　土師器　須恵器ほか	不明	
214	SP	8D10o・10p	(63)	58	16	円形	碗形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	山茶碗　土師器　須恵器ほか	V-2	
215	SK	8D10p	82	62	13	円形	碗形	黒色（10YR2/1）極細粒砂	山茶碗　土師器　須恵器ほか	V-2	貝殻片含む
216	SP	8D10o	(38)	38	11	円形	碗形	黒色（10YR2/1）極細粒砂	無し	不明	
217	—	8D9p	—	—	—	—	—	—	近世陶器　須恵器ほか	—	欠番　撹乱と判明
218	SK	8D11r	(122)	(67)	22	楕円形	碗形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	山茶碗ほか	V-2	
219	—	8D11r	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
220	SD	8D7k・8k・8l	(548)	107	20	不明	碗形	第12図参照	近世陶器　山茶碗　常滑焼　須恵器ほか	Ⅵ	
221	—	8D8k	—	—	—	—	—	—	無し	—	欠番　撹乱と判明
222	SX	8D11r・11s	(96)	(96)	40	不明	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	160・230SDと連続する溝の一部か
223	SK	8D9n	(113)	(90)	13	円形	碗形	第19図参照	山茶碗　常滑焼羽釜　土師器　須恵器　丸瓦	V-2	
224	SP	8D12r	39	34	13	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器	Ⅳ	
225	SP	8D12r	(39)	(38)	36	不明	碗形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	古瀬戸　山茶碗　製塩土器ほか	不明	
226	SK	8D11r・11s	(169)	(69)	36	不明	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	弥生土器壺底部	不明	
227	SK	8D12r	(59)	(31)	21	不明	碗形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	山茶碗	V	
228	SK	8D11r・12r	(98)	(67)	15	不明	碗形	黒褐色（10YR3/2）極細粒砂	須恵器　土師器	Ⅳ-2	
229	SP	8D8k	41	38	23	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	無し	不明	
230	SD	8D9n～10p	(1182)	(92)	19	直線状	碗形	第13図参照	山茶碗　常滑焼　土師器ほか	V-2	
231	SP	8D8j	(57)	49	18	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	無し	不明	
232	SP	8D8k	46	37	11	円形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	無し	不明	
233	SX	8D8k	(300)	288	47	不明	碗形	第20図参照	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
234	SK	8D7j・8j	(87)	77	34	円形	碗形	褐灰色（10YR4/1）細粒砂	山茶碗ほか	V-2	
235	SX	8D7j	202	(139)	12	不整形	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
236	SK	8D9n	73	(55)	8	不明	皿型	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	山茶碗　常滑焼　平瓦ほか	V-2	
237	SK	8D11r・11s	(139)	(57)	21	不明	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	無し	不明	
238	SP	8D10o	(44)	40	10	不明	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	土師器　山茶碗	V-2	
239	SK	8D10o・10p・11p	217	(96)	(28)	円形	碗形	第21図参照	須恵器	Ⅳ-2	
240	SD	8D11r・11s	(286)	(148)	36	不明	碗形	にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂	無し	不明	160・230SDと連続する溝の一部か
241	SK	8D10o	(72)	48	9	不明	皿型	にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂	無し	不明	
242	SK	8D7j・8j	185	154	44	円形	碗形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	
243	SP	8D12r	(36)	(17)	25	不明	U字型	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	無し	不明	
244	SK	8D12r	40	(23)	9	不明	碗形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	無し	不明	
245	SK	8D11p・11q	(99)	(89)	32	円形	碗形	黒褐色（10YR3/2）中粒砂	山茶碗　常滑焼ほか	V-2	

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
246	SX	8D5e	—	—	24	—		黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（西区）西壁面にて観察
247	SX	8D5e	—	—	20	—		黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（西区）西壁面にて観察
248	SX	8D5g	—	—	48	—		暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	調査区（西区）西壁面にて観察
249	SX	8D6h・6i	—	—	28	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（西区）西壁面にて観察
250	SX	8D7i	—	—	21	—		灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	無し	不明	調査区（西区）西壁面にて観察
251	SX	8D7j	—	—	19	—		灰黄褐色（10YR4/2）極細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
252	SX	8D11q	—	—	22	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
253	SX	8D11q	—	—	14	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
254	SX	8D11q	—	—	22	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
255	SX	8D11q	—	—	27	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
256	SX	8D11q	—	—	28	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
257	SX	8D10o	—	—	22	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
258	SX	8D10o	—	—	21	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
259	SX	8D10h	—	—	15	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（東区）南壁面にて観察
260	SX	8D7j	—	—	22	—		暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	調査区（中区）東壁面にて観察
261	SX	8D7j	—	—	19	—		黒褐色（10YR3/2）細粒砂	無し	不明	調査区（中区）東壁面にて観察
262	SX	8D9n	—	—	35	—		灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	無し	不明	調査区（西区）西壁面にて観察

東畑遺跡（３地点）遺構一覧表

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
001	SD	1E11n・12n	(529)	46	25	直線状	U字状	図版11参照	弥生土器	Ⅵ	Ⅲ層上面遺構
002	SD	1E12m・12n	(355)	70	22	直線状	碗形	第22図参照	弥生土器　美濃瀬戸ほか	Ⅴ-3	Ⅲ層上面遺構
003	SD	1E11m・11n・12m・12n	(358)	173	46	直線状	碗形	第22図参照	弥生土器ほか	Ⅴ	Ⅲ層上面遺構
004	SP	1E12n	44	38	20	円形	U字状	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅴ	Ⅲ層上面遺構
005	SP	1E12m	33	30	16	円形	U字状	黒褐色（7.5YR3/2）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅴ	Ⅲ層上面遺構
006	SX	1E11m・11n	171	(109)	13	不明	皿形	図版11参照	弥生土器ほか	Ⅴ	Ⅲ層上面遺構
007	SP	1E12n	53	(28)	15	円形	碗形	黒褐色（10YR3/1）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅴ	Ⅲ層上面遺構
008	SK	1E12n	(39)	(19)	21	不明	不明	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	無し	Ⅴ	Ⅲ層上面遺構
009	SD	1E11n	(243)	(77)	20	不明	不明	灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅱ	
010	SK	1E12m・12n	(76)	65	24	不明	碗形	黒色（10YR2/1）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅱ	
011	SK	1E12n	(42)	(27)	19	不明	碗形	黒色（10YR2/1）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅱ	
012	SK	1E12n	(33)	54	14	不明	碗形	暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂	無し	不明	
013	SK	1E12n	(49)	(29)	15	不明	碗形	暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂	無し	不明	
014	SP	1E11n	65	55	44	円形	U字状	オリーブ褐色（2.5Y4/3）細粒砂	弥生土器　山茶碗（東濃型）ほか	Ⅴ-3	
015	SD	1E11n	(85)	29	8	直線状	碗形	オリーブ褐色（2.5Y4/3）細粒砂	無し	不明	
016	SX	1E11m・11n	(110)	(89)	16	不明	碗形	図版11参照	弥生土器ほか	Ⅱ	
017	SX	1E12n	(89)	64	21	不明	碗形	図版11参照	弥生土器ほか	Ⅱ	
018	SK	1E12m	(67)	(45)	20	不明	碗形	図版11参照	弥生土器ほか	Ⅱ	
019	SD	1E12m・12n	(40)	38	31	不明	碗形	暗褐色（7.5YR3/3）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅱ	
020	SK	1E12n	(59)	(54)	17	不明	碗形	図版11参照	弥生土器ほか	Ⅱ	
021	SK	1E12n	(66)	(26)	13	不明	碗形	図版11参照	弥生土器ほか	Ⅱ	
022	SK	1E12m	(68)	(38)	20	不明	碗形	図版11参照	無し	Ⅱ	
023	SK	1E12n	(59)	(44)	15	不明	碗形	黒褐色（2.5Y3/2）細粒砂	弥生土器ほか	Ⅱ	
024	SK	1E12n	(45)	(45)	17	不明	碗形	図版11参照	弥生土器ほか	Ⅱ	
025	SK	1E11n	(65)	(26)	14	不明	碗形	オリーブ褐色（2.5Y4/3）細粒砂	無し	Ⅱ	
026	SD	1E11m・11n	(205)	38	13	不明	碗形	図版11参照	無し	Ⅱ	
027	SK	1E12n	(80)	(40)	19	不明	碗形	図版11参照	無し	Ⅱ	
028	SX	1E12m	—	—	—	—	—	—	弥生土器ほか	Ⅱ	複数遺構に寸断され切れ端状に残るのみ
029	SP	1E11n	19	18	9	円形	碗形	暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂	無し	不明	
030	SX	1E12m	—	—	26	—	碗形	図版11参照	無し	不明	西壁断面観察のみ
031	SX	1E12m	—	—	27	—	碗形	図版11参照	無し	不明	西壁・南壁断面観察のみ
032	SX	1E12m	—	—	20	—	碗形	図版11参照	無し	不明	西壁・南壁断面観察のみ
033	SX	1E12n	—	—	20	—	碗形	図版11参照	無し	不明	南壁断面観察のみ
034	SX	1E11m	—	—	17	—	碗形	図版11参照	無し	不明	西壁断面観察のみ
035	SX	1E11m	—	—	18	—	碗形	図版11参照	無し	不明	西壁断面観察のみ
036	SX	1E12m・12n	—	—	27	—	碗形	図版11参照	無し	不明	南壁断面観察のみ
037	SX	1E12m	—	—	20	—	碗形	図版11参照	無し	不明	西壁断面観察のみ

遺物一覧表

・遺物一覧表凡例

口縁等の残存率は円形ゲージを用い計測し 12 分割で記した。
残存率は径計測の基準とした部位であり、底部や脚部の場合は明示している。
器高のうち（　）で記したものは残存部分の数値である。
色調は全体的に主たるものを記し、内外面および断面で著しく異なる場合のみ別に記した。
時期は下記の本遺跡の時期区分で記した。

時期区分表

時期		時代・土器型式
Ⅰ	1	縄文時代晩期以前
	2	縄文時代晩期末～弥生時代初頭
	3	弥生時代前期（樫王式期～水神平式期）
Ⅱ	1	弥生時代中期前半（岩滑式期）
	2	弥生時代中期後半（貝田町式・瓜郷式期～凹線紋系・古井式期）
Ⅲ	1	弥生時代後期（八王子古宮式期～山中式期）
	2	弥生時代終末期～古墳時代前期（廻間式期～松河戸Ⅰ式期）
	3	古墳時代中期（松河戸Ⅱ式期～宇田式期）
Ⅳ	1	古墳時代後期～終末期（東山10号窯式期～東山44号窯式期）
	2	奈良時代（東山50号窯式期～黒笹14号窯式期）
	3	平安時代前期（黒笹90号窯式期～東山72号窯式期）
Ⅴ	1	平安時代後期（山茶碗第２～４型式期）
	2	鎌倉時代（山茶碗第５～８型式期・常滑窯３～６ｂ型式期）
	3	室町時代（山茶碗第９型式期～瀬戸大窯式期）
Ⅵ		江戸時代

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
1	石器	有茎石鏃	3	003SD	12/12	長：3.5	幅：1.4	厚：0.6		―	―	Ⅲ	石材＝下呂石　重さ2.44g
2	土製品	土錘	2	L2・L3	12/12	長：3.7	幅：0.9	厚：0.9	外面―指ナデ	砂粒を含む	7.5YR6/4にぶい橙	Ⅲ～Ⅳ	孔径0.4cm　重さ2.90g
3	土製品	土錘	2	L3	11/12	長：3.4	幅：1.4	厚：1.2	外面―指ナデ	砂粒を含む	5YR8/1 灰白	Ⅲ～Ⅳ	孔径：0.3cm　重さ5.07
4	土製品	土錘	2	L1・L2	11/12	長：3.9	幅：1.4	厚：1.3	外面―指ナデ	砂粒を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	Ⅲ～Ⅳ	孔径0.4cm　重さ6.78g
5	土製品	土錘	2	L3	11/12	長：6.1	幅：2.4	厚：2.3	外面―指ナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅲ～Ⅳ	孔径0.6cm　重さ28.55g
6	土製品	土錘	2	L2・L3	8/12	長：9.5	幅：3.8	厚：3.7	外面―指ナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y6/3 にぶい黄	Ⅲ～Ⅳ	孔径1.5cm　重さ109.38g
7	土製品	土錘	2	L2・L3	10/12	長：8.2	幅：3.1	厚：3.0	外面―指ナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y7/3 浅黄	Ⅲ～Ⅳ	孔径1.5cm　重さ59.02g
8	土製品	土錘	2	L3	11/12	長：3.3	幅：3.4	厚：3.4	外面―指ナデ	砂粒を含む	2.5Y6/2 灰黄	Ⅲ～Ⅳ	孔径0.5cm　重さ34.97g
9	土製品	陶丸	2	L2・L3	12/12	長：2.1	幅：2.0	厚：2.2	外面―指ナデ	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	Ⅴ	十字の線刻あり　重さ9.5g
10	土製品	陶丸	3	L1・L2	7/12	長：2.3	幅：2.1	厚：1.3	外面―指ナデ	砂粒を含む	10YR6/6 明黄褐	Ⅴ	重さ7.41g
11	土製品	加工円盤	1	L1・L2	12/12	長：5.4	幅：5.1	厚：0.5	内外面―ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	Ⅴ	素材＝天目茶碗　重さ21.3g
12	土製品	加工円盤	2	L2・L3	12/12	長：5.5	幅：5.1	厚：1.2	内外面―ナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅴ	素材＝常滑焼　重さ41.15g
13	土製品	加工円盤	2	L1・L2	12/12	長：3.3	幅：3.0	厚：1.3	内外面―ナデ	砂粒・礫を含む	5YR5/6明赤褐	Ⅴ	素材＝常滑焼　重さ16.42g
14	土製品	不明	2	L3	1/12	―	(1.5)	―	内面―ナデ 外面―ナデ、指オサエ	砂粒を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	不明	甕などの突帯部か
15	石製品	砥石	2	162SK	残存状況：半欠	長6.5	幅：4.4	厚：0.8		―	―	Ⅴ	石材＝泥岩　重さ39.39g
16	弥生土器	甕	2	L2・L3	1/12	―	(4.5)	―	内面―ナデ 外面―条痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/4 浅黄	Ⅰ-2	
17	弥生土器	甕	2	008SD	1/12	―	(3.5)	―	内面―ナデ 外面―条痕	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅰ-2	
18	弥生土器	甕	2	153SX	1/12	―	(2.5)	―	内面―ナデ　口縁端部沈線 外面―条痕	砂粒を含む	10YR5/4 にぶい黄褐	Ⅰ-2	
19	弥生土器	甕	2	L2・L3	1/12		(5.0)	―	内面―ナデ 外面―条痕	砂粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	Ⅰ-2	
20	弥生土器	甕	2	L2・L3	底4/12	―	(4.4)	―	内面―ナデ、指オサエ 外面―ナデ、指オサエ、条痕	砂粒・礫を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	Ⅰ-2	尖底
21	弥生土器	甕	2	L2・L3	底2/12	―	(5.9)	―	内面―指オサエ 外面―条痕	砂粒・礫を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	Ⅰ-2	尖底
22	弥生土器	甕	3	003SD	1/12	―	(4.0)	―	内面―ハケ、口縁部刺突文（貝） 外面―条痕（貝）	砂粒・礫を含む	2.5Y5/2 暗灰黄	Ⅱ-2	
23	弥生土器	甕	3	L2	1/12	―	(4.3)	―	内面―ナデ、口縁部刺突文 外面―条痕	砂粒・礫を含む	7.5YR5/4 にぶい褐 断―2.5Y4/3 オリーブ褐	Ⅱ-2	
24	弥生土器	甕	3	L2	1/12	―	(2.6)	―	内面―ナデ、口縁部刺突文 外面―条痕	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙 断―2.5Y4/2 暗灰黄	Ⅱ-2	

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
25	弥生土器	甕	3	021SK	1/12	—	(3.5)	—	内面—ナデ、口縁部クシ描波状文 外面—ナデ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	内—10YR6/4 にぶい黄橙 外—7.5YR6/6 橙	Ⅱ-2	
26	弥生土器	甕	2	L3	1/12	14.8	(7.1)	—	内面—ハケ、ナデ 外面—ハケ、ナデ	砂粒を含む	10YR5/2 灰黄褐	Ⅱ-2	
27	弥生土器	甕	2	L2・L3	底5/12	—	(2.7)	5.2	内面—指ナデ 外面—条痕	砂粒を含む	内—2.5Y5/1 黄灰 外—2.5Y3/1 黒褐	Ⅱ-2	底部摩耗
28	弥生土器	壺	3	L2	頸4/12	—	(10.3)	—	内面—指ナデ、板ナデ、輪積痕 外面—ヨコミガキ、ヘラ描文	砂粒・礫を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	Ⅱ-2	
29	弥生土器	鉢	3	003SD	1/12	(27.6)	(3.1)	—	内面—ナデ、口縁部縦位直線文 外面—ナデ	砂粒・礫を含む	10YR5/2 灰黄褐	Ⅱ-2	
30	弥生土器	壺	1	005SD	肩2/12	—	(6.7)	—	内面—指ナデ、指オサエ、輪積痕 外面—ハケ、板ナデ	砂粒・礫を含む	7.5YR6/6 橙 断—10YR8/3 浅黄橙	Ⅲ-1	円窓壺
31	弥生土器	壺	2	L2・L3	胴2/12	—	(6.0)	—	内面—ケズリ 外面—ハケ、ミガキ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅲ-1	外面赤彩円紋
32	弥生土器	高杯	2	L2・L3	1/12	27.6	(3.3)	—	内面—摩耗のため調整不明 外面—ミガキ、波状文	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅲ-2	
33	弥生土器	高杯	1	005SD	脚6/12	—	(5.0)	—	内面—絞り痕 外面—直線文	砂粒・礫を含む	内—10YR8/2 灰白 外—10YR4/1 褐灰	Ⅲ-2	
34	弥生土器	高杯	3	003SD	脚5/12	—	(4.8)	—	内面—指ナデ 外面—タテミガキ	砂粒・礫を含む	5YR5/8 明赤褐	Ⅲ-2	透孔3方向
35	弥生土器	甕	1	002SK	2/12	20.1	(8.1)	—	内面—板ナデ 外面—ハケ	砂粒・礫を含む	10YR6/2 灰黄褐 断—5YR6/6 橙		
36	弥生土器	甕	2	153SX	底6/12	—	(7.0)	8.6	内面—板ナデ 外面—指ナデ、ハケ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	Ⅲ	
37	弥生土器	甕	2	撹乱	脚11/12	—	(3.9)	7.3	内面—指オサエ、ナデ 外面—ハケ、ナデ	砂粒・礫を含む	5YR6/6 橙	Ⅲ-2	
38	弥生土器	壺	2	110SD上層	1/12	20.6	(3.5)	—	内面—ナデ、口縁部クシ刺突羽状文 外面—ナデ、擬凹線文	砂粒・礫を含む	2.5Y8/3 淡黄	Ⅲ-2	パレス壺
39	弥生土器	壺	2	153SX	底部12/12	—	(23.6)	5.7	内面—ハケ、ケズリ、指オサエ、輪積痕 外面—ハケのちミガキ、ケズリ、直線文、刺突文（貝）	砂粒・礫を含む	内—2.5Y3/1 黒褐 外—7.5YR7/6 橙	Ⅲ-2	パレス壺　外面赤彩
40	弥生土器	壺	2	150SK	口：7/12 底：9/12	15.9	(9.4)	—	内面—口縁部羽状文、胴部は磨滅のため不明 外面—凹線文、直線文、刺突文	砂粒を含まない	2.5Y8/2 灰白	Ⅲ-2	パレス壺　外面赤彩
41	弥生土器	壺	2	010SK	口7/12 底12/12	9.2	24.1	3.5	内面—ナデ、絞り痕、指オサエ、ミガキ、輪積痕 外面—ミガキ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅲ-2	ひさご壺
42	弥生土器	壺	2	146SK	口7/12 底9/12	12.8	25.5	6.8	内面—板ナデ、指ナデ、絞り痕、指オサエ、ヨコナデ 外面—ハケ、ミガキ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅲ-2	
43	土師器	甕	2	210SD	3/12	18	(6.9)	—	内面—板ナデ、ハケ、接合痕 外面—ハケ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	5YR6/4 にぶい橙 断—2.5YR6/8 橙	Ⅳ-2	
44	土師器	甕	2	L3	1/12	22.8	(2.4)	—	内面—ハケ、板ナデ、接合痕 外面—ハケ、ナデ	砂粒・礫を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	Ⅳ-2	
45	土師器	甕	2	L3	2/12	20.3	(2.3)	—	内面—指オサエ、ハケ 外面—ヨコナデ、指オサエ、ハケ	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	
46	土師器	甕	2	撹乱	底5/12	—	(6.5)	5.7	内面—板ナデ、指オサエ 外面—磨滅のため不明	砂粒・礫を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	Ⅳ-2	底部十字の線刻か
47	土師器	甕	2	226SP	底12/12	—	(2.1)	3.9	内面—指オサエ、板ナデ 外面—ハケ	砂粒・礫を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	Ⅳ-2	底部木葉痕
48	土師器	甕	1	L1・L2	底12/12	—	(9.1)	7.4	内面—ナデ 外面—ハケ、ナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	底部木葉痕

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
49	土師器	甕	3	021SK	4/12	19.4	(4.3)	—	内面—板ナデ、ハケ、ヨコナデ 外面—ハケ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	
50	土師器	甕	2	撹乱	1/12	18.2	(5.2)	—	内面—板ナデ、ハケ 外面—ハケ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	Ⅳ-2	
51	土師器	甕	2	076SX	2/12	23	(5.6)	—	内面—板ナデ、ヨコハケ、指オサエ、ヨコナデ 外面—ハケ、ヨコナデ、指オサエ	砂粒・礫を含む	10YR8/2 灰白	Ⅳ-2	
52	土師器	甕	2	L2・L3	1/12	16	(4.1)	—	内面—板ナデ 外面—ハケ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-3	
53	土師器	甕	2	L2・L3	1/12	19.8	(4.9)	—	内面—板ナデ 外面—ナデ、指オサエ	砂粒・礫を含む	内—2.5Y5/2 暗灰黄 外—2.5Y4/1 黄灰	Ⅳ-2	
54	土師器	甕	1	L1・L2	1/12	—	(5.6)	—	内面—板ナデ、ヨコハケ、ヨコナデ 外面—タテハケ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y6/3 にぶい黄	Ⅳ-2	
55	土師器	甕	1	L1・L2	1/12	—	(7.0)	—	内面—ナデ、ヨコハケ 外面—タテハケ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	Ⅳ-2	
56	—	製塩土器	3	003SD	残存部位：脚上部	長：4.4	—	—	内面—板ナデ 外面—指ナデ	砂粒・礫を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	Ⅳ-3	付け根径2.8cm　4C類
57	—	製塩土器	1	L1・L2	残存部位：脚上部	長：5/5	—	—	内面—板ナデ 外面—指オサエ、指ナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-3	付け根径2.5cm　3A類
58	—	製塩土器	2	L3	残存部位：脚上部	長4.4	—	—	外面—指ナデ	砂粒・礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	付け根径2.2cm　4A類
59	—	製塩土器	2	撹乱	残存部位：脚上部	長6.1	—	—	内面—板ナデ 外面—指ナデ	砂粒を含む	5YR6/6 橙	Ⅳ-2	付け根径2.2cm　4A類
60	—	製塩土器	2	L2・L3	残存部位：脚上部	長5.1	—	—	内面—板ナデ 外面—指ナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	付け根径2.0cm　4A類
61	—	製塩土器	2	L1	残存部位：脚上部	長4.1	—	—	内面—板ナデ 外面—指ナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	付け根径1.8cm　4A類
62	—	製塩土器	2	L1・L2	残存部位：脚上部	長8.2	—	—	内面—板ナデ 外面—指ナデ	砂粒を含む	2.5Y7/3 浅黄	Ⅳ-2	付け根径1.6cm　4A類
63	—	製塩土器	2	撹乱	残存部位：脚中程	長5.8	—	—	外面—指オサエ、指ナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	3類
64	—	製塩土器	2	233SX	残存部位：脚上部	—	—	—	内面—板ナデ 外面—指オサエ、指ナデ	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	Ⅳ-2	付け根径1.85cm　3類
65	—	製塩土器	2	L3	残存部位：脚上部	長7.1	—	—	内面—板ナデ 外面—指オサエ、指ナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	Ⅳ-2	付け根径1.8cm　3類
66	—	製塩土器	2	撹乱	残存部位：脚下端	長6.4	—	—	外面—指ナデ	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄	Ⅳ-2	4A類
67	—	製塩土器	2	010SK	残存部位：脚中程	長4.2	—	—	外面—指ナデ	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	Ⅳ-2	4A類
68	須恵器	杯H蓋	1	L3	1/12	11.8	(2.8)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	5Y6/1 灰	Ⅳ-1	
69	須恵器	杯H蓋	1	035SD	2/12	9.7	2.9	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	Ⅳ-2	
70	須恵器	杯H蓋	1	L1・L2	3/12	10.2	(2.4)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	5Y5/1 灰	Ⅳ-2	
71	須恵器	杯H身	1	L1・L2	2/12	7.6	(2.6)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	5Y6/1 灰	Ⅳ-2	受け部径9.4cm
72	須恵器	杯H身	1	L1・L2	1/12	9	(2.3)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	5Y4/2 灰オリーブ	Ⅳ-2	受け部径11.0cm

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
73	須恵器	杯	2	239SK	1/12	12.8	(3.1)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	7.5Y6/1 灰 断—2.5Y8/2 灰白	Ⅳ-2	
74	須恵器	有台杯	2	239SK	底3/12	—	(1.4)	9.1	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒・礫を含む	N7/ 灰白 断—N4/ 灰	Ⅳ-2	
75	須恵器	蓋	2	239SK	2/12	14.9	(2.2)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	10R4/3赤褐	Ⅳ-2	
76	須恵器	蓋	2	239SK	1/12	14.9	(1.4)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	7.5Y5/1 灰	Ⅳ-2	
77	須恵器	壺	2	239SK	1/12	—	(1.9)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄	Ⅳ-2	
78	須恵器	有台杯	2	L1・L2	2/12	13.5	3,7	9	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	N5/ 灰 断—5Y8/1 灰白	Ⅳ-2	焼成不良
79	須恵器	有台杯	2	L2・L3	2/12	14.2	4.0	9.9	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、貼付高台	砂粒・礫を含む	内—7.5YR7/4 にぶい橙 外—5Y5/1 灰	Ⅳ-2	
80	須恵器	有台杯	2	160SD	2/12	17.1	3.6	13.5	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒・礫を含む	N6/ 灰 断—2.5Y7/1 灰白	Ⅳ-2	
81	須恵器	有台杯	2	154SP	底2/12	—	(2.0)	13.1	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、貼付高台、ナデ	砂粒・礫を含む	内—2.5Y7/1 灰白 外—N5/ 灰	Ⅳ-2	
82	須恵器	有台杯	2	110SD	底2/12	—	(2.1)	11.2	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	内—7.5YR6/4 にぶい橙 外—10YR5/1 褐灰	Ⅳ-2	
83	須恵器	有台杯	2	190SD	底1/12	—	(2.2)	10.6	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、貼付高台、ナデ	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	Ⅳ-2	
84	須恵器	有台杯	1	L1・L2	底2/12	—	(1.3)	9.7	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	N5/ 灰	Ⅳ-2	
85	須恵器	有台杯	1	L1・L2	底1/12	—	(1.3)	11.2	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	Ⅳ-2	
86	須恵器	有台杯	1	L1・L2	底2/12	—	(1.6)	14.2	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y6/2 灰黄	Ⅳ-2	
87	須恵器	有台杯	2	160SD	底6/12	—	(1.6)	8.3	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒・礫を含む	7.5Y7/1 灰白	Ⅳ-2	
88	須恵器	有台杯	2	L1・L2	5/12	9.9	5.0	6.6	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ、ナデ、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y6/2 灰黄 断—10YR8/3 浅黄橙	Ⅳ-2	
89	須恵器	無台杯	2	137SP	3/12	13.1	4.0	6.7	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	Ⅳ-2	
90	須恵器	無台杯	2	223SK	5/12	10.4	4.0	1.3	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y5/1 黄灰 断—7.5Y6/1 灰	Ⅳ-2	底部外面ヘラ記号
91	須恵器	無台杯	2	044SK	9/12	9.9	4.3	7.1	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒を含む	内— 10R5/2 灰赤 外—5Y5/1 灰	Ⅳ-2	底部外面ヘラ記号
92	須恵器	碗	2	160SD	底12/12	—	(1.4)	7	内面—ロクロナデ 外面—回転糸切り痕	砂粒を含む	10Y6/1 灰 断—N7/ 灰白	Ⅳ-2	
93	須恵器	碗	2	233SX	1/12	12.3	(5.5)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒を含む	内—2.5Y8/1 灰白 外—N6/ 灰	Ⅳ-2	
94	須恵器	鉢	1	L1・L2	1/12	13.3	(6.4)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒を含む	5Y5/1 灰	Ⅳ-2	
95	須恵器	双耳碗	2	230SD	2/12	12.5	3.9	5.8	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y5/1 黄灰 断—2.5YR4/2 灰赤	Ⅳ-2	
96	須恵器	盤	2	L2・L3	2/12	13.4	2.0	7.1	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	N4/ 灰 断—2.5Y7/1 灰白	Ⅳ-2	

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
97	須恵器	蓋	1	L1・L2	1/12	17.3	(1.7)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒・礫を含む	5Y5/1 灰	Ⅳ-2	
98	須恵器	摘み蓋	2	110SD	2/12	—	(3.0)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ、摘み貼付	砂粒を含む	10YR8/2 灰白	Ⅳ-2	摘み径2.1cm
99	須恵器	摘み蓋	2	210SD	摘み3/12	—	(1.8)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、摘み貼付	砂粒・礫を含む	内—5YR5/4 にぶい赤褐 外—N8/灰白	Ⅳ-2	摘み径2.4cm
100	須恵器	摘み蓋	2	233SX	摘み12/12	—	(1.5)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ナデ、摘み貼付	砂粒を含む	N6/ 灰	Ⅳ-2	摘み径2.1cm
101	須恵器	摘み蓋	2	233SX	摘み11/12	—	(2.1)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ、摘み貼付	砂粒を含む	2.5Y6/1黄灰 断—5YR5/2 灰褐	Ⅳ-2	摘み径4.1cm
102	須恵器	摘み蓋	2	L3	3/12	20.5	3.9	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ、摘み貼付	砂粒・礫を含む	N6/ 灰 断—7.5Y8/1 灰白	Ⅳ-2	摘み径3.1cm
103	須恵器	蓋	2	076SK	1/12	18.7	(2.0)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒を含む	5YR6/4 にぶい橙	Ⅳ-2	
104	須恵器	摘み蓋	2	097SK	3/12	17.4	(2.2)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒を含む	内—7.5YR7/3 にぶい橙 外—10YR6/2 灰黄褐	Ⅳ-2	
105	須恵器	蓋	2	020SK	3/12	16	(2.2)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒・礫を含む	N7/ 灰白	Ⅳ-2	
106	須恵器	蓋	2	170SD	1/12	16.8	(1.6)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ、ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	Ⅳ-2	
107	須恵器	蓋	1	L1・L2	1/12	20	(2.2)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	Ⅳ-2	
108	須恵器	高杯	1	L1・L2	3/12	14.0	(3.2)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒・礫を含む	5Y6/1 灰	Ⅳ-2	
109	須恵器	高杯	2	223SK	胴4/12	—	(2.6)	—	内面—ロクロナデ 外面—回転ヘラケズリ	砂粒・礫を含む	内—N6/ 灰 外—7.5Y5/1 灰	Ⅳ-2	
110	須恵器	高杯	2	L3	底1/12	—	(9.3)	10.8	内面—絞り痕、ロクロナデ 外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	N7/ 灰白	Ⅳ-2	
111	須恵器	高杯	1	L1・L2	杯～脚5/12	—	(7.2)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	5Y6/1 灰	Ⅳ-2	
112	須恵器	鉢	2	190SD	1/12	18.5	(7.1)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	N6/ 灰 断—7.5Y8/1 灰白	Ⅳ-2	
113	須恵器	壺	2	L1・L2	1/12	9.9	(3.9)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	N7/ 灰白 断—2.5Y6/1 黄灰	Ⅳ	
114	須恵器	壺	3	001SD	1/12	10.9	(3.7)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y6/2 灰黄	Ⅳ	
115	須恵器	大甕	2	L2・L3	1/12	—	(6.1)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、沈線、刺突文	砂粒を含む	2.5Y6/1 黄灰	Ⅳ	
116	須恵器	甕	1	L1・L2	1/12	—	(4.1)	—	内面—ナデ 外面—ナデ、波状文	砂粒を含む	5Y6/1 灰	Ⅳ	
117	須恵器	陶臼	2	L3	胴3/12	—	(1.9)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	5Y4/1 灰	Ⅳ-2	
118	須恵器	瓶	2	002SD	胴～底4/12	—	(3.6)	3.7	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	2.5Y6/1 黄灰	Ⅳ-1	二次加工あり
119	須恵器	把手	2	223SK	—	—	(7.0)	—	外面—指オサエ	砂粒を含む	5Y8/1 灰白	Ⅳ	
120	須恵器	甑	1	002SK	4/12	31	(12.9)	—	内面—ロクロナデ、板ナデ 外面—ロクロナデ、タタキ、ナデ、沈線、把手貼付	砂粒・礫を含む	2.5Y7/3浅黄	Ⅳ	

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
121	灰釉陶器	碗	2	040SD	1/12	13.3	(3.5)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅳ-2～3	
122	灰釉陶器	碗	2	040SD	1/12	—	(4.0)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅳ-2～3	輪花碗
123	灰釉陶器	碗	1	032SK	1/12	—	(2.0)	—	内外面—ロクロナデ	礫を含む	2.5Y6/3 にぶい黄	Ⅳ-2～3	
124	灰釉陶器	碗	2	L3	2/12	18.8	(4.5)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	Ⅳ-3	
125	灰釉陶器	碗	2	090SK	1/12	—	(2.2)	7	内面—ロクロナデ 外面—ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅳ-3	
126	灰釉陶器	碗	2	L3	底2/12	—	(2.3)	7	内面—ロクロナデ 外面—ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	N8/ 灰白	Ⅳ-3	
127	灰釉陶器	碗	2	040SD	底1/12	—	(1.8)	8.1	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅳ-3	
128	灰釉陶器	碗	2	144SK	底3/12	—	(1.7)	7.1	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、ヘラケズリ、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	Ⅳ-3	
129	灰釉陶器	碗	2	110SD	底3/12	—	(2.6)	8.6	内面—ロクロナデ 外面—ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅳ-3	
130	灰釉陶器	碗	2	191SP	底1/12	—	(2.5)	8	内面—ロクロナデ 外面—ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅳ-3	
131	灰釉陶器	皿	1	L1・L2	底2/12	—	(2.2)	8	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	内—2.5Y8/1 灰白 外—2.5Y7/2 灰黄	Ⅳ-2～3	
132	灰釉陶器	皿	2	L3	底2/12	—	(2.6)	7.7	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ、ナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅳ-3	段皿
133	山茶碗	碗	2	044SK	3/12	12.4	(4.6)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	Ⅴ-2	
134	山茶碗	碗	2	044SK	3/12	14.2	5.2	5.2	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	Ⅴ-2	籾殻痕
135	山茶碗	碗	2	044SK	底4/12	—	(2.4)	5.9	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰白	Ⅴ-2	籾殻痕
136	山茶碗	皿	2	044SK	4/12	8	1.4	4.9	内面—ロクロナデ、指圧痕 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	Ⅴ-2	
137	山茶碗	皿	2	044SK	6/12	8.6	1.9	5.3	内面—ロクロナデ、指圧痕 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅴ-2	
138	山茶碗	皿	2	044SK	11/12	9.1	1.8	6.0	内面—ロクロナデ、指圧痕 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/2 灰白	Ⅴ-2	
139	山茶碗	皿	2	044SK	5/12	9	2.6	5.1	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	Ⅴ-2	
140	山茶碗	片口鉢	2	044SK	1/12	—	(5.0)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、指ナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	Ⅴ-2	
141	山茶碗	鉢	2	044SK	1/12	34	(6.5)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	Ⅴ-2	
142	山茶碗	鉢	2	044SK	底2/12	—	(6.6)	12.2	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	Ⅴ-2	
143	常滑	鉢	2	044SK	2/12	29.3	(5.8)	—	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ、板ナデ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y5/1 黄灰	Ⅴ-2	
144	常滑	鉢	2	044SK	1/12	30	(5.2)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒を含む	5YR5/3 にぶい赤褐 断—N7/ 灰白	Ⅴ-2	

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
145	常滑	甕	2	044SK	1/12	—	(4.8)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	5Y6/1 灰 断—10YR8/4 浅黄橙	V-2	
146	常滑	甕	2	044SK	底2/12	—	(5.6)	12.5	内外面—板ナデ	砂粒・礫を含む	7.5YR6/4 にぶい橙	V-2	
147	古瀬戸	壺	2	044SK	底4/12	—	(8.0)	10	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
148	土製品	加工円盤	2	044SK	12/12	長：3.3	幅：4.0	厚：1.2	内面—指圧痕 外面—ナデ	砂粒を含む	7.5YR5/2 灰褐 断—5YR7/6 橙	V-2	素材＝常滑焼　重さ19.47g
149	土製品	加工円盤	2	044SK	12/12	長：5.3	幅：5.5	厚：0.7	内面—ロクロナデ 外面—回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	5YR7/6 橙	V-2	素材＝土師器皿　重さ22.53g
150	山茶碗	碗	2	190SD	1/12	17	(4.8)	—	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	
151	山茶碗	碗	2	190SD	底3/12	—	(2.5)	8.1	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台、板状圧痕	砂粒を含む	5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
152	山茶碗	碗	2	110SD	底3/12	—	(1.7)	7.6	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5YR8/1 灰白	V-2	籾殻痕
153	山茶碗	碗	2	110SD	底5/12	—	(2.8)	8.6	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
154	山茶碗	碗	2	110SD	底4/12	—	(2.8)	7.2	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
155	山茶碗	碗	2	110SD	底12/12	—	(4.4)	7.5	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
156	山茶碗	皿	2	190SD	10/12	7.1	1.8	3.8	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
157	山茶碗	皿	2	110SD	6/12	7.3	1.6	4.9	内面—ロクロナデ、指圧痕 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
158	山茶碗	皿	2	110SD	11/12	7.9	1.6	4.9	内面—ロクロナデ、指圧痕 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
159	土師器	皿	2	190SD	10/12	8.4	1.6	4.9	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ 、回転糸切り痕	砂粒を含む	5YR7/6 橙	V-2	底部に串状線痕
160	常滑	鉢	2	110SD	1/12	—	(6.4)	—	内面—ヨコナデ 外面—板ナデ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	5YR4/2 灰褐 断—N5/ 灰	V-2	
161	常滑	鉢	2	110SD	1/12	—	(4.5)	—	内外面—ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10R4/3 赤褐 断—2.5YR5/8 明赤褐	V-2	
162	山茶碗	碗	1	020SD	8/12	13.4	4.6	7.2	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	
163	山茶碗	碗	1	001SD	3/12	—	(2.7)	8.0	内外面—ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	V-2	
164	山茶碗	碗	1	020SD	底2/12	—	(1.7)	7.4	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
165	山茶碗	碗	1	020SD	底6/12	—	(2.1)	6.9	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/2 灰黄	V-2	籾殻痕
166	山茶碗	碗	1	021SD	底6/12	—	(1.9)	6.1	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	籾殻痕
167	山茶碗	皿	1	020SD	12/12	8.2	1.8	5.2	内面—ロクロナデ 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	
168	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	7.6	2.3	4.2	内面—ロクロナデ、指圧痕 外面—ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y6/2 灰黄	V-2	

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
169	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	7.8	1.9	4.2	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	10YR6/2 灰黄褐	V-2	
170	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	8.0	2.0	4.5	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y6/2 灰黄	V-2	
171	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	7.6	1.7	4.5	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	7.5YR6/2 灰褐	V-2	
172	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	8.0	2.2	4.5	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/2 灰黄	V-2	
173	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	8.2	1.8	5.4	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
174	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	8.2	1.6	5.4	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	V-2	
175	山茶碗	皿	1	060SK	12/12	7.9	1.8	4.5	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	
176	山茶碗	碗	2	160SD	3/12	14.9	4.8	7	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　内面摩耗
177	山茶碗	碗	2	160SD	5/12	14.8	5.2	6.4	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
178	山茶碗	碗	2	230SD	底5/12	―	(3.3)	7.9	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	内面摩耗
179	山茶碗	碗	2	160SD	6/12	―	(2.8)	6.5	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
180	山茶碗	碗	2	160SD	3/12	14.6	4.6	6	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	籾殻痕
181	山茶碗	碗	2	230SD	3/12	14.2	5.3	5.6	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
182	山茶碗	碗	2	160SD	3/12	13.9	5.2	5.1	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5YR6/3 にぶい橙	V-2	籾殻痕
183	山茶碗	碗	2	160SD	底5/12	―	(3.9)	5.1	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	籾殻痕
184	山茶碗	碗	2	160SD	2/12	13.1	(5.7)	5.8	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
185	山茶碗	碗	2	160SD	2/12	14.8	5.4	5.4	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰 断―2.5Y7/2 灰黄	V-2	
186	山茶碗	碗	2	160SD	3/12	14.9	5.4	7	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	籾殻痕
187	山茶碗	碗	2	160SD	3/12	14.3	5.3	6.8	内外面―ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
188	山茶碗	碗	2	160SD	1/12	13	5.9	5.3	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
189	山茶碗	碗	2	160SD	3/12	13.4	5.7	5.4	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台、板状圧痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
190	山茶碗	碗	2	160SD	11/12	13.1	5.2	5.3	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
191	山茶碗	碗	2	160SD	11/12	12.8	5.4	5.2	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
192	山茶碗	皿	2	160SD	6/12	8.1	2.0	4.7	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
193	山茶碗	皿	2	160SD	5/12	8	1.6	4.5	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	7.5Y7/1 灰白	V-2	
194	山茶碗	皿	2	160SD	11/12	7.9	1.9	5.1	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	5YR6/4 にぶい橙	V-2	
195	山茶碗	皿	2	160SD	12/12	9.0	1.8	6.5	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
196	山茶碗	鉢	2	160SD	2/12	26	9.6	9	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
197	山茶碗	鉢	2	160SD	底 6/12	－	(4.0)	9.4	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
198	古瀬戸	鉢	2	160SD	1/12	29.2	(6.5)	－	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	V-3	
199	常滑	鉢	2	160SD	1/12	32.2	(6.1)	－	内外面－ヨコナデ	砂粒・礫を含む	5YR5/4 にぶい赤褐 断－10YR4/1 褐灰	V-2	片口か
200	常滑	甕	2	160SD	2/12	22	(22.1)	－	内面－ナデ、ヨコナデ、輪積痕 外面－ヨコナデ、指圧痕	砂粒・礫を含む	5YR4/2 灰褐 断－5YR5/6 明赤褐	V-3	
201	常滑	甕	2	160SD	1/12	40	(4.5)	－	内外面－ヨコナデ	砂粒・礫を含む	内－7.5YR6/4 にぶい橙 外－N8/ 灰白	V-2	
202	常滑	甕	2	160SD	1/12	35.4	(13.5)	－	内面－ヨコナデ、指圧痕、輪積痕 外面－ヨコナデ	砂粒・礫を含む	5YR5/3 にぶい赤褐 断－N5/ 灰	V-3	
203	青磁	碗	2	160SD	1/12	－	(1.6)	－	内外面－ロクロナデ 外面－蓮弁文	砂粒を含まない	N8/ 灰白	V-2	龍泉窯系蓮弁文碗
204	山茶碗	碗	2	223SK	7/12	16	5.1	7.7	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台、板状圧	砂粒・礫を含む	7.5YR6/2 灰褐	V-2	籾殻痕
205	山茶碗	碗	2	223SK	底4/12	－	(3.8)	9.2	内面－ロクロナデ、指ナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
206	山茶碗	碗	2	223SK	底12/12	－	(4.5)	6.1	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台、板状圧痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
207	山茶碗	碗	2	223SK	4/12	14.8	(5.1)	6.3	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	
208	山茶碗	碗	2	223SK	底12/12	－	(3.1)	7.0	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
209	山茶碗	碗	2	223SK	底6/12	－	(3.4)	7	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	V-2	内面摩耗
210	山茶碗	碗	2	223SK	7/12	13.4	4.9	7.1	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
211	山茶碗	碗	2	223SK	口2/12 底5/12	14.3	(5.7)	6.6	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、ナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
212	山茶碗	碗	2	223SK	4/12	14.5	5.3	7	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	10YR8/1 灰白	V-2	
213	山茶碗	碗	2	223SK	4/12	14.8	5.1	7.1	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
214	山茶碗	碗	2	223SK	底12/12	－	(2.7)	7.2	内面－ロクロナデ、指ナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	10YR8/1 灰白	V-2	籾殻痕
215	山茶碗	碗	2	223SK	底12/12	－	(2.6)	8.0	内面－ロクロナデ、指ナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台、板状圧痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
216	山茶碗	碗	2	223SK	2/12	14.5	5.6	7.4	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
217	山茶碗	碗	2	223SK	9/12	14	5.6	7.1	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
218	山茶碗	碗	2	223SK	5/12	13.8	(5.6)	5.8	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
219	山茶碗	碗	2	223SK	9/12	13.8	4.9	6.3	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
220	山茶碗	碗	2	223SK	底11/12	－	(4.9)	6.8	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
221	山茶碗	碗	2	223SK	4/12	14.2	5.2	6.3	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
222	山茶碗	碗	2	223SK	3/12	13.7	5.3	5.6	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	10YR7/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
223	山茶碗	碗	2	223SK	3/12	13.1	5.4	5.7	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
224	山茶碗	碗	2	223SK	8/12	14.0	6.4	5.8	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、ナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	瀬戸産
225	山茶碗	碗	2	223SK	底12/12	－	(3.8)	6.6	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰 断－10YR7/3 にぶい黄橙	V-2	籾殻痕　瀬戸産
226	山茶碗	碗	2	223SK	底11/12	－	(3.2)	6	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台、板状圧痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
227	山茶碗	皿	2	223SK	12/12	7.9	1.7	5.3	内面－ロクロナデ、指ナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
228	土師器	鍋	2	223SK	2/12	22.5	(7.2)	－	外面－ハケ、ヨコナデ 外面－ナデ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10YR6/2 灰黄褐 断－7.5YR7/4 にぶい橙	V-2	伊勢型鍋
229	常滑	片口鉢	2	223SK	2/12	30.4	(6.5)	－	内外面－ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10YR5/2 灰黄褐 断－7.5YR6/1 褐灰	V-2	
230	常滑	鉢	2	223SK	底5/12	－	(4.9)	11.1	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、貼付高台	砂粒・礫を含む	5YR 6/4 にぶい橙 断－2.5Y5/1 黄灰	V-2	
231	常滑	羽釜	2	223SK	2/12	28	(12.0)	－	内面－ヨコナデ、輪積痕 外面－板ナデ、ヨコナデ、鍔貼付	砂粒・礫を含む	内－N6/ 灰 外－5YR6/2 灰褐 断－10YR5/1 褐灰	V-2	常滑焼羽釜
232	常滑	羽釜	2	223SK	2/12	25.4	(10.5)	－	内面－ナデ、ヨコナデ 外面－ヨコナデ、鍔貼付	砂粒・礫を含む	2.5Y5/1 黄灰	V-2	常滑焼羽釜
233	常滑	壺	2	223SK	胴2/12	－	(8.1)	－	内面－指オサエ、ヨコナデ、輪積痕 外面－指オサエ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	内－5YR6/6 橙 外－10YR5/2 灰黄褐	V-2	
234	常滑	甕	2	223SK	胴1/12	－	(9.8)	－	内面－ナデ 外面－ナデ、刻印	砂粒・礫を含む	5Y7/1 灰白	V-2	
235	山茶碗	片口鉢	2	180SD	1/12	22.3	(6.8)	－	内外面－ロクロナデ	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-1	
236	山茶碗	碗	2	180SD	底6/12	－	(2.5)	6.8	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	V-1	内面摩耗
237	山茶碗	碗	2	180SD	底10/12	－	(3.3)	7.5	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	V-1	内面摩耗
238	常滑	鉢	2	210SD	3/12	16	6.9	6.8	内外面－ロクロナデ	砂粒・礫を含む	10YR5/1褐灰 断－2.5YR5/4 にぶい赤褐	V-2	
239	山茶碗	碗	2	170SD	底3/12	－	(2.1)	8.4	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、ナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	籾殻痕

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
240	山茶碗	皿	2	170SD	4/12	7.9	2.3	3.7	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	5Y7/1 灰白	V-2	
241	山茶碗	碗	2	233SX	1/12	14.1	(3.5)	－	内外面－ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
242	山茶碗	碗	2	233SX	底11/12	－	(2.2)	6.7	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	内面摩耗
243	山茶碗	碗	2	233SX	底3/12	－	(4.0)	7.5	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕
244	山茶碗	碗	2	233SX	底3/12	－	(2.8)	7.2	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	籾殻痕　内面摩耗
245	山茶碗	皿	2	233SX	4/12	8.5	2.2	4.3	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
246	山茶碗	皿	2	233SX	12/12	8.3	2.0	4.9	内面－ロクロナデ、指圧 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	5Y8/1 灰白	V-2	
247	山茶碗	碗	1	040SD	1/12	15	(4.2)	－	内外面－ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	V-2	
248	山茶碗	碗	1	032SK	7/12	14.4	5.1	6.2	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	籾殻痕
249	山茶碗	碗	2	L2	12/12	13.6	5.0	5.7	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	内－10YR6/1 褐灰 外－10YR7/2 にぶい黄橙	V-2	籾殻痕
250	山茶碗	碗	2	L1・L2	7/12	13.3	4.7	6	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
251	山茶碗	碗	2	L1・L2	11/12	11.9	4.9	4.1	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	籾殻痕　瀬戸産
252	山茶碗	碗	2	L1・L2	10/12	12.2	4.7	5.7	内面－ロクロナデ、指圧痕 外面－ロクロナデ、板状圧痕	砂粒・礫を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	瀬戸産
253	山茶碗	碗	2	040SD	1/12	14.2	4.3	5.7	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	V-3	東濃型
254	山茶碗	碗	2	L2・L3	2/12	13.3	4.6	5.8	内外面－ロクロナデ	砂粒を含む	2/5Y8/2 灰白	V-3	東濃型
255	山茶碗	碗	2	L1・L2	8/12	11.1	3.0	4	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/2 灰白	V-3	東濃型
256	山茶碗	皿	1	L1・L2	底12/12	8.3	2.7	4.2	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y7/2 灰黄	V-2	籾殻痕
257	山茶碗	皿	2	218SK	5/12	8.3	2.6	4.7	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	2.5Y8/1 灰白	V-2	
258	山茶碗	皿	2	040SD	5/12	8.5	2.5	4.5	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	V-2	
259	山茶碗	皿	1	L1・L2	12/12	7.9	2.0	4.7	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	V-2	
260	山茶碗	鉢	2	L1・L2	底7/12	－	(8.5)	14.0	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	砂粒・礫を含む	2.5Y8/3 淡黄	V-1	内面摩耗
261	染付	皿	1	L1・L2	底1/12	－	(1.6)	13	内面－ロクロナデ 外面－回転ヘラケズリ、削出高台	砂粒を含まない	10YR7/3 にぶい黄橙	V	輸入か
262	白磁	碗	1	L1・L2	1/12	18	(2.5)	－	内外面－ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	V-1	玉縁白磁碗
263	古瀬戸	四耳壺	2	L1・L2	頸4/12	－	(13.0)	－	内面－ロクロナデ、ヘラケズリ 外面－ロクロナデ、ヘラケズリ、平行沈線	砂粒・礫を含む	2/5Y8/3 淡黄	V-3	

番号	器種	器形	調査区	遺構・層位	残存率	口径 cm	器高 (cm)	底径 cm	技法等の特徴	胎土	色調	時期	その他・備考
264	古瀬戸	皿	2	130SD	4/12	8.5	1.8	4.8	内面―ロクロナデ、指圧痕 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	V-3	
265	美濃瀬戸	皿	2	130SD	底6/12	―	(1.3)	5.8	内面―ロクロナデ 外面―回転ヘラケズリ、削出高台	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	V-3	
266	美濃瀬戸	皿	1	L1・L2	口7/12 底10/12	11	2.3	6.6	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	V-3	
267	古瀬戸	鉢	2	L2・L3	1/12	28.4	(3.7)	―	内外面―ロクロナデ	砂粒を含む	7.5Y8/1 灰白 断―2.5Y7/1 灰白	V-3	
268	土師器	皿	2	040SD	4/12	(8.2)	1.8	3.8	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	V	底部に穿孔あり
269	土師器	皿	2	040SD	9/12	8.8	2.0	4.9	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	V	口縁端部煤付着
270	土師器	皿	2	L2・L3	11/12	8.9	2.0	4.8	内面―ロクロナデ 外面―ロクロナデ、回転糸切り痕	砂粒・礫を含む	7.5YR6/6 橙	V	口縁端部煤付着
271	土師器	鍋	2	040SD	2/12	36	(4.9)	―	内面―板ナデ、ナデ、ヨコナデ 外面―板ナデ、ヨコナデ	砂粒・礫を含む	10YR8/3 浅黄橙	V-3	
272	土師器	羽釜	2	L1・L2	2/12	41	(22.7)	―	内面―指オサエ、板ナデ 外面―指オサエ、ヘラケズリ	砂粒・礫を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 断―10YR5/1 褐灰	V-3	

付論

第１章　東海市東畑遺跡出土の埋葬馬の分析

大阪市立大学大学院医学研究科
安部みき子

東海市東畑遺跡の中世の土坑（14～15世紀）から、骨の保存状態が比較的良く埋葬時の姿勢を留めたウマの全身骨格が出土した。埋葬の方角は頭部を北に向け、左側を下にした側臥位であった。中世のウマの全身骨格の出土は極めて少なく、ウマの埋葬の位置づけを知るうえで貴重な資料である。

＜出土状況＞

出土状況は、頚部と左前肢の一部、体幹の後部から後肢にかけての骨格が遺存しており、遺存していない部位は頭骨、胸椎、右側の肋骨、右側の前肢、左側の肩甲骨と上腕骨ならびに、後肢の左右の末節骨で、失われていた骨格も多かった。しかし、遺存している部位は埋葬時の姿勢を良く保存していた（図１、写真１、図版１・２、表１）。

遺存状況は、頭部では体幹の前方に散乱していた上顎の切歯５点以外はまったく出土していない。また、頭骨と関節している環椎（第１頚椎）は遺存しており、解体痕などは見られなかった。

椎骨は環椎から第６頚椎までと腰椎の椎体が６点出土しており、出土状況の図面と写真から交連状態で出土していることが確認された。胸椎は全てが失われており、肋骨も半数以上が喪失し、遺存している肋骨の保存状態は悪かったため左右の判定は出来なかった。しかし、後位にある９点の肋骨は出土時の写真から埋葬時の状態を保っていると考えられる。

四肢骨では、前肢の右側の骨格はほとんどが喪失し、基節骨と中節骨のみが前方に散乱していた。一方、左側の骨格は肩甲骨、上腕骨と末節骨は欠くが、前腕から遠位まで交連状態で出土した。後肢は両側とも末節骨を欠くがほぼ完全に遺存し、埋葬時の状態を保っていた。

全身の出土状況から、埋葬後比較的早い時期に頭骨と胸郭の前部を中心とした体幹の右側が撹乱されたと推測できる。

埋葬姿勢は、頚椎が体幹にほぼ直角に位置し、頭部を非常に後方にそらせ、左前肢の基節骨が左後肢の基節骨の下に位置していることから、四肢を足先で縛った状態で、左側を下にしていると推察される。

＜年齢の推定＞

遺跡から出土するウマの年齢の推定は、臼歯の遺存率が高いため歯の高径で行なわれる場合が多いが、本遺跡では臼歯が全く出土していないため、現生のウマの切歯を用いた年齢推定法を用いた。すなわち、切歯は萠出、成長、磨滅、そほかの特徴的変化が規則的であるため年齢推定に用いることができ、高齢になるに従い歯の磨滅による変化は食性などの影響で幼少期より推定年齢の精度が多少落ちるが有効な手段である（カラーアトラス獣医解剖学編集委員会　2010）。また、ウマの寿命は数十年であることを考慮すると、時代差や飼育環境は推定年齢に大きな影響を与えるものではないと考えられ

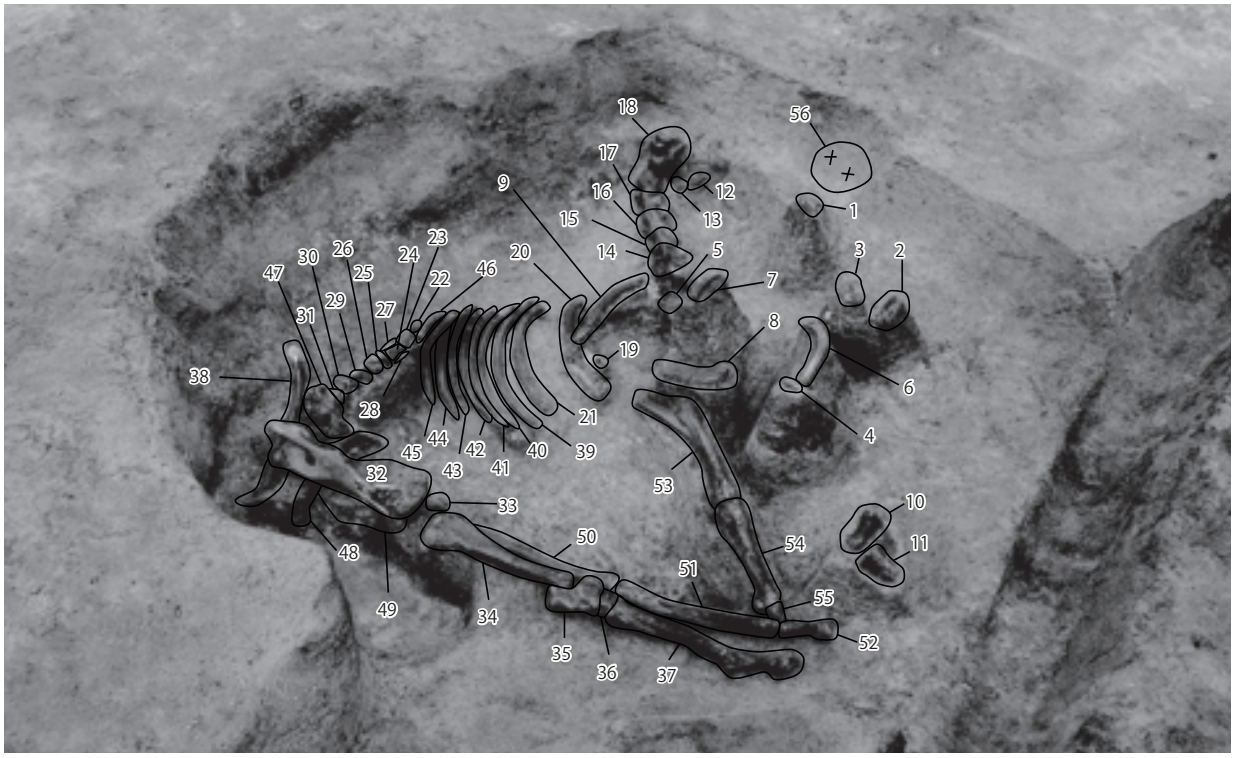


写真１　埋葬馬の出土状況と骨の取り上げ番号

る。本遺跡から出土したウマの上顎切歯は永久歯のため、摩耗による咬合面の形態と歯ロートの状態で行った。切歯の咬合面は三角形を呈し歯ロート底が見られたため、18～24歳と推定した。

性は、頭骨が遺存していないため判定できなかった。

＜計測の方法＞

出土した骨の計測はDriesch （1976）の骨計測法を基本とし、各骨に特徴がみられる項目を追加して行った（図２～５）。計測の結果を表２～４に示した。なお、計測図中の番号は計測表の計測項目番号である。

骨の計測にはミツトヨ製デジタルノギスを使い、1.01mmまで測った。

＜体高の推定＞

体高の推定に用いた部位は、橈尺骨、第Ⅲ中手骨、第Ⅲ基節骨（前肢）、大腿骨、脛骨、第３中足骨、第３基節骨（後肢）である（表５）。推定体高は各部位の最大長を林田ら（1957）の３通りの推定式にあてはめ、この３つの式の平均値を各部位の推定値とした。さらに、本遺跡のウマの体高の推定値は各部位の推定値の平均をとり、この値を本遺跡のウマの推定体高とした。各部位の推定体高の最小値は第Ⅲ中足骨が132.5cmで、最大値は第Ⅲ中節骨（前肢）の139.1cmであり、平均値は136.5cmであった。

＜古代馬および在来馬との比較＞

本遺跡から出土したウマは頭骨を欠いており、頭骨の形態学的比較はできなかったが、推定体高を古代馬ならびに現存する在来馬と比較した（表６）。古墳時代の蔀屋北遺跡からは埋葬馬が1個体と

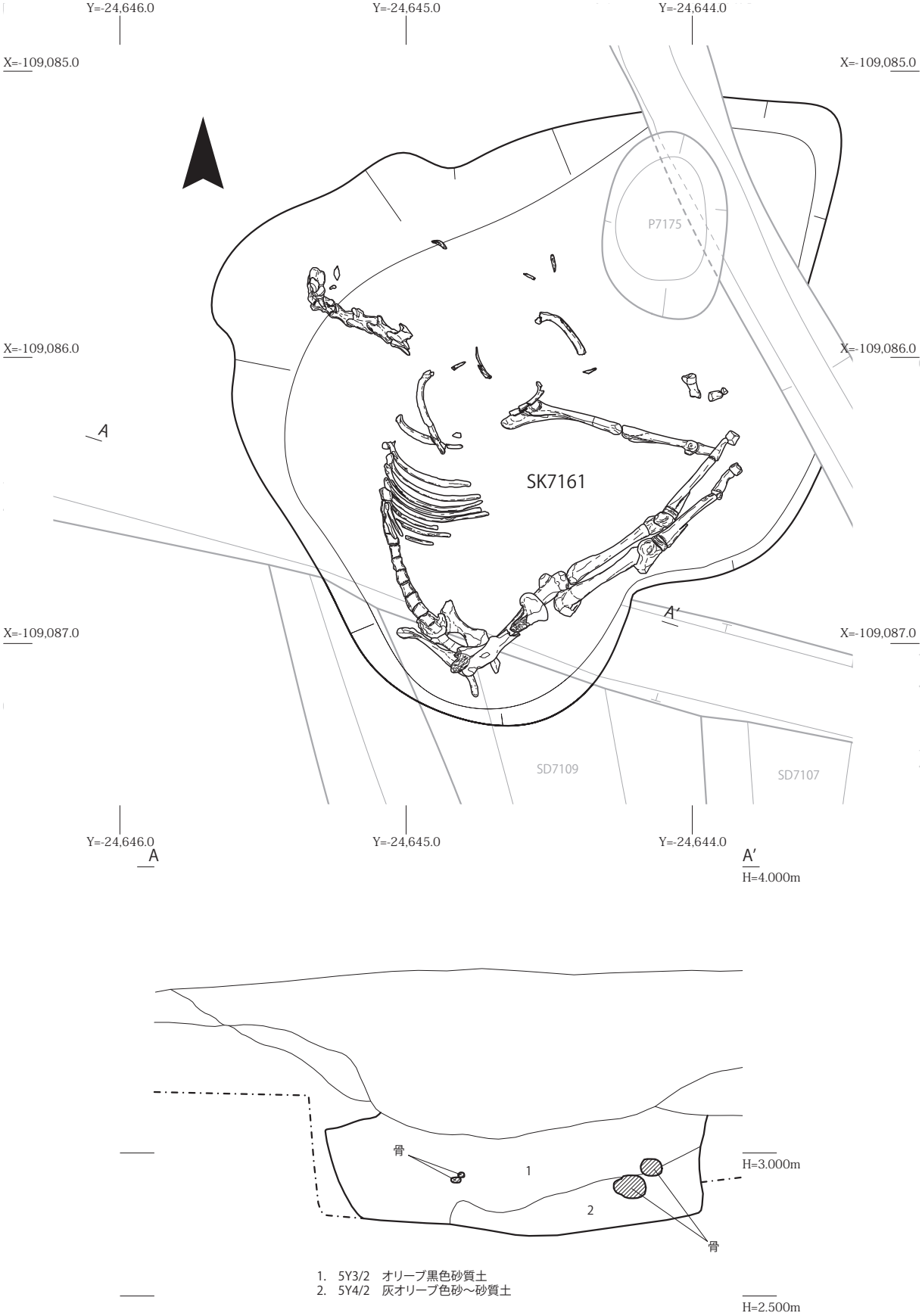


図１　埋葬馬の出土状況（1/20）

埋葬されていない個体が多数出土しており、埋葬馬の体高は127cmであり、埋葬されていないものの平均が約126cmである（安部　2010）。また、大坂冬の陣で埋め立てられた大坂城二ノ丸の堀（安部　2006）から出土したウマ（資料番号1424）の体高は約123cmであり、同遺跡の別個体（資料番号2614）の推定体高は約127cmで（安部　2006）、いずれも本遺跡のウマより約10cm小さい。一方、林田ら（1957）は在来馬の体高は28才の北海道和種のオスが133.5cm、11才の御崎馬のオスが136cmとしており、本遺跡のウマはほぼ同等の大きさである。

古墳時代から近世まで土坑に埋葬されたウマの例は全国でも少数であり、その理由は解明されていない。本遺跡のウマは中世の社会の中で飼育されていた平均的なウマより大きく、特別な存在であった可能性が考えられる。今後、土坑に埋葬されたことの意味を検討する手掛かりとなる資料である。

＜まとめ＞

・中世の土坑から、頭部を後方に反らし、四肢を基節骨の位置で縛ったと推測される埋葬姿勢のウマが出土した。

・出土したウマは、頭骨、右の前肢、胸椎や肋骨の一部が喪失していた。

・年齢は、上顎切歯の形態で行い、18歳以上と推定した。また、性は頭骨が遺存していないため、判定できなかった。

・体高は、遺存していた長骨最大長で行い、136cmと推定した。

・体高を古墳時代から近世まで飼育されていたウマと比較すると本遺跡のウマの方が約10cmほど高く、また、在来馬の中でも大きい部類の品種とよく似た体格であった。

参考文献

・安部みき子　2006　大坂城跡03-1調査区出土の獣骨．『大坂城址Ⅲ』（財）大阪府文化財センタ-　調査報告書第144集　470-504

・安部　みき子　2010　蔀屋北遺跡出土の動物遺体，『蔀屋北遺跡Ⅰ』大阪府教育員会　249-324

・Angela. D. Driesch 1976　A Guide to the Measurement of　Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum of Archaeology and Ethnology Harveard University

・林田重幸、山内忠平　1957　ウマにおける骨長より体高の推定法．鹿児島大学農学部学術報告　6：146-156

・カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳　2010　カラーアトラス獣医解剖学　上巻　チクサン出版　東京

・小浜　成　2009古墳時代馬の骨格復元-展示模型製作記録-．『大阪府立近つ飛鳥博物館館報12』大阪府立近つ飛鳥博物館

・競走馬総合研究所　1979　馬の解剖図譜　Schmaltz Ⅰ東亜印刷　東京

表 1-1　出土部位取り上げ番号の一覧表

取り上げ番号	部　位	左右	詳　　細	計測表	図版
5	上顎第1切歯	右			図版1-16
56	上顎第2切歯	右			図版1-15
4	上顎第3切歯	右			図版1-14
56	上顎第1切歯	左			図版1-17
1	上顎第3切歯	左			図版1-18
18	環椎	―			図版1-19
18	軸椎	―			
17	第Ⅲ？頸椎	―			
16	第Ⅳ？頸椎	―			
14	頸椎				
15	頸椎				
47	第Ⅵ頸椎	―			
22	腰椎	―	椎体のみ		
23	腰椎	―	椎体のみ		
24	腰椎	―	椎体のみ		
25	腰椎	―	椎体のみ		
26	腰椎	―	椎体のみ		
29	腰椎	―	椎体、椎弓の破片		
30	腰椎	―			
31	腰椎	―			
47	第Ⅰ仙椎	―			
2	肋骨	不明			
3	肋骨	不明			
6	肋骨	不明			
7	肋骨	不明			
8	肋骨	不明			
9	肋骨	不明			
20	肋骨	不明			
21	肋骨	不明			
27	肋骨	不明			
28	肋骨	不明			
39	肋骨	不明			
40	肋骨	不明			
41	肋骨	不明			
42	肋骨	不明			
43	肋骨	不明			
44	肋骨	不明			
45	肋骨	不明			
46	肋骨	不明			
53	尺骨・橈骨	左		表3	図版1-1
53	第Ⅱ手根骨	左			図版1-11
53	第Ⅲ手根骨	左		表3	図版1-12
53	第Ⅳ手根骨	左			図版1-13
53	橈側手根骨	左		表3	図版1-7
53	中間手根骨	左		表3	図版1-8
53	尺側手根骨	左			図版1-9
53	副手根骨	左			図版1-10
54	第Ⅱ中手骨	左	第Ⅲ中手骨と癒合、遠位端破損		図版1-2

取り上げ番号は写真１の番号に対応する

表 1-2　出土部位取り上げ番号の一覧表

取り上げ番号	部　位	左右	詳　　細	計測表	図版
54	第Ⅲ中手骨	左		表３	図版1-2・3
54	第Ⅳ中手骨	左	遊離	表３	図版1-4
10	第Ⅲ基節骨（前肢）	右		表３	
55	第Ⅲ基節骨（前肢）	左		表３	図版1-5
11	第Ⅲ中節骨（前肢）	右		表３	
55	第Ⅲ中節骨（前肢）	左		表３	図版1-6
38	寛骨	右		表４	図版1-20
48	寛骨	左		表４	図版1-21
47	寛骨	不明	臨骨翼の一部？	表４	
32	大腿骨	右		表４	
49	大腿骨	左	近位部後面破損、遠位端の骨端浅遺存	表４	
33	膝蓋骨	右			図版2-21
49	膝蓋骨	左	関節面のみ遺存		
34	脛骨	右	腓骨は破損	表４	図版2-1
50	脛骨	左		表４	図版2-2
35	踵骨	右		表４	図版2-3
35	距骨	右		表４	図版2-4
36	中心足根骨（舟状骨）	右		表４	図版2-5
51	中心足根骨（舟状骨）	左	一部破損	表４	図版2-11
36	第Ⅰ+Ⅱ足根骨	右			図版2-8
51	第Ⅰ+Ⅱ足根骨	左			
36	第Ⅲ足根骨（外側楔状骨）	右		表４	図版2-7
51	第Ⅲ足根骨（外側楔状骨）	左	中央部破損	表４	図版2-10
36	第Ⅳ足根骨（立方骨）	右			図版2-6
51	第Ⅳ足根骨（立方骨）	左			図版2-9
37	第Ⅱ中足骨	右	遊離、遠位端わずかに破損		図版2-14
51	第Ⅱ中足骨	左		表４	図版2-16
37	第Ⅲ中足骨	右	遠位端の滑車縦稜より外側部破損	表４	図版2-13・15
51	第Ⅲ中足骨	左	遠位部破損	表４	図版2-17
37	第Ⅳ中足骨	右	遊離、遠位端わずかに破損		図版2-12
51	第Ⅳ中足骨	左	遠位端破損　．	表４	図版2-18
38	基節骨（後肢）	右		表４	図版2-19
52	基節骨（後肢）	左		表４	
38	中節骨（後肢）	右		表４	図版2-20
52	中節骨（後肢）	左		表４	
52	中足骨？	不明	滑車の一部？		
38	種子骨				
52	種子骨	―	2点		
54	種子骨	―	2点		
11	骨片		2点		
12	骨片				
13	骨片				
19	骨片				
37	骨片		3点		

取り上げ番号は写真１の番号に対応する

表２　上顎切歯の計測値

	右			左	
	第1切歯	第2切歯	第3切歯	第1切歯	第3切歯
歯高	56.34	61.51	52.51-	—	55.14
近遠心径	13.93	15.91	19.13	14.93	18.72
頬舌径	13.13	12.32	11.58	12.84	11.29

単位はmm

表３　前肢骨の計測値

	項目番号	計測項目		R	L
橈尺骨	RU-1	橈尺骨最大長	GL	—	418.45
尺骨	U-1	最大長	GL	—	—
	U-2	肘頭長	LO	—	86.30
	U-3	肘頭最小深	SDO	—	47.76
	U-4	肘突起矢状径	DPA	—	61.64
	U-5	滑車切痕幅	BPC	—	33.24
橈骨	R-1	最大長	GL	—	338.45
	R-2	中央長	PL	—	324.25
	R-3	外側長	LI	—	323.95
	R-4	骨幹横径	BD	—	37.51
	R-5	骨幹前後径	DD	—	26.99
	R-6	近位端横径	Bp	—	80.72
	R-7	近位端関節面幅	BF p	—	75.19
	R-8	近位端前後径	Dp	—	50.21
	R-9	遠位端横径	Bd	—	* 67.58
	R-10	遠位端関節面幅	BF d	—	61.73
	R-11	遠位端前後径	Dd	—	42.45
第II手根骨	1	最大幅	GB	—	39.78
	2	最大深	GD	—	38.45
橈側手根骨	1	最大幅	GB	—	26.64
	2	最大深	GD	—	39.30
中間手根骨	1	最大幅	GB	—	29.95
	2	最大深	GD	—	37.03

	項目番号	計測項目		R	L
第III中手骨	1	最大長	GL	—	225.83
	2	外側最大長	GL I	—	219.42
	3	外側長	LI	—	216.75
	4	内側長	Lm	—	
	5	骨幹横径	BD	—	32.61
	6	骨幹前後径	DD	—	25.59
	7	近位端横径	Bp	—	49.15
	8	近位端前後径	Dp	—	31.35
	9	遠位端横径	Bd	—	47.56
	10	遠位端前後径	Dd	—	35.46
第IV中手骨	1	最大長	GB	—	* 75.02
基節骨	1	最大長	GL	86.65	85.50
	2	骨幹横径	BD	34.62	33.54
	3	骨幹前後径	DD	23.81	23.81
	4	近位端横径	Bp	50.08	49.53
	5	近位端前後径	Dp	36.36	35.11
	6	遠位端横径	Bd	44.24	42.72
	7	遠位端前後径	Dd	24.24	-
中節骨	1	最大長	GL	47.55	46.33
	2	骨幹横径	BD	44.53	43.94
	3	骨幹前後径	DD	22.79	25.97
	4	近位端横径	Bp	51.08	49.24
	5	近位端前後径	Dp	31.48	31.40
	6	遠位端横径	Bd	46.71	-
	7	遠位端前後径	Dd	24.40	-

単位はmm

* は計測部位がわずかに破損

表４　後肢骨の計測値

	項目番号	計測項目		R	L
寛骨	1	最大長	GL	—	—
	2	閉鎖孔最大長	Lfo	—	66.96
	3	恥骨結合面長	LS	—	—
	4	寛骨臼長	LA	70.48	70.08
	5	月状面長	LAR	63.87	63.48
	6	腸骨体最小高	SH	45.58	44.09
	7	腸骨体最小幅	SB	24.13	22.72
大腿骨	1	最大長	GL	—	401.55
	2	大腿骨長	GLC	—	361.98
	3	骨幹横径	BD	—	41.89
	4	骨幹前後径	DD	—	46.56
	5	近位端横径	Bp	110.66	108.93
	6	近位端前後径	Dp	—	—
	7	遠位端横径	Bd	—	87.32
	8	遠位端前後径	Dd	110.29	114.19
脛骨	1	最大長	GL	354.52	360.11
	2	外側長	LI	324.49	—
	3	骨幹横径	BD	40.41	37.84
	4	骨幹前後径	DD	35.59	34.74
	5	近位端横径	BD	—	81.45
	6	近位端前後径	DD	77.98	77.39
	7	遠位端横径	Bd	72.18	67.13
	8	遠位端前後径	Dd	45.06	44.37
距骨	1	最大高	GH	60.34	59.23
	2	外側高	Lmt	62.35	60.69
	3	最大幅	GB	58.04	56.65
	4	遠位関節面幅	BF d	51.07	49.18
	5	最大深	GD	53.10	56.93
種骨	1	最大長	GL	109.47	—
	2	最大幅	GB	52.22	—
	3	最大高	GH	49.15	50.56

	項目番号	計測項目		R	L
中心足根骨	1	最大幅	GB	50.89	49.58
	2	最大深	GD	41.14	41.00
第Ⅴ中足骨	1	最大長	GB	—	100.87
第Ⅱ足根骨	1	最大幅	GB	47.24	45.85
	2	最大深	GD	42.92	—
第Ⅲ中足骨	1	最大長	GL I	266.35	—
	2	外側最大長	GL I	—	—
	3	外側長	LI	259.6	—
	4	内側長	Lm	263.24	—
	5	骨幹横径	BD	30.35	30.25
	6	骨幹前後径	DD	28.35	29.59
	7	近位端横径	Bp	48.83	* 47.47
	8	近位端前後径	Dp	37.91	37.97
	9	遠位端横径	Bd	—	—
	10	遠位端前後径	Dd	—	—
第Ⅳ中足骨	1	最大長	GB	—	* 105.09
基節骨Ⅲ	1	最大長	GL	85.06	85.12
	2	骨幹横径	BD	32.62	31.99
	3	骨幹前後径	DD	24.05	24.91
	4	近位端横径	Bp	50.68	48.94
	5	近位端前後径	Dp	35.25	34.61
	6	遠位端横径	Bd	38.95	41.46
	7	遠位端前後径	Dd	20.59	21.01
中節骨Ⅲ	1	最大長	GL	—	—
	2	骨幹横径	BD	—	41.86
	3	骨幹前後径	DD	—	27.76
	4	近位端横径	Bp	46.08	47.61
	5	近位端前後径	Dp	29.79	31.12
	6	遠位端横径	Bd	—	—
	7	遠位端前後径	Dd	—	—

単位はmm

＊　は計測部位がわずかに破損

表５　長骨の最大長から求めた推定体高

部　位		計測長（cm）	推定体高
橈尺骨	Ⅰ式	41.8	135.85
	Ⅱ式	41.8	136.12
	Ⅲ式	41.8	129.71
	平均値		**133.89**
橈骨	Ⅰ式	33.8	134.19
	Ⅱ式	33.8	134.48
	Ⅲ式	33.8	138.37
	平均値		**135.68**
第Ⅲ中手骨	Ⅰ式	22.6	134.47
	Ⅱ式	22.6	135.22
	Ⅲ式	22.6	137.98
	平均値		**135.89**
第Ⅲ基節骨（前肢）	Ⅰ式	8.7	136.76
	Ⅱ式	8.7	137.13
	Ⅲ式	8.7	142.11
	平均値		**138.67**
第Ⅲ中節骨（前肢）	Ⅰ式	4.7	136.25
	Ⅱ式	4.7	138.65
	Ⅲ式	4.7	142.28
	平均値		**139.06**
大腿骨	Ⅰ式	40.2	136.68
	Ⅱ式	40.2	137.05
	Ⅲ式	40.2	137.13
	平均値		**136.95**
脛骨	Ⅰ式	35.7	135.30
	Ⅱ式	35.7	135.29
	Ⅲ式	35.7	142.00
	平均値		**137.53**
第Ⅲ中足骨	Ⅰ式	26.6	132.47
	Ⅱ式	26.6	133.03
	Ⅲ式	26.6	131.98
	平均値		**132.49**
第Ⅲ基節骨（後肢）	Ⅰ式	8.5	137.79
	Ⅱ式	8.5	138.13
	Ⅲ式	8.5	139.62
	平均値		**138.51**
各部位の平均値の平均			**136.52**

単位はcm

推定式は林田ら（1957）による。

表６　古代馬の長骨の最大長計測値

	蔀屋北遺跡			大坂城III	
	C-3928	D-3820	H-0084-01	1424-1	2614-1
	右	左	左	左	右
橈尺骨	—	—	—	384.56	—
尺骨	—	—	—	315.24	—
橈骨	—	—	—	306.61	—
中手骨	—	—	—	207.8	—
大腿骨	—	—	—	—	376.91
脛骨	—	—	—	—	333.80
中足骨	260.86	250.9	266.29	—	251.75
基節骨（後肢）	—	—	—	—	76.17

単位はmm

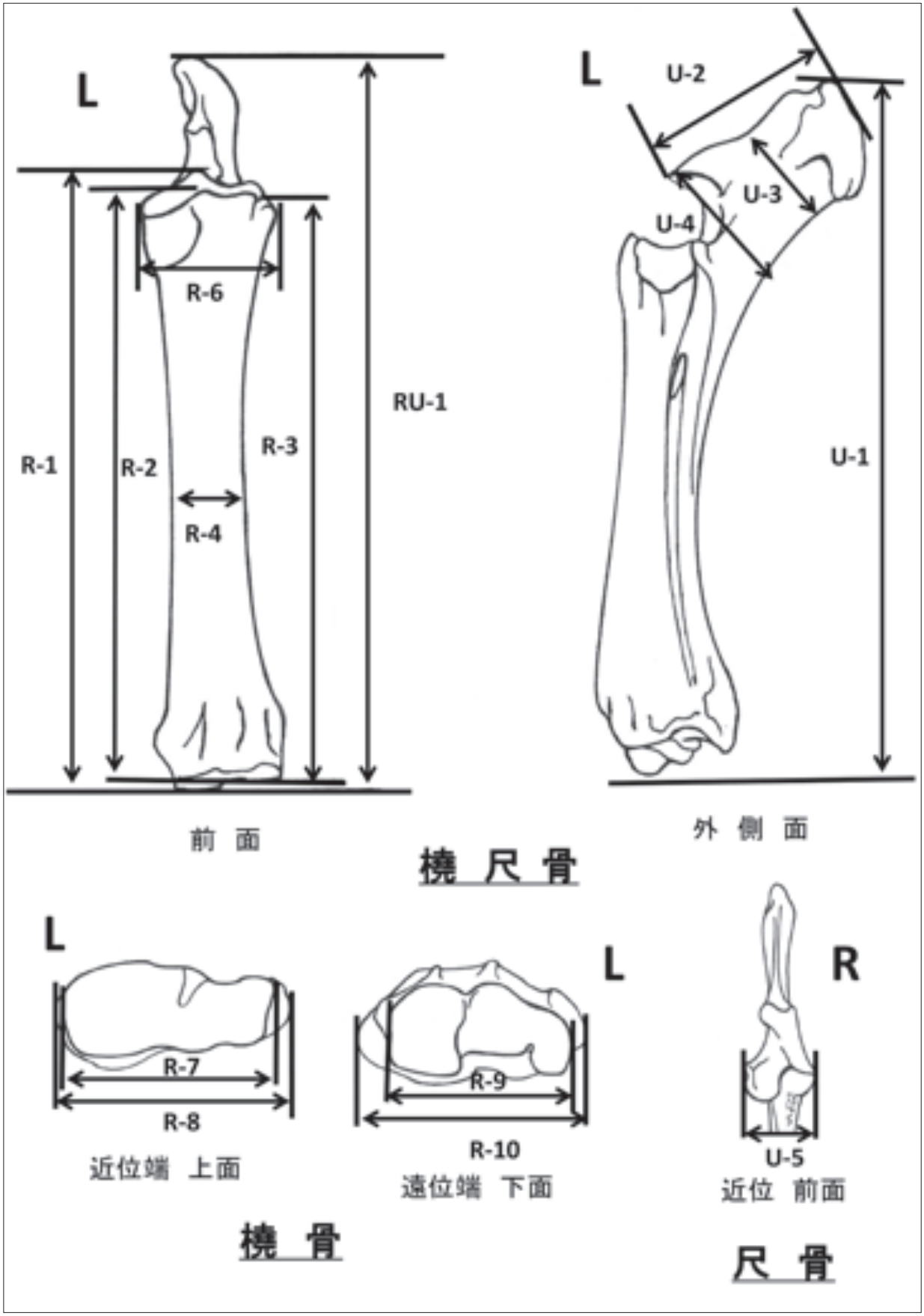

L
R-6
RU-1
R-1
R-2
R-3
R-4
前 面
L
U-2
U-3
U-4
U-1
外 側 面
橈 尺 骨
L
R-7
R-8
近位端 上面
L
R-9
R-10
遠位端 下面
R
U-5
近位 前面
橈 骨
尺 骨

図２　橈尺骨の計測図

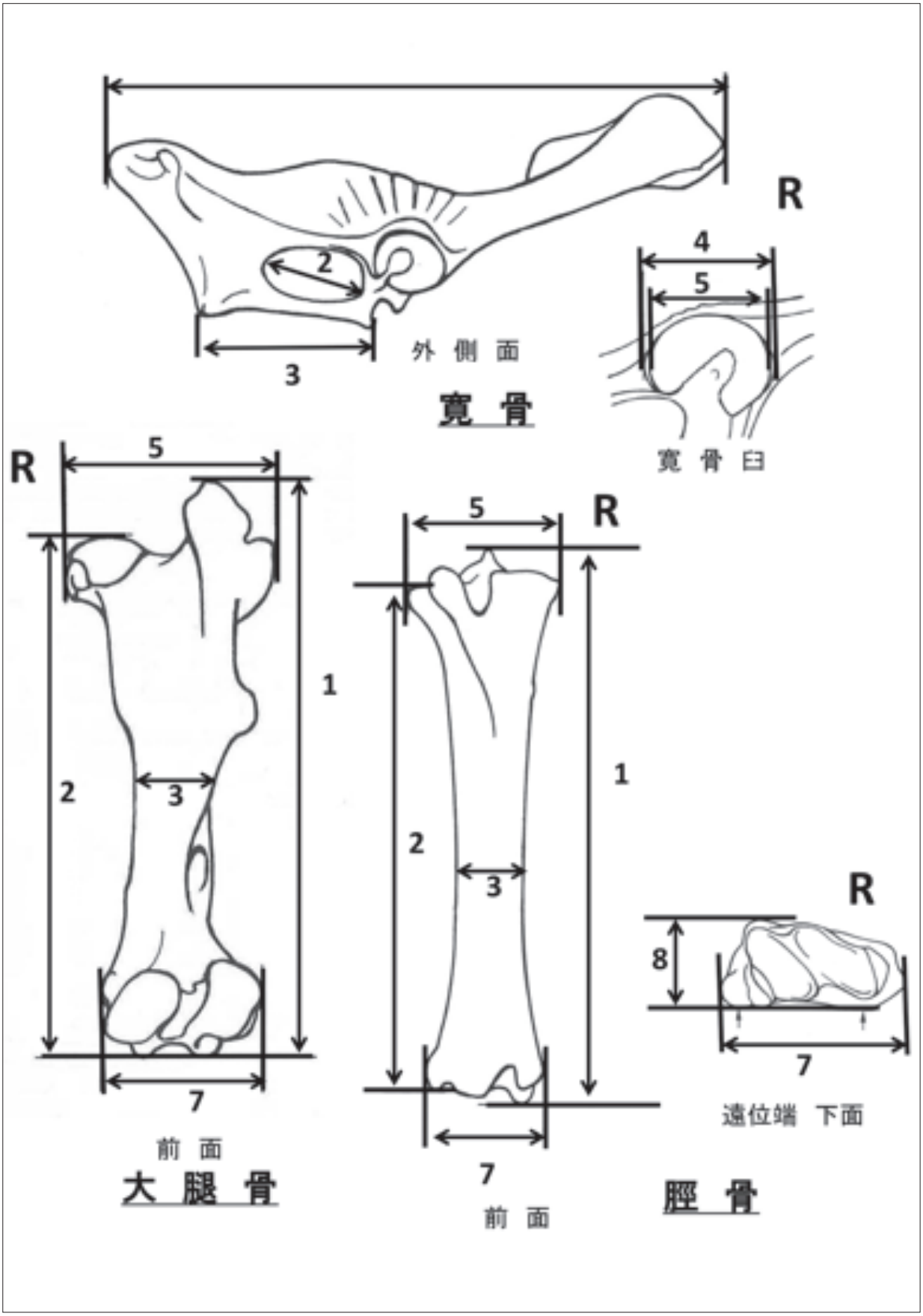


図 3　寛骨・大腿骨・脛骨の計測図

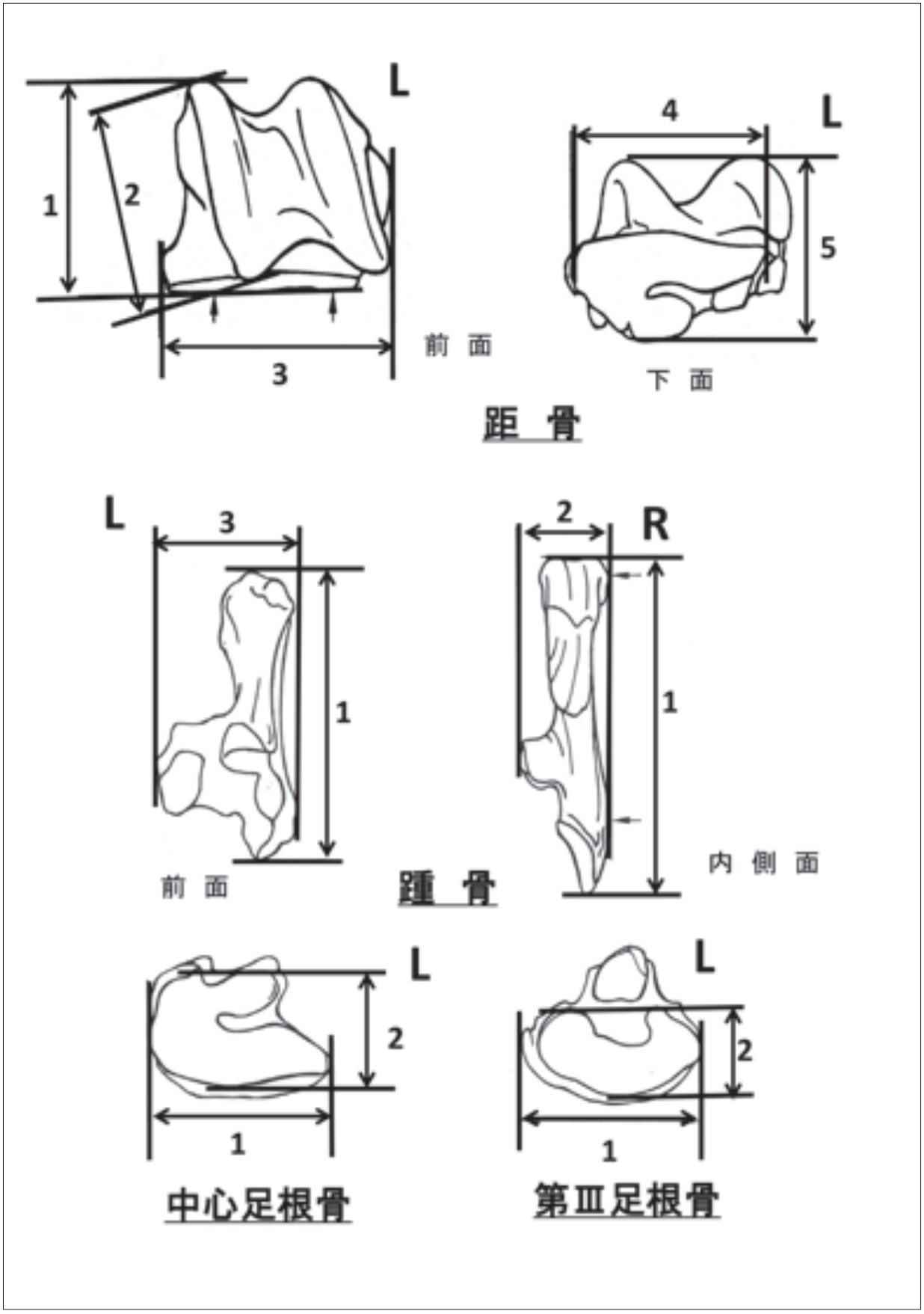


図４　距骨・踵骨・中心足根骨・第Ⅲ足根骨の計測図

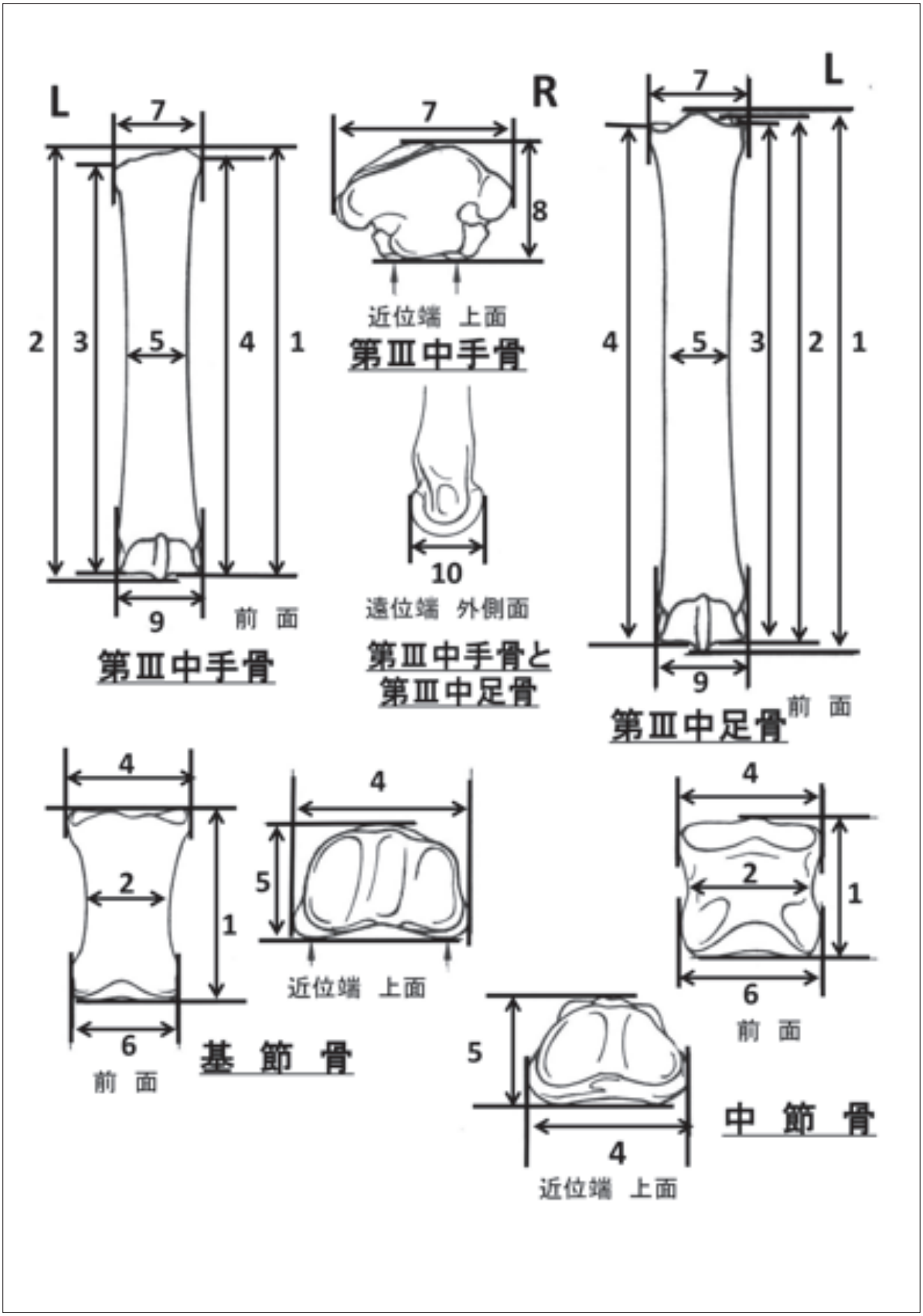
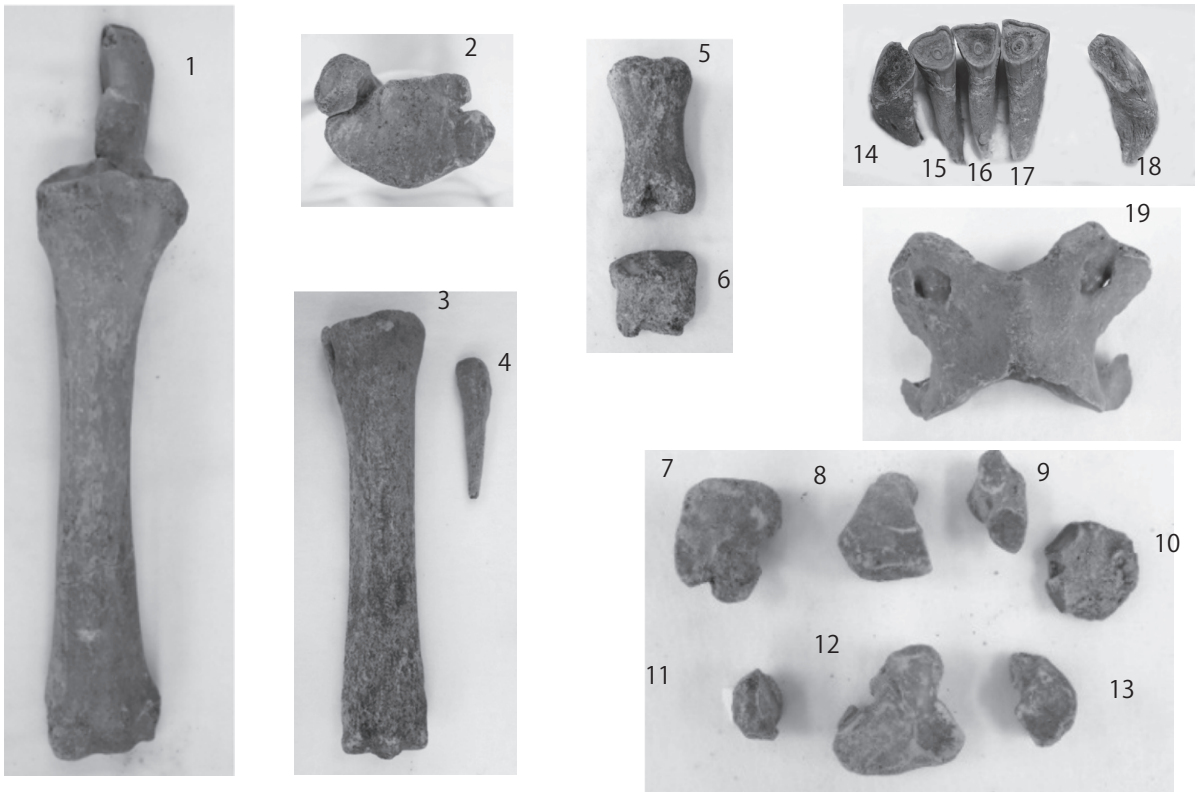
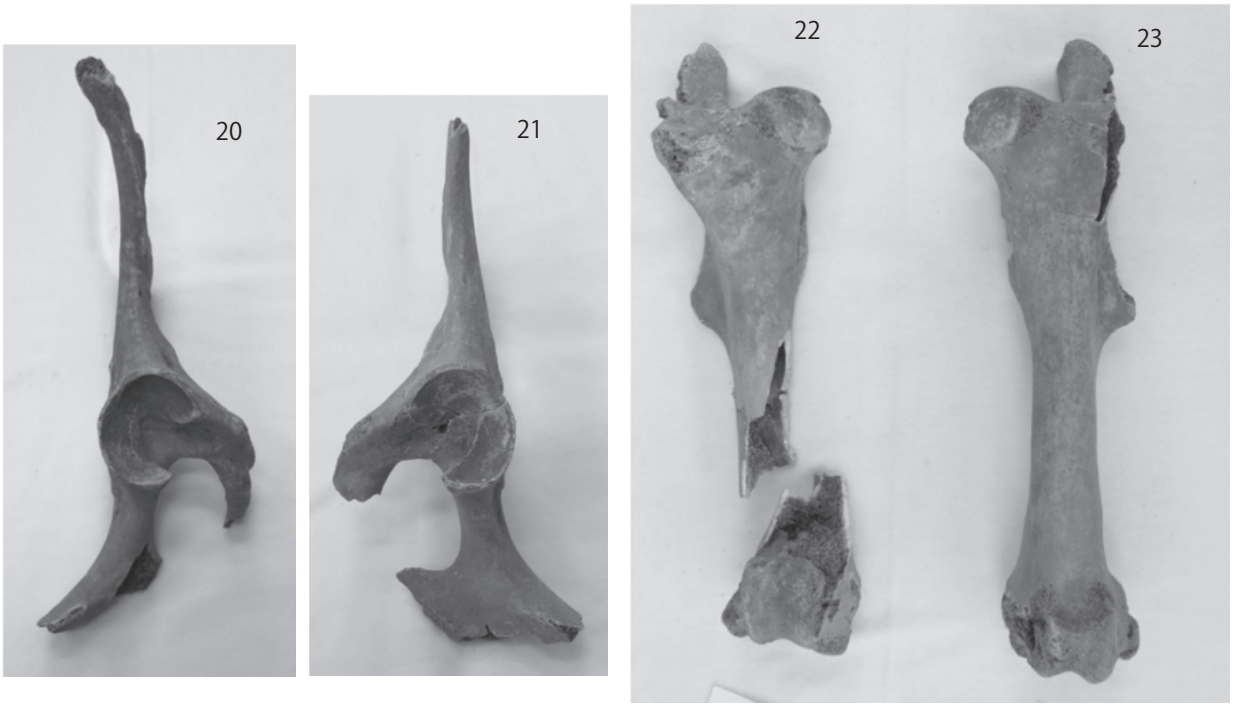


図５　第Ⅲ中手骨・第Ⅲ中足骨の計測図



1　橈尺骨　2　第Ⅱ＋Ⅲ中手骨　3　第Ⅲ中手骨　4　第Ⅳ中手骨　5　第Ⅲ基節骨　6　第Ⅲ中節骨
7　橈側手根骨　8　中間手根骨　9　尺側手根骨　10　副手根骨　11　第Ⅱ手根骨　12　第Ⅲ手根骨
13　第Ⅳ手根骨　14・18　上顎第３切歯　15　上顎第２切歯　16・17上顎第1切歯　19　環椎
１～13、17、18は左側　14～16は右側　１、３～６、19は前面　２、７～13は上面、14～18は下面



20、21　寛骨　22、23　大腿骨　20、22は右側　21、23は左側　全て前面

図版１　東畑遺跡　動物遺存体　ウマの前肢と後肢

1、2　脛骨　3　踵骨　4　距骨　5　中心足根骨　6　第Ⅳ足根骨　7　第Ⅲ足根骨　8　第Ⅰ＋Ⅱ足根骨
9　第Ⅳ足根骨　10　第Ⅲ足根骨　11　中心足根骨
1、3～8は右側　2、9～11は左側　1～4は前面　6～11は上面

12、18　第Ⅳ中足骨　13、15、17　第Ⅲ中足骨　14、16　第Ⅱ中足骨　19　第Ⅲ基節骨　20　第Ⅲ中節骨
21　膝蓋骨
12～15、19～21は右側　16～11は左側　12～14、16～21は前面　15は上面

図版２　東畑遺跡　動物遺存体　ウマの後肢

第２章　東畑遺跡出土の埋葬犬について

大阪府教育委員会
宮崎泰史

第１節　はじめに

今回、報告する資料は愛知県東海市東畑遺跡の調査によって出土した埋葬犬で、一部骨が遺漏しているものもほぼ全身骨格が揃っていた。時期は室町時代に比定され、全体像を知ることの出来る全身骨格は日本犬の形質を知るうえで、非常に良好な資料といえる。資料を詳細に分析、形態的特徴を把握することで、今後、中世の犬の形質や日本在来犬の系統を明らかにしていく上でも、基準資料としてきわめて重要な位置を占めるものと考えられる。

しかし、出土した犬骨には脆弱な部分もあり、骨の保存処理をしなければ消失してしまう状況が考えられたため、保存を最優先とし、分析（部位の同定や計測等）を行う前に、すべての骨について保存処理を行い、今後の研究材料を提供することを第一義とした。

第２節　資料の整理方法と記載について

Ｉ．資料化の方法とその手順

①資料の保存状況、出土点数の確認。現況は12ブロックに分割（No１～12）して取り上げられ、１つのコンテナに納められていた。

②取り上げ番号（No１～12）ごとに現状の写真撮影を行う。骨一つ一つに資料番号（1～86）を与える。

③骨に資料番号を与えるのと並行して、１点づつ骨をビニール袋にいれる。この時、ビニール袋の表面に資料番号、部位名を油性のマジックで記入する。さらに、ビニール袋の中には鉛筆で記入したラベルを入れて、各々の骨が混同しないよう慎重に心がけた。

④保管されていた資料は、劣化が進行しているものも認められた。このため、表面が脆弱な骨については保存処理として、エチルアルコールで洗浄後、硬化剤としてパラロイドB72（アセトン5％）を塗布・含浸した。

⑤硬化後は、破片の骨については接合し、骨に直接、資料番号をマーキングした。

⑥部位の同定を行い、解体痕跡（カットマーク）や骨折、病的変異について調べる。④の作業と平行して行った場合もある。

⑧原則としてすべての部位の骨を計測した（付表1～49）。

⑨写真撮影をおこなう。

II. 計測の方法

イヌの計測方法については「犬科動物骨格計測法」（斎藤1963）に従っている。ただし、出土した資料には頭蓋骨の吻端、下顎骨の先端や角突起、関節突起などが欠けている場合が多いので、これらの資料も出来るだけ他の犬骨と比較できるよう、新たに計測点を設け、計測項目を追加し、計測する上

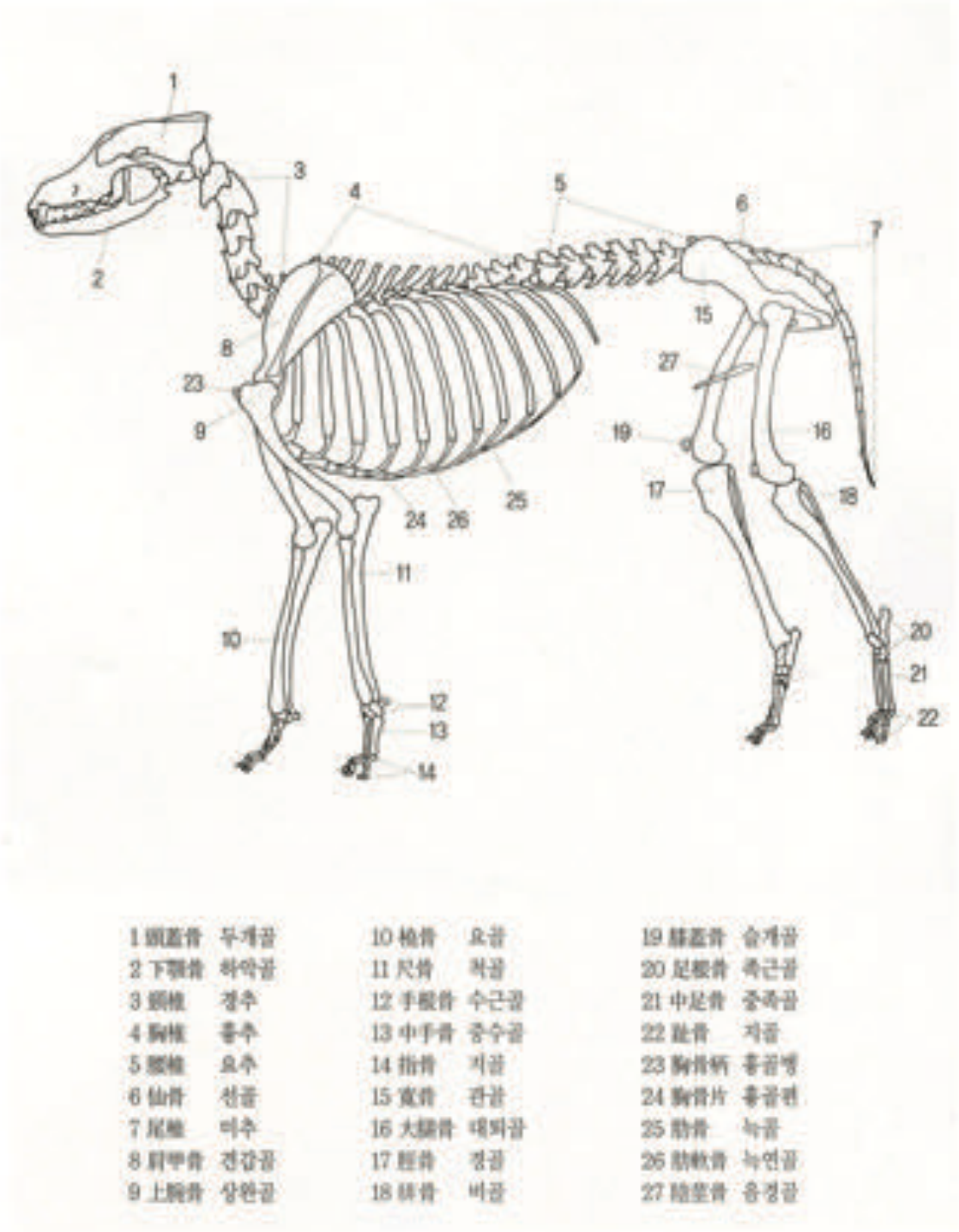


図１　イヌの全身骨格（宮崎 2011）

でのポイントについても詳述している（図６～12）。新規の計測点については、斎藤（1963）で使用している計測点の最終番号に続けて番号を付けている（宮崎2008・2011）。なお、左右の骨がある場合、いままでは一方の骨のみの計測値を載せている例が大半であったが、骨折などの影響により、四肢骨や前肢肢端や後肢肢端にどのような変化があるかを知るために原則的にすべての骨を計測することとした。

また、今回報告する資料の特徴を明確化するために、同時代の資料ではないが、良好な全身骨格のデーターが報告されている大阪府亀井遺跡（宮崎1994）出土の資料（亀井１号犬・２号犬）の計測値を合わせて併記した（付表１～49）。亀井犬は弥生時代中期後半（紀元前1世紀頃）の資料で、長谷部（1945）の５級区分で表示すると、１号犬は「中級の大」、２号犬は「中級の小」の大きさである。頭蓋骨の示数については（茂原信生1986）、解剖学用語については「犬の解剖学」（Miller 1979）、「新編家畜比較解剖図説」（加藤嘉太郎・山内昭二2003）を参考にしている。

III. 記載の方法

第３節のイヌの記述にあたっては、まず現況について触れている。次に頭蓋骨（舌骨を含む）、下顎骨、脊柱、肋骨、胸骨片、前肢、前肢肢端、後肢、後肢肢端の順に残存部位・大きさ・骨の特徴などについて触れ、主要な計測値を掲載している（表１）。イヌの大きさは、長谷部（1945）の５級区分で表記している（表２）。体高（地面から肩の最高点までの高さ）については、山内（1958）の推定式I式～III式で算出し、その平均値を採用している。

なお、脊柱には７個の頸椎、13個の胸椎、７個の腰椎、仙骨、約20個の尾椎がある。通常、第１頸椎は環椎、第２頸椎は軸椎と呼称されている。肋骨には通常13対の肋硬骨と肋軟骨があるが、一般に肋骨という場合は肋硬骨のことをさしている。ただし、肋軟骨が遺跡から出土する場合はきわめてまれである。胸骨片は第１～８胸骨片の８個で、第１胸骨片は胸骨柄、第８胸骨片は剣状突起とも呼称されている。今回は胸骨片を確認できなかった。

前肢には肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨がある（図10）。前肢肢端の骨には手根骨、中手骨、指骨、種子骨がある（図12）。手根骨には橈側手根骨、尺側手根骨、副手根骨、第１～４手根骨、長母指外転筋の種子骨がある。中手骨には第１～５中手骨がある。指骨には第１～５基節骨、第２～５中節骨、第１～５末節骨がある。種子骨は背側種子骨４個、掌側種子骨９個が中手骨と基節骨の間にある。

後肢には寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨がある（図11）。後肢肢端の骨には足根骨、中足骨、趾骨、種子骨がある（図12）。足根骨には距骨、踵骨、中心足根骨、第１～４足根骨、種子骨がある。中足骨には第２～５足手骨がある。趾骨には第２～５基節骨、第２～５中節骨、第２～５末節骨がある。種子骨は背側種子骨４個、底側種子骨８個が中足骨と基節骨の間にある。

図版については、頭蓋骨、下顎骨、脊柱（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨）、尾椎、前肢肢端、後肢肢端、舌骨、陰茎骨は縮尺2／3、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨は縮尺1／2とし、同一部位での大きさの比較検討ができるよう配慮している（図版１～７）。

第３節　東畑犬の分析

＜出土状況と現況＞（図2、写真1）

平成24年度調査７地点の北東コーナー寄りで検出された土坑SK7032に埋葬されていた。土坑は径0.77×0.56mの平面卵形を呈し、深さ約16cmをはかる。埋土は上下２層に分かれ、イヌの骨は下層から出土した。北東５mのところにはウマが埋葬されていた。

埋葬姿勢は頭位を西南西に置き、腹側を北に向け（右側を上）、顔は北西を向いている。前・後肢は

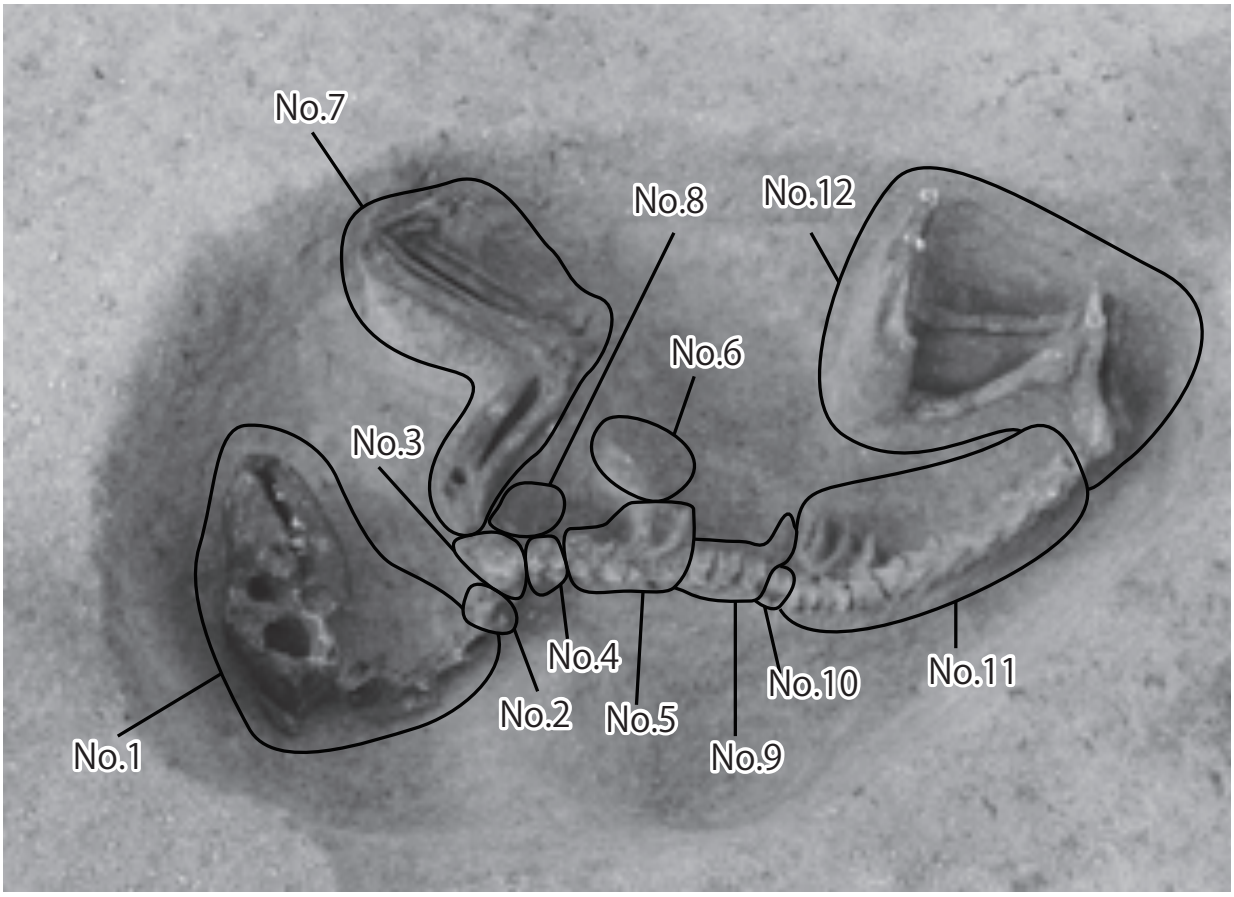


写真１　犬埋葬土坑（SK7032）の取り上げ番号

軽く屈曲させた状態で、ほぼ全身骨格が出土している（図２）。尾椎、胸骨片、肋骨の大半、前肢肢端の一部、後肢肢端は未確認であるが、埋葬時の状態を維持していた。おそらく、後世の攪乱及び調査時の採集漏れであろう。頭蓋骨の海抜高度は3.103mである。

陰茎骨（図版７a-76）の存在から、成犬の雄で、歯牙の咬耗程度、縫合がほとんど閉鎖していることから老犬と考えられた。

現況は12ブロックに分割（No１～12）して取り上げられ（写真1）、1つのコンテナに納められていた。そのうちNo４（第６・７頸椎、第１胸椎、左肩甲骨）、No５（第２頸椎～第６胸椎、右第４・５肋骨）は土ごと取り上げられ、交連した状態であった。砂層中に埋葬されていたにもかかわらず、骨の保存状況はやや不良で、肋骨をはじめとして、表面が破損している部分については脆弱な状態であった。なお、個々の骨の取り上げ番号については図２、詳細については表３～６を参照。

＜頭蓋骨＞（図版１、付表１・２）

大きさは、最大頭蓋骨長183.48+mmで、「中級の大」に相当する。外後頭隆起の後端、左右の鼻骨先端、左右の前頭骨頬骨突起端、後頭骨大孔上縁の一部、右頭頂骨・側頭骨・前頭骨の一部、右頸静脈突起、右頬骨、左右の翼突鈎は破損している。外前頭稜下方の隆起は顕著で、外前頭稜はNasion（前頭鼻骨縫合と正中線の交叉点）の3.6cm後方で矢状稜と合し、矢状稜は後方にいくにしたがい発達し、頭頂間突起に続く。外後頭隆起は後方に大きく突出する。鼻先から前頭骨にかけての凹み、すなわち額段（ストップ）はかなり小さい。

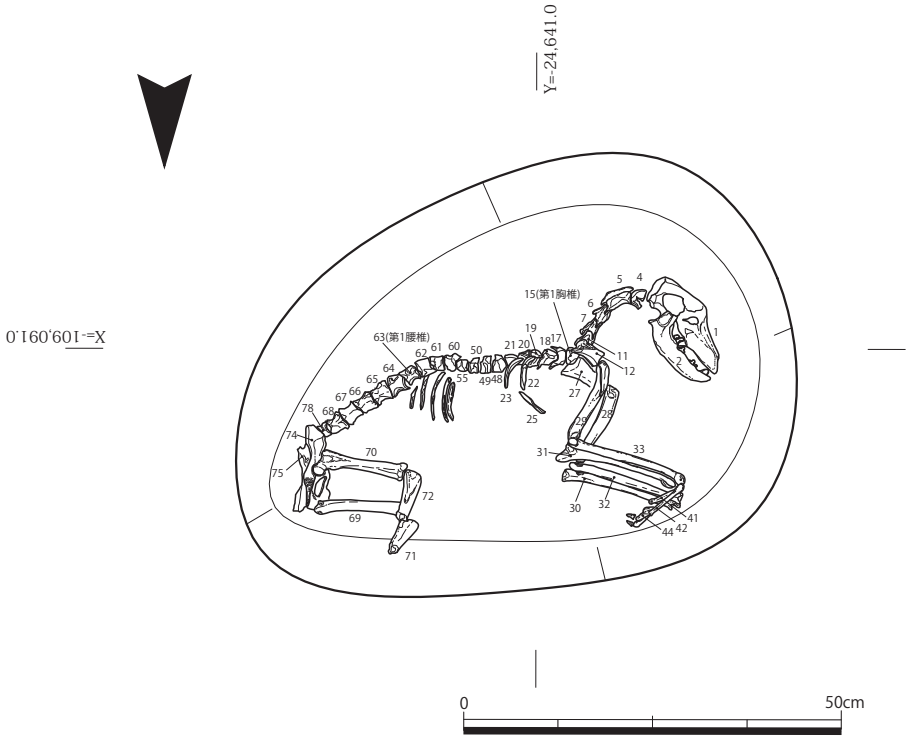


図２　SK7032 平面図（1/10）、埋葬犬の資料番号

歯牙については、歯槽面の残存状況が不良のため詳細に観察することは困難であった。左の歯牙は、第３切歯は釘植し、第３前臼歯、第１・２後臼歯は生前に脱落し、歯槽は閉鎖している。なかでも第１後臼歯の歯槽面はクレーター状に大きく窪んでいる。おそらく、第１後臼歯の脱落後、左の下顎第１後臼歯歯冠部が直接にふれることにより窪んだものと推測される。犬歯、第１前臼歯、第２前臼歯については、現状では歯冠は観察されず、失歯（後天的に脱落）、欠損であるのかは不明であるが、歯根は一部残存している。

右の歯牙は、第３切歯は遊離し、第１・２切歯、犬歯、第１～４前臼歯（歯槽面の残存状況が不良なため、正確ではないが、第４前臼歯の歯根は残存？）は生前に脱落し、歯槽は閉鎖している。舌骨は上舌骨2点を確認している（図版７a-８・９）

歯牙の摩耗状況及び、冠状縫合、上顎切歯縫合などの縫合がほとんど閉鎖（図６の１・brは確認できない）していることから、老犬と推定される。

体高は、最大頭蓋骨長から48.15cmと推定される。

＜下顎骨＞（図版２、付表３）

左の下顎骨は筋突起後縁、角突起後端、切歯歯槽部前端が破損する。第３切歯、犬歯、第３・４前臼歯、第・２後臼歯は釘植し、第３後臼歯は歯槽中より脱落。第１・２切歯、第１・２前臼歯は脱落（歯根は残存？）し、歯槽はほぼ閉鎖。第１後臼歯後位、第２後臼歯の頬側面及び舌側面の歯槽骨は退縮（クレーター型の骨吸収）し、歯根が露出する。第３切歯、犬歯、第３前臼歯（近・遠心頬側後頭）、第４前臼歯（近・遠心頬側咬頭）、第１後臼歯（近・遠心及び頬・舌側咬頭）、第２後臼歯（近・遠心及び頬・舌側咬頭）、第３後臼歯（近心頬側咬頭）の摩耗は象牙質に及ぶ。特に、犬歯、第１後臼歯

表1　東畑犬の主要な計測値一覧（mm）

	計測項目	計測点	計測値
頭蓋骨 1			
1	最大頭蓋長	i-pr	183.48+
3	基底頭蓋長I	b-pr	160.89
6	基底頭蓋長IV	25-pr	左168.82
8	頬骨弓最大幅	zy-zy	反転105
9	脳頭蓋長I	i-n	102.61+
13	前頭骨長	br-n	—
17	顔長I	pr-n	86.34
24	頭蓋幅I	eu-eu	反転53.44
25	頭蓋幅II	ae-au	反転64
26	最小前頭幅	fs-fs	33.83
27	前頭骨眼窩突起端距離	ect-ect	残43.65
28	最小眼窩間幅	ent-ent	38.08
30	吻幅I	7-7	39.71
37	バジオン・ブレグマ高	b-br	—
39	頭蓋高I	ba-bo	—
40	吻長I	pr-ns	左79.31
41	吻長III	pr-89	左58.48
43	硬口蓋最大長	pr-st	86.87
54	上顎歯槽縁最大幅	67 - 67	*63.76*
59	後頭三角幅	ot-ot	反転66.6
60	後頭三角高II	i-o	—
61	後頭三角最大高	i-b	—
64	吻高I	n-	—
75	上臼歯列長	78 - 93	—
下顎骨L 2			
1	下顎骨全長I	gnc-id	132.41++
2	下顎骨全長II	cm-id	132.34+
9	下顎枝高I	gov-cr	56.09
11	下顎枝幅	3-32	35.46
19	下顎体高III	10	29.19
22	下顎体高VI	13	22.68
25	下顎体厚I	37-38	13.47
26	咬筋窩深		9.25
27	下臼歯列長	39-31	*68.45*
肩甲骨R 12			
1	全長	1-2	残49.04
7	関節窩長	12-1	22.56
8	関節窩幅	14-15	16.64
上腕骨L 28			
1	全長I	1-2	144.44
2	全長II	33-2	140.37
3	上端最大前後径	3-4	34.33
4	上端最大幅	5-6	24.69
6	体中央横径	14-	12.92
8	下端最大幅径	17-18	29.88
尺骨R 31			
1	全長	1-2	166.52
2	体前後径	3-4	21.51
7	滑車厚	13-14	11.32

	計測項目	計測点	計測値
橈骨L 32			
1	全長	1-2	142.49
2	上端最大幅	3-4	15.49
3	上端最大前後径	5-6	11.04
6	体中央部幅	12-13	13.47
8	下端最大幅	15-16	21.55
8	下端最大幅径	17-18	12.68
寛骨L 4			
1	寛骨長	1-2	残122.88
5	腸骨最大幅	7-8	残38.58
6	腸骨翼最大厚	40-41	12.07
7	腸骨最小幅	13-14	18.52
9	寛骨臼窩前後径	3-17	19.51
大腿骨R 70			
1	全長I	1-2	158.47
2	全長II	34-33	158.95
3	上端最大横径	3-4	35.68
8	体中央横径	15-16	13.61
9	下端最大幅	17-18	28.32
脛骨L 71			
1	全長	1-2	残78.15
2	上端最大前後径	6-7	29.53
3	上端最大横径	8-9	28.66++
5	体中央横径	13-14	12.08
6	下端最大幅	15-16	—
7	下端最大前後径	17-18	—
第2中手骨R 40			
1	全長	1-2	47.63
2	上端横径	4-5	5.98
3	上端前後径	6-7	9.58
4	中部横径	8-9	6.09
6	遠位部最大横径	3-3	*10.72*
7	下端横径	12-13	*7.71*
8	下端前後径	14-15	6.53
第3中手骨R 41			
1	全長	1-2	54.95
2	上端横径	4-5	7.01
3	上端前後径	6-7	10.41
4	中部横径	8-9	5.75
6	遠位部最大横径	3-3	8.18
7	下端横径	12-13	7.29
8	下端前後径	14-15	7.87
第4中手骨R 42			
1	全長	1-2	残42.51
2	上端横径	4-5	6.01
3	上端前後径	6-7	9.88
4	中部横径	8-9	5.79
6	遠位部最大横径	3-3	—
7	下端横径	12-13	—
8	下端前後径	14-15	—

数値の＋は破損小　　数値の±は破損小で，復原値　　*斜体は推定部での計測値*

（近心舌側、近・遠心頬側咬頭）、第２後臼歯（歯頸部付近まで）の摩耗は著しい。右の下顎骨に比べて歯牙（特に第１～２後臼歯）の摩耗は進行している。第１後臼歯は後方が内側に捻転し、近遠心径20.32mm、前位の頬舌径7.26mmをはかる。

筋突起の後面は内湾して、後方に立ち上がる。咬筋窩はよく発達し、筋突起の筋稜、関節稜は明瞭である。下顎底は滑らかな曲線を描き、歯槽面は第３後臼歯から犬歯にかけて弓なりに立ち上がる。

右の下顎骨は下顎枝、切歯歯槽部前端が破損する。第２・３切歯、犬歯、第１・２～４前臼歯、第１後臼歯は釘植。第３前臼歯は歯根以外は破損（歯根は骨体に残存）。第１切歯、第２・３後臼歯は脱落し、歯槽は閉鎖。X線撮影を実施していないので、第２・３後臼歯が生前に脱落したかは断定できない。第４前臼歯後位、第１後臼歯周辺の歯槽骨は退縮（クレーター型の骨吸収）し、歯根が露出する。第３切歯、犬歯、第２前臼歯（近心頬側咬頭）、第４前臼歯（近心頬側咬頭）、第１後臼歯（パラコニッド、近心頬側咬頭）の摩耗は象牙質に及ぶ。特に、犬歯の摩耗は著しい。第４前臼歯は外側に捻転するなど歯列の乱れが認められた。第２前臼歯は近遠心径8.24mm、頬舌径4.06mmをはかる。

年齢については、X線撮影を実施していないものの、歯牙の咬耗程度から老犬と考えられる。大きさは中級の大で、下顎骨最大長から推定体高は46.27cmをはかる。下顎骨は、同じ「中級」の大きさの亀井１号犬はもとより慶州１号犬「大級」（宮崎2011）よりも下顎体高及び体厚は大きいのが特徴である。

＜脊柱＞（図版３～５、付表4～31）

頸椎（図版３）、胸椎（図版４）、腰椎・仙骨（図版５）はすべて揃う。ただし、第９胸椎は年代測定試料としてコラーゲン抽出を行ったため、粉砕され、現存しない（放射性炭素年代測定の結果、1302～1412年）。尾椎については1点を確認している。

頸椎は、第５頸椎の椎体の後縁が病的変異により、２～３mmほど下方および左右に膨隆し、第６頸椎の椎体前端をわずかに覆う。第６頸椎の椎体の前・後縁は病的変異により、１～３mmほど下方および左右に膨隆し、隣接する頸椎の椎体前・後端をわずかに覆う。第７頸椎の椎体の前縁は病的変異により、１～３mmほど下方および左右に膨隆する。

胸椎は、第１胸椎の椎体腹面前縁、第２胸椎の椎体腹面後縁、第３～８・10～13胸椎の椎体の腹面前縁～後縁は病的変異により、２～６mmほど下方および前後に膨隆し、隣接する胸椎の椎体前・後端をわずかに覆う。第２胸椎の後関節面、第３～８・10胸椎の前・後関節面は前方及び内外に肥大化し、第12・13胸椎の前関節面は前後上下に肥大化する。前後の胸椎（第２～13胸椎）が密着することで、肋骨頭が挟まれ、その影響で第２～８胸椎の前・後肋骨窩がわずかに窪む。なかでも第５胸椎の椎窩、第６・10胸椎の椎頭は圧迫によって摩耗し、海綿質が一部露出する。

腰椎は、頸椎、胸椎と同様に、棘突起、横突起はいずれも二次的に破損している。いずれの乳頭関節突起上端も内側に反る。そのため前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっており、上下左右の動きはかなり限定されていたと考えられる。第１～５腰椎の椎体の腹面前縁から後縁、第６腰椎の椎体の腹面前縁は病的変異により、３～５mmほど膨隆する。

＜肋骨・胸骨＞

肋骨は細片化が著しいので、ほとんど復元することができなかった。左は９点、右は４点を確認して

いるが、右第４・５肋骨以外は部位の同定は不可能であった。胸骨片は未確認である。採集漏れの可能性もあるが、元々遺存することがまれであるため、物理的に消滅した可能性も考えられた。

＜前肢＞（図版６a、付表33～36）

肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨は左右とも揃っている。左肩甲骨は近位端が破損し、関節窩内縁は病的変異により、骨増殖によって、内側面に膨隆する。右肩甲骨は遠位部の関節上結節周辺のみ遺存している。左上腕骨は小結節が破損し、上腕骨頸と上腕骨頭の境の外面は病的変異により、骨増殖によって、膨隆。右上腕骨は三角粗面の一部が破損する。右橈骨は遠位端の前位が一部破損する。左尺骨は遠位部が破損している。

大きさは「中級の大」で、体高は、上腕骨（144.44mm）及び橈骨（142.49mm）、尺骨最大長（166.52mm）から約45cmと推定される。

＜前肢肢端＞（図版７a、付表37～44）

左の前肢肢端は副手根骨、右の前肢肢端は橈側手根骨、尺側手根骨、副手根骨、第３手根骨、第１～４中手骨、第２・３基節骨を確認している。右尺側手根骨は内側の一部、右第４中手骨は遠位端の一部が破損する。右第２・３中手骨骨幹部下端の内外縁、右第2基節骨近位端の内外縁はいずれも病的変異により、骨増殖がみられ、膨隆する。

＜後肢＞（図版６b、付表45～49）

寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨は左右とも揃っているが、膝蓋骨は左のみ遺存。左寛骨は腸骨背面の一部、腸骨稜、恥骨櫛・結節、座骨の後縁が破損する。右寛骨は腸骨腹面の一部、腸骨稜、恥骨櫛・結節、小座骨切痕、座骨の後縁が破損する。左大腿骨の膝蓋面は内外縁上位、小転子、大転子の外面が破損し、右大腿骨は膝蓋面内・外縁上位が破損している。脛骨の遠位部は二次的に破損しいている。腓骨はいずれも骨幹部のみ遺存している。大腿骨、脛骨の大きさは「中級の大」で、大腿骨最大長（158.47mm）から推定体高は、約46cmとなる。

＜後肢肢端＞

いずれも未確認である。おそらく、採集もれと考えられる。

第４節　小結

・SK7032から出土した埋葬犬は、老犬で、性別は雄である。時期は放射性炭素年代測定の結果、室町時代（1302～1412年）と考えられる。

・大きさは長谷部言人氏の区分（表２）の「中級」の大で、推定体高は頭蓋骨最大長から48.45cm、下顎骨最大長から46.27cm、前肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨）最大長から約45cm、大腿骨最大長から約46cmをはかる。頭蓋骨、下顎骨の最大長から推定した体高に対して、四肢骨長から推定した体高はやや小さい値を示す。

・時代は異なるが、同程度の大きさの亀井１号犬と対比すると頭蓋骨、下顎骨の最大長は四肢骨長をやや上回り、頭の大きいタイプといえる（図３）。また、亀井１号犬と比べて全体的に胸椎の前関節突起間全幅及び後関節突起間全幅・椎弓根長・椎体横径・前端最大幅は大きく、椎窩の横径、高径、前端最大幅は小さな値を示す。さらに腰椎は第１腰椎以外は後関節突起間全幅については大きい。

・脊柱（頸椎、胸椎、腰椎）、肋骨の一部、左肩甲骨、左上腕骨、右第２・３中手骨、右第２基節骨に病的変異による骨増殖が認められた。
・下顎骨は、同じ「中級」の大きさの亀井１号犬はもとより慶州１号犬「大級」（宮崎2011）よりも下顎体高及び体厚は大きいのが特徴である。
・各示数のうち、頭蓋示数、頭骨基底示数、吻長示数は亀井犬と同程度の示数を示すものの、横頭顔示数Ⅱ、眼窩後示数、顔面示数、口蓋示数に変異幅が認められ、顔幅がやや広く、顔付きの短いタイプといえる（図４・５）。
・骨表面は斑紋状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。火を受けたのであろうか。

参考・引用文献

・加藤嘉太郎・山内昭二　2003「新編家畜比較解剖図説」株式会社養賢堂
・斎藤弘吉　1963『犬科動物骨格計測法』私家版
・茂原信生　1986『東京大学総合研究資料館所蔵長谷部言人博士収集犬科動物資料カタログ』東京大学総合研究資料館標本資料報告第13号
・東亜大学校博物館　2008「勒島遺蹟C地区 埋葬犬骨と包含層出土の犬骨」『泗川　勒島CⅡ』古蹟調査報告書第三十九冊
・長谷部言人　1945「石器時代日本犬」（解説・茂原信生　2009『動物考古学』第26号　動物考古学研究会
・長谷部言人　1952「犬骨」『吉胡貝塚』文化財保護委員会
・宮崎泰史　1994「亀井遺跡出土のイヌについて（Ⅱ）」『亀井遺跡Ⅱ』財団法人大阪文化財センター
・宮崎泰史　2008「勒島遺蹟C地区埋葬犬と包含層出土の犬骨」『泗川　勒島CⅡ』古蹟調査報告書第三十九冊
・宮崎泰史　2011「国立慶州博物館内連絡通路内井戸出土犬骨」『国立慶州博物館内井戸動物遺体』国立慶州博物館学術調査報告第25冊
・Miller, M. E.（訳者代表　和栗秀一）　1970『犬の解剖学』学窓社
・山内忠平　1958「犬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告』第７号　鹿児島大学

表 2　イヌの頭骨、下顎骨、および四肢骨の級別（mm）（長谷部 1945）に一部加筆

項目＼形種	小	中小	中	中大	大	本書の項目・計測点	
最大頭骨長	～155	156～170	171～185	186～200	201～	最大頭蓋長	i-pr
底方頭骨長	～140	141～153	154～166	167～179	180～	基底頭蓋長I	b-pr
脳頭骨長	～83	84～93	94～103	104～113	114～	脳頭蓋長I	i-n
脳頭骨底長	～83	84～92	93～100	101～108	109～		
最大頭骨幅	～54	55～59	60～64	65～69	70～	頭蓋幅II	au-au
脳頭骨高	～46	47～50	51～54	55～58	59～	頭蓋高I	ba-bo
後頭幅	～57	58～62	63～67	68～72	73～	後頭三角幅	ot-ot
顔長	～76	77～84	85～92	93～100	101～	顔長I	pr-n
上顎幅	～52	53～57	58～62	63～67	68～	上顎歯槽縁最大幅	67-67
吻長（眼窩）	～64	65～72	73～80	81～83	89～	吻長I	pr-oo
前吻長	～47	48～53	54～59	60～65	66～		
吻幅	～32	33～36	37～40	41～44	45～	吻幅I	7-7
吻高	～36	37～40	41～44	45～48	49～	吻高I	n-
鼻骨長	～48	49～59	56～62	63～69	70～	鼻骨長	n-9
鼻孔幅	～18	19～21	22～24	25～27	28～		
鼻前槽高	～26	27～30	31～34	35～38	39～		
外口蓋長	～77	78～84	85～91	92～98	99～	硬口蓋最大長	pr-st
口蓋長	～72	73～79	80～86	87～93	94～	硬口蓋長	63-64
上臼歯列長	～52	53～57	58～62	63～67	68～	上臼歯列長	78-93
下顎骨長（小頭）	～113	114～124	125～135	136～146	147～	下顎骨全長II	cm-id
枝高	～47	48～52	53～56	57～60	61～	下顎枝高I	gov-cr
枝幅	～27	28～31	32～35	36～39	40～	下顎枝幅	3-32
体高M2後	～21	22～24	25～27	28～30	31～	下顎体高II	9
同M1位	～20	21～23	24～26	27～29	30～	下顎体高III	10
同M1前	～19	20～22	23～25	26～28	29～	下顎体高IV	11
下臼歯列長	～60	61～65	66～70	71～75	76～	下臼歯列長	39-31
上膊骨最大長	～120	121～135	136～150	151～165	166～	上腕骨全長I	1-2
橈骨最大長	～115	116～130	131～145	146～160	161～	橈骨全長	1-2
尺骨最大長	～140	141～155	156～170	171～185	186～	尺骨全長	1-2
股骨最大長	～135	136～150	151～165	166～180	181～	大腿骨全長II	34-33
脛骨最大長	～130	131～145	146～160	161～175	176～	脛骨全長	1-2

長谷部言人、1945「石器時代日本犬」（解説：茂原信生2009『動物考古学』第26号　動物考古学研究会）

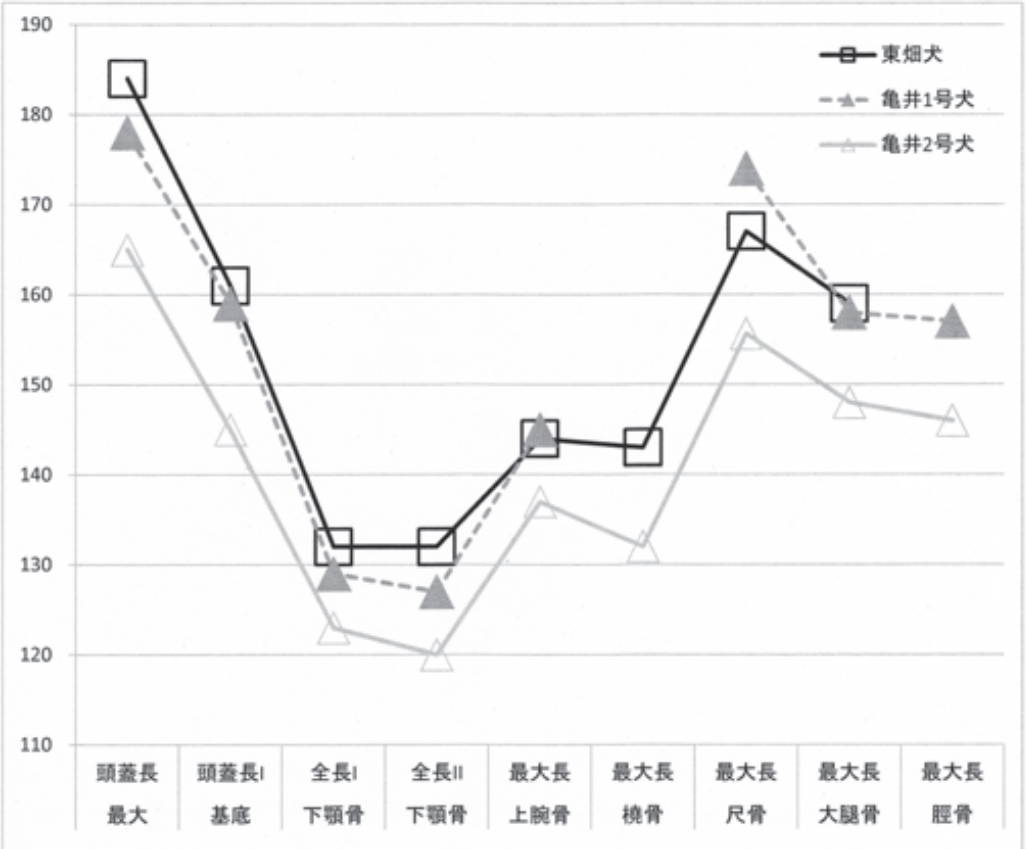


図 3　東畑犬、亀井犬の主要な骨の最大長の比較（単位は mm）

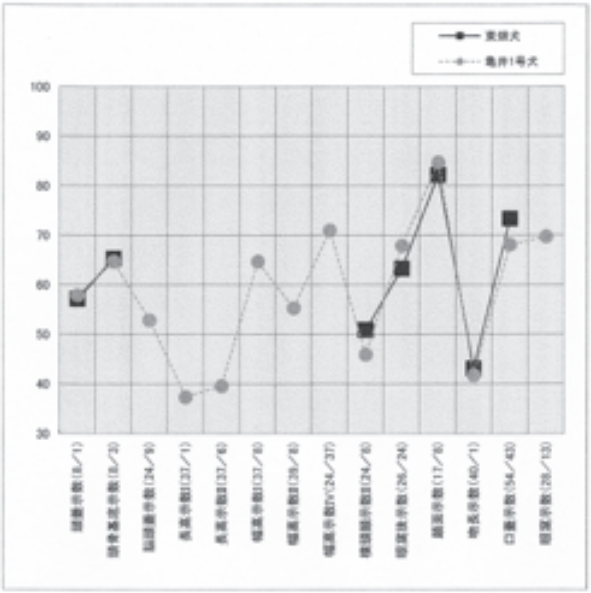


図4　東畑犬と亀井1号犬（♂）の頭蓋骨の示数比較

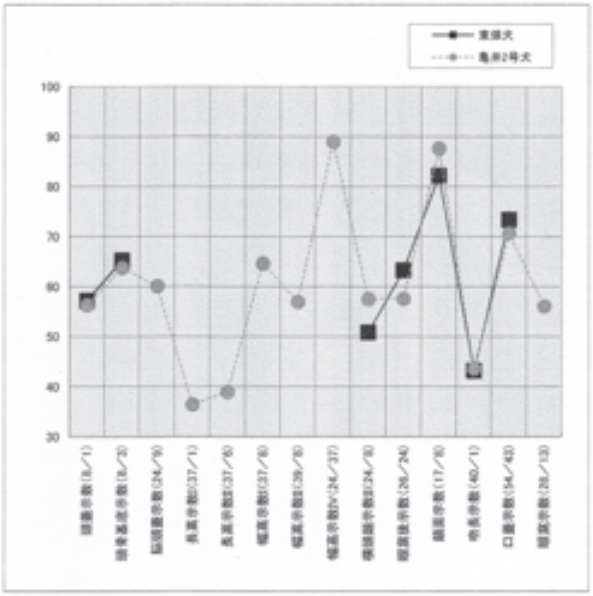
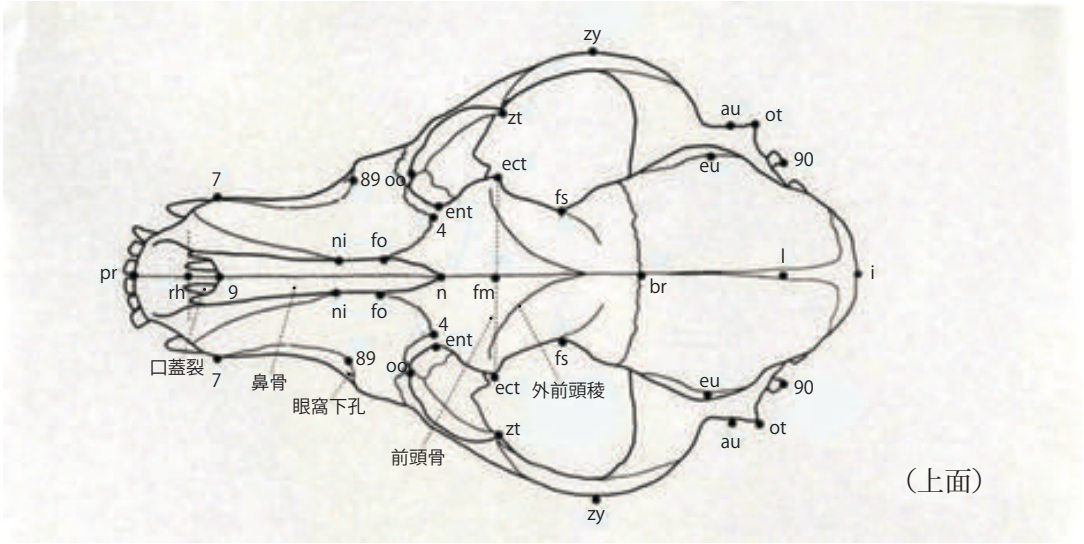
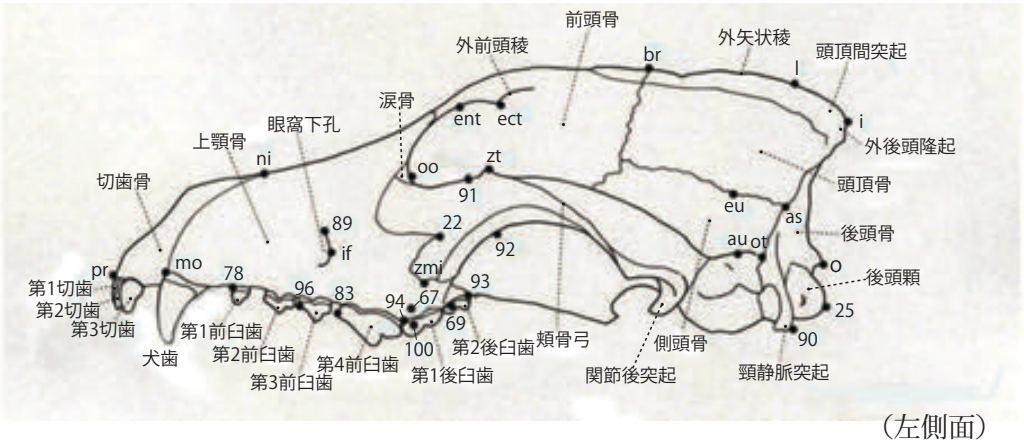


図5　東畑犬と亀井2号犬の頭蓋骨の示数比較





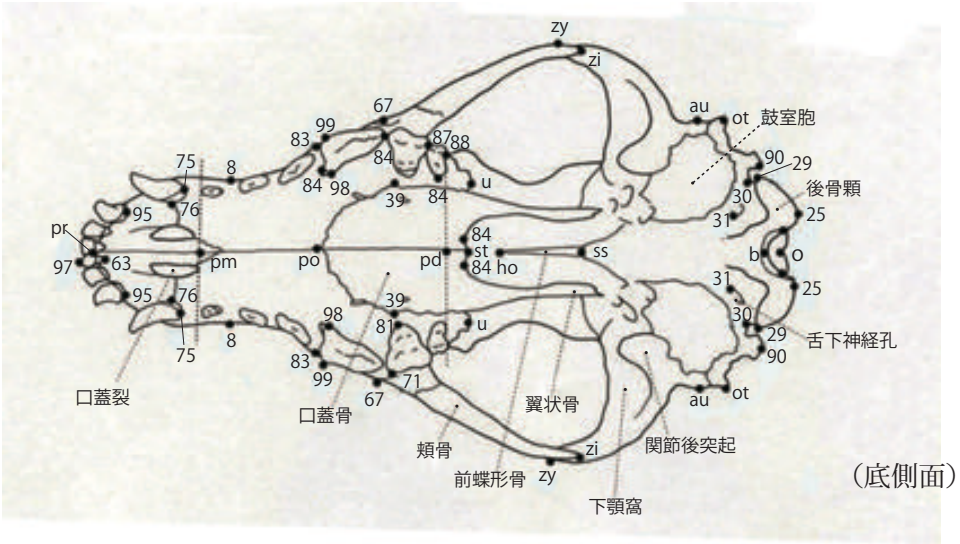


図６　イヌの頭蓋骨 計測点

（上面）
pr.　左右の第1切歯歯槽最前端を結ぶ線と正中線の交叉点（Prosthion）プロスチオン
i.　外頭後隆起の後端（Inion）イニオン
l.　人字縫合（三角縫合）と矢状縫合が交わる点（Lambda）ラムダ
br.　冠状縫合と矢状縫合が交わる点（Bregma）ブレグマ
ot.　乳様突起の最下端（Otion）オテイオン
au.　外耳孔上縁の中央点（Auriculare）アウリクラーレ
eu.　頭頂側頭（鱗状）縫合上の最外側端（Euryon）エウリオン
fs.　前頭骨の頬骨（顴骨）突起の後方の最狭点（Frontostenion）
zy.　頬骨（顴骨）弓最外側点（Zygion）ジギオン
ect.　前頭骨の頬骨（顴骨）突起の最外尖端（Ectorbital）エクトオルビターレ
ent.　眼窩縁の上縁の最内側点（Entorbital）エントオルビターレ
oo.　眼窩縁の前縁の最前点（Orbitalorale）
fm.　左右の前頭骨頬骨突起の最外尖端を結ぶ線と前頭間縫合との交叉点（Frontomediale）
fo.　前頭鼻骨縫合の前端（Frontorale）
n.　前頭鼻骨縫合と正中線の交叉点（Nasion）
ni.　切歯（顎間）骨の鼻骨突起の後尖端（Nasointermaxillare）
rh.　左右の鼻骨の鼻突起を結ぶ線と正中線と交叉する点（Rhinion）リニオン
zt.　頬骨（顴骨）の前頭突起の先端（Zygomaticotemporale superior）
4　前頭上顎縫合の最後方縁
7　犬歯の歯槽外縁
9　鼻骨間縫合側における前縁端
89　眼窩下孔の上縁
90　頸静脈突起の最後方点

（左側面）
mo.　上顎切歯（顎間）縫合の最前端（Maxilloorale）
if.　眼窩下孔外側後縁中央点（Infraorbitale）
zmi.　頬（顴）骨上顎縫合の最下点（Zygomaxillare inferior）
as.　人字縁（後頭三角縁）と頭頂側頭縫合との交叉点（Asterion）アステリオン
22　上顎骨の頬骨突起端
25　後頭顆の最後方端
69　第2後臼歯の前突起歯槽外縁
78　第1前臼歯の歯槽前縁
83　第4前臼歯の外側歯冠前縁
91　頬骨の眼窩縁最凹部
92　頬骨の眼窩縁最凹部に対応し、眼窩縁～咬筋縁までの最短距離を計測する咬筋縁の計測点
93　第2後臼歯の頬側遠心根の歯槽後縁
94　第4前臼歯の歯槽後縁および第1後臼歯の歯槽前縁
96　第3前臼歯の歯冠前縁
100　第1後臼歯の歯槽外縁

（底面）
pm.　左右の第1前臼歯歯槽前縁を結ぶ線と正中線との交叉点（Pramolare）
po.　口蓋上顎縫合前縁と正中口蓋縫合との交叉点（Palatinoorale）
pd.　左右の第2後臼歯の歯槽後縁を結ぶ線と正中線との交叉点（Postdentale）
st.　口蓋骨の鼻棘の後尖端（Staphylion）スタフィリオン
ho.　前蝶形骨体部の前尖端（Hormion）
ss.　蝶間軟骨結合と正中線との交叉点（synsphenion）
zi.　頬（顴）弓底面の側頭頬骨縫合の最後点（Zygotemporale infeirior）
b.　後頭骨大孔の顆間切痕の中央部（大後頭孔の下縁の正中点）（Basion）バジオン
o.　後頭骨大孔上縁の中央部（Opisthion）オピスティオン
u.　上顎骨の翼状突起後尖端（Urnion）
8　上顎骨の歯槽外縁最狭部
29　後頭顆の最外端
30　後頭顆の頸部最狭部（腹顆窩の外縁最狭部）
31　舌下神経孔の内縁
39　口蓋骨の最外端
59　後頭骨大孔の外縁
63　第1切歯の歯槽後縁
64　口蓋骨の骨口蓋後縁
67　第4前臼歯と第1後臼歯間の歯槽骨外側面
71　第1後臼歯の前突起外縁
75　犬歯の歯槽後縁
76　犬歯の歯槽内縁の縫合部
80　第4前臼歯の歯冠後縁及び第1後臼歯の歯冠外側前縁
81　第1後臼歯の歯冠内側縁
82　第2後臼歯の歯冠内側縁
84　第4前臼歯の内側歯冠前縁
87　第1後臼歯の歯冠外側後縁及び第2後臼歯の歯冠外側前縁
88　第2後臼歯の歯冠外側後縁
95　第3切歯の歯槽後縁
97　第1切歯の歯冠前縁
98　第4前臼歯の歯冠内側縁
99　第4前臼歯の歯冠外側縁

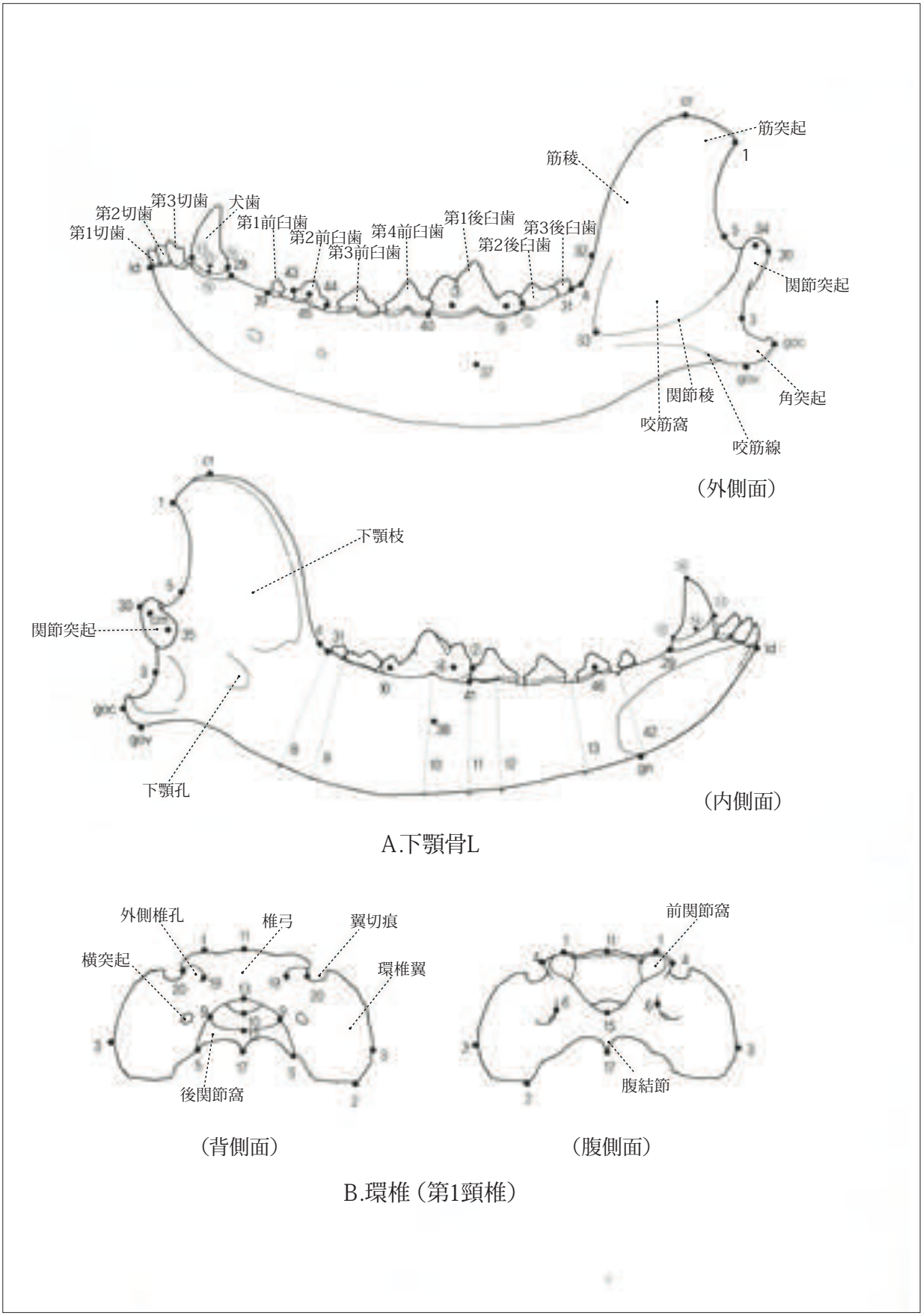


図７　イヌの下顎骨、環椎 計測点

A. 下顎骨L

（外側面）
goc. 角突起の最後方尖端（Gonion caudale）ゴニオンカウダーレ
gov. 角突起の下縁最下端（Gonion ventrale）ゴニオンベントラーレ
cr.　筋突起の最高点（Corouion）コロニオン
id.　左右の第1切歯の歯槽最前端を結ぶ線と正中線の交叉点（Infradentale ）インフラデンターレ
1　筋突起の後端
3　関節突起より角突起に至る縁の最凹点
4　下顎枝の前縁下部
5　下顎切痕下方の内縁
29　犬歯の歯槽後縁
30　関節突起最後方点
31　第3後臼歯の歯槽後縁
32　下顎枝の前縁
33　咬筋窩前縁
34　関節突起外端
37　第1後臼歯中央下方における下顎体の外端
39　第1前臼歯の歯槽前縁
40　第4前臼歯の歯槽後縁
43　第2前臼歯の歯冠前縁
44　第2前臼歯の歯冠後縁
45　第2前臼歯の歯冠外縁
①　第1後臼歯の歯冠後縁
③　第1後臼歯の前根部に属する歯冠外縁
⑨　第1後臼歯の後歯根部に属する歯冠外縁
⑪　犬歯の歯冠前縁
⑫　犬歯の歯冠後縁
⑬　犬歯の歯冠外縁
⑮　犬歯の歯頸部外縁中央点

（内側面）
cm.　関節突起の後面中央点（Condylion mediale）コンデイリオンメデイアーレ
gn.　下顎体下縁の下面前端（すなわち下顎連合面）の後方下点（Gnathion）グナティオン
8　第3後臼歯の歯槽後縁での下顎体の高さ
9　第2後臼歯の歯槽後縁での下顎体の高さ
10　第1後臼歯の中央歯槽の上縁での下顎体の高さ
11　第1後臼歯・第4前臼歯間の中央歯槽上縁での下顎体の高さ
12　第4前臼歯の中央歯槽上縁での下顎体の高さ
13　第2前臼歯・第3前臼歯間の中央歯槽上縁での下顎体の高さ
35　関節突起内端
38　第1後臼歯中央下方における下顎体の内端
41　第1後臼歯の歯槽前縁
42　第1前臼歯・第2前臼歯間の中央歯槽上縁での下顎体の高さ
46　第2前臼歯の歯冠内縁
②　第1後臼歯の歯冠前縁
④　第1後臼歯の前根部に属する歯冠内縁
⑩　第1後臼歯の後歯根部に属する歯冠内縁
⑪　犬歯の歯冠前縁
⑫　犬歯の歯冠後縁
⑭　犬歯の歯冠内縁
⑯　犬歯の歯冠上縁

B. 環椎（第1頸椎）

1　前関節窩上縁最前端
2　環椎翼の後縁端
3　環椎翼の外縁
4　前関節窩の外端
5　後関節窩の外端
6　椎体の最狭部
9　後椎孔の外縁
10　前椎孔の下縁
11　背弓の前縁中央
12　後椎孔の下縁
13　背弓の後縁中央
15　腹弓の前縁中央
17　腹結節の後端
19　外側椎孔の内縁
20　翼切痕の内縁

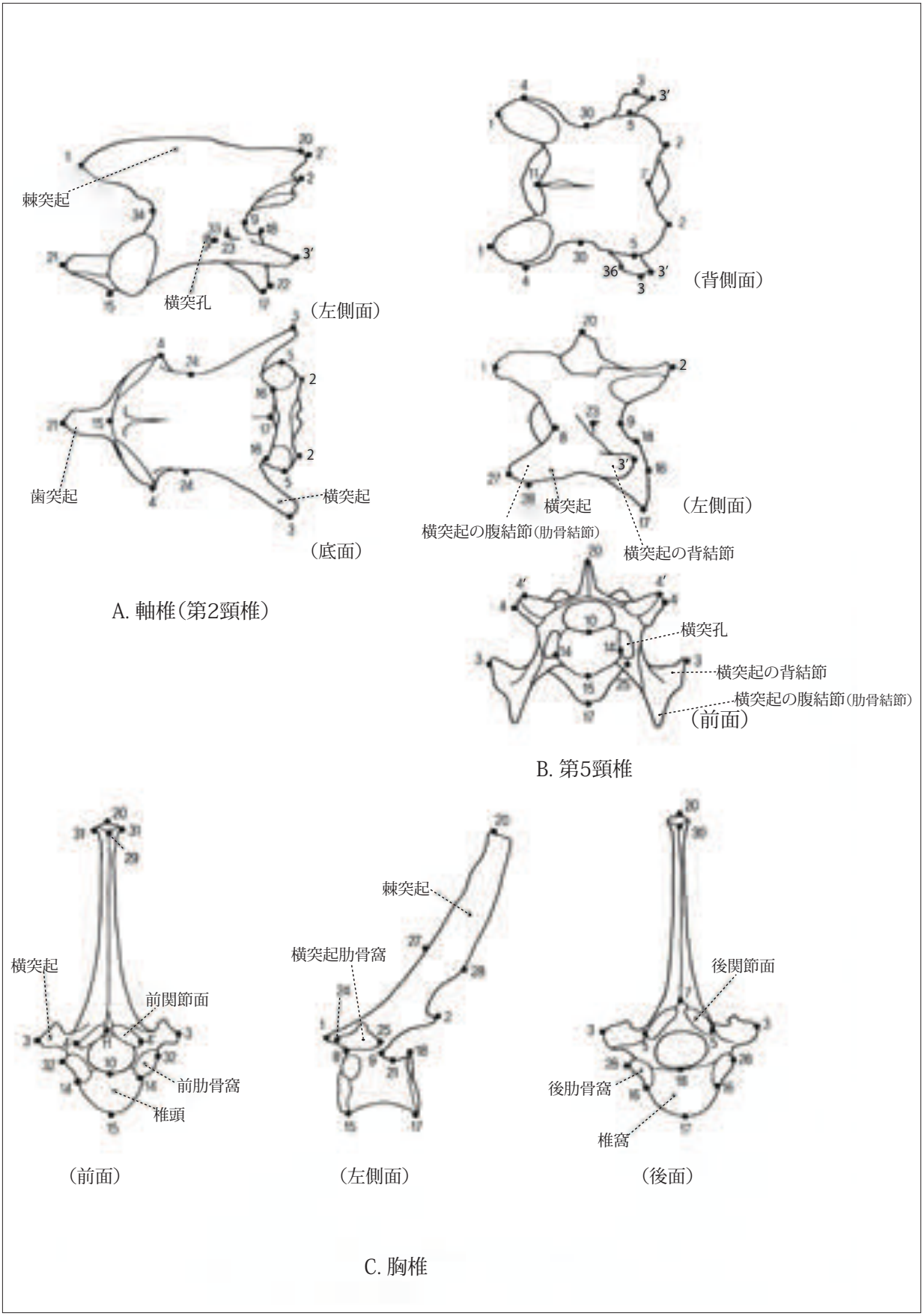


図８　イヌの軸椎、第５頸椎、胸椎 計測点

A. 軸椎（第２頸椎）

1　棘突起の前端
2　後関節突起の後端
2′ 棘突起の後端
3　横突起の外端
3′ 横突起の後端
4　前関節突起の外端
5　後関節突起の外端
8　前椎孔の前端の外縁
9　後椎孔の後端の外縁
15　椎頭の下縁
16　椎窩の外縁
17　椎窩の下縁
18　椎窩の上縁
20　棘突起の後方最上端
21　歯突起の最前端
22　椎窩の後端
23　横突孔の後方の外縁最凹点
24　横突起の基部
33　横突孔の前方の外縁最凹点
34　前椎孔の前端の最凹点

B. 第５頸椎（第3〜7頸椎にも適用）

1　前関節突起の前端
2　後関節突起の後端
3　横突起（背結節）後位の外端
3′ 横突起（背結節）後位の後端
4　前関節突起外端
4′ 前関節面の外端
5　後関節突起外端
7　椎弓板の後縁の中央点
8　横突孔の前方の外縁最凹点
9　後椎孔後方の外縁最凹点
10　椎頭の上縁
11　椎弓板の最前端
14　椎頭の外縁
15　椎頭の下縁
16　椎窩の外縁
17　椎窩の下縁
18　椎窩の上縁
20　棘突起の最高端
23　横突孔の後方の外縁最凹点
25　横突起の前縁の最凹部点
26　横突起の後縁の最凹部点
27　横突起腹結節前位の前端
28　横突起腹結節前位の外端
29　横突起腹結節後位の外端
30　椎弓板の上面中央の最狭点
31　椎体の後位の最狭点
35　横突起（腹結節）後位の後端
36　横突起（背結節）の前端

C. 胸椎

1　前関節突起の前端
2　後関節突起の後端
3　横突起の外端
4　前関節突起の外端
4′ 前関節面外端
5　後関節突起外端
7　椎弓最後方点中央
8　前椎孔の前端の外縁
9　後椎孔の後端の外縁
10　椎頭の上縁
11　椎弓最前方点中央
14　椎頭の外縁
15　椎頭の下縁
16　椎窩の外縁
17　椎窩の下縁
18　椎窩の上縁
20　棘突起の最高端
21　椎体の後位の最狭点
22　横突起の前縁の最凹部点
23　横突起の後縁の最凹部点
24　横突起の前端
25　横突起の後
26　椎体後端の外縁
27　棘突起の最大前後径を計測する位置での棘突起前縁
28　棘突起の最大前後径を計測する位置での棘突起後縁
29　棘突起上端の前縁
30　棘突起上端の後縁
31　棘突起の前端の外縁
32　椎体前端の外縁

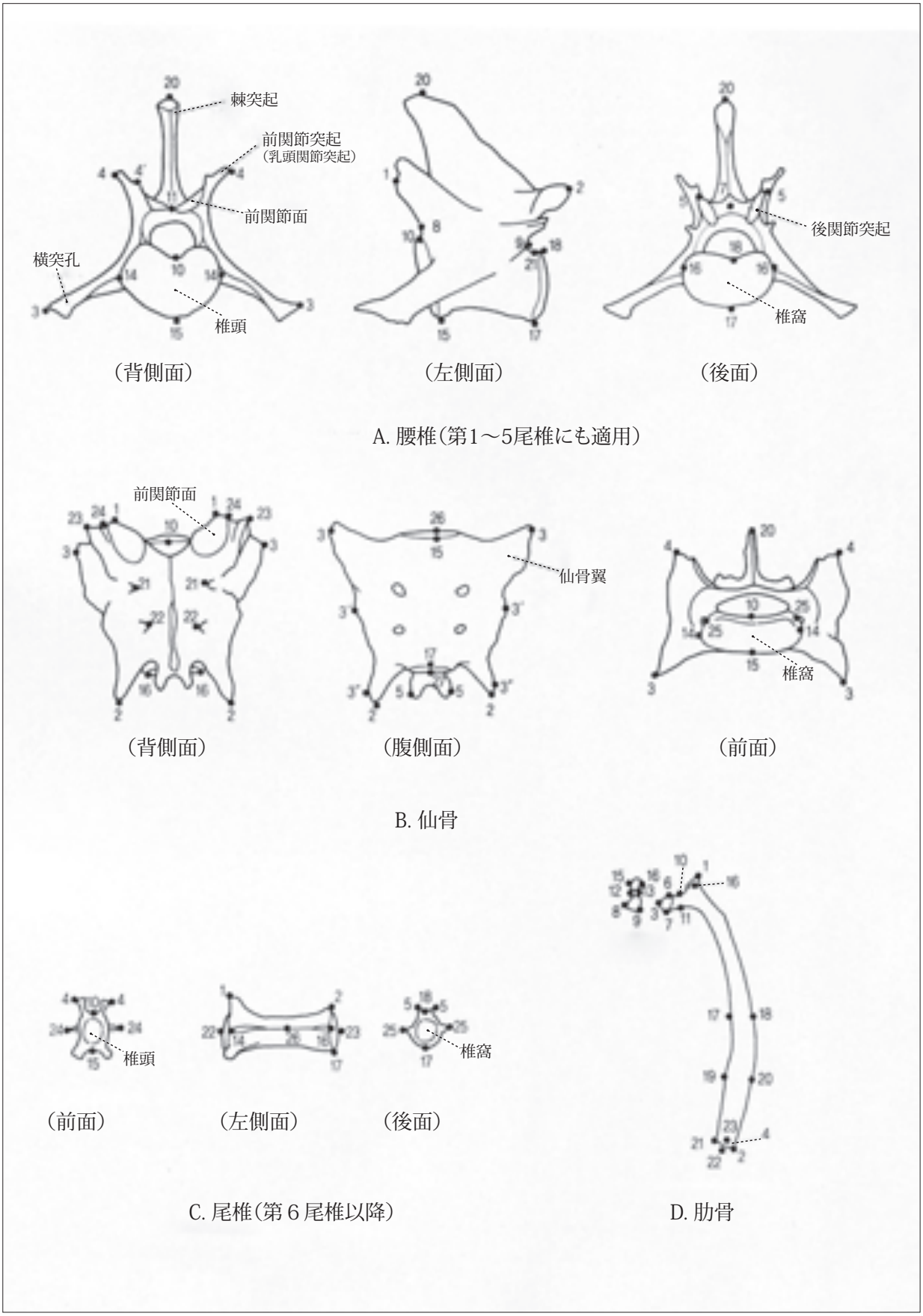


図９　イヌの腰椎、仙骨、尾椎、肋骨 計測点

A. 腰椎（第1～5尾椎にも適用）

1　前関節突起の前端
2　後関節突起の後端
3　横突起の外端
4　前関節突起の外端
4′ 前関節面の外端
5　後関節突起外端
7　椎弓最後方点中央
8　前椎孔の前端の外縁
9　後椎孔の後端の外縁
10 椎頭の上縁
11 椎弓最前方点中央
14 椎頭の外縁
15 椎頭の下縁
16 椎窩の外縁
17 椎窩の下縁
18 椎窩の上縁
20 棘突起の最高端
21 椎体の後位の最狭点

B. 仙骨

1　横突起の前端
2　横突起の後端
3　仙骨翼の前位の外端
3′ 仙骨翼の中位の外端
3″ 仙骨翼の後位の外端
4　前関節突起外端
5　後関節突起外端
10 椎頭の上縁
14 椎頭の外縁
15 椎頭の下縁
16 椎窩の外縁
17 椎窩の下縁
18 椎窩の上縁
20 棘突起最高端
21 前位の背側仙骨孔の内縁
22 後位の背側仙骨孔の内縁
23 前関節突起基部外端
24 前関節面外端
25 椎頭外端の小孔内縁
26 椎頭の前縁
27 椎窩の後縁
24 中央部の前縁
25 中央部の後縁

C. 尾椎（第6尾椎以降）

1　前関節突起の前端
2　後関節突起の後端
3　横突起の外端
4　前関節突起の外端
5　後関節突起の外端
10 椎頭の上縁
14 椎頭の外縁
15 椎頭の下縁
16 椎窩の外縁
17 椎窩の下縁
18 椎窩の上縁
22 椎頭の前端
23 椎窩の後端
24 前横突起の外端
25 後横突起の外端
26 椎体の中央外端の最狭点

D. 肋骨

1　肋骨結節の上端
2　肋軟骨との関節面の外方最下端
3　肋骨頭関節面中央
4　肋軟骨関節面中央
6　肋骨頭関節面の上縁
7　肋骨頭関節面の下縁
8　肋骨頭関節面の前縁
9　肋骨頭関節面の後縁
10 肋骨頸の上縁
11 肋骨頸の下縁
12 肋骨頸の前縁
13 肋骨頸の後縁
15 肋結節関節面の前縁
16 肋結節関節面の後縁
17 中央部の内縁
18 中央部の外縁
19 最大幅径を計測する部位での内縁
20 最大幅径を計測する部位での外縁
21 肋軟骨との関節面の内方最下端
22 下端の後端
23 下端の前端

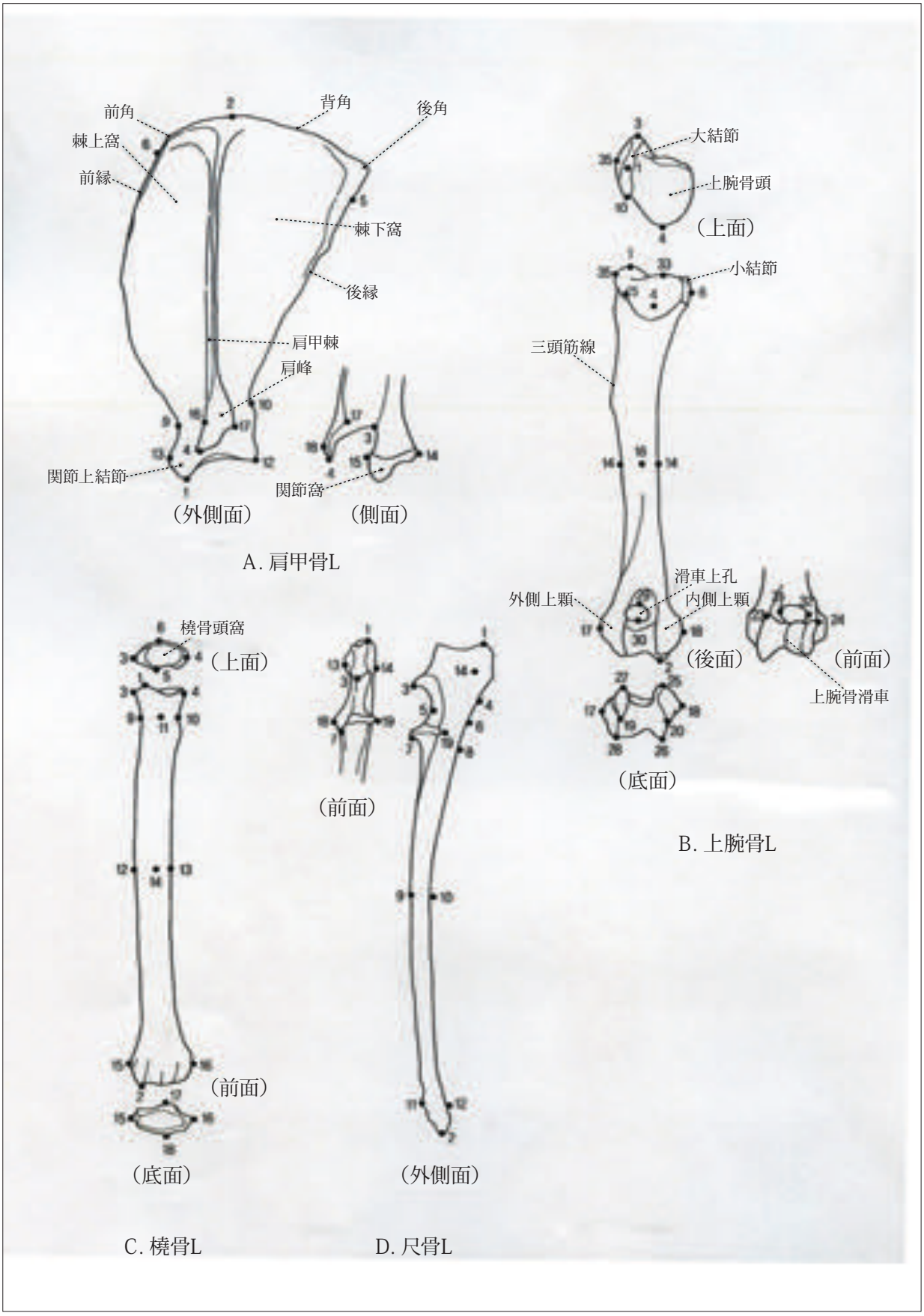


図 10　イヌの肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨 計測点

A. 肩甲骨

1　関節上結節最下端および関節窩の前縁
2　肩甲棘の基部頂点
3　肩峰基部下縁端
4　肩峰面最下端
5　後角の後縁
6　前角の前縁
9　肩甲切痕の前縁
10　肩甲切痕の後縁
12　関節窩の後縁端
13　烏口突起の基部外縁端
14　関節窩の内縁
15　関節窩の外縁
16　肩峯面前縁
17　肩峯面後縁
18　肩峯面最高点

B. 上腕骨

1　大結節の最上端
2　内側上顆の最下端
3　大結節の最前端
4　上腕骨頭の後端
5　上腕骨頭の外縁端
6　小結節の内縁端
10　大結節の後縁端
14　体中央部の内外端
15　体中央部の前端
16　体中央部の後端
17　外側上顆の最外端
18　内側上顆の最内端
19　上腕骨滑車の下端面の外側縁の急に内側に狭くならんとする頂点
20　上腕骨滑車の下端面の内側縁
23　上腕骨滑車の前面の上縁内側縁
24　上腕骨滑車の前面の上縁外側縁
25　上腕骨滑車の内側縁前端
26　内側上顆の後縁
27　上腕骨滑車の外縁前端
28　外側上顆の後縁
33　上腕骨頭の最上端
35　大結節の最外点

C. 橈骨

1　頭窩の前縁最高端
2　茎状突起最下端
3　橈骨頭の内縁
4　橈骨頭の外縁
5　橈骨頭の前縁
6　橈骨頭の後縁
9　橈骨頸の内縁
10　橈骨頸の外縁
11　橈骨頸の前縁
12　体中央部の内縁
13　体中央部の外縁
14　体中央部の前縁
15　遠位端の内端
16　遠位端の外端
17　遠位端の前端
18　遠位端の後端

D. 尺骨

1　肘頭の頂点
2　茎状突起の下端
3　肘突起の前端
4　体後縁
5　滑車切痕の中央縁
6　体後縁
7　内側鈎状突起端
8　体後縁
9　体中央部の前縁
10　体中央部の後縁
11　下端前縁
12　下端後縁
13　肘頭の内端
14　肘頭の外端
18　滑車切痕の外縁
19　外側鈎突起端

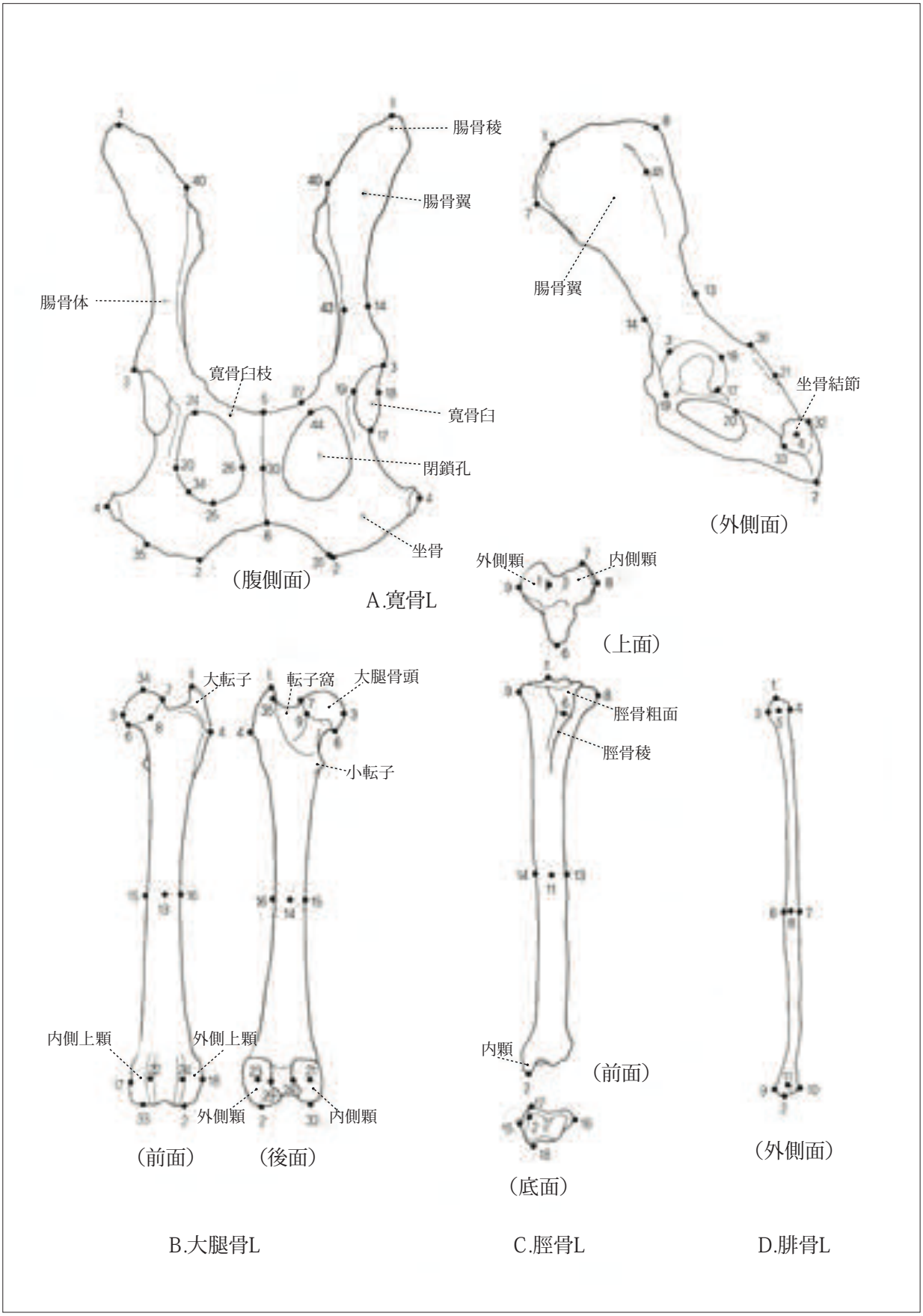


図 11　イヌの寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨 計測点

A. 寛骨

1　腸骨稜の前縁
2　坐骨の恥骨部の最後方点
3　寛骨臼窩の前縁
4　坐骨結節の外端
5　恥骨結節の恥骨結合面前端
6　坐骨弓中央の結合面後端
7　腹側腸骨棘の前端
8　背側腸骨棘の後端
13　腸骨の最小幅での後縁
14　腸骨の最小幅での前縁
17　寛骨臼窩の後縁
18　寛骨臼窩横径での寛骨臼窩上縁
19　寛骨臼窩横径での寛骨臼窩下縁
20　閉鎖孔外縁
21　寛骨臼窩後方の小坐骨切痕の中央縁
24　閉鎖孔の前縁
25　閉鎖孔の後縁
26　閉鎖孔の内縁
27　寛骨臼枝最小幅での恥骨櫛前縁
30　恥骨結合枝最小幅での恥骨結合面
31　坐骨結節内側角外端
32　坐骨結節の後端
33　坐骨結節の前端
34　坐骨体長での閉鎖孔後縁
35　坐骨体長での坐骨板の後縁中央点
36　坐骨棘の後方中央点
40　腸骨翼の最大厚での内端
41　腸骨翼の最大厚での外端
43　腸骨体腹側面の最小厚径での内縁
44　寛骨臼枝最小幅での閉鎖孔の前縁

B. 大腿骨

1　大転子の頂点
2　外側顆の下端
3　大腿骨頭の内側端
4　大転子の外端
6　大腿骨頭下縁
7　大腿骨頭上縁および外縁
8　大腿骨頭前縁
9　大腿骨頭後縁
13　体中央部の前縁
14　体中央部の後縁
15　体中央部の内縁
16　体中央部の外縁
17　内側上顆の内端
18　外側上顆の外端
21　内側顆後端
22　膝蓋面内縁前端
23　外側顆の後端
24　膝蓋面外縁前端
28　内側顆の外縁
29　外側顆の内縁
33　内側顆の下端
34　大腿骨頭の頂点
35　転子窩の上端幅での大転子内縁端

B. 脛骨

1　内側顆間結節の頂点
2　内顆の下端
6　脛骨稜の前縁
7　外側顆の後端
8　外側顆の外縁端
9　内側顆の内縁端
11　体中央部の前縁
12　体中央部の後縁
13　体中央部の外縁
14　体中央部の内縁
15　内顆の内側突起端
16　腓骨切痕の外側突起端
17　下端の最前端
18　下端の最後端

D. 腓骨

1　腓骨頭頂点
2　遠位端の最下点
3　腓骨頭の前縁
4　腓骨頭の後縁
5　腓骨頭の外端
6　体中央部の前縁
7　体中央部の後縁
8　体中央部の外縁
9　下端の前縁
10　下端の後縁
11　下端の外端

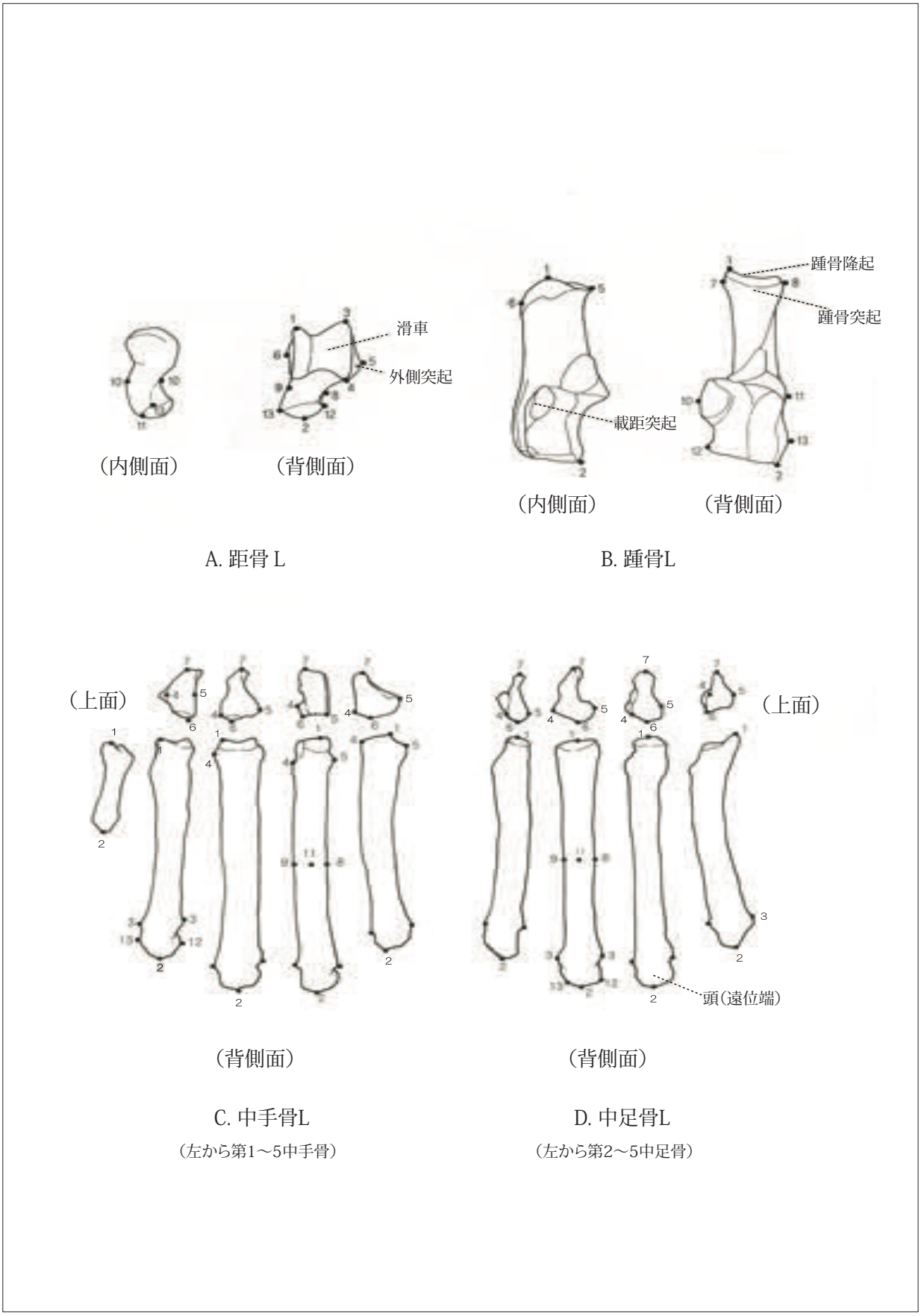


図 12　イヌの距骨、踵骨、中手骨、中足骨 計測点

A. 距骨

1　滑車内側縁頂点
2　舟状（中心）骨関節面の最下点
3　滑車外側縁頂点
4　滑車外側縁最下端
5　滑車内側面突端
6　外側突端
8　頸部の外側
9　頸部の内側
10　頸部の背側面・底側面
11　下端の最大長を計測する部位での後縁端
12　下端の最大長を計測する部位での前縁端
13　下端の最大厚さを計測する部位で内外縁端

B. 踵骨

1　踵骨隆起の内側突起頂点
2　立方骨関節面の外側最下端
5　踵骨突起の前端
6　踵骨突起の後端
10　載距突起の内端
11　中部最大横径を計測する部位での外端
12　下端最大幅を計測する部位での内端
13　下端最大幅を計測する部位での外端

C. 中手骨

1　上端（底）頂点
2　下端（頭）最下点
3　骨幹部下端の内・外縁
4　上端（底）の内縁＜第2中手骨についは関節面の内縁＞
5　上端（底）の外縁
6　上端（底）の前縁
7　上端（底）の後縁
8　体中央部の外縁
9　体中央部の内縁
10　体中央部の前縁
11　体中央部の後縁
12　下端（頭）の内縁
13　下端（頭）の外縁
14　下端（頭）の前縁
15　下端（頭）の後縁

D. 中足骨

1　上端（底）頂点
2　下端（頭）最下点
3　骨幹部下端の内・外縁
4　上端（底）の内縁＜ただし、第2・4・5中足骨についは関節面の内縁＞
5　上端（底）の外縁＜ただし、第2・4中足骨についは関節面の外縁＞
6　上端（底）の前縁
7　上端（底）の後縁
8　体中央部の外縁
9　体中央部の内縁
10　体中央部の前縁
11　体中央部の後縁
12　下端（頭）の内縁
13　下端（頭）の外縁
14　下端（頭）の前縁
15　下端（頭）の後縁

表 3　東畑犬の同定結果一覧（1）

資料番号	取り上げ No	部位	左右	詳細	備考	計測表	図版番号
01	01-01	頭蓋骨		外後頭隆起の後端、左右の鼻骨先端、左右の前頭骨眼窩突起端、後眼窩突起、右頬骨・側頭骨・前頭骨の一部、右頭蓋骨突起、右梅骨、左右の翼突鼻は破損している。左の歯牙は、第3切歯は欠損し、第3臼歯、第1・2後臼歯は生前に脱落し、歯槽は閉鎖。第4前臼歯、第5前臼歯については、現状では歯冠は確認されず、失歯（後天的に脱落）、欠損であるのかは不明であるが、歯槽は一部残存している。 右の歯牙は、第3切歯は遊離し、第1・2切歯、犬歯、第1～4前臼歯（歯槽部の残存状況が不良なため、正確ではないが、第4前臼歯の歯槽は残存？）は生前に脱落し、歯槽は閉鎖している。	大きさは、最大頭蓋骨長183.48mmで、「中級の犬」に相当する。歯牙の摩耗状況及び、冠状縫合、上顎切歯縫合などの縫合がほとんど閉鎖（30歳代・40は確認できない）していることから、老犬と推定される。表面は黒色物質が付着（炭化？）している。	付表1・2	図版1
02	01-02	下顎骨	左	筋突起後縁、角突起後端、切歯歯槽部後端は破損。第3切歯、犬歯、第1・4前臼歯、第1・2後臼歯は脱落し、第3後臼歯は歯槽中より脱落、第1・2切歯、第1・2前臼歯は脱落（歯槽は残存？）し、歯槽は閉鎖。第1後臼歯後位、第2後臼歯の舌及び舌側面の歯槽骨は溶解（クレーター型の骨吸収）し、歯根が露出する。	第3切歯、犬歯、第3後臼歯（近・遠心咬頭間隔）、第4前臼歯（近・遠心咬頭咬頭）、第1後臼歯（近・遠心及び舌・舌側咬頭）、第2後臼歯（近・遠心及び舌・舌側咬頭）、第3後臼歯（近心咬頭咬頭）の摩耗は象牙質に及ぶ。特に、犬歯、第1後臼歯（近心舌側、近・遠心咬頭咬頭）、第2後臼歯（歯冠部付近まで）の摩耗は著しい。大きさは「中級」の大。咬耗面である咬頭の付着する咬頭窩は深く、開口時も不明瞭。表面は黒色物質が付着（炭化？）している。	付表3	図版2・3
03	01-03	下顎骨	右	下顎枝、切歯歯槽部後端は破損。第2・3切歯、犬歯、第2・3～4前臼歯、第1後臼歯は欠損。第3後臼歯は歯槽以外は破損（歯槽は骨体に残存）。第3切歯、第2・3後臼歯は脱落し、歯槽は閉鎖。第4前臼歯後位、第1後臼歯周辺の歯槽骨は溶解（クレーター型の骨吸収）し、歯根が露出する。	第3切歯、犬歯、第2後臼歯（近心咬頭咬頭）、第4前臼歯（近心咬頭咬頭）、第1後臼歯（パラコニッド、近心咬頭咬頭）の摩耗は象牙質に及ぶ。特に、犬歯の摩耗は著しい。第2切歯、第2前臼歯の咬耗はエナメル質。顕微鏡を実施していないので、第2・3後臼歯が生前に脱落したかは断定できない。大きさは「中級」の大。表面は黒色物質が付着（炭化？）している。	付表3	図版2・3
04	01-04	腰椎（第1腰椎）		右の横突鼻、左の横突鼻の外縁・後端、右の関節突外端の一部、腹部側の後天端は破損。	右側の横突の底面は一部、黒色物質が付着（炭化？）している。	付表4. 椎体長やや広い、椎弓長は短い	図版3
05	01-05	腰椎（第2腰椎）		左右の横突起、棘突起の上縁・後端、左右の後関節突起後端は破損。	棘突起基部周辺はやや摩耗している。全体的に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表5	図版3
06	01-06	第3腰椎		右の後関節突起後・外縁、椎弓の最広左右の中央、右椎弓板の外端、右の横突起背側部、左の横突起背側部の後天端は破損。	全体的に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表6	図版3
07	01-07	第4腰椎		左右の前関節面外端、右の後関節面外端、棘突起の先端、左の横突起背側部、右の横突起、椎弓の下縁は破損。	全体的に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表7. 椎弓長は長い	図版3
08	01-08	上舌骨				最大長20.84	図版7a
09	01-09	上舌骨		破片。		残11.52	図版7a
10	01-10	骨片		頭蓋骨片16。			
11	02	第5腰椎		左前関節面の外端、棘突起の先端、左の横突起背側部、右の横突起、左右の後関節面後縁は破損。	椎体の側面、腹面の後端周縁は病的変異により、骨増殖によって、厚味。全体的に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表9	図版3
12	03	尾甲骨	右	遠位端片。	尾甲骨は欠損。	付表33	図版6a
13	04-01	第6腰椎		右の前関節面の外縁の一部、棘突起の先端、左右の横突起、椎弓下縁は破損。	椎体の側面、腹面の後端及び後端周縁は病的変異により、骨増殖によって、下方に肥厚。尾椎部に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表9	図版3
14	04-02	第7腰椎		棘突起、左右の横突起は破損。	椎体腹側面の縁は病的変異により、骨増殖によって、左右に肥厚。尾椎部に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表10. 椎弓長は短い	図版3
15	04-03	第1仙椎		棘突起、左右の後関節面、左右の横突始骨端は破損。	椎体腹側面の縁端下縁は病的変異により、骨増殖によって、厚味。尾椎部に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表11	図版4
16	04-04	尾甲骨	左			付表33	図版6a

表 3　東畑犬の同定結果一覧（2）

資料番号	取り上げ No.	部位	左右	詳細	備考	計測表	図版番号
17	05-01	第2胸椎		棘突起、右の横突起骨頭、右の後肋骨頭の一部は破損。	後関節面は圧迫され、肥大化。尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表12、右後関節面の長径18.9、横径8.35。	図版4
18	05-02	第3胸椎		棘突起、左の横突起前・後端、右の横突起は破損。	椎体腹面の前端を外縁、椎体腹面の後端下縁は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。左右の前・後関節面は通常より肥大化している。尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表13	図版4
19	05-03	第4胸椎		棘突起、左の横突起前・上端、右の横突起、右の後関節面の後端は破損。	椎体腹面の前端下縁、椎体腹面の後端周縁、椎体の腹側面は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。左右の前・後関節面は通常より肥大化している。尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表14	図版4
20	05-04	第5胸椎		棘突起、左右の横突起、右の後関節面、右の後肋骨頭上縁は破損。	椎体腹面の前端周縁、椎体腹面の後端周縁、椎体腹面の下、側面は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。左右の前・後関節面は通常より肥大化している。椎間孔圧迫によって摩耗し、海綿質が一部露出する。尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表15	図版4
21	05-05	第6胸椎		棘突起、左右の横突起、右の後関節面は破損。	椎体腹面の前端周縁、椎体腹面の後端周縁、椎体腹面の下、側面は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。椎間孔圧迫によって摩耗し、海綿質が一部露出する。左右の前・後関節面は通常より肥大化。尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表16	図版4
22	05-06	第4肋骨	右	近位断片で、肋骨頭、肋骨結節は破損。		残存長38.78	
23	05-07	第5肋骨	右	近位断片で、肋骨結節は破損。	肋骨頭は病的変異により、骨増殖によって、変形。	残存長42.12	
24	05-08	骨片		1片。			
25	06-01	肋骨	左	遠位部は破損。			
26	06-02	肋骨		中位片。			
27	07-01	肩甲骨	左	遠位断片。	関節窩内縁は病的変異により、骨増殖によって、内側面に張出する。外側面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表33	図版6a
28	07-02	上腕骨	左	小結節は破損。	上腕骨頭と上腕骨頸の境の外面は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表34	図版6a
29	07-03	上腕骨	右	三角粗面は一部破損。	表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表34	図版6a
30	07-04	尺骨	左	遠位端は破損。	表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表36	図版6a
31	07-05	尺骨	右		表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表36	図版6a
32	07-06	橈骨	左		表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表35	図版6a
33	07-07	橈骨	右	遠位端の前位は一部破損。	表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表35	図版6a
34	07-08	副手根骨	左		表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。		図版7a
35	07-09	副手根骨	右		表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。		図版7a
36	07-10	橈側手根骨	右		表面は黒色物質が付着（炭化？）している。	付表37	図版7a
37	07-11	尺側手根骨	右	内側の一部破損。	表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。		図版7a
38	07-12	第3手根骨	右		表面は黒色物質が付着（炭化？）している。	付表38	図版7a
39	07-13	第1中手骨	右		表面は尾状状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表39	図版7a

表 3　東畑犬の同定結果一覧（3）

資料番号	取り上げ No.	部位	左右	部位	備考	計測表	図版番号
40	07-14	第2中手骨	右		骨幹部下端の内外縁は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表40	図版3a
41	07-15	第3中手骨	右		骨幹部下端の内外縁は病的変異により、骨増殖によって、わずかに肥厚。表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表41	図版3a
42	07-16	第4中手骨	右	遠位端は一部破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表42	図版3a
43	07-17	第2基節骨	右		近位端の内外縁は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表43	図版3a
44	07-18	第3基節骨	右		表面は斑状に黒色物質が付着（炭化？）している。	付表44	図版3a
45	07-19	肋骨	左	近位部片で、骨頭は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	残存長 32.98	
46	07-20	骨片		17片。			
47	08	頭甲骨	左	中位片。	27に接合。	付表33	図版6a
48	09-01	第7胸椎		左右の横突起、棘突起、右の前関節突前縁、右の後関節面、椎底の左外縁は破損。	椎体腹面の前端両縁、椎体腹面の後端両縁、椎体腹面の下・側面は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。年代測定候補試料No.胸椎（3）。	付表17	図版4
49	09-02	第8胸椎		左右の横突起、棘突起、右の前関節面外縁、右の後関節面、椎底の左外縁は破損。	椎体腹面の前端両縁、椎体腹面の後端両縁、椎体の下・側面は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。年代測定候補試料No.胸椎（1）。	付表18	図版4
50	09-03	第9胸椎		年代測定試料としてコラーゲン抽出を行ったため、粉砕され、復原しない。	放射性炭素年代測定の結果、1361～1412年。年代測定候補試料No.胸椎（2）。	付表19	図版4
51	09-04	肋骨	左	近位部片。			
52	09-05	肋骨	左	近位部片で、骨頭の前縁は一部破損。		残存長 47.32	
53	09-06	肋骨		骨頭のみ遺存。			
54	09-07	骨片					
55	10-01	第10胸椎		右の前関節突起、左右の横突起、棘突起、左右の後関節突起は破損。	椎体腹面の前端の両縁、椎体腹面の後端の外・下縁は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。椎底は圧迫によって摩耗し、海綿質が一部露出する。	付表20、前関節面横径6.14	図版4
56	10-02	肋骨	左	近位部片。	骨頭の下縁は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。		
57	10-03	肋骨	左	骨幹部片。		残存長 26.15	
58	11-01	肋骨	左	骨幹部片。	取り上げ12の一部が接合。	残存長 80.39	
59-01	11-02	肋骨片		23片。			
59-02	11-02	肋骨	左	骨幹部片。		残存長 19.58	
59-03	11-02	肋骨	左	骨幹部片。		残存長 24.13	
59-04	11-02	肋骨	左	骨幹部片。		残存長 46.53	
60	11-03	第11胸椎		左右の前関節突起、左右の横突起、棘突起、左右の後関節突起後端は破損。	椎体腹面の前端の下縁、椎体腹面の後端の外・下縁は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。	付表21	図版4
61	11-04	第12胸椎		左の乳頭突起、右の前関節突起、左右の横突起、棘突起、右の後関節突起、左右の副突起後端、椎底の下半は破損。	椎体腹面の前端の下縁、椎体腹面の後端の外・下縁は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。前関節面は前後左右に肥大化。	付表22	図版4
62	11-05	第13胸椎		右の乳頭突起、左の前関節突起、左右の横突起、棘突起、左右の後関節突起、左右の副突起後端は破損。	椎体腹面の前端の下縁、椎体腹面の後端の外・下縁、椎体腹面は病的変異により、骨増殖によって、肥厚。前関節面は前後左右に肥大化。	付表23	図版4

表 3　東畑犬の同定結果一覧（4）

資料番号	取り上げNo.	部位	左右	詳細	備考	計測表	図版番号
63	11-06	第1腰椎		左の乳頭関節突起の前端、右の乳頭関節突起、棘突起、左右の副突起後端、左右の横突起、右の後関節突起後端は破損。	椎体腹面の前端の外・下縁、椎体腹面の後端の下縁は病的変異により、骨棘帯によって、癒着。乳頭関節突起上端は内側に反る。そのため関節する前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっている。	付表24	図版3
64	11-07	第2腰椎		左の乳頭関節突起の上縁、右の乳頭関節突起、棘突起、左右の副突起後端、左右の横突起は破損。	椎体の前端の外・下縁、椎体の後端の下縁、椎体の腹側面は病的変異により、骨棘帯によって、癒着。乳頭関節突起上端は内側に反る。そのため関節する前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっている。	付表25	図版3
65	11-08	第3腰椎		左右の乳頭関節突起上縁、棘突起、左右の副突起後端、右の後関節突起後端、左右の横突起は破損。	椎体の前端の外・下縁、椎体の後端の外・下縁、椎体の腹側面は病的変異により、骨棘帯によって、癒着。乳頭関節突起上端は内側に反る。そのため関節する前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっている。	付表26	図版3
66	11-09	第4腰椎		左右の乳頭関節突起上・前端、棘突起、左右の副突起後端、左右の横突起椎弓の基部寄り右の中央、左右の副突起後端は破損。	椎体腹面の前端の外・下縁、椎体腹面の後端の外・下縁は病的変異により、骨棘帯によって、癒着。乳頭関節突起上端は内側に反る。そのため関節する前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっている。	付表27	図版3
67	11-10	第5腰椎		左右の乳頭関節突起上・前端、棘突起、左右の副突起後端、左右の横突起は破損。	椎体腹面の前端の外・下縁、椎体腹面の後端の右外・下縁は病的変異により、骨棘帯によって、癒着。乳頭関節突起上端は内側に反る。そのため関節する前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっている。	付表28	図版3
68	11-11	第6腰椎		左右の乳頭関節突起上・前端、棘突起、左右の副突起後端、左右の横突起は破損。	椎体腹面の前端の外・下縁は病的変異により、骨棘帯によって、癒着。乳頭関節突起上端は内側に反る。そのため関節する前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっている。	付表29	図版3
69	12-01	大腿骨	左	骨盤面内外縁上位、小転子、大転子の外面は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表45	図版6b
70	12-02	大腿骨	右	骨盤面内・外縁上位は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表46	図版6b
71	12-03	脛骨	左	遠位端は破損	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表47	図版6b
72	12-04	脛骨	右	外側顆の外縁、脛骨粗面の上縁は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表47	図版6b
73	12-05	寛骨	左	腸骨骨面の一部、腸骨稜、坐骨棘・結節、座骨の後縁は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表45	図版6b
74	12-06	寛骨	右	腸骨骨面の一部、腸骨稜、坐骨棘・結節、小坐骨切痕、座骨の後縁は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表45	図版6b
75	12-07	脛骨	左	近位端不で、近位端は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表48	図版6b
76	12-08	恥坐骨		前側枝、尾側枝は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表52	図版7a
77	12-09	仙骨		腹側仙骨孔より尾側は破損。左の前関節面前端、右の後関節面、棘突起、右の仙骨翼は破損。		付表31	図版3
78	12-10	第7腰椎		左右の乳頭関節突起上端、棘突起、左右の横突起、左後関節突起内面は破損。	乳頭関節突起上端は内側に反る。そのため関節する前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなっている。	付表30	図版3
79	12-11	腓骨骨				付表49	図版7a
80	12-12	肋骨片		2片。			
81	12-13	不明		3片。			
82	12-14	脛骨	右	近位端不で、近位端は破損。	表面は斑状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。	付表48	図版6b
83	12-15	尾椎		椎体片。			
84	12-16	肋骨	右			残存長 44.22	
85	12-17	肋骨	右			残存長 21.15	
86	12-18	肋骨片					

付表1　イヌの頭蓋骨　計測表（1-1）　（参考資料）

計測項目	資料 [illegible]	東京犬 1	亀岸1号犬	亀岸2号犬
1　最大頭蓋長	1-pr	183. 48+	177. 45	164. 67
2　頭蓋長	1-ch	—	160. 28	148. 25
3　基底頭蓋長I	5-pr	160. 89	158. 87	145. 41
4　基底頭蓋長II	pr-90	左160. 39	左158. 75	左148. 04
5　基底頭蓋長III	pa-5	134. 77		
6　基底頭蓋長IV	23-pr	左168. 82	左168. 19	左153. 83
7　頭蓋幅跡長	pr-vt	左153. 76	左148. 93	右143. 97
8　眼窩弓最大幅	zy-zy	反転105	102. 82	92. 78
9　脳頭蓋長I	1-n	102. 61+	89. 34	88. 81
10　脳頭蓋長II	1-fa	—	83. 56	78. 16
11　脳頭蓋長III	o-n	98. 28±	93. 34	87. 41
12　脳頭蓋長	1-ect	—	左86. 41	左79. 38
13　後眼窩長	ls-n	—	44. 49	48. 02
14　上顎骨長I	fz-ids	—	右54. 82	左49. 88
15　上顎骨長II	22-ids	—	右70. 35	左62. 12
16　最大上顎骨長	4-ids	—	右70. 61	左67. 14
17　鼻長I	pr-n	86. 34	87. 21	81. 33
18　鼻長II	fm-pr	—	100. 23	96. 02
19　鼻長III	pr-ect	—	左102. 08	左97. 04
20　鼻涙～前頭眼窩突起長	1 - ect	—		
21　後眼窩～眼窩骨長	1-fol	—	52. 52	45. 01
22　後眼窩～頬骨骨長	fol-pr	—	132. 76	128. 51
23　眼窩骨長	1-fol	—	1は男犬ず	16. 97
24　眼窩幅I	ecr-ex	反転53. 44	47. 28	53. 41
25　眼窩幅II	ecr-ex	反転64	57. 64	56. 94
26　最小前頭幅	fz-fz	33. 83	32. 13	30. 76
27　前眼窩縁突起間最長	ect-ect	推43. 65	48. 74	41. 64
28　最小眼窩間幅	ect-ect	30. 08	31. 06	26. 95
29　両眼窩下孔の最離	ifo-ifo	29. 61	35. 01	33. 65
30　梨幅I	7-7	29. 71	34. 31	32. 94
31　梨幅II	n-n	25. 47	32. 18	31. 36
32　切歯骨幅	ecr-ec	—	28. 48	27. 26
33　鼻骨長	n-9	—	58. 35	56. 31
34　鼻骨最大長	n-rh	—	66. 41	62. 24
35　鼻骨後幅	fz-fz	8. 79		7. 16
36　外後頭隆起～眼窩縁長	i-ios	左112. 06+	左109. 96	左100. 56
37　パジオン・ブレグマ高	b-ba	—	66. 58+	60. 01
38　頬骨高	zo-ba	—	51. 6	47. 8
39　頬骨高I	ba-fo	—	56. 9	52. 9
40　吻長I	pr-ns	左79. 31	左74. 21	左71. 85
41　吻長III	pr-89	左56. 48	左52. 17	左48. 51
42　眼窩幅長	89-ns	左22. 83	左22. 63	左22. 92
43　硬口蓋最大長	pr-ot	86. 87	83. 67	79. 72
44　硬口蓋長	63 - 64	左82. 05	左79. 24	左77. 15
45　口蓋骨長	pr-ot	—	31. 32	26. 75
46　後臼歯最大幅歯	29 - 29	33. 79	32. 63+	33. 03
47　後臼歯頬側幅歯	30 - 30	30. 46	27. 37+	30. 37
48　両後臼歯孔間最離	31 - 31	16. 95	14. 88+++	16. 56
49　眼窩最大幅	zi-zi	反転99. 62	98. 15+	86. 36
50　両上顎犬歯突起間距離	u-u	—	29. 22	25. 54
51　口蓋骨最大幅	39 - 39	—	25. 63	25. 99
52　上顎幅	69 - 69	—	50. 69	47. 95
53　上顎幅	100 - 100	—	57. 46	55. 73

数値の+は過小評価

数値の+++は過大評価

<頭蓋骨の計測について>その1

1　最大頭蓋長（切歯骨の前縁最前端～外後頭隆起最後方まで）

2　頭蓋長（左右の鼻骨の鼻骨縫合線と前上顎と近平面と交叉する点～外後頭隆起の最後方点まで）

3　基底頭蓋長I（切歯骨の歯槽前縁～後眼窩大孔の眼窩切線内中点点まで）

4　基底頭蓋長II（切歯骨の歯槽前縁～眼窩軟骨突起の最後方点まで直線距離）

5　基底頭蓋長III（左右の側頭骨の側壁後縁を結ぶ線と正中線との交叉点～後眼窩大孔の眼窩切線の中点点

6　基底頭蓋長IV（切歯の歯槽前縁～後頭顆の最後方点）正中線に直行に計測

7　頭蓋幅跡長（切歯の歯槽前縁～乳様突起の最下端までの直線距離）

8　眼窩弓最大幅（左右の眼窩弓の最外端間幅）　正中面に直角に計測

9　脳頭蓋長I（外後頭隆起の最後方点～前頭鼻骨縫合と近平面の交叉点まで）

10　脳頭蓋長II（外後頭隆起の最後方点～左右の前頭骨眼窩突起の最外端を結ぶ線と前上顎と前頭鼻縫合との交叉点まで）

11　脳頭蓋長III（大後頭孔上縁の中点間～前頭鼻骨縫合と正平面の交叉点まで）

12　脳頭蓋長（外後頭隆起の最後方点～前頭骨眼窩突起の最外点端まで）

13　後眼窩長（頬骨縫合と矢状縫合が交わる点～鼻骨の前眼窩突起の後端までの直線）

14　上顎骨長I（前眼骨の鼻突起の前端～上顎切歯縫合の最前端まで）

15　上顎骨長II（上顎骨の眼窩突起端～上顎切歯縫合の最前端まで）

16　最大上顎骨長（前眼上顎縫合の最後方端～上顎切歯縫合の最前端まで）

17　鼻長I（切歯骨の歯槽前縁～前頭鼻骨縫合と近平面の交叉点までの直線距離）

18　鼻長II（切歯骨の歯槽前縁～左右の前眼骨眼窩突起の最外点端を結ぶ線と前眼鼻縫合との交叉点まで）

19　鼻長III（切歯骨の歯槽前縁～前眼骨眼窩突起の最外点端まで）

20　鼻涙～前眼眼窩突起長（矢状縫合と三角縫合交叉点～前眼骨の眼窩突起端まで）

21　後眼骨～眼窩骨長（外後頭隆起端～頬骨縫合と矢状縫合が交わる点までの直線）

22　前眼骨～頬骨骨長（頬骨縫合と矢状縫合が交わる点～頬骨骨の歯槽前端までの直線）

23　眼窩骨長（矢状縫合と三角縫合交叉点～頬骨縫合と矢状縫合が交わる点までの直線）

24　眼窩幅I（左右の眼窩外縁縫合との最外側端間の直線）正平面と直角に計測

25　眼窩幅II（左右の外耳孔上縁の中央点間の直線）正平面に直角に計測

26　最小前頭幅（左右の前眼骨眼窩突起の強力基底点間の直線距離）正平面と直角に計測

27　前眼骨眼窩突起間最離（左右の前眼骨眼窩突起の最外点端間の直線距離）正平面に直角に計測

28　最小眼窩間幅（左右の前眼縁の上縁の最内側点間の直線距離）正平面に直角に計測

29　両眼窩下孔の最離（左右の 眼窩下孔の上縁間の直線）

30　梨幅I（左右の犬歯の歯槽骨の外側面間の最大幅）正平面に平行に計測

31　梨幅II（左右の第1前臼歯と第2前臼歯間の歯槽骨の外側面間の最小幅）

32　切歯骨幅（左右の上顎切歯縫合の最前端間の直線）

33　鼻骨長（前頭鼻骨縫合と正平面の交叉点～鼻骨間縫合側における前縁端まで）

34　鼻骨最大長（前頭鼻骨縫合と正平面の交叉点～左右の鼻骨の鼻突起を結ぶ線と正平面と交叉する点まで）

35　鼻骨後幅（左右の前頭鼻骨縫合の前端間の直線）

36　外後頭隆起～眼窩縁長（外後頭隆起の最後方点～眼窩縁の前縁の最前点まで）

37　パジオン・ブレグマ高（大後頭孔の顆間切線の中点間～頬骨縫合と矢状縫合が交わる点）

38　頬骨高（眼窩鼻骨結合と正平面との交叉点～頬骨縫合と矢状縫合が交わる点まで）

39　頬骨高I（頬骨縫合と矢状縫合が交わる点～前歯形骨体部の前端間まで）矢状隆起を含む

40　吻長I（切歯骨の歯槽前縁～眼窩縁の前縁の最前点まで直線距離）

41　吻長III（切歯骨の歯槽前縁～眼窩下孔の上縁まで）

42　眼窩幅長（眼窩下孔の上縁～眼窩縁の前縁の最前点まで）

43　硬口蓋最大長（左右の第1切歯歯槽骨縁を結ぶ線と正平面の交叉点～口蓋骨の鼻棘の後端まで）

44　硬口蓋長（第1切歯の歯槽後縁～口蓋骨の骨口蓋後縁まで）

45　口蓋骨長（口蓋上顎縫合線と正平口蓋縫合との交叉点～口蓋骨の鼻棘の後端まで直線距離）

46　後臼歯最大幅歯（左右の後臼歯の最外端間幅）

47　後臼歯頬側幅歯（左右の後臼歯の頬側最後端間幅）

48　両後臼歯孔間最離（左右の舌下神経孔の内縁間の直線）

49　眼窩最大幅（左右の眼窩弓底部の外側眼窩縁の最後点間の直線）眼窩弓直径幅

50　両上顎犬歯突起間距離（左右の上顎骨の犬歯突起先端間の直線）

51　口蓋骨最大幅（口蓋上顎縫合上における最大幅間）

52　上顎幅（第2後臼歯の前外側歯頸線間の直線）

53　上顎幅（第2後臼歯の前外側歯頸線間の直線）

付表2　イヌの頭蓋骨　計測表（1-2）　（参考資料）

計測項目	資料 (n/男/女)	東京犬 1	亀井1号犬	亀井2号犬
54 上顎歯槽縁最大幅	47 - 47	*42.78*	57.04	56.36
55 頬骨幅	[illegible]	反転70.52	66.52	61.93
56 眼窩間幅	76 - 76	—	22.22	21.01
57 眼窩幅	81 - 81	—	29.05	26.61
58 眼窩幅	82 - 82	—	32.16	28.55
59 後頭三角幅	[illegible]	反転56.6	59.49	59.77
60 後頭三角高II	1-0	—	29.79	27.43
61 後頭三角最大高	1-0	—	44.29+	41.11
62 大後頭孔最大幅	39-39	17.60	17.37	17.62
63 大後頭孔長	0-0	18.12*		13.58
64 鼓胞I	p-	41.1	42.2	38.6
65 最大切歯骨長	[illegible]	左69.49	左49.88	左47.12
66 眼骨～鼓胞骨長	22 - 0[illegible]	左70.92	左59.54	左58.44
67 上顎～鼓胞骨長	99-[illegible]	左90.72	左98.97	左96.89
68 切歯～上顎骨長I	[illegible]	—	53.63+	52.58
69 切歯～上顎骨長II	[illegible]	左89.81	左96.81	左95.42
70 基底長	[illegible]	74.17	75.71	68.21
71 眼骨最小幅	95-93	左14.05	左14.39	左12.28
72 全歯列長	[illegible]	—	左84.41+	左83.18
73 犬歯～最臼歯列長	75 - 90	—	左62.37	左57.41
74 犬歯～前臼歯列長	75-94	—	左68.52	左64.67
75 上臼歯列長	78 - 90	—	左60.53	左57.16
76 第1～4乳歯列長				
77 第2～4乳歯列長				
78 犬歯列長	95-93	—	左76.08	左71.74
79 前臼歯列長	79-94	—	左46.78	左43.69
80 第3前臼歯～後臼歯列長	96-93	—		
81 後臼歯列長	94-93	—	左15.56	左15.3
82 犬歯間長	90-79	—	左14.08	左14.07
83 歯列弓長	[illegible]	—	左83.96	右83.67
84 歯列弓幅	71-71	—	55.94	54.76
頭蓋幅指数 (b/l)		57.2	57.94	56.34
頭骨高幅指数 (b/h)		65.3	64.72	63.81
脳頭蓋指数 (b/w)		—	52.92	60.14
眼窩指数I (2f/1)		—	37.52	36.44
眼窩指数II (2f/9)		—	39.59	39.01
顔面指数I (n/f)		—	64.75	64.68
顔面指数II (n/m)		—	55.34	57.02
顔面指数III (n/zy)		—	71.01	89
鼻頭部指数II (n/n)		50.89	45.98	57.57
鼻窩指数 (n/ns)		63.3	67.96	57.59
鼻部指数 (n/r)		82.2	84.42	87.66
吻長指数 (ns/l)		43.2	41.82	43.63
口蓋指数 (ol/ol)		73.39	68.17	70.7
前頭骨眼窩突起指数 (ft/ft)		—	109.55	86.71
顔面指数III (n/zy)		—	140.82	112.36
側頭筋指数 (b/zy)		196.48	217.47	173.71
脳頭指数 (b/l)		—	69.81	56.12
小臼歯列長／全歯列長 (7b/72)		—	55.42	52.52
大臼歯列長／全歯列長 (8l/72)		—	18.43	18.39
臼歯列長／全歯列長 (7l/72)		—	71.71	68.72
小臼歯列長／臼歯列長 (7b/7l)		—	77.28	76.43
犬歯間長／全歯列長 (8d/72)		—	19.05	17.88
犬歯列長／全歯列長 (7b/72)		—	90.13	86.25

<頭蓋骨の計測について>その2

54 上顎歯槽縁最大幅（第4前臼歯と第1後臼歯間の歯槽骨外縁間幅）正中面に直角に計測

55 頬骨幅（眼窩上顎縫合の最下点間）

56 眼窩間幅（犬歯の内縁縫合部における幅）

57 眼窩幅（第2後臼歯の歯槽の幅）

58 眼窩幅（第3後臼歯歯槽外縁間）

59 後頭三角幅（左右の乳様突起の最下端間の直線距離）正中面に直角に計測

60 後頭三角高II（外後頭隆起の後端～後頭骨大孔上縁の中点間まで）

61 後頭三角最大高（外後頭隆起の後端～後頭骨大孔の横間切線の中点間まで）

62 大後頭孔最大幅（左右の後頭骨大孔の外縁間最大幅）

63 大後頭孔長（後頭骨大孔の腹側切線の中点間～後頭骨大孔上縁の中点間まで）

64 鼓胞I（前頭蝶骨縫合と正中線の交叉点～硬口蓋まで最小距離計測）

65 最大切歯骨長（切歯骨の歯槽突起の後反端～切歯歯槽前端まで）

66 眼骨～鼓胞骨長（上顎骨の眼骨突起端～乳様突起の最下端まで）

67 上顎～鼓胞骨長（頬骨下孔の上縁～乳様突起の最下端まで）

68 切歯～上顎骨長I（切歯骨の歯槽前端～口蓋上顎縫合部線と正中口蓋縫合との交叉点まで）

69 切歯～上顎骨長II（切歯骨の歯槽前端～上顎骨の臼歯突起反端まで）

70 基底長（後頭骨大孔の腹側切線の中点間～口蓋骨の歯槽の後反端まで）

71 眼骨最小幅（眼骨の眼窩縁～眼骨の眼窩縁間の最小幅）

72 全歯列長（切歯骨の歯槽前端～第2後臼歯の機能歯心部の歯槽後縁）

73 犬歯～後臼歯列長（犬歯の歯槽後縁～第3後臼歯の機能歯心部の歯槽後縁まで）

74 犬歯～前臼歯列長（犬歯の歯槽後縁～第4前臼歯の歯槽後縁まで）

75 上臼歯列長（第1前臼歯の歯槽前縁～第3後臼歯の機能歯心部の歯槽後縁まで）

76 乳歯列長（第1乳臼歯の歯槽前縁～4乳臼歯の歯槽後縁）

77 乳歯列長（第2乳臼歯の歯槽前縁～4乳臼歯の歯槽後縁）

78 犬歯列長（第3切歯の歯槽後縁～第3後臼歯の機能歯心部の歯槽後縁）

79 前臼歯列長（第1前臼歯前縁～第4臼歯後縁まで）

80 第3前臼歯～後臼歯列長（第3前臼歯の歯槽後縁～第3後臼歯の機能歯心部の歯槽後縁まで）

81 後臼歯列長（第1後臼歯の歯槽前縁～第3後臼歯の機能歯心部の歯槽後縁まで）

82 犬歯間長（第3切歯の歯槽後縁～第3前臼歯の歯槽前縁まで）

83 歯列弓長（第3切歯の歯冠前縁～左右の第3後臼歯の歯槽後縁を結ぶ線と正中線との交叉点まで）

84 歯列弓幅（左右の歯列の機能面最大幅）

8 眼窩弓最大幅 [illegible]	1 最大頭蓋骨長
9 眼窩弓最大幅 [illegible]	3 基底頭蓋長I
24 頭蓋幅III [illegible]	9 脳頭蓋長I [illegible]
37 バジオン・プレグマ高	1 最大頭蓋骨長
37 バジオン・プレグマ高	6 基底頭蓋長II [illegible]
37 バジオン・プレグマ高	8 眼窩弓最大幅 [illegible]
39 頭蓋高I [illegible]	8 眼窩弓最大幅 [illegible]
24 頭蓋幅III [illegible]	37 バジオン・プレグマ高
24 頭蓋幅III [illegible]	8 眼窩弓最大幅 [illegible]
24 最小前頭幅 [illegible]	24 頭蓋幅III [illegible]
17 鼻長I [illegible]	8 眼窩弓最大幅 [illegible]
41 吻長I [illegible]	1 最大頭蓋骨長
34 上顎歯槽縁最大幅 [illegible]	43 硬口蓋最大長 [illegible]
37 前眼窩眼窩突起間最小幅	13 前頭骨長[illegible]
37 バジオン・プレグマ高	24 頭蓋幅III [illegible]
8 眼窩弓最大幅 [illegible]	24 頭蓋幅III [illegible]
24 最小前頭幅 [illegible]	13 前頭骨長[illegible]
74 前臼歯列長	72 全歯列長
81 後臼歯列長	72 全歯列長
73 上臼歯列長	72 全歯列長
74 前臼歯列長	75 上臼歯列長
83 犬歯間長	72 全歯列長
74 犬歯列長	72 全歯列長

数値の＋は破損小

数値の＊は概算小で、反転値

[illegible]での計測値

付表3　イヌの下顎骨　計測表

（参考資料）

計測項目	資料	東京犬		亀井1号犬		亀井2号犬	
	所属点へ	2	3				
		L	R	L	R	L	R
1　下顎骨全長I	gor-14	132.40++	推119.38	129.59		122.93	123.09
2　下顎骨全長II	cw-14	132.34+	—	126.82		120.25	121.21
3　下顎骨全長III	3-14	126.98+	—	122.26		117.66	117.69
4　下顎骨長I	cw-29	118.08	—	112.21		103.77	104.84
5　下顎骨長II	30-29	119.29	—	113.53		106.51	106.81
6　下顎骨長III	gor-29	119.53++	—	113.52		106.46	107.49
7　下顎骨長IV	29-3	113.61	—	107.73		100.72	101.92
8　下顎体長	10-31	90.40++	—	85.43		83.91	84.75
9　下顎結長I	gor-cr	56.09	—	51.76	52.82		
10　下顎結長II	gor-1	—	—	45.03	44.38	43.58	40.75
11　下顎枝幅	3-32	35.46	—	33.41		31.64	31.82
12　咬筋窩長	3-33	36.67	—	35.36		31.53	32.99
13　筋内突起幅I	3-4	30.35	—	30.47		27.09	27.64
14　筋内突起幅II	5-31	33.17	—	33.32		28.98	29.03
15　筋内突起幅III	1-31	—	—	47.19		41.62	40.93
16　関節幅長	34-35	25.36	—	23.28	24.48++	20.79	20.81
17　下顎体高I	8	30.32	—	24.99			24.69
18　下顎体高II	9	*28.87*	—	24.59			24.62
19　下顎体高III	10	29.19	30.29	24.48			23.71
20　下顎体高IV	11	26.15	*25.84*	22.89			22.61
21　下顎体高V	12	25.68	25.31	21.89			22.27
22　下顎体高VI	13	22.68	22.34	18.92			17.75
23　下顎体高VII	42	*20.55*	20.75	16.75		17.35	17.51
24　門歯縁高	17	—	—	47		53	54.5
25　下顎体厚I	37-38	13.47	14.06	12.03			
26　咬筋窩深		9.25	—				
27　下臼歯列長	39-51	*68.45*	—	*62.85*		63.59	64.17
28　下前臼歯列全長	39-40	*36.85*	*36.85*	*32.35*		33.57	33.58
29　下後臼歯列全長	41-51	31.95	—	30.76		31.01	30.75
30　下臼歯列長その2	29-51	76.65	—	70.66		67.61	68.82
31　下乳歯列長							

数値のエは統計小で，信頼度　　数値のトは統計小　　数値のナトは統計やや大　　斜体は経験値での計測値

＜下顎骨の計測について＞

1　下顎骨全長I（角突起最後方点～切歯の歯槽縁）
2　下顎骨全長II（関節突起前方中央点～切歯の歯槽縁）
3　下顎骨全長III（関節突起より角突起に至る線の最頂点～切歯の歯槽縁）
4　下顎骨長I（関節突起の後面中央点～犬歯の歯槽後縁）
5　下顎骨長II（関節突起の最後方点～犬歯の歯槽後縁）
6　下顎骨長III（角突起の最後方尖端～犬歯の歯槽後縁）
7　下顎骨長IV（犬歯の歯槽後縁～関節突起より角突起に至る線の最頂点）
8　下顎体長（切歯の歯槽縁端～第3後臼歯の歯槽後縁まで）
9　下顎結長I（下顎角突起の下縁最下端～顎突起の最高点まで）
10　下顎結長II（下顎角突起の下縁最下端～筋突起の後端まで）
11　下顎枝幅（関節突起より角突起に至る線の最頂点～下顎枝後縁までの最短距離）
12　咬筋窩長（下顎結節下方の内縁～咬筋窩の後縁まで）
13　筋内突起幅I（下顎体後下方の内縁～下顎枝の結節下部まで）
14　筋内突起幅II（下顎体後下方の内縁～第3後臼歯の歯槽後縁まで）
15　筋内突起幅III（筋突起の後端～第3後臼歯の歯槽後縁まで）
16　関節幅長（関節突起内外端の長さ）
17　下顎体高I（第3後臼歯の歯槽後縁での下顎体の高さ）歯槽縁に直角に，内側面から計測
18　下顎体高II（第2後臼歯の歯槽後縁での下顎体の高さ）歯槽縁に直角に，内側面から計測
19　下顎体高III（第1後臼歯の中央歯槽の上縁での下顎体の高さ）歯槽縁に直角に，内側面から計測
20　下顎体高IV（第1後臼歯・第4前臼歯間の中央歯槽上縁での下顎体の高さ）歯槽縁に直角に，内側面から計測
21　下顎体高V（第4前臼歯の中央歯槽上縁での下顎体の高さ）歯槽縁に直角に，内側面から計測
22　下顎体高VI（第2前臼歯・第3前臼歯間の中央歯槽上縁での下顎体の高さ）歯槽縁に直角に，内側面から計測
23　下顎体高VII（第1前臼歯・第2前臼歯間の中央歯槽上縁での下顎体の高さ）歯槽縁に直角に，内側面から計測
24　門歯縁高（下顎角突起の下縁最下端および第1下顎の接する水平線上～切歯端までの直角に測った高さ）
25　下顎体厚I（第3後臼歯の中央下方における最大厚）
26　下顎窩幅を計測した位置での咬筋窩の最大深
27　下臼歯列長（第1前臼歯の歯槽後縁～第3後臼歯の歯槽後縁）
28　下小臼歯列全長（第1前臼歯の歯槽前縁～第4前臼歯の歯槽後縁）
29　下大臼歯列全長（第1後臼歯の歯槽前縁～第3後臼歯の歯槽後縁）
30　下臼歯列長（犬歯の歯槽後縁～第3後臼歯の歯槽後縁）
31　下乳歯列長（乳犬歯の歯槽後縁～乳臼歯の歯槽後縁）

付表4　イヌの環椎（第1頸椎）　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	実況犬 4	亀井1号犬	亀井2号犬
1　全長	1-2	左右33.95	—	34.43／34.18
2　横突起間全幅	3-3	右54.39	—	72.44
3　前関節窩間全幅	4-4	37.92+	—	36.64
4　後関節窩間全幅	5-5	27.12	—	28.74
5　椎体横径	6-6	29.67	—	28.56
6　前椎孔最大幅	8-8	20.62	—	17.69
7　後椎孔最大幅	9-9	16.49	—	17.32
8　前椎孔高径	10-11	23.44	—	19.64
9　後椎孔高径	12-13	24.94	—	20.04
10　椎弓長	11-13	14.03	—	13.94
11　椎体長	13-17	10.47	—	9.48
12　外側椎孔間幅	19-19	20.05	—	21.48
13　翼切痕間幅	20-20	35.91	—	35.27

数値の＋は概数小

<環椎の計測について>

1　全長（前関節窩の上縁最前端～環椎翼の後縁端まで）
2　横突起間全幅（環椎翼の外縁間最大幅）
3　前関節窩間全幅（左右の前関節窩の外端間の最大幅相）
4　後関節窩間全幅（左右の後関節窩の外端間の最大幅）
5　椎体横径（下面より計測）
6　前椎孔最大幅
7　後椎孔最大幅
8　前椎孔高径
9　後椎孔高径
10　椎弓長
11　椎体長
12　外側椎孔間幅（左右の外側椎孔間の最小幅）
13　翼切痕間幅（左右の翼切痕間の最小幅相）

付表5　イヌの軸椎（第2頸椎）　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	実況犬 5	亀井1号犬	亀井2号犬
1　全長I	1-2	左右49.14	52.02／52.17	47.72／48.52
2　全長II	1-2'	左右49.25	右50.81	47.03
3　全長III	21-5'	—	53.08／53.76	右49.04
4　全長IV	21-22	43.63	47.26	44.02
5　横突起間全幅	3-3	—	36.27	右32.50
6　前関節突起間全幅	4-4	26.36	26.54	26.02
7　後関節突起間全幅	5-5	右25.45	29.21	26.02
8　歯弓長	24-9	左20.05	左20.16	左19.54
9　横突孔長	33-23	左5.75	5.72	6.65
10　椎体最小幅	26	19.59	18.67	19.37
11　前椎孔最大幅	8-8	14.76	14.24	14.07
12　後椎孔最大幅	9-9	13.47	12.52	12.42
13　椎歯横径	30-16	16.95	16.46	17.16
14　椎歯高径	27-18	9.89+	13.15	11.34
15　体全高	27-28	—	38.32	33.76
16　椎体長	33-17	33.02	32.64	30.67

数値の＋は概数小

<軸椎の計測について>

1　全長I（横突起の前端～後関節突起の後端まで）　脊軸に平行に計測
2　全長II（棘突起の前端～棘突起の後端まで）　脊軸に平行に計測
3　全長III（歯突起～横突起の後端までの長さ）　直線的に
4　全長IV（歯突起～椎弓後端までの長さ）
5　横突起間全幅（左右の横突起の外端間）
6　前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅相）
7　後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
8　椎弓長（椎弓根の基部での前後長）
9　横突孔長
10　椎体最小幅（左右の横突起の基部間幅）
11　前椎孔最大幅（椎孔の横幅入り口に於ける最大幅相）
12　後椎孔最大幅（椎孔の尾幅入り口に於ける最大幅相）
13　椎歯横径
14　椎歯高径
15　体全高（椎歯下縁～横突起の最外最上端）
16　椎体長（椎軸下縁～椎歯下縁までの正中線上の長さ）

付表6　イヌの第3頸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	実況犬 6	亀井1号犬	亀井2号犬
1　全長	1-2	左39.42	34.73／35.86	35.44／36.31
2　横突起間全幅	3-3	—	46.33	42.18
3　前関節突起間全幅	4-4	28.34+	27.27	26.44
4　後関節突起間全幅	5-5	右29.11	31.29	29.56
5　椎弓最小幅	30-30	—	23.52	22.87
6　椎弓長	11-7	右22.86	25.62	26.33
7　椎弓根長	9-9	左18.92	左20.68	左19.78
8　横突孔長	8-23	左14.47	左11.73	左11.38
9　横突起基部長	33-34	左21.26	左18.12	左18.23
10　横突起長	27-3'	左34.27+	左34.36	左30.85
11　椎間横径	34-14	14.63	13.91	14.25
12　椎間高径	35-15	9.61	10.58	9.86
13　椎歯横径	36-16	15.78	15.93	15.73
14　椎歯高径	37-18	11.83+	14.26	13.31
15　体全高I	7-17	22.16+	24.05	22.19
16　体全高II	31-15	—	19.46	19.52
17　椎体長	33-17	22.87	20.33	22.31
18　最大高	33-39	23.52+	23.64	23.52

数値の＋は概数小

<第3頸椎の計測について>

1　全長（前関節突起の前端～後関節突起の後端まで）脊軸に平行に
2　横突起間全幅（左右の横突起の外端間）
3　前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅相）
4　後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
5　椎弓最小幅
6　椎弓長
7　椎弓根長（横突孔起始の外縁最到点より後椎孔の後端の外縁）
8　横突孔長
9　横突起基部長
10　横突起長
11　椎間横径
12　椎間高径
13　椎歯横径
14　椎歯高径
15　体全高I（椎弓の最後方点や先より椎歯下縁まで）
16　体全高II（椎弓の最前方点や先より椎間下縁まで）
17　椎体長（椎間下縁～椎歯下縁までの正中線上の長さ）
18　最大高（椎間下縁～横突起の最高端）椎骨下面に直角

付表7　イヌの第4頭椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬 7	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左35.53	36.09／35.75	34.29／35.41
2 横突起間全幅	3-3	—	40.81	38.18
3 前関節突起間全幅	4-4	推31.09	35.29	32.38
3' 前関節面間全幅	4'-4'	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	推29.89	30.19	28.47
5 椎弓最小幅	30-30	推26.51	24.76	23.41
6 椎弓長	11-7	23.96	22.82	22.27
7 椎弓根長	8-9	左20.01	左18.86	左18.37
8 横突孔長	8-23	左12.45	左9.58	左10.17
9 横突起基部長	25-26	左15.99	左12.86	左14.42
10 横突起長	27-3'	—	左27.83	左26.57
11 椎板横径	14-14	14.09	12.81	13.89
12 椎板高径	10-15	9.65	10.63	10.26
13 椎窩横径	16-16	14.89	15.43	15.19
14 椎窩高径	17-18	12.58▸	14.03	13.79
15 体全高I	7-17	21.94▸	23.96	22.33
16 体全高II	11-15	18.35	19.46	17.84
17 椎体長	15-17	22.81	21.27	22.22
18 最大高	15-20	23.39▸	26.02	25.15

数値の＋は破損小

<第4頭椎の計測について>

1 全長（前関節突起の前端～後関節突起の後端まで）脊軸に平行に
2 横突起間全幅（左右の横突起の外端幅径）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅径）
3' 前関節面間全幅（左右の前関節面の外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
5 椎弓最小幅
6 椎弓長
7 椎弓根長（横突孔前方の外縁最到点より後椎孔の後端の外縁）
8 横突孔長
9 横突起基部長
10 横突起長
11 椎板横径
12 椎板高径
13 椎窩横径
14 椎窩高径
15 体全高I（椎弓の最後方点中央～椎窩下縁まで）
16 体全高II（椎弓の最前方点中央～椎間下縁まで）
17 椎体長（椎間下縁～椎窩下縁までの正中線上の長さ）
18 最大高（椎間下縁～横突起最高端）椎骨下面に直角

付表8　イヌの第5頭椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬 11	亀井1号犬	亀井3号犬
1 全長	1-2	左31.12▸	32.28／32.21	31.24／31.46
2 横突起間全幅I	3-3	—	36.97	36.88
3 横突起間全幅II	28-28	—	—	27.24
4 前関節突起間全幅	4-4	推31.69	33.64	30.43
4' 前関節面間全幅	4'-4'	—		
5 後関節突起間全幅	5-5	29.81	30.42	27.63
6 椎弓最小幅	30-30	推25.28	22.86	23.84
7 椎弓長	11-7	19.83	17.84	17.51
8 椎弓根長	8-9	左16.33	左16.38	左15.17
9 横突孔長	8-23	左9.44	左7.79	左7.34
10 横突起基部長	25-26	左12.63	左10.33	左11.29
11 横突起長	27-3'	—	左22.03	左22.91
12 椎板横径	14-14	12.79	12.61	13.37
13 椎板高径	10-15	10.61	11.44	11.05
14 椎窩横径	16-16	14.89	14.86	14.22
15 椎窩高径	17-18	14.16	13.93	13.64
16 体全高I	7-17	25.33	24.96	23.51
17 体全高II	11-15	19.45	21.24	18.56
18 椎体長	15-17	22.67	19.04	19.62
19 最大高	15-20	推23.65	29.09	27.25

数値の＋は破損小　*斜体は再変形での計測値*

<第5頭椎の計測について>

1 全長（前関節突起の前端～後関節突起の後端まで）脊軸に平行に
2 横突起間全幅I（左右の横突起の外端幅径）
3 横突起間全幅II（左右の横突起の腹面最前位の外端幅径）
4 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅径）
4' 前関節面間全幅（左右の前関節面の外端間の最大幅径）
5 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
6 椎弓最小幅
7 椎弓長
8 椎弓根長（横突孔前方の外縁最到点より後椎孔の後端の外縁）
9 横突孔長
10 横突起基部長
11 横突起長
12 椎板横径
13 椎板高径
14 14 椎窩横径
15 15 椎窩高径
16 体全高I（椎弓の最後方点中央～椎窩下縁まで）
17 体全高II（椎弓の最前方点中央～椎間下縁まで）
18 椎体長（椎間下縁～椎窩下縁までの正中線上の長さ）
19 最大高（椎間下縁～横突起の最高端）椎骨下面に直角

付表9　イヌの第6頭椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	東信犬 13	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左27.54	26.75／27.06	27.01／27.72
2 横突起間全幅I	3-3	—	37.63±	29.84
3 横突起間全幅II	28-28	—	26.18	
4 横突起間全幅III	29-29	—	25.58	
5 前関節突起間全幅	4-4	32.78+	31.78	32.56
6 後関節突起間全幅	5-5	29.02	28.05	29.29
7 椎弓最小幅	30-30	24.34	22.27	25.40
8 椎弓長	11-7	12.85+	14.46	11.12
9 椎弓根長	8-9	左11.58	左12.61	左10.14
10 横突孔長	8-23	左5.32	左6.35	左4.11
11 横突起基部長	25-26	—	左16.75	左17.06
12 横突起長	27-36	—	28.16	左22.05
13 椎頭横径	14-14	12.78	11.75	12.77
14 椎頭高径	10-13	12.41	11.92	12.13
15 椎窩横径	16-16	13.45	13.55	14.91
16 椎窩高径	17-18	12.47+	13.36	右12.39
17 体全高I	7-17	25.43	24.51	27.23
18 体全高II	11-15	21.11	22.55	21.81
19 椎体長	15-17	14.77	17.18	18.29
20 最大高	18-20	—	32.22	30.25

数値の＋は概値；斜体は残存部での計測値

<第6頭椎の計測について>

1 全長（前関節突起の前端～後関節突起の後端まで）脊軸に平行に
2 横突起間全幅I（左右の横突起の外端幅径）
3 横突起間全幅II（左右の横突起の腹側第前位の外端幅径）
4 横突起間全幅III（左右の横突起の腹側第後位の外端幅径）
5 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅径）
6 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
7 椎弓最小幅
8 椎弓長
9 椎弓根長（横突孔底方の外縁最凹点より後椎孔の後端の外縁）
10 横突孔長
11 横突起の基部長
12 横突起長（関節面横突起の前後長）
13 椎頭横径
14 椎頭高径
15 椎窩横径
16 椎窩高径
17 体全高I（椎弓の最腹方点中央～椎窩下縁まで）
18 体全高II（椎弓の最背方点中央～椎頭下縁まで）
19 椎体長（椎頭下縁～椎窩下縁までの正中線上の長さ）
20 最大高（椎頭下縁～棘突起最高端）椎骨下面に直角に計測

付表10　イヌの第7頭椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	東信犬 14	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	27.96／29.24	26.75／27.28	27.54／27.72
2 横突起間全幅	3-3	—	41.91	38.79
3 前関節突起間全幅	4-4	29.73	28.75	26.55
4 後関節突起間全幅	5-5	27.99	24.18	24.87
5 椎体横径	31-31	15.94	—	15.40
6 椎弓最小幅	30-30	24.15	20.01	22.44
7 椎弓長	11-7	10.32+	13.67	13.01
8 椎弓根長	8-9	右10.36	—	—
9 横突孔基部長	25-26	右11.33	左10.09	左10.73
10 横突孔長	27-37	—	9.61	左7.85
11 椎頭横径	14－14	13.26	13.95	12.94
12 椎頭高径	10－13	11.98	11.68	12.29
13 椎窩横径	16－16	16.15	19.92	16.35
14 椎窩高径	17－18	11.92	12.11	12.18
15 体全高	7－17	23.49	24.13	22.11
16 体全高	11－15	22.02	22.36	21.72
17 椎体長	15－17	14.47	13.74	14.12
18 最大高	18－20	—	46.57	38.89

数値の＋は概値小

<第7頭椎の計測について>

1 全長（前関節突起の前端～後関節突起の後端まで）脊軸に平行に
2 横突起間全幅（左右の横突起の外端幅径）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
5 椎体横径（椎頭横径の最小幅）
6 椎弓最小幅
7 椎弓長
8 椎弓根長（横突孔底方の外縁最凹点より後椎孔の後端の外縁）
9 横突起基部長
10 横突起長
11 椎頭横径
12 椎頭高径
13 椎窩横径
14 椎窩高径
15 体全高（椎弓の最腹方点中央～椎窩下縁まで）
16 体全高（椎弓の最背方点中央～椎頭下縁まで）
17 椎体長（椎頭下縁～椎窩下縁までの正中線上の長さ）
18 最大高（椎頭下縁～棘突起の最高端まで）椎骨下面に直角

付表11　イヌの第1胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点No.	東保犬 15	亀井1号犬
1 全長	1-2	—	右23.81
2 横突起間全幅	3-3	—	39.54
3 前関節突起間全幅	4-4	28.43	25.73
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—	
4 後関節突起間全幅	5-5	—	17.98
5 椎体横径	21-21	18.27	17.61
6 椎弓根長	8-9	左8.43	—
7 横突起基部長	22-23	左9.48	—
8 横突起長	24-25	—	11.86
9 椎孔横径	14-14	13.56	12.81
10 椎孔高径	10-13	11.29	11.01
11 椎窩横径	16-16	14.43	14.57
12 椎窩高径	17-18	10.58	11.35
13 椎体後端最大幅	26-26	21.08	
14 体全高I	7-17	—	24.51
15 体全高II	11-13	21.77	21.55
16 椎体長	10-17	13.31	13.76
17 棘突起高	7-29	—	35.82
18 最大高	15-28	—	59.49
19 棘突起最大前後径	27-28	—	12.82
20 棘突起上端前後径	29-30	—	14.55
21 棘突起上端内外幅	31	—	9.56
22 椎体後端最大幅	32	23.14	24.18

<椎骨の計測について>

1 全長（前関節突起の前端より後関節突起の後端まで）骨軸に平行に計測
2 横突起間全幅（左右の横突起の外端間）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅径）
3′ 前関節面間全幅（左右の前関節面の外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
5 椎体横径（腹面後位第十幅）
6 椎弓根長
7 横突起基部長（上面から計測）
8 横突起長
9 椎孔横径
10 椎孔高径
11 椎窩横径
12 椎窩高径
13 椎体後端最大幅
14 体全高I（椎弓の最後方点中央より椎窩下縁まで）
15 体全高II（椎弓の最前方点中央より椎窩下縁まで）
16 椎体長（椎孔下縁より椎窩下縁までの正中線上の長さ）
17 棘突起高（椎弓の後縁上縁の中央より棘突起の最高端までの垂直高）
18 最大高（椎孔下縁より棘突起の最高端まで）椎骨下面に直角に計測
19 棘突起の最大前後径
20 棘突起の上端前後径
21 棘突起上端の内外幅
22 椎体前端最大幅

付表12　イヌの第2胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点No.	東保犬 17	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	***右24.68***	右24.26	右22.51
2 横突起間全幅	3-3	—	35.15	33.27
3 前関節突起間全幅	4-4	23.51	21.46	22.81
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	***15.98***	14.07	12.62
5 椎体横径	21-21	18.03	18.57	18.23
6 椎弓根長	8-9	左8.34	—	—
7 横突起基部長	22-23	左9.13	左8.32	左10.88
8 横突起長	24-25	左9.97	10.61	左9.49
9 椎孔横径	14-14	13.21	13.07	12.43
10 椎孔高径	10-13	10.13	10.88	10.55
11 椎窩横径	16-16	12.94++	14.06	14.07
12 椎窩高径	17-18	9.34	10.77	10.35
13 椎体後端最大幅	26-26	20.64+	20.37	20.21
14 体全高I	7-17	20.45	22.68	20.13
15 体全高II	11-13	20.45	21.25	19.45±
16 椎体長	10-17	14.56	13.21	12.95
17 棘突起高	7-29	—	43.46	38.48
18 最大高	15-28	—	65.79	58.16
19 棘突起最大前後径	27-28	—	12.81	11.16
20 棘突起上端前後径	29-30	—	10.44	9.17
21 棘突起上端内外幅	31	—	6.29	5.21
22 椎体前端最大幅	32	21.72	22.06	20.17

<椎骨の計測について>

1 全長（前関節突起の前端より後関節突起の後端まで）骨軸に平行に計測
2 横突起間全幅（左右の横突起の外端間）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅径）
3′ 前関節面間全幅（左右の前関節面の外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
5 椎体横径（腹面後位第十幅）
6 椎弓根長
7 横突起基部長（上面から計測）
8 横突起長
9 椎孔横径
10 椎孔高径
11 椎窩横径
12 椎窩高径
13 椎体後端最大幅
14 体全高I（椎弓の最後方点中央より椎窩下縁まで）
15 体全高II（椎弓の最前方点中央より椎窩下縁まで）
16 椎体長（椎孔下縁より椎窩下縁までの正中線上の長さ）
17 棘突起高（椎弓の後縁上縁の中央より棘突起の最高端までの垂直高）
18 最大高（椎孔下縁より棘突起の最高端まで）椎骨下面に直角に計測
19 棘突起の最大前後径
20 棘突起の上端前後径
21 棘突起上端の内外幅
22 椎体前端最大幅

数値の++は極端小　数値の+++は極端やや大　*計測は椎窩までの計測値*

付表13　イヌの第3胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点	東京犬 18	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	***右36.62***	右33.28	右32.19
2 横突起間全幅	3-3	欠29.81	32.88	30.34
3 前関節突起間全幅	4-4	—	13.52	13.51
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	***16.40***		
4 後関節突起間全幅	5-5	***15.88***	14.25	11.06
5 椎体横径	21-21	18.59	18.09	17.61
6 椎弓根長	8-9	右9.85	左9.14	左9.75
7 横突起基部長	22-23	—	左7.64	左6.77
8 横突起長	24-25	—	18.55	左9.32
9 椎根横径	14-14	12.40	13.42	12.93
10 椎根高径	10-15	9.32	10.41	10.34
11 椎窩横径	16-16	13.87	14.04	14.17
12 椎窩高径	17-18	9.98	10.53	10.01
13 椎体後端最大幅	20-20	19.53	19.72	18.85
14 体全高I	7-17	23.13	23.82	21.03
15 体全高II	11-15	18.59	19.71	17.53
16 椎体長	15-17	***16.01***	13.36	12.75
17 棘突起高	7-29	—	40.64	34.04
18 最大高	15-29	—	63.60	54.46
19 棘突起最大厚後径	27-28	—	10.84	9.83
20 棘突起上端厚後径	29-30	—	9.77	7.62
21 棘突起上端内外幅	31	—	5.91	5.69
22 椎体前端最大幅	32	19.16	21.24	18.23

数値の＋は最強、*斜体は再走査での計測値*

付表14　イヌの第4胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点	東京犬 19	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	***左35.43***	右32.42	右31.41
2 横突起間全幅	3-3	欠30.61	32.14	29.48
3 前関節突起間全幅	4-4	—	13.45	11.73
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	***16.04***		
4 後関節突起間全幅	5-5	—	12.49	10.23
5 椎体横径	21-21	18.56	17.02	16.91
6 椎弓根長	8-9	左10.00	左9.02	左8.63
7 横突起基部長	22-23	左7.60	左7.02	左5.71
8 横突起長	24-25	欠9.79	9.89	左9.19
9 椎根横径	14-14	12.31	12.48	13.07
10 椎根高径	10-15	—	10.38	9.86
11 椎窩横径	16-16	14.12	14.21	13.93
12 椎窩高径	17-18	***10.71***	10.56	9.99
13 椎体後端最大幅	20-20	21.80	18.77	18.21
14 体全高I	7-17	22.41	23.47	23.28
15 体全高II	11-15	17.87	19.98	17.63
16 椎体長	15-17	***14.32***	13.27	12.47
17 棘突起高	7-29	—	37.24	32.91
18 最大高	15-29	—	60.83	56.26
19 棘突起最大厚後径	27-28	—	9.95	9.21
20 棘突起上端厚後径	29-30	—	8.97	8.11
21 棘突起上端内外幅	31	—	5.58	5.82
22 椎体前端最大幅	32	18.65	18.72	17.86

斜体は再走査での計測値

付表15　イヌの第5胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点	東京犬 20	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	***左34.34***	右31.97	右32.54
2 横突起間全幅	3-3	—	31.76	33.27
3 前関節突起間全幅	4-4	—	12.49	22.81
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	***16.41***		
4 後関節突起間全幅	5-5	—	14.21	12.62
5 椎体横径	21-21	17.48	16.72	18.23
6 椎弓根長	8-9	左10.94	左8.67	—
7 横突起基部長	22-23	—	左7.33	左10.98
8 横突起長	24-25	—	7.31	左9.46
9 椎根横径	14-14	13.38		12.43
10 椎根高径	10-15	***10.59***		10.55
11 椎窩横径	16-16	13.94		14.07
12 椎窩高径	17-18	10.62		10.35
13 椎体後端最大幅	20-20	20.01		20.21
14 体全高I	7-17	21.7		20.13
15 体全高II	11-15	19.09		19.45cm
16 椎体長	15-17	***16.09***		12.96
17 棘突起高	7-29	—		38.48
18 最大高	15-29	—		58.16
19 棘突起最大厚後径	27-28	—		11.16
20 棘突起上端厚後径	29-30	—		9.17
21 棘突起上端内外幅	31	—		5.21
22 椎体前端最大幅	32	18.35	18.42	20.53

斜体は再走査での計測値　　数値の＋は最強小で、欠損値

<胸椎の計測について>

1 全長（前関節突起の前端より後関節突起の後端まで）骨軸に平行に計測
2 横突起間全幅（左右の横突起の外端幅径）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅径）
3′ 前関節面間全幅（左右の前関節面の外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
5 椎体横径（椎体後端最小幅）
6 椎弓根長
7 横突起基部長（上面から計測）
8 横突起長
9 椎根横径
10 椎根高径
11 椎窩横径
12 椎窩高径
13 椎体後端最大幅
14 体全高I（椎弓の最後方点中央より横底下縁まで）
15 体全高II（椎弓の最前方点中央より横底下縁まで）
16 椎体長（椎根下縁より横底下縁までの正中線上の長さ）
17 棘突起高（椎弓の後縁上端の中央より棘突起の最高端までの垂直高）
18 最大高（椎根下縁より棘突起の最高端まで）椎骨下面に直角に計測
19 棘突起の最大厚後径
20 棘突起の上端厚後径
21 棘突起上端の内外幅径
22 椎体前端最大幅

付表16　イヌの第6胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬 21	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	—	右22.49	右22.29++
2 横突起間全幅	3-3	—	30.76	30.03
3 前関節突起間全幅	4-4	—	13.47	10.36
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	*16.16*	13.76	11.64
5 椎体横径	21-21	17.82	16.52	16.21
6 椎弓根高	8-9	左10.24	左9.01	右8.89
7 横突起基部長	22-23	—	左7.87	右6.35
8 横突起長	24-25	—	左9.26	
9 椎間横径	14-14	12.77	12.82	12.62
10 椎間高径	15-15	9.84	10.04	10.04
11 椎孔横径	16-16	*14.31*	12.78	13.44
12 椎孔高径	17-18	9.67	9.91	9.91
13 椎体後端最大幅	26-26	19.21	17.73	17.73
14 体全高I	7-17	26.81	—	21.72
15 体全高II	11-15	18.81	19.92	17.96
16 椎体長	15-17	*15.21*	12.63	13.69
17 棘突起高	7-28	—	26.33	22.84
18 最大高	15-28	—	48.14	45.05
19 棘突起最大前後径	27-28	—	11.02	9.36
20 棘突起上端前後径	29-30	—	10.49	11.06
21 棘突起上端内外幅	31	—	5.76	5.06
22 椎体後端最大幅	32	16.49	17.72	17.72

斜体は病変部での計測値　　数値の＋＋は破損や欠失

付表17　イヌの第7胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬 45	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	—	右22.39	右22.33++
2 横突起間全幅	3-3	—	30.46	28.73
3 前関節突起間全幅	4-4	—	12.86	10.88
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	推12.09		
4 後関節突起間全幅	5-5	—	13.25	10.64
5 椎体横径	21-21	16.89	16.32	15.67
6 椎弓根長	8-9	左10.41	左9.26	左8.39
7 横突起基部長	22-23	—	左8.04	左7.35
8 横突起長	24-25	—	左9.95	左9.09
9 椎間横径	14-14	12.32	12.81	12.24
10 椎間高径	15-15	9.24	9.95	9.86
11 椎孔横径	16-16	13.16	13.51	13.29
12 椎孔高径	17-18	9.85	9.76	9.62
13 椎体後端最大幅	26-26	18.38	17.73	17.45
14 体全高I	7-17	—	—	21.27
15 体全高II	11-15	17.52	18.97	18.48
16 椎体長	15-17	*17.79*	12.55	13.06
17 棘突起高	7-28	—	23.17	20.54
18 最大高	15-28	—	44.85	41.79
19 棘突起最大前後径	27-28	—	9.42	8.43
20 棘突起上端前後径	29-30	—	10.39	12.64
21 棘突起上端内外幅	31	—	4.71	4.46
22 椎体後端最大幅	32	*17.87*	17.16	17.11

斜体は病変部での計測値
数値の＋＋は破損や欠失

付表18　イヌの第8胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬 49	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	—	右22.72	右23.07
2 横突起間全幅	3-3	—	30.22	28.48
3 前関節突起間全幅	4-4	—	11.71	10.59
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	13.06		
4 後関節突起間全幅	5-5	—	12.36	11.06
5 椎体横径	21-21	—	16.36	15.92
6 椎弓根長	8-9	左10.22	左9.63	左9.32
7 横突起基部長	22-23	—	左9.06	左8.07
8 横突起長	24-25	—	左9.97	左10.56
9 椎間横径	14-14	11.97	12.37	11.61
10 椎間高径	15-15	9.18	10.31	9.56
11 椎孔横径	16-16	14.02	14.19	12.83
12 椎孔高径	17-18	9.29	9.83	9.59
13 椎体後端最大幅	26-26	18.15++	18.03	17.61
14 体全高I	7-17	—	—	—
15 体全高II	11-15	17.08	19.18	18.15
16 椎体長	15-17	*17.24*	13.08	13.41
17 棘突起高	7-28	—	19.61	20.54
18 最大高	15-28	—	42.09	40.71
19 棘突起最大前後径	27-28	—	7.89	8.55
20 棘突起上端前後径	29-30	—	7.71	12.59
21 棘突起上端内外幅	31	—	4.67	3.31
22 椎体後端最大幅	32	*16.78*	17.12	16.11

数値の＋は破損や欠失　斜体は病変部での計測値

<椎骨の計測について>

1 全長（前関節突起の後縁より後関節突起の後端まで）脊軸に平行に計測
2 横突起間全幅（左右の横突起の外縁幅間）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外縁間の最大幅径）
3′ 前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外縁間の最大幅）
5 椎体横径（椎体後位最小幅）
6 椎弓根長
7 横突起基部長（上面から計測）
8 横突起長
9 椎間横径
10 椎間高径
11 椎孔横径
12 椎孔高径
13 椎体後端最大幅
14 体全高I（椎弓の最後方点中央より椎孔下縁まで）
15 体全高II（椎弓の最前方点中央より椎孔下縁まで）
16 椎体長（椎体下縁より椎孔下縁までの正中線上の長さ）
17 棘突起高（椎弓の後縁上縁の中央より棘突起の最高端までの垂直高）
18 最大高（椎体下縁より棘突起の最高端まで）椎骨下面に直角に計測
19 棘突起の最大前後径
20 棘突起の上端前後径
21 棘突起上端の内外幅幅
22 椎体後端最大幅

付表19　イヌの第9胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	実寸大	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2		右23.39	右23.31
2 横突起間全幅	3-3		29.57	28.86
3 前関節面間全幅	4-4		11.69	10.34
3′ 前関節面間全幅	4′-4′			
4 後関節突起間全幅	5-5		12.46	10.54
5 椎体横径	21-21		17.15	16.49
6 棘突起	8-9		左9.72	左9.96
7 横突起基部長	22-23		左9.46	左8.83
8 横突起長	24-25		左11.15	左11.09
9 椎弧横径	14-14		12.77	11.74
10 椎弧高径	16-15		10.29	9.44
11 椎孔横径	16-16		14.61	13.03
12 椎孔高径	17-18		9.96	9.45
13 椎体後端最大幅	26-26		19.34	18.34
14 体全高I	7-17		—	—
15 体全高II	11-15		19.04	18.17
16 椎体長	13-17		14.09	13.62
17 棘突起高	7-28		—	15.62
18 最大高	13-28		37.46	36.04
19 棘突起最大厚後径	27-28		8.67	7.44
20 棘突起上端厚後径	29-30		7.91	7.09
21 棘突起上端内外幅	31		4.79	3.15
22 椎体後端最大幅	32			16.36

付表20　イヌの第10胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	実寸大 55	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	—	右25.94	右推22.50
2 横突起間全幅	3-3	—	29.62	28.38
3 前関節面間全幅	4-4	—	12.69	—
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	—	9.87	9.61
5 椎体横径	21-21	16.65+	16.93	16.64
6 棘突起	8-9	—	左10.72	左11.46
7 横突起基部長	22-23	—	左10.54	左9.45
8 横突起長	24-25	—	左14.38	左13.11
9 椎弧横径	14-14	12.79	13.78	13.21
10 椎弧高径	16-15	9.62	10.48	9.96
11 椎孔横径	16-16	17.48	18.04	17.95
12 椎孔高径	17-18	8.83	9.69	9.18
13 椎体後端最大幅	26-26	*18.27*	18.04	17.95
14 体全高I	7-17	—	—	20.23
15 体全高II	11-15	—	18.29	—
16 椎体長	13-17	14.24	13.77	14.86
17 棘突起高	7-28	—		—
18 最大高	13-28	—	34.41	27.48
19 棘突起最大厚後径	27-28	—	8.92	—
20 棘突起上端厚後径	29-30	—	3.64	—
21 棘突起上端内外幅	31	—	4.82	2.38
22 椎体後端最大幅	32	*17.59*		15.83

数値の＋は過剰・小

付表21　イヌの第11胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	実寸大 60	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	—	右25.40	右24.92
2 横突起間全幅	3-3	—	28.77	27.72
3 前関節面間全幅	4-4	—	17.00	17.79++
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	推9.21	9.12	9.62
5 椎体横径	21-21	*18.38*	17.24	17.38
6 棘突起	8-9	—	左12.28	左13.33
7 横突起基部長	22-23	—	—	左10.61
8 横突起長	24-25	—	左14.58	左11.92
9 椎弧横径	14-14	14.05	14.54〜16.48	14.16〜17.45
10 椎弧高径	16-15	10.37	10.46	9.79
11 椎孔横径	16-16	17.67	17.83	17.79
12 椎孔高径	17-18	8.52	9.24	8.96
13 椎体後端最大幅	26-26	*20.88*		—
14 体全高I	7-17	—	20.43	20.44
15 体全高II	11-15	—	18.15	18.09
16 椎体長	13-17	—	14.24	14.96
17 棘突起高	7-28	—		—
18 最大高	13-28	—	33.18	30.48
19 棘突起最大厚後径	27-28	—		—
20 棘突起上端厚後径	29-30	—	—	8.99
21 棘突起上端内外幅	31	—	3.46	3.25
22 椎体後端最大幅	32	*17.38*		—

数値の＋は過剰・数値の++は過剰やや大　　*斜体は推定値での計測*

<胸椎の計測について>

1 全長（後関節突起の後端より後関節突起の後端まで）骨軸に平行に計測
2 横突起間全幅（左右の横突起の外端間）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起の外端間の最大幅）
3′ 前関節面間全幅（左右の前関節面の外端間の最大幅）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
5 椎体横径（腹面後縁最小幅）
6 棘突起
7 横突起基部長（上面から計測）
8 横突起長
9 椎弧横径
10 椎弧高径
11 椎孔横径
12 椎孔高径
13 椎体後端最大幅
14 体全高I（棘突の最長方右中央より椎孔下縁まで）
15 体全高II（棘突の最長方右中央より椎孔下縁まで）
16 椎体長（椎孔下縁より椎孔下縁までの正中線上の長さ）
17 棘突起高（棘突の後縁上端の中央より棘突起の最高端までの垂直距）
18 最大高（椎孔下縁より棘突起の最高端まで）椎骨下面に直角に計測
19 棘突起の最大厚後径
20 棘突起の上端厚後径
21 棘突起上端の内外幅
22 椎体後端最大幅

付表22　イヌの第12胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東筑犬 61	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	—	右28.03	右27.98
2 横突起間全幅	3-3	—	27.98	26.61
3 前関節面間全幅	4-4	—	18.58	19.24
3' 前関節面間全幅	4'-4'	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	—	10.21	10.91
5 椎体横径	21-21	*19.51*	17.99	17.41
6 椎弓根長	9-9	左16.47	左13.95	左15.23
7 横突起基部長	22-23	—	右9.37	左6.96
8 横突長径	23-23	—	左7.82	左6.57
9 椎孔横径	14-14	17.81	18.29	17.58
10 椎孔高径	10-13	—	10.29	9.49
11 椎管横径	16-16	18.59	18.39	17.95
12 椎管高径	17-18	9.79	9.38	8.85
13 椎体後端最大幅	20-26	*20.09*		—
14 体全高I	7-17	19.82	20.14	20.86
15 体全高II	11-13	—	18.43	17.88
16 棘突長	15-17	*22.81*	14.09	14.71
17 横突長径	7-28	—	—	—
18 最大高	15-28	—	32.45	29.79
19 横突長径大前後径	27-28	—	—	—
20 横突長径上端前後径	29-30	—	10.29	8.93
21 横突長径上端内外幅	31	—	5.15	3.96
22 椎体前端最大幅	32			

数値の＋は過剰、*斜体は再測定値*での計測値

付表23　イヌの第13胸椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東筑犬 62	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	—	右30.90	右30.46
2 横突起間全幅	3-3	—	26.06	24.76
3 前関節面間全幅	4-4	—	22.14	21.91
3' 前関節面間全幅	4'-4'	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	—	10.02	11.26
5 椎体横径	21-21	*18.68*	17.46	17.05
6 椎弓根長	9-9	右17.59	左15.67	左16.14
7 横突起基部長	22-23	—	左7.08	—
8 横突長径	24-25	—	左7.56	—
9 椎孔横径	14-14	19.69	18.01	18.76
10 椎孔高径	10-13	9.42	9.78	9.34
11 椎管横径	16-16	19.34	18.27	18.01
12 椎管高径	17-18	9.09	9.75	9.29
13 椎体後端最大幅	26-26	—	—	—
14 体全高I	7-17	—	20.31	20.44
15 体全高II	11-13	18.64	18.27	18.13
16 棘突長	15-17	15.33	15.33	15.42
17 横突長径	7-28	—	—	—
18 最大高	15-28	—	33.08	30.50
19 横突長径大前後径	27-28	—	—	—
20 横突長径上端前後径	29-30	—	11.78	11.96
21 横突長径上端内外幅	31	—	5.69	4.29
22 椎体前端最大幅	32			

付表24　イヌの第1腰椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東筑犬 63	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左33.01++	右30.34	右32.54
2 横突起間全幅	3-3	—	35.29	38.29
3 前関節突起間全幅	4-4	—	22.67	22.18
3' 前関節面間全幅	4'-4'	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	10.69	13.32	11.91
5 椎体横径	21-21	17.75	16.93	17.15
6 椎弓根長	9-9	右18.91	左19.09	左17.23
7 椎孔横径	14-14	17.98	17.61	18.34
8 椎孔高径	10-13	9.51	10.27	10.44
9 椎管横径	16-16	18.49+	18.29	18.23
10 椎管高径	17-18	9.2	10.02	10.05
体全高I	7-17	20.03	21.11	21.23
体全高II	11-13	19.22	18.42	18.37
11 棘突長	15-17	17.76	18.04	16.52
12 最大高	15-28	—	33.52	36.16

数値の＋＋は過剰や不大

<腰椎の計測について>

1 全長（前関節突起前端より後関節突起後端まで）　脊柱に平行に計測

2 横突起間全幅（左右の横突起外端幅径）

3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起外端間の最大幅径）

3' 前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）

4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起外端間の最大幅）

5 椎体横径（腹面後の最小幅）

6 椎弓根長

7 椎孔横径

8 椎孔高径

9 椎管横径

10 椎管高径

体全高I（椎弓の最後方点中央より椎底下縁まで）

体全高II（椎弓の最前方点中央より椎底下縁まで）

11 棘突長（椎間下縁より椎底下縁までの正中線上の長さ）

12 最大高（椎間下縁より横突起最高端まで）椎骨下面に直角

付表25　イヌの第2腰椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東條犬 64	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左34.78++	右33.49	右31.74
2 横突起間全幅	3-3	—	46.88	39.54
3 前関節突起間全幅	4-4	—	23.47	24.88
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	13.21	13.21	14.67
5 椎体横径	21-21	16.95	17.11	17.07
6 椎弓長径	9-9	左19.51	左17.62	左19.11
7 椎間横径	14-14	18.30	17.81	17.54
8 椎間高径	10-13	9.67	10.59	10.75
9 椎関横径	16-16	18.71	18.59	18.31
10 椎関高径	17-18	9.62	10.22	11.12
体全高I	7-17	22.06	21.65	21.98
体全高II	11-13	19.86	19.11	18.59
11 椎体長	15-17	20.31	17.95	19.11
12 最大高	15-20	—	39.64	34.43

数値の++は破損や中大　　高体は骨成長での計測値

付表26　イヌの第3腰椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東條犬 65	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左35.42	右34.46	右31.74
2 横突起間全幅	3-3	—	残存48.34	39.54
3 前関節突起間全幅	4-4	残存18.36	25.06	24.88
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	13.13	11.87	14.67
5 椎体横径	21-21	18.07	17.62	17.07
6 椎弓長径	9-9	左20.26	左19.03	左19.11
7 椎間横径	14-14	17.58	17.47	17.54
8 椎間高径	10-15	10.06	12.06	10.75
9 椎関横径	16-16	19.61	18.49	18.31
10 椎関高径	17-19	9.96	11.38	11.12
体全高I	7-17	22.36	23.05	21.98
体全高II	11-15	20.58	20.95	18.59
11 椎体長	15-17	19.01	19.61	19.11
12 最大高	15-20	21.64	40.87	34.43

付表27　イヌの第4腰椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東條犬 66	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左33.07+	右35.32	
2 横突起間全幅	3-3	—	残存32.97	
3 前関節突起間全幅	4-4	残存19.69	24.54±	
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	14.06	12.01	
5 椎体横径	21-21	19.24	19.64	
6 椎弓長径	9-9	右20.46	左20.67	
7 椎間横径	14-14	18.28	18.03	
8 椎間高径	10-15	11.09	12.47	
9 椎関横径	16-16	20.14	19.99	
10 椎関高径	17-18	9.71	10.87	
体全高I	7-17	21.32	22.51	
体全高II	11-15	20.46	21.31	
11 椎体長	15-17	20.4	20.79	
12 最大高	15-20	—	43.19	

数値の++は破損・数値の±は破損小で、復原値

付表28　イヌの第5腰椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東條犬 67	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左36.78	右38.56	右33.06
2 横突起間全幅	3-3	—	—	残存40.62
3 前関節突起間全幅	4-4	残存18.79	22.61	23.38
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	13.43	12.04	13.38
5 椎体横径	21-21	19.76	20.33	18.67
6 椎弓長径	9-9	左20.69	左19.94	左20.88
7 椎間横径	14-14	18.26	18.68	17.18
8 椎間高径	10-13	10.6	11.02	11.11
9 椎関横径	16-16	20.04	21.08	19.66
10 椎関高径	17-18	10.4	11.06	11.62
体全高I	7-17	21.72	21.69	21.92
体全高II	11-15	18.52	19.62	18.71
11 椎体長	15-17	20.91	20.37	21.24
12 最大高	15-20	—	40.99	38.23

付表29　イヌの第6腰椎　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東條犬 68	亀井1号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	左35.44	右37.44	左32.32
2 横突起間全幅	3-3	—	残存59.22	
3 前関節突起間全幅	4-4	残存18.59	23.24	—
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	14.26	12.88	15.91++
5 椎体横径	21-21	20.32	21.46	19.88
6 椎弓長径	9-9	左19.83	左19.02	左19.54
7 椎間横径	14-14	18.11	18.88	17.73
8 椎間高径	10-13	10.81	11.24	11.24
9 椎関横径	16-16	20.72	22.14	21.17
10 椎関高径	17-18	10.18	11.03	10.55
体全高I	7-17	22.03	21.82	19.95
体全高II	11-15	19.46	19.09	17.78
11 椎体長	15-17	21.11	19.27	20.21
12 最大高	15-20	—	40.46	38.08

数値の++は破損や中大

<腰椎の計測について>

1 全長（前関節突起前縁より後関節突起後縁まで）　骨軸に平行に計測
2 横突起間全幅（左右の横突起外端間）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起外端間の最大幅径）
3′ 前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起外端間の最大幅）
5 椎体横径（関節突起基小幅）
6 椎弓長径
7 椎間横径
8 椎間高径
9 椎関横径
10 椎関高径
体全高I（椎弓の最後左右中央より椎関下縁まで）
体全高II（椎弓の最前左右中央より椎間下縁まで）
11 椎体長（椎間下縁より椎関下縁までの正中線上の長さ）
12 最大高（椎間下縁より棘突起最高縁まで）棘突下面に直角

付表30　イヌの第7頸椎　計測表

（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	東畑犬 78	亀井4号犬	亀井2号犬
1 全長	1-2	30.31	—	左29.37
2 横突起間全幅	3-3	—	65.06	56.61
3 前関節突起間全幅	4-4	残存20.67	—	22.54
3′ 前関節面間全幅	4′-4′	—		
4 後関節突起間全幅	5-5	23.72	—	25.17
5 椎体腹径	21-21	20.49	—	19.96
6 椎弓根長	9-9	右16.36	—	左13.61
7 椎孔腹径	10-14	19.51	—	19.18
8 椎孔高径	10-13	16.12	—	18.71
9 椎管腹径	16-16	21.06	22.31	20.54
10 椎管高径	17-18	10.39	11.54	18.97
棘突高I	7-17	18.03	—	17.74
棘突高II	11-13	17.24	—	17.18
11 椎体長	15-17	16.99	16.45	16.18
12 最大高	15-20	—	—	23.57

<頸椎の計測について>

1 全長（前関節突起前端より後関節突起後端まで）　骨軸に平行に計測
2 横突起間全幅（左右の横突起外端間）
3 前関節突起間全幅（左右の前関節突起外端間の最大幅径）
3′ 前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）
4 後関節突起間全幅（左右の後関節突起外端間の最大幅）
5 椎体腹径（腹面後位最小幅）
6 椎弓根長
7 椎孔腹径
8 椎孔高径
9 椎管腹径
10 椎管高径
　棘突高I（椎弓の最後方点中央より椎頂下縁まで）
　棘突高II（椎弓の最前方点中央より椎頂下縁まで）
11 椎体長（椎頂下縁より椎底下縁までの正中線上の長さ）
12 最大高（椎頂下縁より棘突起最高端まで）椎骨下面に直角

付表31　イヌの仙骨　計測表

（参考資料）

計測項目	資料 計測点へ	東畑犬 77	亀井1号犬
1 全長	1-2	—	右45.32
2 仙骨翼幅I	3-3	42.12+	41.42
3 仙骨翼幅II	3′-3′	—	33.39
4 仙骨翼幅III	3″-3″	—	28.34
5 仙骨翼長	3-4	左31.85	左29.09
6 骨盤仙骨孔間径I（前位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）	21-21	—	21.49
7 骨盤仙骨孔間径II（後位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）	22-22	—	12.63
8 前関節突起間全幅I（左右の前関節突起外端間の最大幅径）	4-4	—	38.79
9 前関節突起間全幅II（左右の前関節突起基部外端間の最大幅径）	23-23	残31.85	43.12
10 前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）	24-24	残22.92	26.42
11 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）	5-5	—	9.67
12 椎孔腹径	14-14	21.36	21.89
13 椎孔高径	10-13	9.77	10.61
14 椎孔外端の小孔間幅	25-25	18.11	20.42
15 椎管腹径	16-16	—	10.13
16 椎管高径	17-18	—	5.33
17 椎体長	15-17	残13.99	29.87
18 椎体長	26-27	残16.81	33.51
19 最大高	15-20	—	21.61

数値の＋は破損小

<仙骨の計測について>

1 全長（腰突起の後端より腰突起の後端まで）骨軸に平行に計測
2 仙骨翼幅I（仙骨翼の前位の外端間の最大幅径）
3 仙骨翼幅II（仙骨翼の中位の外端間の最大幅径）
4 仙骨翼幅III（仙骨翼の後位の外端間の最大幅径）
5 仙骨翼長
6 骨盤仙骨孔間径I（前位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）
7 骨盤仙骨孔間径II（後位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）
8 前関節突起間全幅I（左右の前関節突起外端間の最大幅径）
9 前関節突起間全幅II（左右の前関節突起基部外端間の最大幅径）
10 前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）
11 後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
12 椎孔腹径
13 椎孔高径
14 椎孔外端の小孔間の幅（左右の小孔内縁間の距離）
15 椎管腹径
16 椎管高径
17 椎体長（椎頂下縁～椎底下縁までの正中線上の長さ）
18 椎体長（椎頂前縁～椎底後縁までの正中線上の長さ）
19 最大高（椎頂下縁～棘突起最高端まで）椎骨下面に直角に計測

付表32　イヌの臨薦骨　計測表

計測項目	資料 計測点へ	東畑犬 76
1 全長	1-2	残59.60
2 中央腹径	3-4	8.89
3 中央腹高径	5-	9.34

<臨薦骨の計測について>

1 全長（臨薦骨尖～臨薦骨底まで）
2 中央腹径（最大幅）
3 中央腹高径

付表30　イヌの第7腰椎　計測表

（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東畑犬 75	亀井4号犬	亀井2号犬
1　全長	1-2	30.31	—	右29.37
2　棘突起間全幅	3-3	—	65.06	56.61
3　前関節突起間全幅	4-4	残存20.67	—	22.54
3'　前関節面間全幅	4'-4'	—		
4　後関節突起間全幅	5-5	23.72	—	25.17
5　椎体横径	21-21	20.49	—	19.98
6　椎弓根長	9-9	右14.36	—	左13.61
7　椎孔横径	16-16	19.51	—	19.18
8　椎孔高径	10-13	18.12	—	18.71
9　椎窩横径	36-36	21.06	22.31	20.54
10　椎窩高径	37-38	10.39	11.54	10.97
関節突起Ⅰ	7-37	18.63	—	17.74
関節突起Ⅱ	11-13	17.24	—	17.98
11　椎体長	35-37	16.99	18.45	16.98
12　最大高	35-39	—	—	33.57

<腰椎の計測について>

1　全長（前関節突起前端より後関節突起後端まで）　骨軸に平行に計測
2　棘突起間全幅（左右の棘突起外端幅径）
3　前関節突起間全幅（左右の前関節突起外端間の最大幅径）
3'　前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）
4　後関節突起間全幅（左右の後関節突起外端間の最大幅）
5　椎体横径（腹面最小幅）
6　椎弓根長
7　椎孔横径
8　椎孔高径
9　椎窩横径
10　椎窩高径
関節突起Ⅰ（椎弓の最後方点中央より椎窩下縁まで）
関節突起Ⅱ（椎弓の最前方点中央より椎窩下縁まで）
11　椎体長（椎窩下縁より椎窩下縁までの正中線上の長さ）
12　最大高（椎窩下縁より棘突起最高端まで）椎骨下面に直角

付表31　イヌの仙骨　計測表

（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東畑犬 77	亀井4号犬
1　全長	1-2	—	右45.32
2　仙骨翼幅Ⅰ	3-3	42.12+	41.42
3　仙骨翼幅Ⅱ	3'-3'	—	33.39
4　仙骨翼幅Ⅲ	3''-3''	—	28.34
5　仙骨翼長	3-4	左31.85	左29.09
6　骨盤仙骨孔間長Ⅰ（前位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）	21-21	—	21.49
7　骨盤仙骨孔間長Ⅱ（後位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）	22-22	—	12.63
8　前関節突起間全幅Ⅰ（左右の前関節突起外端間の最大幅径）	4-4	—	38.79
9　前関節突起間全幅Ⅱ（左右の前関節突起基部外端間の最大幅径）	23-23	残31.85	43.12
10　前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）	24-24	残22.92	26.42
11　後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）	5-5	—	9.67
12　椎孔横径	14-14	21.36	21.89
13　椎孔高径	30-13	9.77	10.61
14　椎孔外端の小孔間幅（左右の小孔内縁間の距離）	25-25	18.11	20.42
15　椎窩横径	36-36	—	10.13
16　椎窩高径	37-38	—	5.33
17　椎体長	35-37	残13.99	29.87
18　椎体長	26-27	残16.81	33.51
19　最大高	35-39	—	21.01

数値の＋は補測値

<仙骨の計測について>

1　全長（棘突起の後端より棘突起の後端まで）骨軸に平行に計測
2　仙骨翼幅Ⅰ（仙骨翼の前位の外縁間の最大幅径）
3　仙骨翼幅Ⅱ（仙骨翼の中位の外縁間の最大幅径）
4　仙骨翼幅Ⅲ（仙骨翼の後位の外縁間の最大幅径）
5　仙骨翼長
6　骨盤仙骨孔間長Ⅰ（前位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）
7　骨盤仙骨孔間長Ⅱ（後位の骨盤仙骨孔の内縁間の距離）
8　前関節突起間全幅Ⅰ（左右の前関節突起外端間の最大幅径）
9　前関節突起間全幅Ⅱ（左右の前関節突起基部外端間の最大幅径）
10　前関節面間全幅（左右の前関節面外端間の最大幅径）
11　後関節突起間全幅（左右の後関節突起の外端間の最大幅）
12　椎孔横径
13　椎孔高径
14　椎孔外端の小孔間の幅（左右の小孔内縁間の距離）
15　椎窩横径
16　椎窩高径
17　椎体長（椎窩下縁～椎窩下縁までの正中線上の長さ）
18　椎体長（椎窩前縁～椎窩後縁までの正中線上の長さ）
19　最大高（椎窩下縁～棘突起最高端まで）椎骨下面に直角に計測

付表32　イヌの臨薦骨　計測表

計測項目	資料（計測点）	東畑犬 76
1　全長	1-2	残10.60
2　中央部横径	3-4	8.89
3　中央部高径	5-	9.34

<臨薦骨の計測について>

1　全長（臨薦骨尖～臨薦骨底まで）
2　中央部横径（最大幅）
3　中央部高径

付表33　イヌの肩甲骨　計測表

計測項目	資料（計測点）	東頃犬 27・47 L	東頃犬 12 R	亀井1号犬 L	亀井1号犬 L
1 全長	1-2	残66.98	残48.04	128.75	112.09
2 肩甲軸基底長	2-3	—	—	111.79	98.54
3 肩甲軸最大長	2-4	—	—	120.13	105.51
4 上関幅	5-6	—	—	56.11	49.92
5 関節最小幅	9-10	—	—	22.58	20.79
6 下関幅	12-13	27.60	27.53	26.79	24.81
7 関節窩高	12-1	23.01	22.56	22.67	21.33
8 関節窩幅	14-15	18.47	16.64	16.88	15.87
9 肩峰関節大幅	16-17	—	—	12.55	10.93
10 烏口突起大高	18-16	—	—	33.58	31.79

（参考資料）

数値は検定法での計測値

<肩甲骨の計測について>

1 全長（関節上結節の最下端～肩甲棘の基部頂点までの高さ）骨軸に平行に計測
2 肩甲軸基底長（肩甲軸の基部頂点～肩峰の基部下縁端までの長さ）
3 肩甲軸最大長（肩甲軸の基部頂点～肩峰後縁下端までの最大長）
4 上関幅（関角の後縁～前角の前縁までの幅）縫下部の後縁に直角に計測
5 関節最小幅（肩甲切痕の前縁～後縁までの肩甲頸の最小幅径）
6 下関幅（関節窩の後縁端～烏口突起の基部外縁端までの幅径）
7 関節窩高（関節窩の前後縁端間最大高）
8 関節窩幅（関節窩の内外縁最大幅径）
9 肩峰関節大幅（肩峰関節後縁間最大幅）骨軸に平行に計測
10 烏口突起大高（烏口突起先端～関節窩の内縁までの高径）

付表34　イヌの上腕骨　計測表

計測項目	資料（計測点）	東頃犬 28 L	東頃犬 29 R	亀井1号犬 L	亀井2号犬 L
1 全長1	1-2	144.44	144.81	145.08	137.36
2 全長11	30-2	140.37	140.04	140.26	132.92
3 上端最大前後径	3-4	24.32	24.89	26.62	23.82
4 上端最大幅	5-6	24.69	23.89	25.14	23.19
4b 上端最大幅（その2）	35-6	26.61	26.57		
5 大結節径	9-10	22.89	23.46	23.66	21.92
6 体中央横径	14-	12.92	12.90	12.54	11.46
7 体中央前後径	15-16	16.06	16.62	15.68	15.04
8 下端最大幅径	17-18	29.88	28.81	31.08	27.95
9 滑車下端幅	19-20	17.87	17.74	17.94	15.72
10 滑車前後最大径	23-24	19.89	19.98	19.71	18.16
11 内側顆前後幅	25-26	22.07	21.90	23.52	20.67
12 外側顆前後幅	27-28	19.67	19.85	18.63	17.29
13 滑車上孔幅	31-32	7.32	5.88	6.13	7.35
14 滑車上孔高	29-30	5.91	4.62	4.34	7.51

（参考資料）

数値の＋は概算小

<上腕骨の計測について>

1 全長1（大結節の最上端～内側上顆の最下端まで）骨長軸に平行に計測
2 全長11（上腕骨頭の上端～内側上顆の最下端まで）骨長軸に平行に計測
3 上端最大前後径（大結節の最前端～上腕骨頭の後端までの最大長径）
4 上端最大幅（上腕骨頭の外縁～小結節の内縁端までの最大幅径）
4b 上端最大幅（大結節の最外点～小結節の内縁端までの最大幅径）
5 大結節径（大結節の前後縁最間の長径）
6 体中央横径
7 体中央前後径（体中央横径の直分で計測）
8 下端最大幅径（外側上顆の最外端～内側上顆の最内端までの最大幅径）骨長軸に直角に計測
9 滑車下端幅（上腕滑車の下端面の外側縁の点に内側に長くなりんとする点～内側縁までの幅
10 滑車前後最大径
11 内顆前後幅（内側上顆の前縁～後縁までの幅径）
12 外顆前後幅（外側上顆の前縁～後縁までの幅径）
13 滑車上孔幅（滑車上孔の内外縁間幅径）
14 滑車上孔高（滑車上孔の上下縁間高径）

付表35　イヌの橈骨　計測表

計測項目	資料（計測点）	東頃犬 32 L	東頃犬 33 R	亀井1号犬 L	亀井2号犬 L
1 全長	1-2	142.49	141.44	—	132.11
2 上端最大幅	3-4	15.49	15.65	16.12	15.13
3 上端最大前後径	5-6	11.04	10.64	11.34	9.91
4 橈骨最小幅	9-10	12.48	12.32	13.15	12.29
5 橈骨厚	11-	6.38	6.49	6.36	5.76
6 体中央長幅	12-13	13.47	13.68	—	12.89-α
7 体中央横厚	14-	8.12	8.17	—	7.54
8 下端最大幅	15-16	21.55	21.32	22.63	19.87
9 下端厚	17-18	12.68	残11.06	12.59	11.39

（参考資料）

数値の＋は概算小

<橈骨の計測について>

1 全長（橈骨の関節最高端から茎状突起最下端）骨長軸に平行に計測
2 上端最大幅（橈骨頭の内外縁間最大長径）骨長軸に直角に計測
3 上端最大前後径（橈骨頭の前後縁間最大厚径）橈骨軸面に平行に計測
4 橈骨最小幅（橈骨頭の内外縁最小幅径）
5 橈骨厚（橈骨頭の前後縁間厚径）
6 体中央長幅（体中央の内外縁間幅）外縁ポイントは内側～急に入り込む最頂点
7 体中央横厚（体中央の前後縁間幅）体中央長幅の直分で計測
8 下端最大幅（遠位端の内外突起端間最大幅）骨長軸に直角に計測
9 下端厚（遠位端の前後縁間最大厚径）骨軸に直角に計測

付表36　イヌの尺骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬		亀井1号犬	亀井2号犬
		30	31		
	計測点＼	L	R	R	R
1 全長	1-2	残147.18	166.52	173.55	156.11
2 体前後径	3-4	22.06	21.51	23.59	21.23
3 体前後径	5-6	13.13	13.16	13.25	12.49
4 体前後径	7-8	21.32+	21.03	20.29	18.36
5 体中央前後幅	9-10	8.02★	7.19★	—	6.02★
6 下端最大前後幅	11-12	—	9.29	8.87	7.43
7 頭部厚	13-14	10.79	11.32	13.05	10.53
8 滑車切痕直径	3-7	—	15.72	18.09	16.24
9 滑車切痕最大厚	19-18	15.34	15.17	18.34	14.87
10 橈骨切痕直径	19-7	16.46	15.57		

数値の±は破損小で、復原値　　数値の＋は破損小

斜体は病変部での計測値　　★は変化点での計測

＜尺骨の計測について＞

1 全長（肘頭の頂点～茎状突起の下端まで）
2 体前後径（肘突起端～体後縁までの前後径）
3 体前後径（滑車切痕の中央縁～体後縁までの前後径）
4 体前後径（内側鉤状突起端～体後縁までの前後径）
5 体中央前後幅（体中央部における前後径）
6 下端最大前後幅（下端前後最大幅径）
7 頭部厚（肘頭内外厚径）
8 滑車切痕直径（肘突起の前端～内側鉤状突起の前端までの直径）
9 滑車切痕最大厚（外側鉤状突起端～滑車切痕の外縁までの最大厚径）
10 橈骨切痕直径　（外側鉤状突起端～内側鉤状突起端までの直径）

付表37　イヌの橈側手根骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬	亀井1号犬	亀井2号犬
		36		
	計測点＼	R	L	L
1 最大横径	3-4	19.94	20.71	18.81

付表38　イヌの第3手根骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料	東畑犬	亀井1号犬	亀井2号犬
		38		
	計測点＼	R	L	L
1 最大前後径	1-2	12.91	12.92	12.06
2 最大横径	3-4	7.21	7.19	6.93
3 最大高径	5-5	7.98	8.24	7.55

付表39　イヌの第1中手骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東博犬 39	亀井1号犬	亀井2号犬
		g	L	L
1 全長	1-2	17.88	17.71	17.15
2 上端横径	4-5	4.38	4.46	3.93
3 上端前後径	6-7	4.46	4.84	4.68
4 中部横径	8-9	3.77	3.27	2.89
5 中部前後径	10-11	2.38	2.93	2.86
6 下端横径	12-13	4.81	4.94	4.12
7 下端前後径	14-15	4.32	4.94	4.42

<第1中手骨の計測について>
1 全長（上端頂点より下端最下点までの最大長）
2 上端横径（上端内外横径）
3 上端前後径
4 中部横径（掌側面より計測計測）
5 中部前後径（外側面より計測）
6 下端横径（下端内外横径）
7 下端前後径

付表40　イヌの第2中手骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東博犬 40	亀井1号犬
		g	L
1 全長	1-2	47.62	49.35
2 上端横径	4-5	5.98	5.51
3 上端前後径	6-7	9.58	9.03
4 中部横径	8-9	6.09	<6.78>
5 中部前後径	10-11	5.65	<6.01>
6 最狭部最大横径	3-5	3.27	
7 下端横径	12-13	7.73	7.26
8 下端前後径	14-15	6.53	7.33

表示は再定計での計測値　<>は補われ

<第2中手骨の計測について>
1 全長（上端頂点より下端最下点までの最大長）外側面より計測
2 上端横径（上端内外横径）背側面を手前にして上面から計測
3 上端前後径（外側面より計測）
4 中部横径（掌側面より計測）
5 中部前後径（外側面より計測）
6 最狭部最大横径（3-4）
7 下端横径（下端内外横径）
8 下端前後径

付表41　イヌの第3中手骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東博犬 41	亀井1号犬
		g	g
1 全長	1-2	54.95	55.24
2 上端横径	4-5	7.01	7.26
3 上端前後径	6-7	10.41	9.48
4 中部横径	8-9	5.75	6.40
5 中部前後径	10-11	5.41	<4.89>
6 最狭部最大横径	3-3	8.18	7.78
7 下端横径	12-13	7.29	6.78
8 下端前後径	14-15	7.87	8.28

<>は補われ

<第3中手骨の計測について>
1 全長（上端頂点より下端最下点までの最大長）掌側面より計測
2 上端横径（上端内外横径）掌側面より計測
3 上端前後径（内側面を手前にして上面から計測）
4 中部横径（掌側面より計測）
5 中部前後径（外側面より計測）
6 最狭部最大横径（3-4）
7 下端横径（下端内外横径）
8 下端前後径

付表42　イヌの第4中手骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東博犬 42	亀井1号犬	亀井2号犬
		g	g	g
1 全長	1-2	隅42.34	55.29	52.44
2 上端横径	4-5	6.04	7.39	5.94
3 上端前後径	6-7	9.80	9.42	8.58
4 中部横径	8-9	5.79	5.54	5.22
5 中部前後径	10-11	5.77	5.11	4.85
6 最狭部最大横径	3-3	—	7.54	6.79
7 下端横径	12-13	—	6.83	6.33
8 下端前後径	14-15	—	8.14	7.33

<第4中手骨の計測について>
1 全長（上端頂点より下端最下点までの最大長）
2 上端横径（最狭部最大内外横径）背側面より計測
3 上端前後径（内側面より計測）
4 中部横径（掌側面より計測）
5 中部前後径（外側面より計測）
6 最狭部最大横径（3-4）
7 下端横径（下端内外横径）
8 下端前後径

付表43　イヌの第2基節骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東博犬 43	亀井1号犬	亀井2号犬
		g	g	g
1 全長	1-2	18.29	18.50	17.87
2 上端横径	4-5	8.29	7.54	6.67
3 上端前後径	6-7	7.89	6.94	6.82
4 中部横径	8-9	5.79	5.22	4.73
5 中部前後径	10-11	5.35	5.21	5.21
6 下端横径	12-13	6.29	6.34	5.85
7 下端前後径	14-15	5.07	5.18	4.81

表示は再定計での計測値

<基節骨の計測について>
1 全長（上・下端の最大長）下面に垂直に計測
2 上端横径（上端内外横径）
3 上端前後径
4 中部横径
5 中部前後径
6 下端横径（下端内外横径）
7 下端前後径

付表44　イヌの第3基節骨　計測表　（参考資料）

計測項目	資料（計測点）	東博犬 44	亀井1号犬	亀井2号犬
		g	g	g
1 全長	1-2	20.84	20.65	20.08
2 上端横径	4-5	7.98	7.32	6.85
3 上端前後径	6-7	7.69	7.19	6.99
4 中部横径	8-9	5.69	5.06	4.78
5 中部前後径	10-11	5.09	4.50	4.74
6 下端横径	12-13	6.29	6.49	5.94
7 下端前後径	14-15	4.85	5.25	4.68

付表45　イヌの寛骨　計測表

計測項目	資料	荒垣犬		亀井1号犬		亀井2号犬	
		4	5				
	計測点＼	L	R	L	R	L	R
1 寛骨長	1-2	残122.88	残115.48	136.46	136.68	123.58	122.77
2 腸骨長	3-1	残72.74	残65.73	72.38	73.06	67.25	68.51
3 関節窩前縁より坐骨結節端までの距離	3-4	—	—	52.24	52.05	43.72	44.56
4 恥骨結合長	5-6	—	—	42.17	42.17		37.07
5 腸骨最大幅	7-8	残38.58	—	45.49	45.81	43.25	43.16
6 腸骨翼最大厚	49-51	12.07	11.33	10.82	11.56	9.41	9.78
7 腸骨最小幅	13-14	18.52	18.01	17.56	17.59	16.45	15.79
8 腸骨体前縁最小厚径	16-63	8.22	8.04	8.05	8.03	7.77	7.54
9 寛骨臼窩前後径	3-17	19.51	18.82	21.36	21.15	18.59	17.99
10 寛骨臼窩横径	18-19	19.59	19.02	18.35	18.79	18.65	—
11 坐骨最小幅	21-20	17.75	—	15.52	15.87	14.19	14.47
12 閉鎖孔前後最大長	24-25	27.67	29.08	—	28.97	25.31	25.53
13 閉鎖孔最大横幅	28-26	—	21.21	22.77	22.49	19.85	20.93
14 寛骨臼底最小幅	27-64	—	—	7.26	—	8.48	8.13
15 恥骨結合後最小幅	26-30	—	—	7.55	7.04	6.56	5.77
16 坐骨長	17-2	—	—	45.22	45.28	42.71	42.05
17 坐骨最大幅	4-6	—	—	48.41	48.72	45.35	45.03
18 坐骨結節内側角	35-4	—	—	35.91	35.87	33.13	33.01
19 坐骨結節厚	32-33	—	—	10.58	10.24	9.04	8.57
20 坐骨体長	34-35	—	—	28.69	28.22	25.41	26.16
21 坐骨弓長径	31－31	—	—	29.71		29.43	
22 左右坐骨棘間距離	36－36	—	—	47.51		45.73	
23 左右関節窩前縁結節端間距離	3－3	—	—	71.53		67.18	
24 左右坐骨結節間距離	4－4	—	—	85.46		82.49	

（参考資料）

＜寛骨の計測について＞

1 寛骨長（腸骨稜の前縁より坐骨の恥骨部の最後方点までの最大長径）
2 腸骨長（寛骨臼窩の前縁より腸骨稜前縁まで長径）
3 関節窩前縁より坐骨結節端までの距離（寛骨臼窩の前縁より坐骨結節外端までの距離）
4 恥骨結合長（恥骨結節の恥骨結合面前端より坐骨弓中央の結合面後端に至る長径）
5 腸骨最大幅（腹側腸骨棘より背側腸骨稜までの最大幅径）
6 腸骨翼最大厚さ
7 腸骨最小幅（外側面から計測）
8 腸骨体腹側面の最小厚径
9 寛骨臼窩の前後径（寛骨臼窩前後縁間直径）
10 寛骨臼窩横径（寛骨臼窩上下縁間横径）
11 坐骨最小幅（寛骨臼窩後方の小坐骨切痕の中央縁より閉鎖孔外縁までの最小幅径）
12 閉鎖孔の前後最大長（閉鎖孔前後縁最大長径）
13 閉鎖孔の最大横幅（閉鎖孔内外縁間最大幅径）
14 寛骨臼底最小幅（恥骨櫛より閉鎖孔前縁までの最小幅径）
15 恥骨結合後最小幅（閉鎖孔内縁より恥骨結合面に至る最小幅径）腹側面から計測
16 坐骨長（寛骨臼窩の後縁より坐骨の恥骨部最後縁端までの長径）
17 坐骨最大幅（坐骨結節の外端より恥骨連合までの最大幅径）
18 坐骨結節内側角（坐骨結節内側角外端より坐骨結節外端までに距離）
19 坐骨結骨厚（坐骨結節の背腹縁間厚径）
20 坐骨体長（閉鎖孔後縁より坐骨板の後縁中央までの長さ）
21 坐骨弓長径（左右の坐骨結節内側角端間の直径）
22 左右坐骨棘間距離
23 左右関節窩前縁結節端間距離（左右の寛骨臼窩前縁の結節端間距離）
24 左右坐骨結節間距離（左右の坐骨結節端間の距離）

付表46　イヌの大腿骨　計測表

計測項目	資料	東洋犬		亀井1号犬	亀井2号犬
	計測点	69 L	70 R	L	R
1 全長I	1-2	156.61	158.47	158.37	147.75
2 全長II	34-30	157.91	158.96	160.26	148.75
3 上端最大横径	3-4	34.68+	35.68	33.78	31.54
4 頭径	5-6	16.32	16.46	17.11	15.71
5 頭幅	8-9	15.82	16.09	16.89	15.22
6 転子窩の上端幅	7-15	9.86	10.66	8.75	10.56
7 体中央前後径	13-14	12.65	13.07	—	—
8 体中央横径	15-16	13.94	13.61	—	12.94
9 下端最大幅	17-18	28.13	28.37	28.22	25.83
10 内側顆前後幅	23-22	28.52+	29.54	31.05	28.46
11 外側顆前後幅	33-24	28.88	29.84	30.35	28.22
12 顆間窩最大幅	28-29	9.96	10.26	9.53	9.86

（参考資料）

数値の＋は破損小

<大腿骨の計測について>

1 全長I（大転子頂点より外側顆下端までの直径）骨長軸に平行に計測
2 全長II（大腿骨頭頂点より内側顆下端までの直径）骨長軸に平行に計測
3 上端最大横径（大腿骨頭内縁端より大転子外端までの直径）骨軸に直角に、後面から計測
4 頭径（大腿骨頭上下最間直径）　後面より計測
5 頭幅（大腿骨頭前後最間幅径）
6 転子窩の上端幅（大腿骨頭外縁より大転子内縁までの直線距離）
7 体中央前後径（体中央部における粗面より体前後径）
8 体中央横径（体中央部における内外横径）
9 下端最大幅（内側上顆端より外側上顆端までの最大幅径）　骨長軸に平行に計測
10 内側顆前後幅（内側顆後端より膝蓋面内縁前端までの幅径）
11 外顆前後幅（外側顆後端より膝蓋面外縁前端までの幅径）
12 顆間窩最大幅（内側顆・外側顆各内縁間における顆間窩最大幅径）

付表47　イヌの脛骨　計測表

計測項目	資料	東洋犬		亀井1号犬	亀井2号犬
	計測点	71 L	72 R	L	L
1 全長	1-2	残70.15	残80.71	157.18	146.21
2 上端最大前後径	6-7	29.53	30.28	32.82	29.39
3 上端最大横径	8-9	29.86++	30.35+	30.11	29.25
4 体中央前後径	11-12	—	—	12.46	10.67
5 体中央横径	13-14	12.08	—	11.69	
6 下端最大幅	15-16		—	20.31	19.35
7 下端最大前後径	17-18	—	—	14.44	13.82

（参考資料）

数値の＋は破損小　数値の++は破損やや大

<脛骨の計測について>

1 全長（内側顆関節面の頂点～内顆下端）骨長軸に平行に計測
2 上端最大前後径（脛骨稜の前縁～外側顆の後端までの前後径）上端の後面に平行に計測
3 上端最大横径（外側顆の外縁端～内側顆内縁端までの横径）
4 体中央前後径
5 体中央横径
6 下端最大幅（内側の内側突起端～腓骨切痕の外側突起端までの最大幅径）骨長軸に平行に計測
7 下端最大前後径（下端の前後縁間最大幅径）　下面の前面に平行に計測

付表48　イヌの腓骨　計測表

計測項目	資料	東洋犬		亀井1号犬	亀井2号犬
	計測点	73 L	82 R	L	L
1 全長	1-2	残44.45	残38.19	146.97	134.94
2 上端幅	3-4	—	—	8.41	8.58
3 上端厚	5-	—	—	4.66	4.54
4 体中央幅	6-7	—	—	3.23	4.06
5 体中央幅		—	—	3.91	
6 体中央厚	8-	—	—	2.71	2.36
7 体中央厚		—	—	2.01	
8 下端幅	9-10	—	—	9.65	8.45
9 下端厚	11-	—	—		

（参考資料）

<腓骨の計測について>

1 全長（腓骨頭の頂点～滑距端の最下点までの最大長径）
2 上端幅（上端最大幅径）
3 上端厚（上端最大厚）
4 体中央幅
5 体中央幅（近位部と遠位部の変化点での）
6 体中央厚
7 体中央厚（近位部と遠位部の変化点での）
8 下端幅（下端最大幅径）
9 下端厚（下端最大厚径）

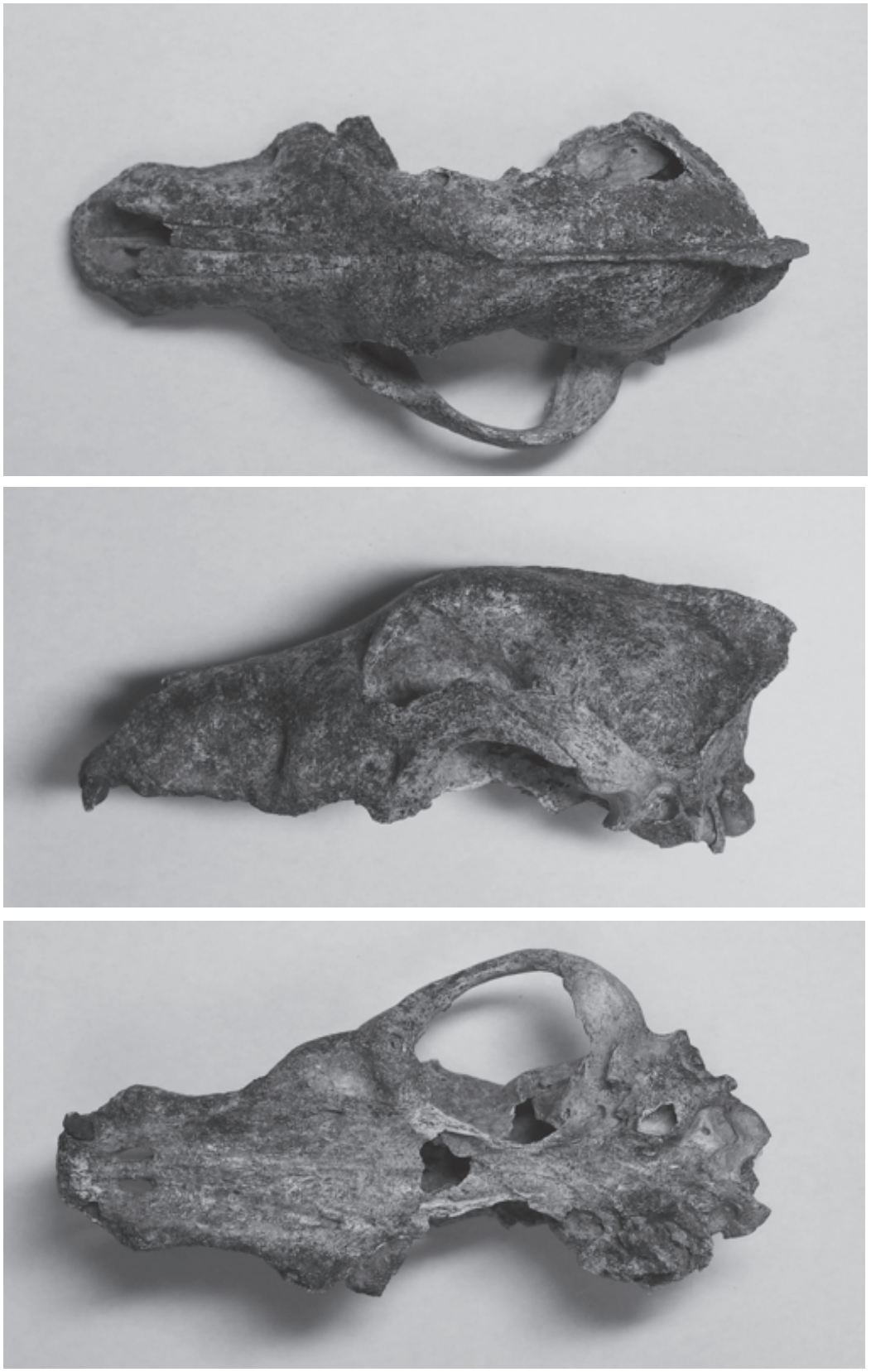
付表49　イヌの膝蓋骨　計測表

計測項目	資料	北海犬	亀井1号犬
	計測点	79 L	R
1 最大長	1-2	14.76	15.24
2 最大幅	3-4	9.24	9.59
3 最大厚	5-	6.64	7.22

（参考資料）

<膝蓋骨の計測について>

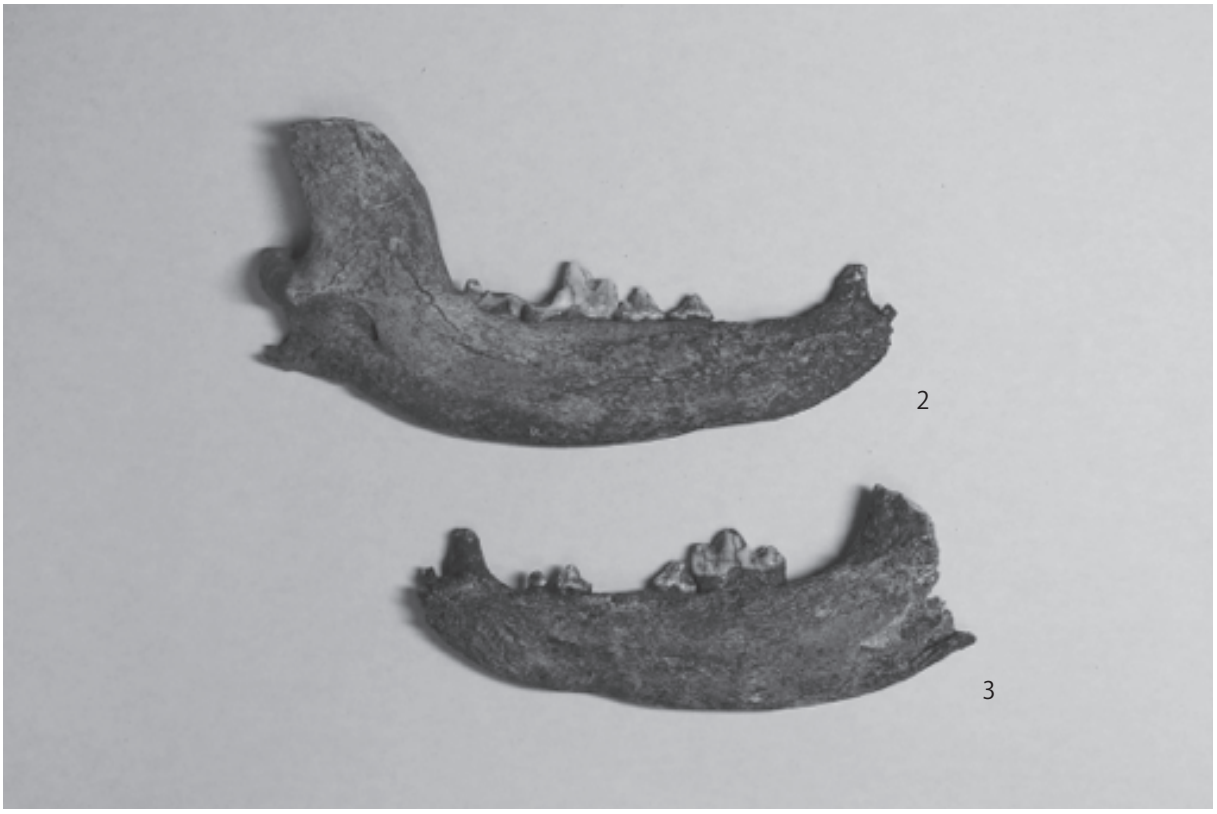
1 最大長（上縁端より下縁までの最大長径）
2 最大幅（中央部内外縁間最大幅径）
3 最大厚（中央中心点最大厚径）



頭蓋骨（1）上面、左側面、底面（約 2/3）

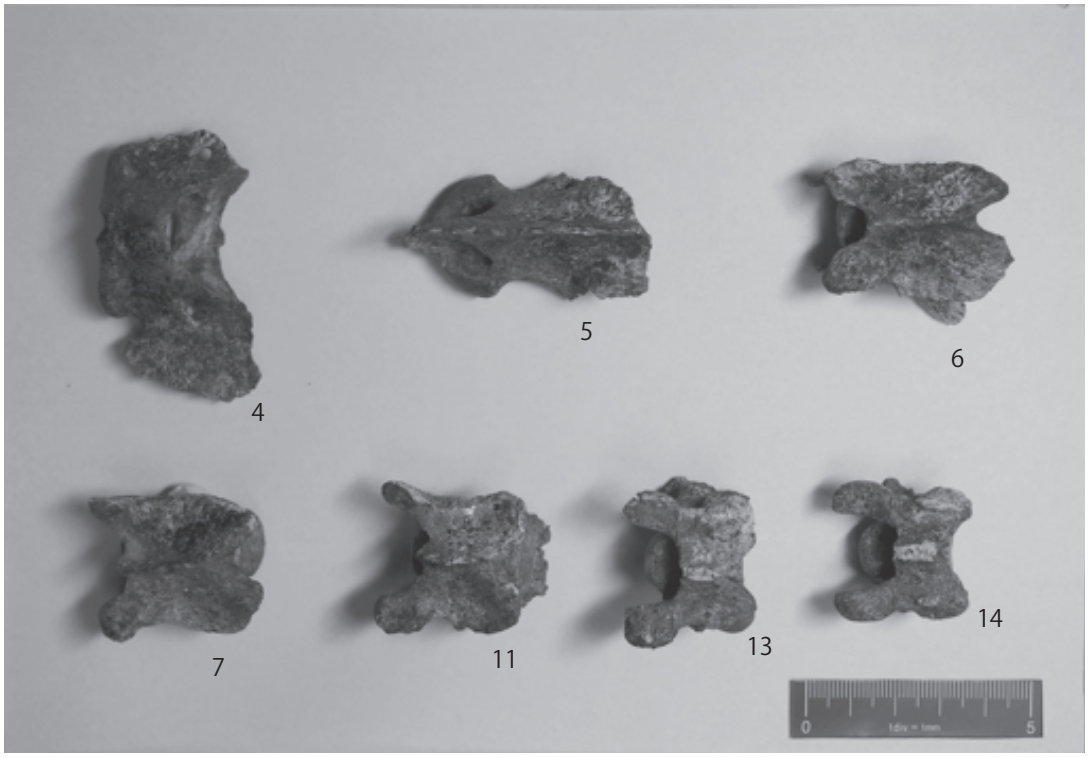
図版 1　東畑犬 頭蓋骨

（a）下顎骨 LR（2、3）外側面（約 2/3）

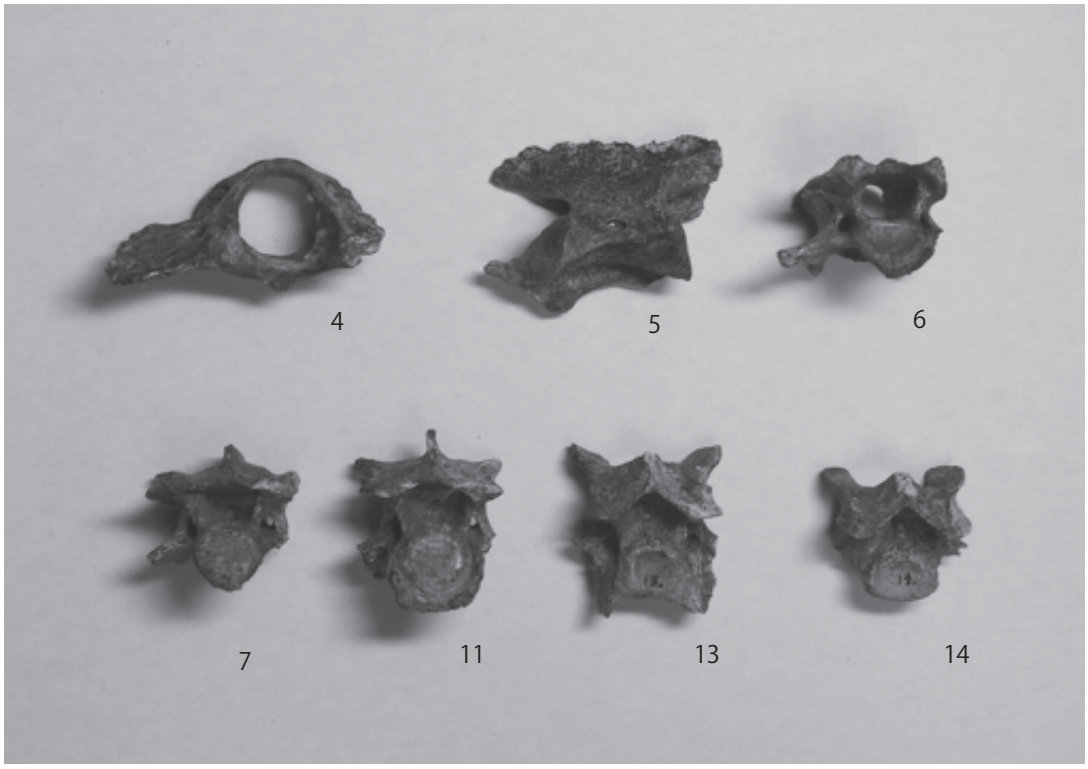


（b）同上 内側面（約 2/3）

図版 2　東畑犬 下顎骨

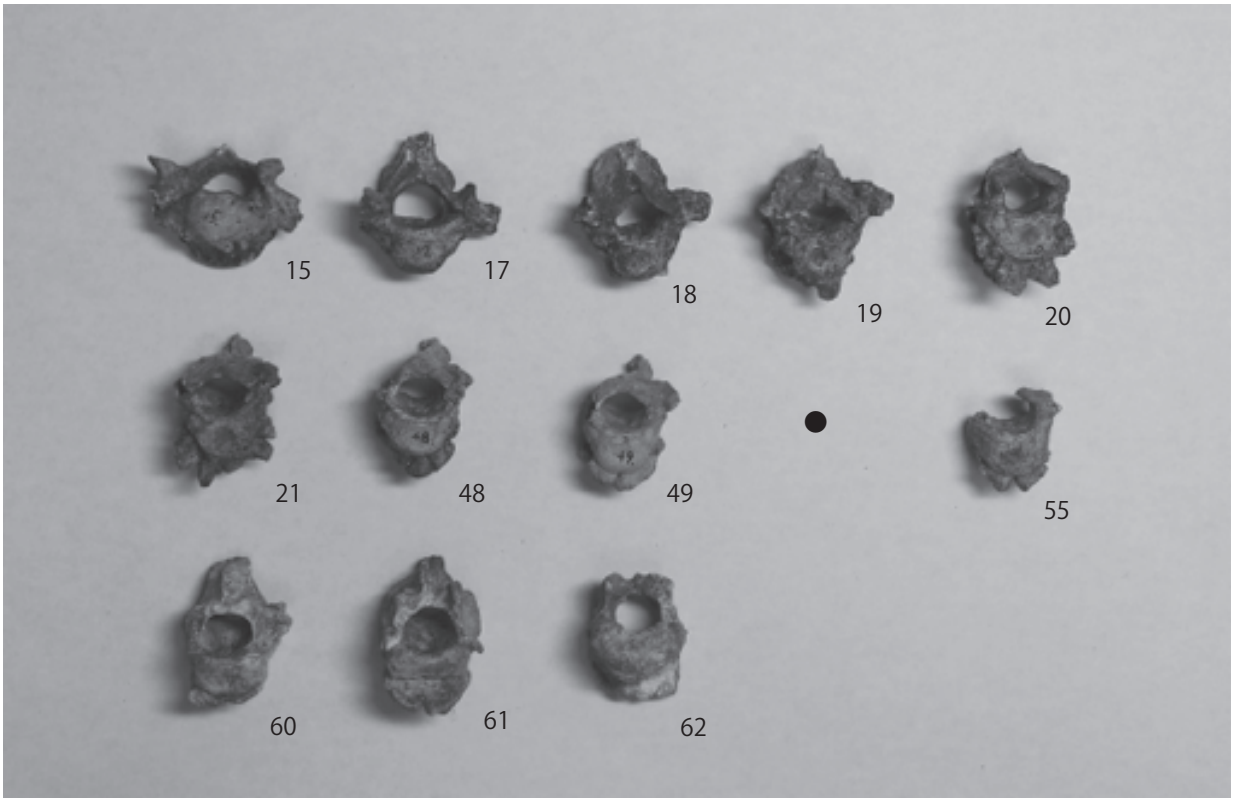


（a）第 1 頚椎～第 7 頚椎（4 ～ 7、11、13、14）背側面（約 2/3）

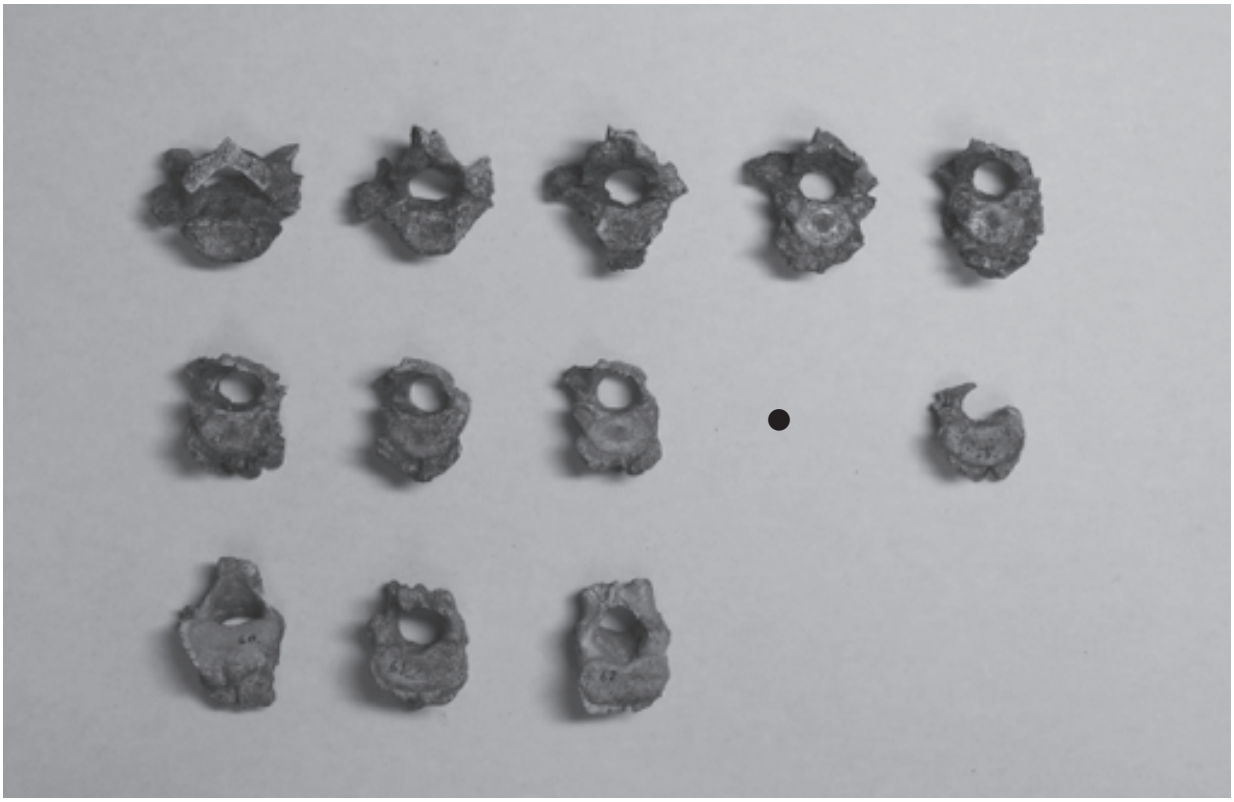


（b）第 1 頚椎、第 3 頚椎　尾側面（4、6、7、11、13、14）、
第 2 頚椎（5）左側面（約 2/3）

図版 3　東畑犬 頚椎

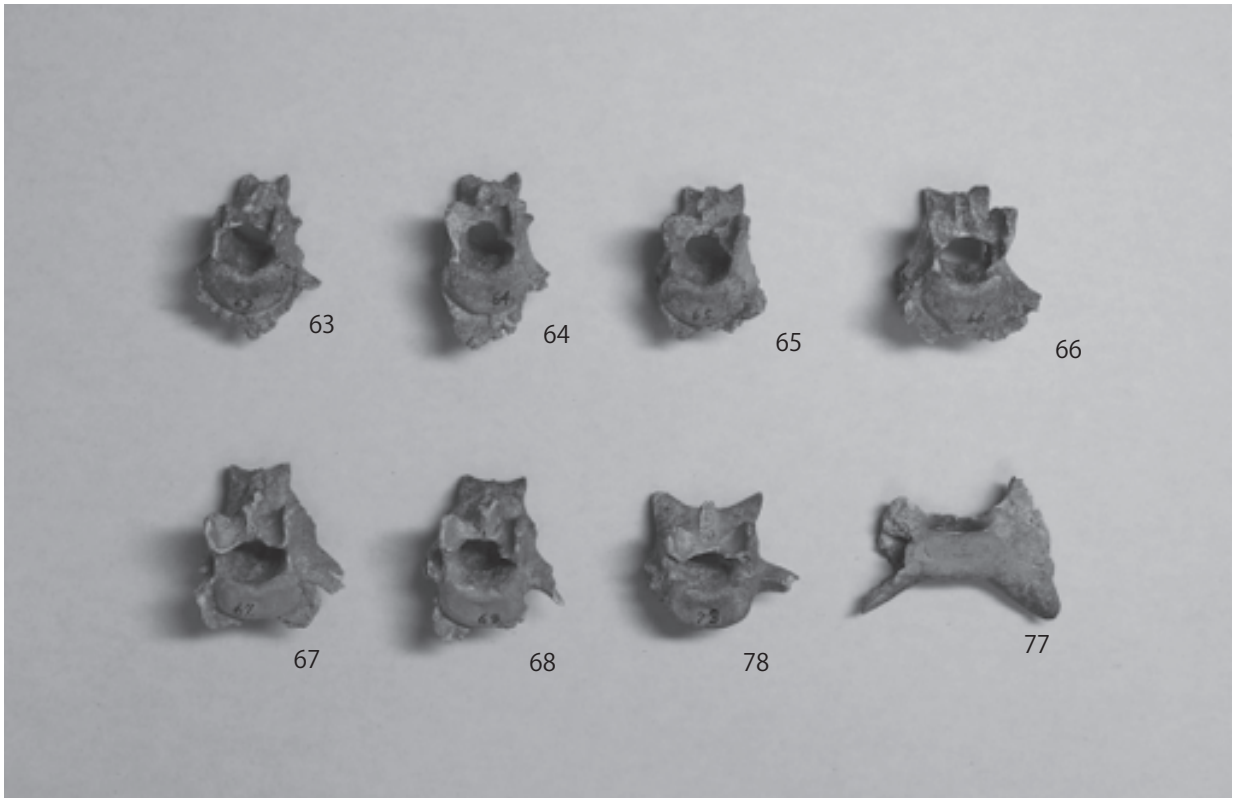


（a）第 1 胸椎～第 13 胸椎（15、17 ～ 21、48、49、55、60 ～ 62）頭側面（約 2/3）　第 9 胸椎はなし



（b）同上　尾側面（約 2/3）　　第 9 胸椎はなし

図版 4　東畑犬 胸椎



（a）第 1 胸椎～第 7 腰椎、仙骨（63 ～ 68、78、77）頭側面（約 2/3）

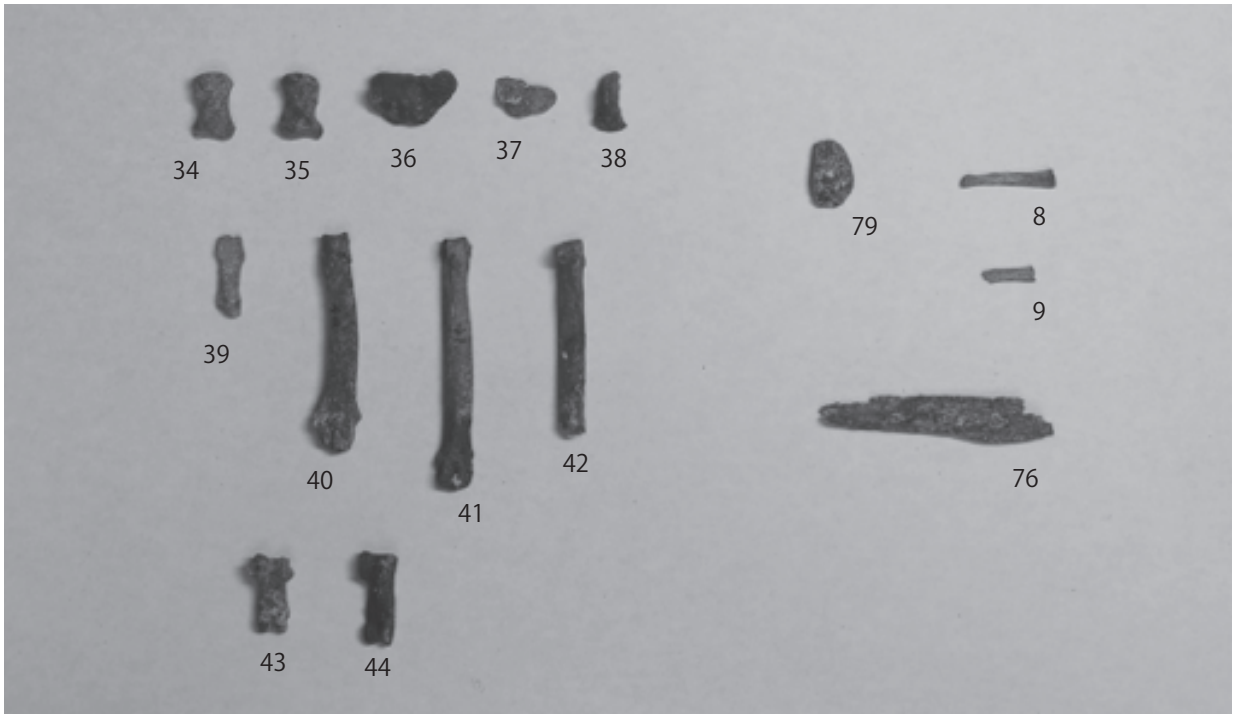
（b）同上　尾側面（約 2/3）

図版 5　東畑犬 腰椎、仙骨

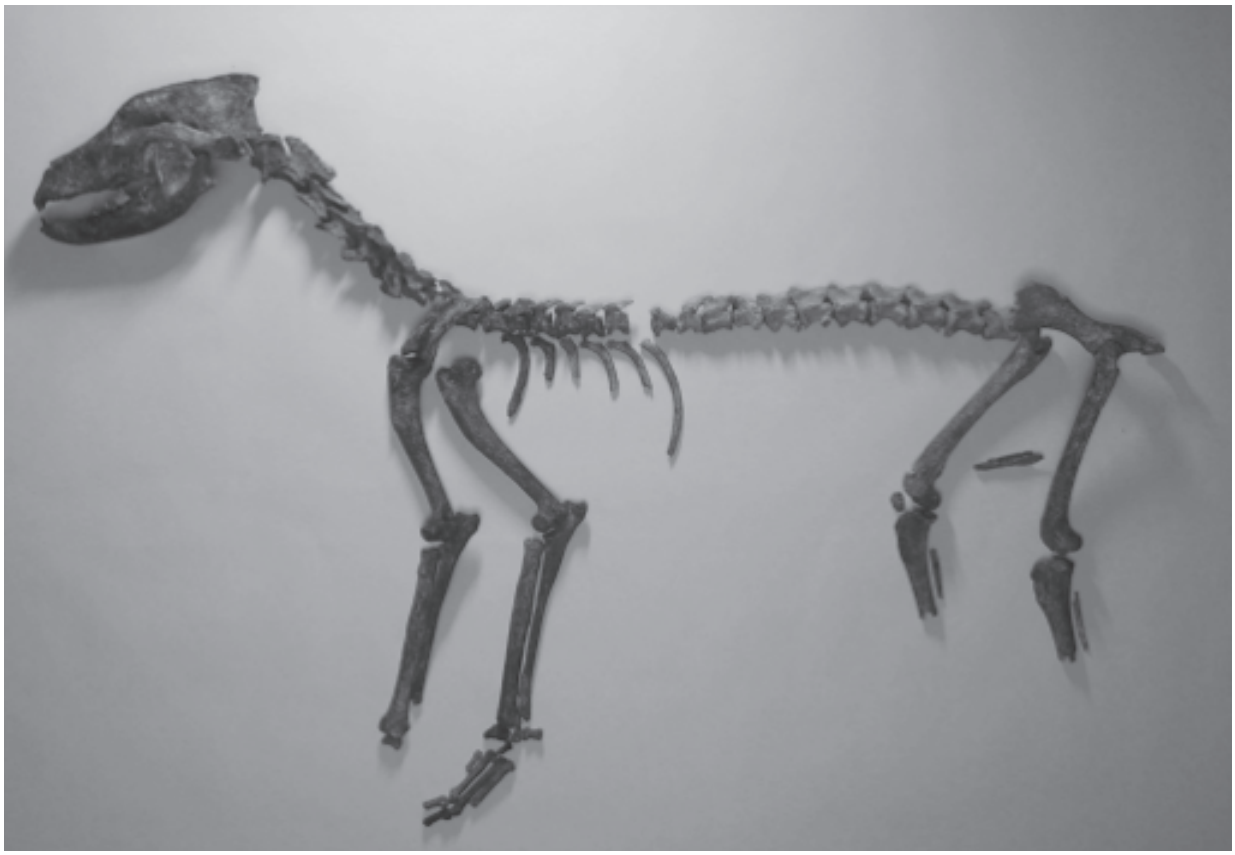
（a）肩甲骨 LR（16・27・47、12）外側面、上腕骨 LR（28、29）外側面、
橈骨 LR（32、33）前面、尺骨 LR（30、31）外側面（約 1/2）

（b）寛骨 LR（73、74）腹側面、大腿骨 LR（69、70）前面、脛骨 LR（71、72）前面
腓骨 LR（75、82）（約 1/2）

図版 6　東畑犬 前肢、後肢



（a）副手根骨 LR（34、35）、橈側手根骨 R（36）、尺側手根骨 R（37）、第 3 手根骨 R（38）、
第 1 ～ 4 中手骨 R（39 ～ 42）掌側面、第 2・3 基節骨 R（43、44）掌側面、膝蓋骨（79）頭側面、
舌骨（8、9）、陰茎骨（76）（約 2/3）

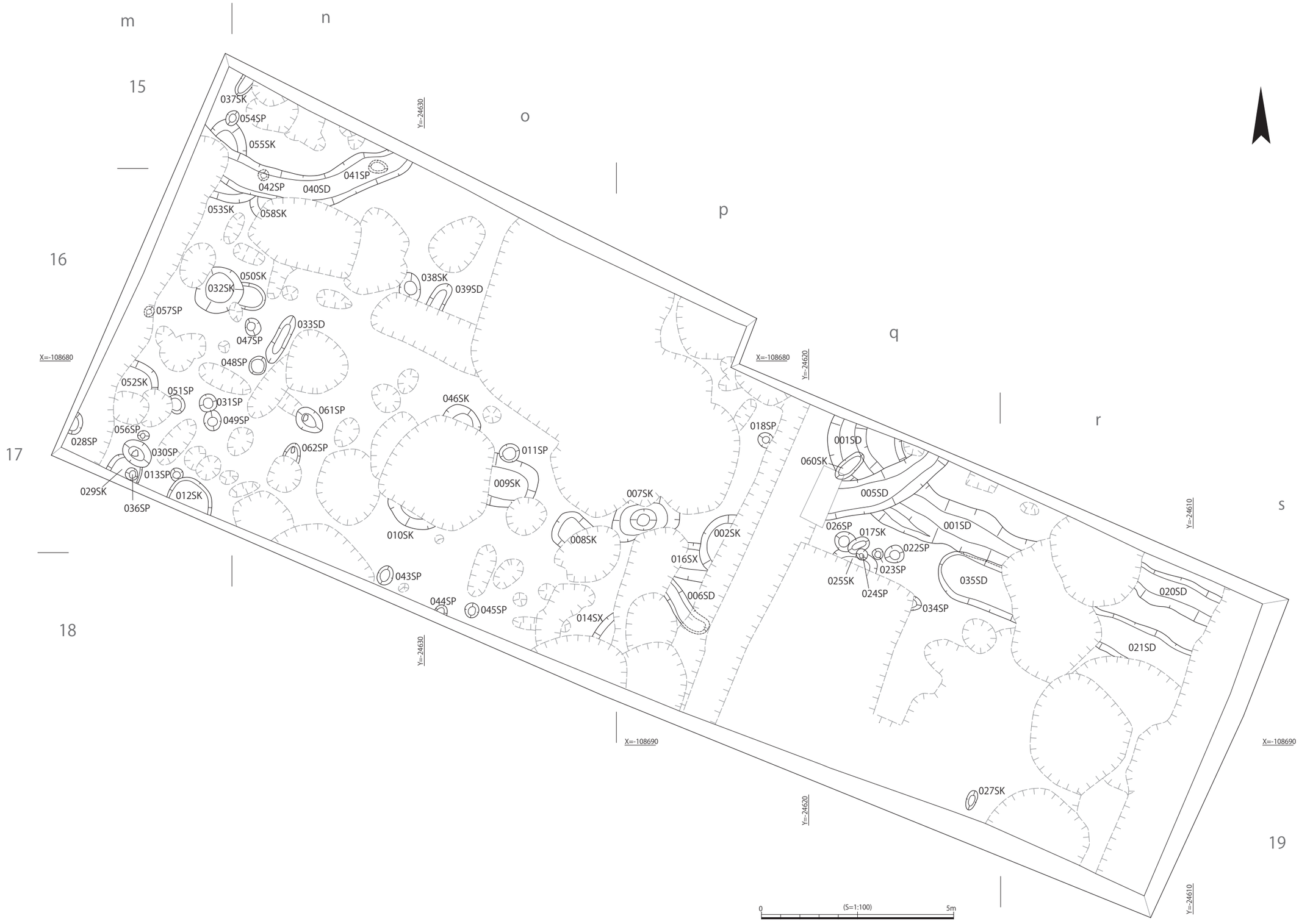


（b）東畑犬 全身骨格（体高約 45cm）

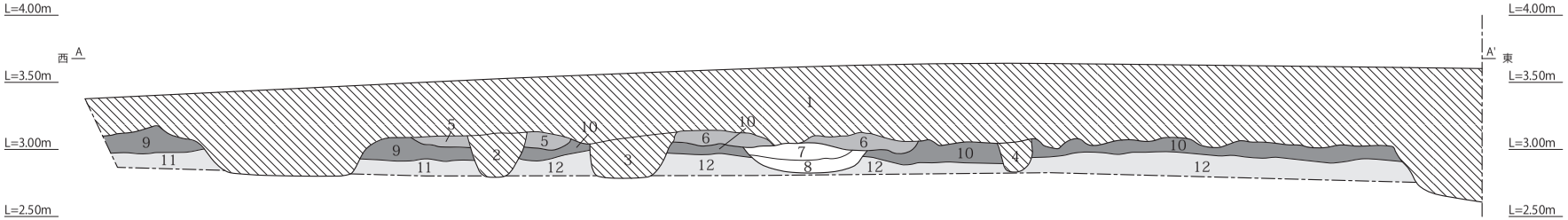
図版 7　東畑犬 前肢肢端、膝蓋骨、舌骨、陰茎骨、全身骨格

図版

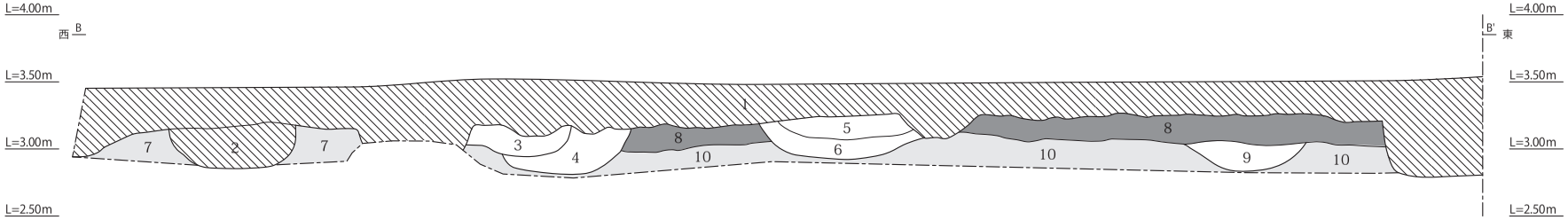
図版1　遺構　郷中遺跡（1地点）



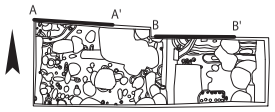
郷中遺跡　平面図（S=1/100）



1, 現代表土
2, にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
近現代撹乱
3, 黒褐色(10YR3/1)細粒砂
近現代撹乱
4, 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂
近現代撹乱
5, 褐色(7.5YR4/3)極細粒砂
Ⅱ層
6, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
Ⅱ層
7, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
040SD
8, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む
040SD
9, にぶい黄褐色(10YR5/4)中粒砂
Ⅲ層
10, 黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂
Ⅲ層
11, にぶい黄褐色(10YR5/4)粗粒砂
Ⅴ層
12, 黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂
Ⅴ層



1, 現代表土
2, 黒褐色(10YR3/1)細粒砂
貝殻片大量に含む
3, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
001SD?
4, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
001SD
5, 灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
005SD
6, 灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
にぶい黄褐色(10YR5/4)中粒砂含む
005SD
7, 黄褐色(10YR5/6)中粒砂
Ⅲ層
8, オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂
Ⅲ層
9, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
063SX
10, にぶい黄褐色(10YR5/4)粗粒砂
Ⅴ層



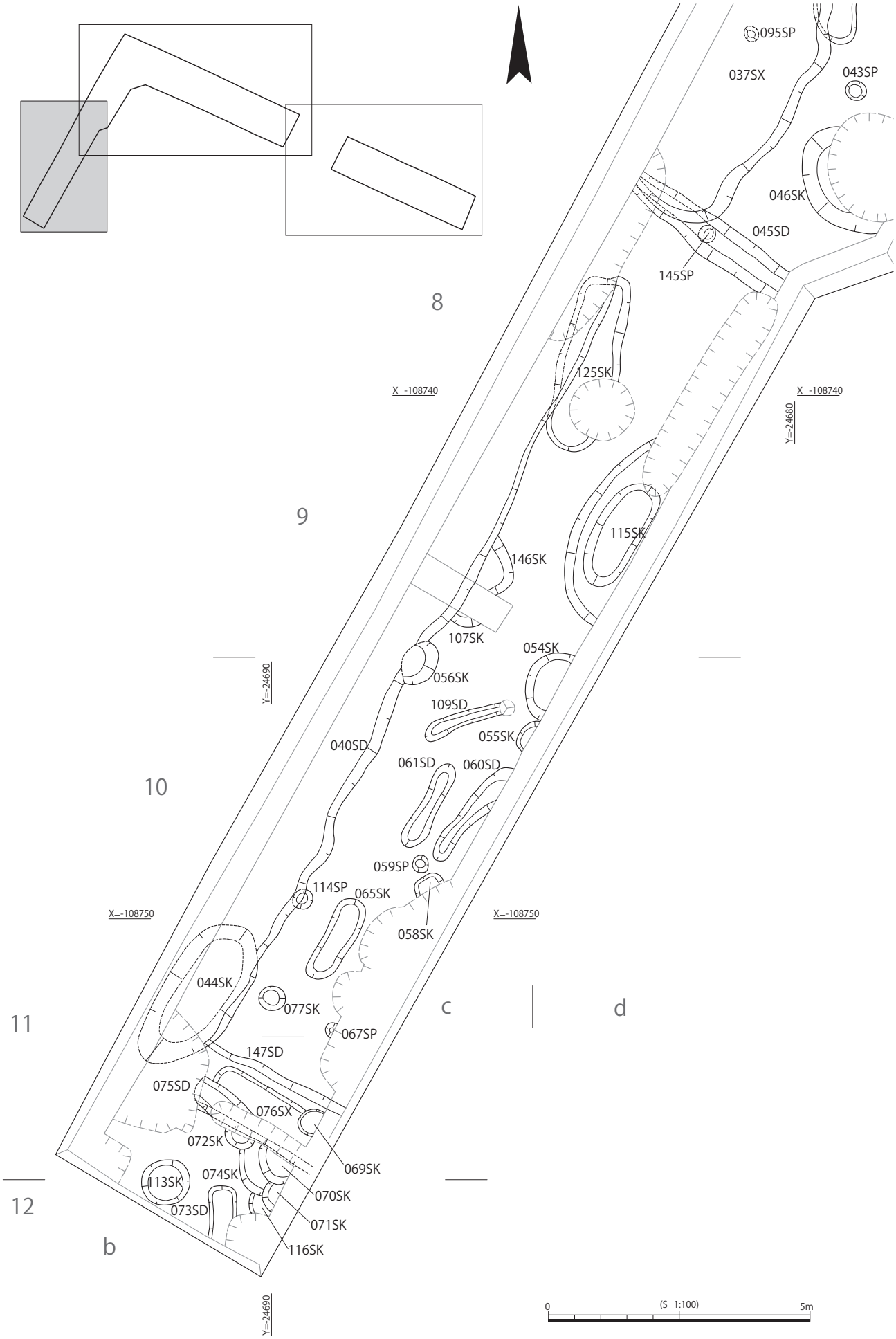
Ⅱ層・近世遺構ほか
Ⅲ層(包含層)
Ⅴ層(基盤層)

0 (S=1:50) 2m

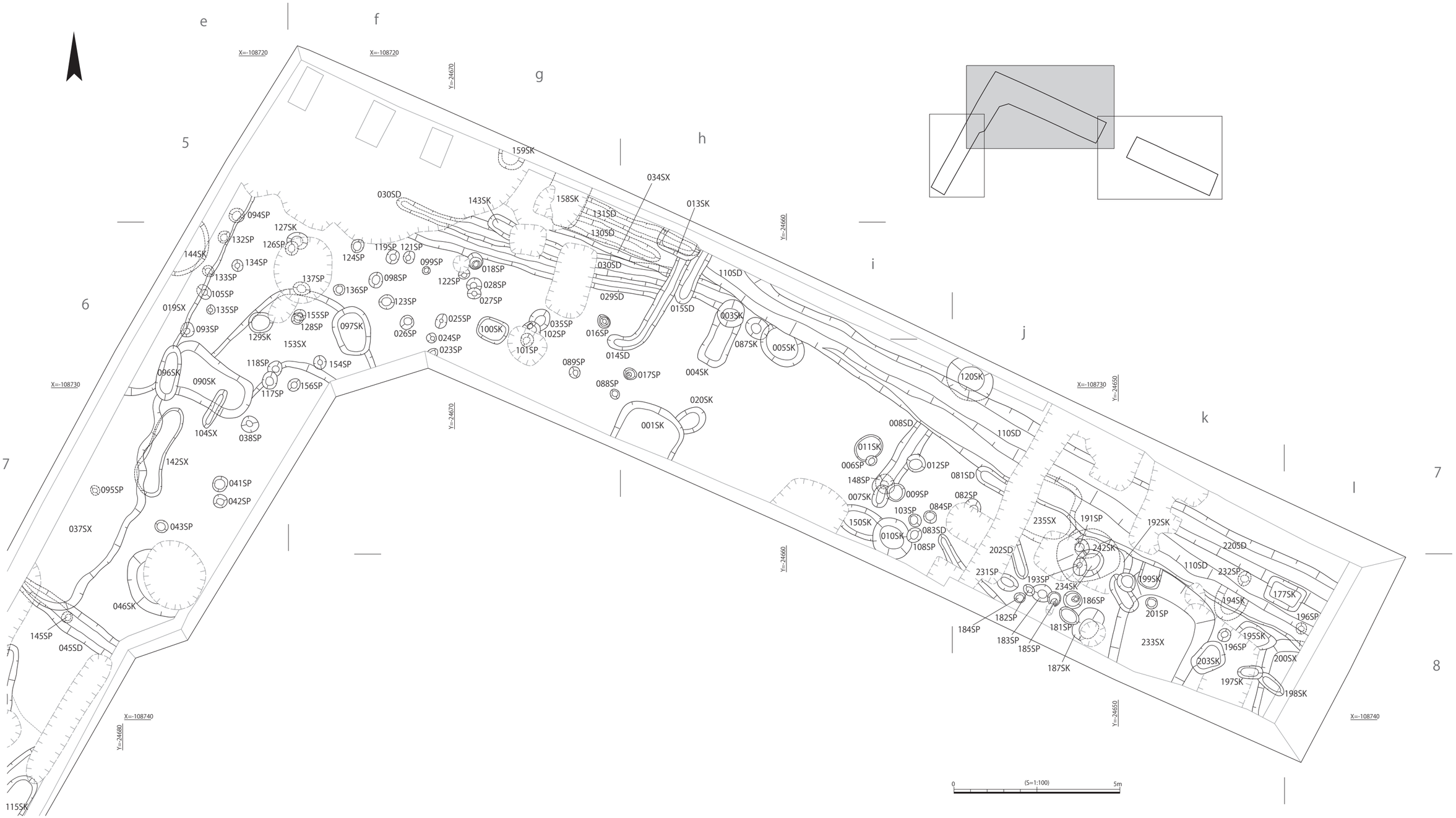
郷中遺跡　断面図（S=1/50）

図版2　遺構　郷中遺跡（1地点）

図版3　遺構　畑間遺跡（2地点）

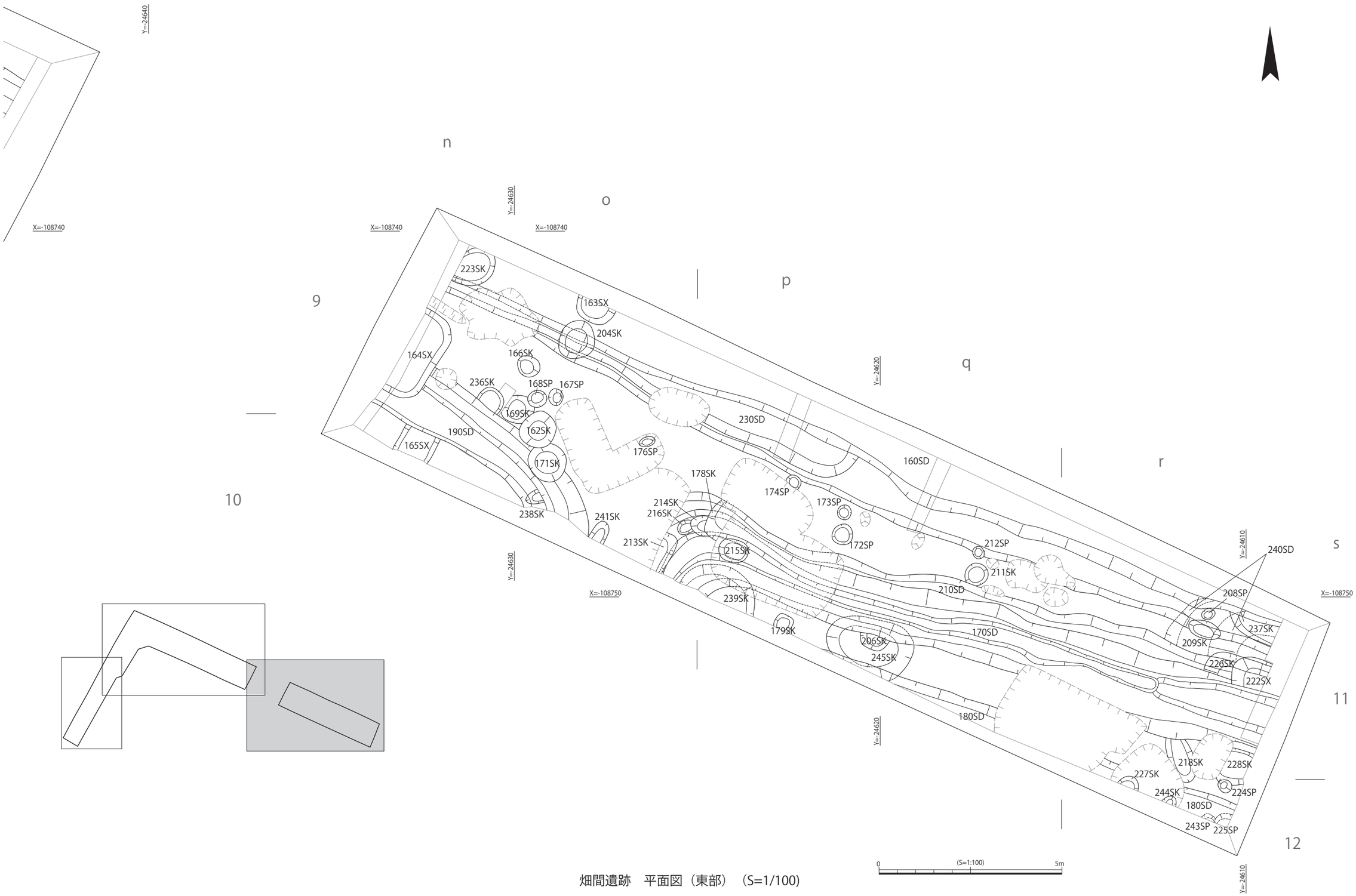


畑間遺跡　平面図（南西部）（S=1/100）

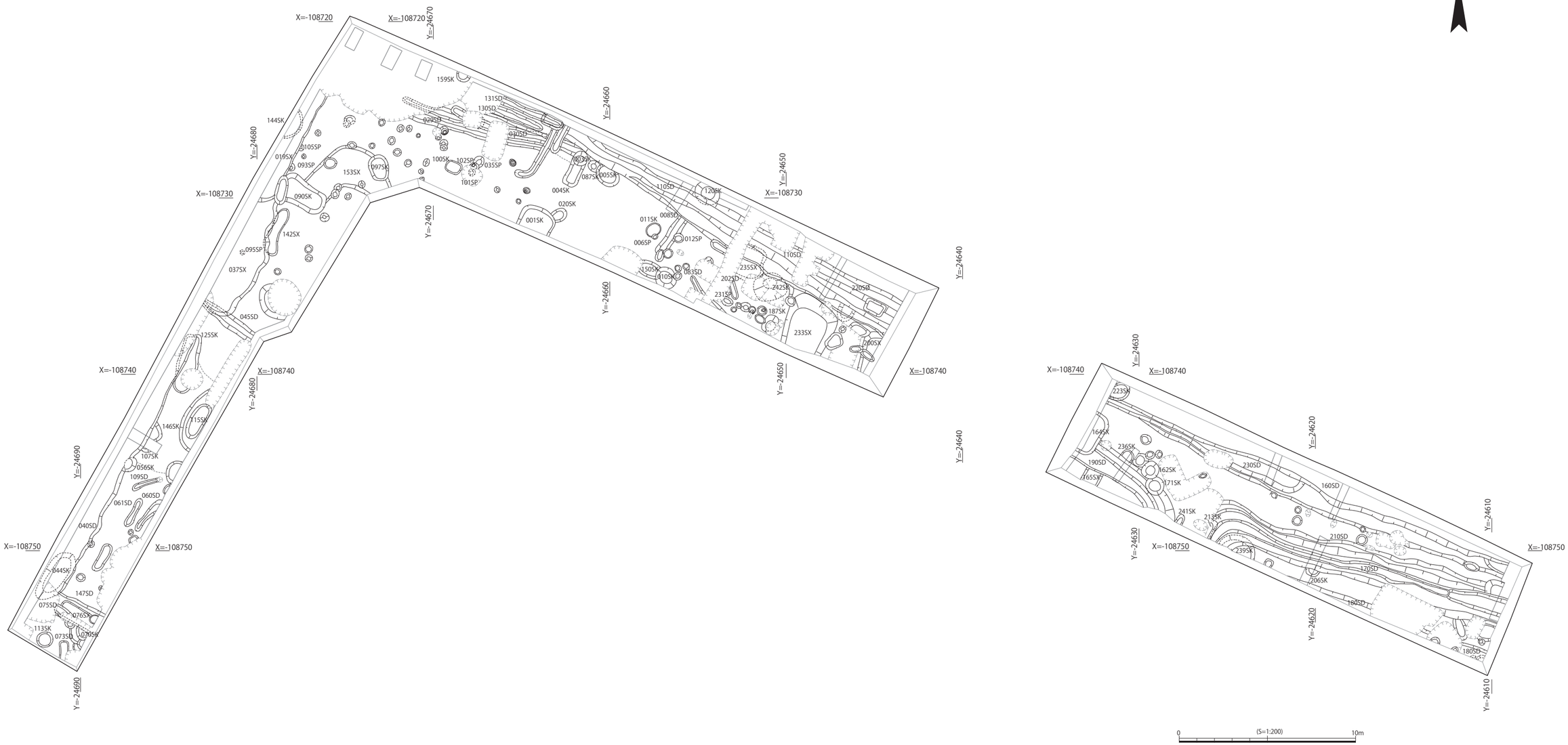


畑間遺跡　平面図（北西部）（S=1/100）

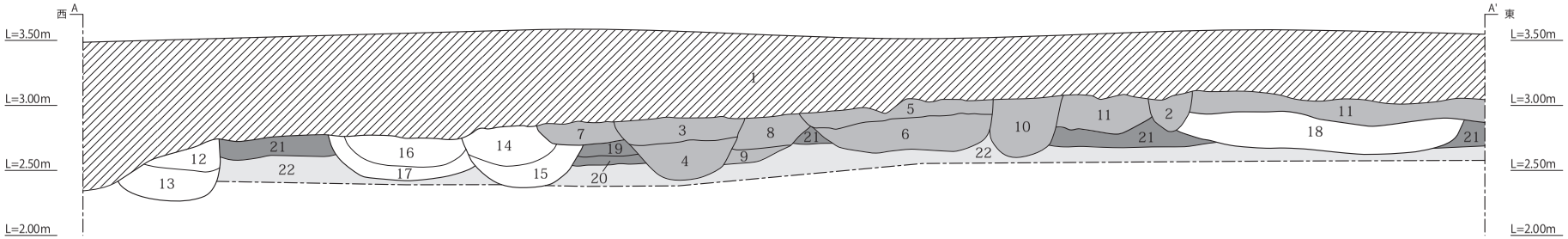
図版5　遺構　畑間遺跡（2地点）



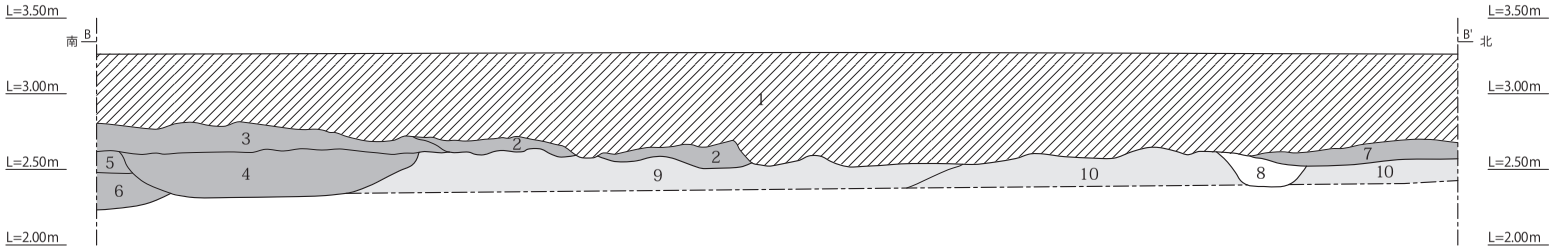
畑間遺跡　平面図（東部）（S=1/100）



畑間遺跡　平面図（S=1/200）

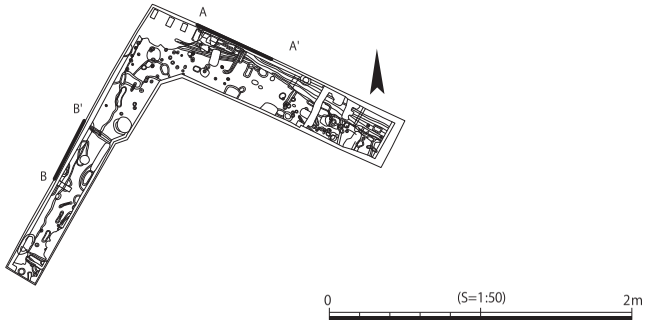


1, 現代表土・撹乱
2, 黒褐色(10YR3/2)極細粒砂
3, 黒褐色(10YR3/2)極細粒砂
4, 灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
5, 黒褐色(2.5Y3/2)極細粒砂
6, 暗灰黄色(2.5Y4/2)極細粒砂
7, 黒褐色(10YR3/2)極細粒砂
8, 黒褐色(10YR3/2)極細粒砂
9, 暗灰黄色(2.5Y4/2)極細粒砂
10, 褐色(7.5YR4/3)細粒砂
11, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
12, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
159SK
13, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
159SK
14, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
248SX
15, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
248SX
16, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
158SK
17, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
158SK
18, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
249SX
19, 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂わずかに含む
Ⅲ層
20, 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
Ⅲ層
21, 黒褐色(10YR3/1)細粒砂
Ⅲ層
22, 黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂
Ⅴ層



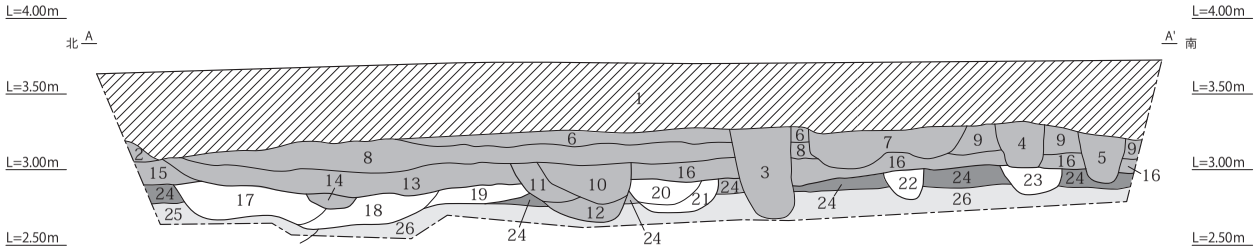
1, 現代表土
2, オリーブ褐色(2.5Y4/3)極細粒砂
040SD上層
3, 灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
040SD上層
4, 黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂
5, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
040SD
6, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
040SD
7, 黄褐色(2/5Y5/6)粗粒砂
黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂含む
037SX
8, オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂
黄褐色(2/5Y5/6)粗粒砂含む
045SD
9, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
Ⅴ層
10, 黄褐色(2/5Y5/6)粗粒砂
Ⅴ層

Ⅱ層・近世遺構ほか
Ⅲ層(包含層)
Ⅴ層(基盤層)

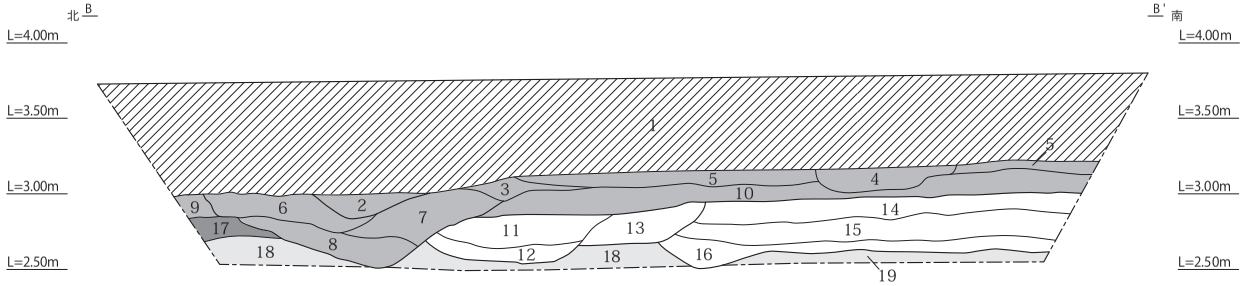


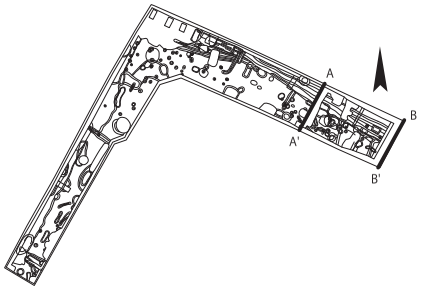
畑間遺跡　断面図１（S=1/50）

図版7　遺構　畑間遺跡（2地点）



1, 現代表土
2, にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂
Ⅱ層
3, オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂
4, 黒褐色(10YR2/2)細粒砂
貝殻片大量に含む
5, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
貝殻片大量に含む
6, にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
貝殻片含む
7, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
貝殻片大量に含む
8, にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
Ⅱ層
9, 褐色(10YR4/4)細粒砂
Ⅱ層
10, にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
081SD
11, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
081SD
12, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
081SD
13, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
110SD上の落ち込み埋土
14, 灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂
貝殻片含む
002SD
15, オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂
Ⅱ層
16, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
Ⅱ層
17, 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂
110SD
18, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
110SD
19, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
110SD
20, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
260SX
21, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
260SX
22, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂少量含む
261SX
23, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂少量含む
083SD
24, 黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂
Ⅲ層
25, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
Ⅴ層
26, 黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂
Ⅴ層



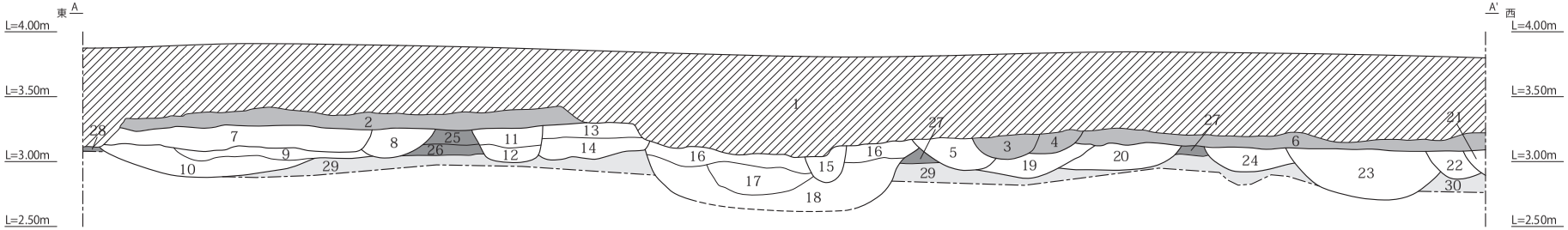


Ⅱ層・近世遺構ほか
Ⅲ層（包含層）
Ⅴ層（基盤層）

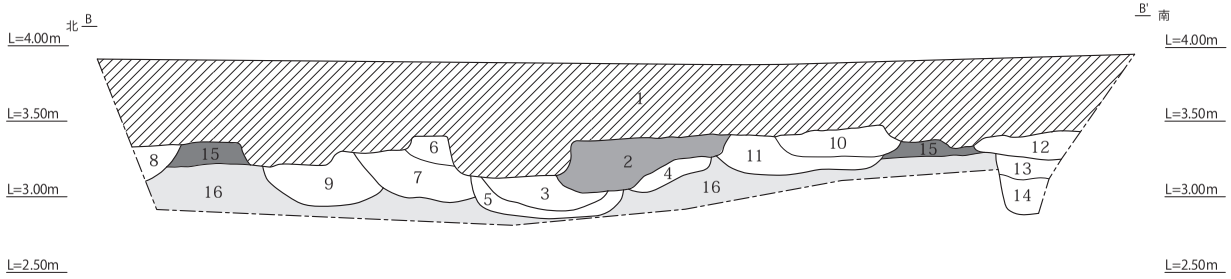
0　(S=1:50)　2m

1, 現代表土
2, 暗褐色(10YR3/3)細粒砂
貝殻片に含む
002SD
3, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
4, 黒褐色(10YR3/2)細粒砂
貝殻片に含む
5, 黒褐色(10YR3/3)細粒砂
貝殻片に含む
6, 灰色(5Y4/1)極細粒砂～細粒砂
やや粘性あり
220SD
7, オリーブ黒色(5Y3/1)極細粒砂～細粒砂
やや粘性あり
220SD
8, 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
220SD
9, 黒褐色(2.5Y3/2)
極細粒砂～細粒砂
Ⅱ層
10, 黒褐色(2.5Y3/2)
Ⅱ層
11, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
110SD
12, 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
110SD
13, 灰色(5Y4/1)中粒砂
暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂含む
110SD
14, 褐灰色(10YR4/1)細粒砂
200SXもしくはⅢ層
15, 灰色(5Y4/1)細粒砂
200SX
16, 灰色(5Y4/1)中粒砂
200SX
17, にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
Ⅲ層
18, 黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂
Ⅴ層
19, 黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂
Ⅴ層

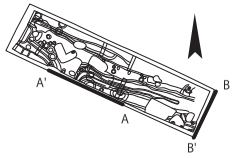
畑間遺跡　断面図２（S=1/50）



1，現代表土・撹乱
2，暗褐色(7.5YR3/3)細粒砂
Ⅱ層
3，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
貝殻片に含む
170SD新溝
4，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
170SD新溝
5，黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
170SD旧溝
6，黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂
Ⅱ層
7，黒褐色(10YR3/2)極細粒砂
180SD下層
8，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
254SX
9，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
灰白色(5Y8/1)中粒砂含む
245SK
10，灰白色(5Y8/1)中粒砂
黒褐色(10YR3/2)細粒砂含む
245SK
11，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
179SK
12，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
灰白色(5Y8/1)中粒砂含む
179SK
13，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
灰白色(5Y8/1)中粒砂含む
255SX
14，黒褐色(10YR3/2)細粒砂と
灰白色(5Y8/1)中粒砂の斑土
255SX
15，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
灰白色(5Y8/1)中粒砂含む
256SX
16，灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂と
黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂の斑土
239SK
17，灰オリーブ色(5Y6/2)中粒砂
5～10mmの小礫混入
酸化により部分的に褐色
239SK
18，灰オリーブ色(5Y6/2)中粒砂
5～10mmの小礫混入
239SK
19，灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
213SK
20，灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
210SD
21，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
257SX
22，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
258SX
23，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
190SD
24，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
241SK
25，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
灰白色(5Y8/1)中粒砂含む
Ⅲ層
26，灰白色(5Y8/1)中粒砂
黒褐色(10YR3/2)細粒砂含む
Ⅲ層
27，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
Ⅲ層
28，黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂
Ⅴ層
29，灰白色(5Y8/1)中粒砂
Ⅴ層
30，灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂
5～10mmの小礫含む
Ⅴ層



1，現代表土
2，暗褐色(10YR3/3)極細粒砂
貝殻大量に含む
170SD新溝
3，黒色(10YR2/1)細粒砂
貝殻含む
170SD旧溝
4，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
170SD・210SD?
5，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
170SD・210SD?
6，黒褐色(10YR3/1)細粒砂
222SX
7，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
222SX
8，黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
160SD
9，灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
240SD
10，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
228SK
11，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂含む
228SK
12，黒褐色(10YR3/2)細粒砂
180SD
13，黒褐色(10YR3/1)細粒砂
225SP
14，黒褐色(10YR3/1)極細粒砂
225SP
15，黄褐色(2.5Y5/3)細粒粒砂
Ⅲ層
16，黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂
Ⅴ層



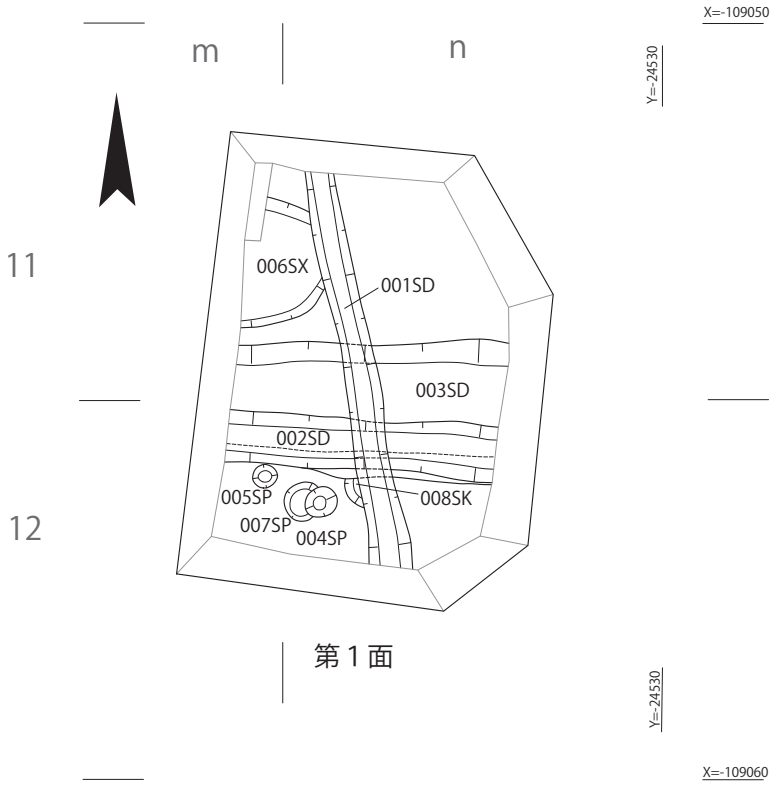
Ⅱ層（近世撹乱ほか）
Ⅲ層（包含層）
Ⅴ層（基盤層）

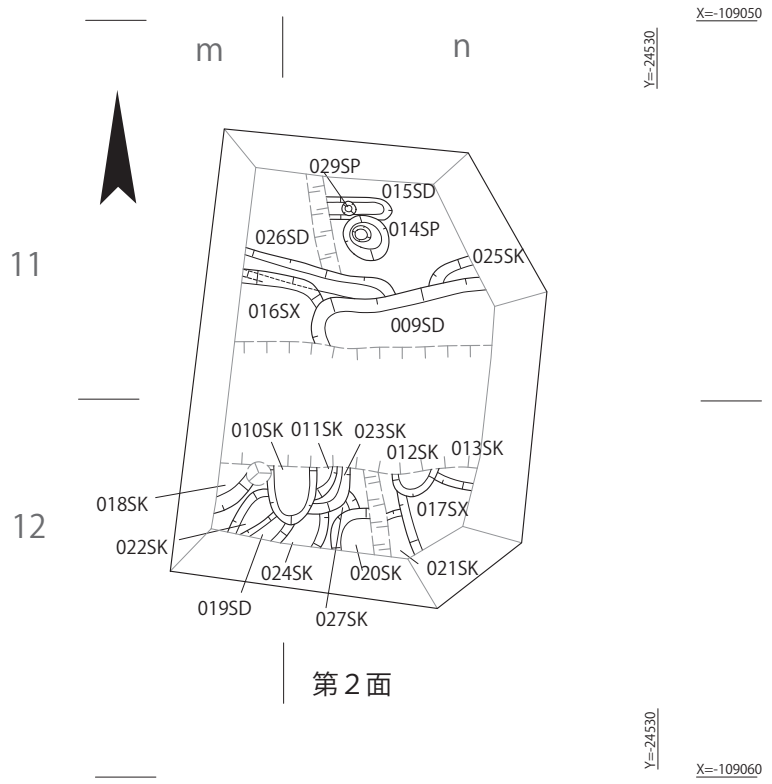
0 (S=1:50) 2m

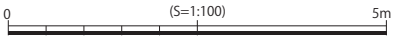
畑間遺跡　断面図３（S=1/50）

図版9　遺構　畑間遺跡（2地点）

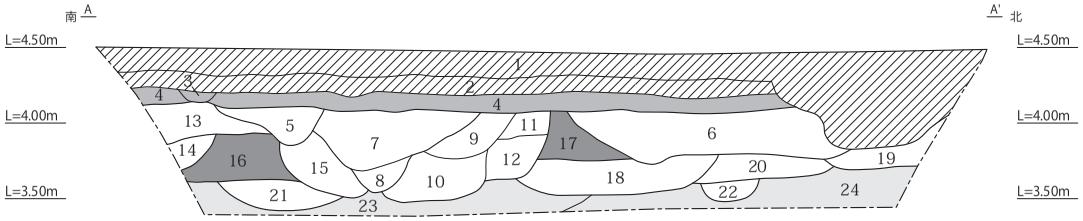
図版10　遺構　東畑遺跡（3地点）



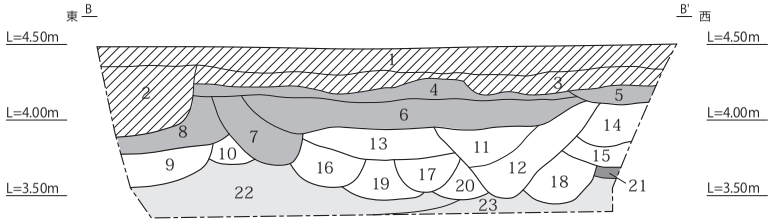


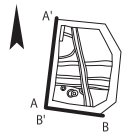


東畑遺跡　平面図（S=1/100）



1, 現代表土・撹乱
2, 褐色(7.5YR4/4)細粒砂
3, 褐色(10YR4/4)細粒砂
4, 褐色(7.5YR4/3)細粒砂
Ⅱ層
5, 褐色(7.5YR4/3)中粒砂
030SX
6, 暗褐色(10YR3/3)細粒砂
006SX
7, 褐色(10YR4/4)中粒砂
002SD
8, 黒褐色(7.5YR3/1)中粒砂
002SD
9, 黒褐色(7.5YR3/1)中粒砂
003SD上層
10, 黒褐色(10YR3/1)中粒砂
003SD
11, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
003SD
12, 暗灰黄色(2.5Y5/2)中粒砂
003SD
13, 暗褐色(10YR3/3)細粒砂
031SX
14, 暗褐色(10YR3/4)細粒砂
032SX
15, 黒褐色(10YR3/1)中粒砂
018SK
16, 黒褐色(10YR3/2)中粒砂
Ⅲ層
17, 暗褐色(10YR3/4)細粒砂
Ⅲ層
18, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
黒褐色(10YR3/2)中粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂少量含む
016SX
19, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
034SX
20, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
035SX
21, オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂
にぶい黄色(2.5Y6/4)中粒砂含む
037SX
22, オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂
黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂含む
026SD
23, にぶい黄色(2.5Y6/4)中粒砂
Ⅴ層
24, 黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂
Ⅴ層





Ⅱ層・近世遺構ほか
Ⅲ層(包含層)
Ⅴ層(基盤層)

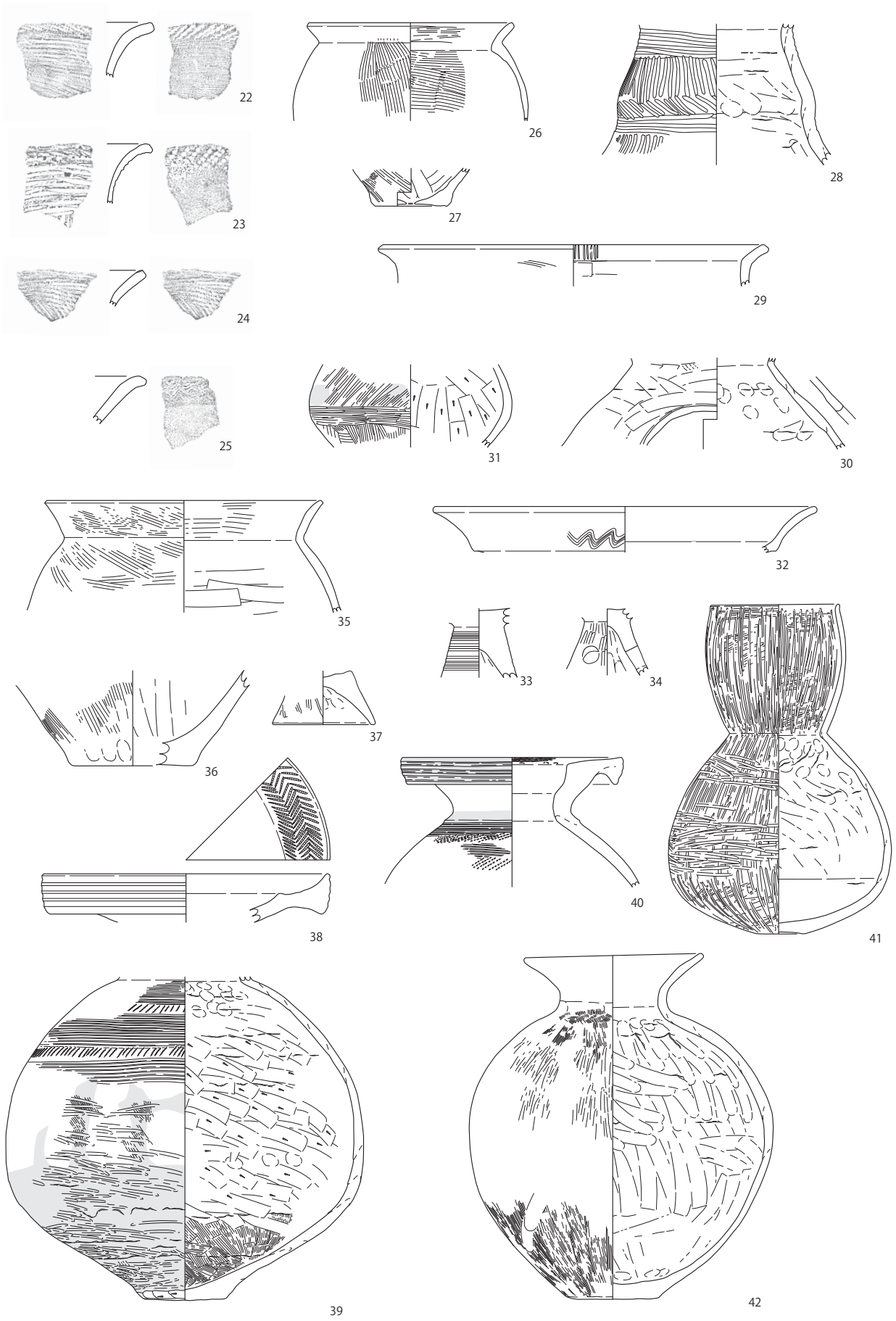
1, 現代表土・撹乱
2, 撹乱
3, 褐色(7.5YR4/4)細粒砂
4, 灰褐色(7.5YR4/2)細粒砂
Ⅱ層
5, 褐色(7.5YR4/3)細粒砂
6, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
7, 暗褐色(10YR3/3)中粒砂と黒褐色(2.5Y3/2)
細粒砂とにぶい黄色(2.5Y6/4)中粒砂の斑土
8, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
9, 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
017SX
10, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂と
にぶい黄色(2.5Y6/4)中粒砂の斑土
021SK
11, 暗褐色(7.5YR3/3)細粒砂
019SD
12, 黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂
019SD
13, にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂
033SX
14, 暗褐色(10YR3/3)細粒砂
031SX
15, 暗褐色(10YR3/4)細粒砂
032SX
16, 黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂
020SK
17, 黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂
024SK
18, にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
022SK
19, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂
にぶい黄色(2.5Y6/4)中粒砂含む
027SK
20, 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂
036SX
21, 黒褐色(10YR3/2)中粒砂
Ⅲ層
22, 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂と
にぶい黄色(2.5Y6/4)中粒砂
Ⅴ層(皿状構造層)
23, にぶい黄色(2.5Y6/4)中粒砂
Ⅴ層

0 (S=1:50) 2m

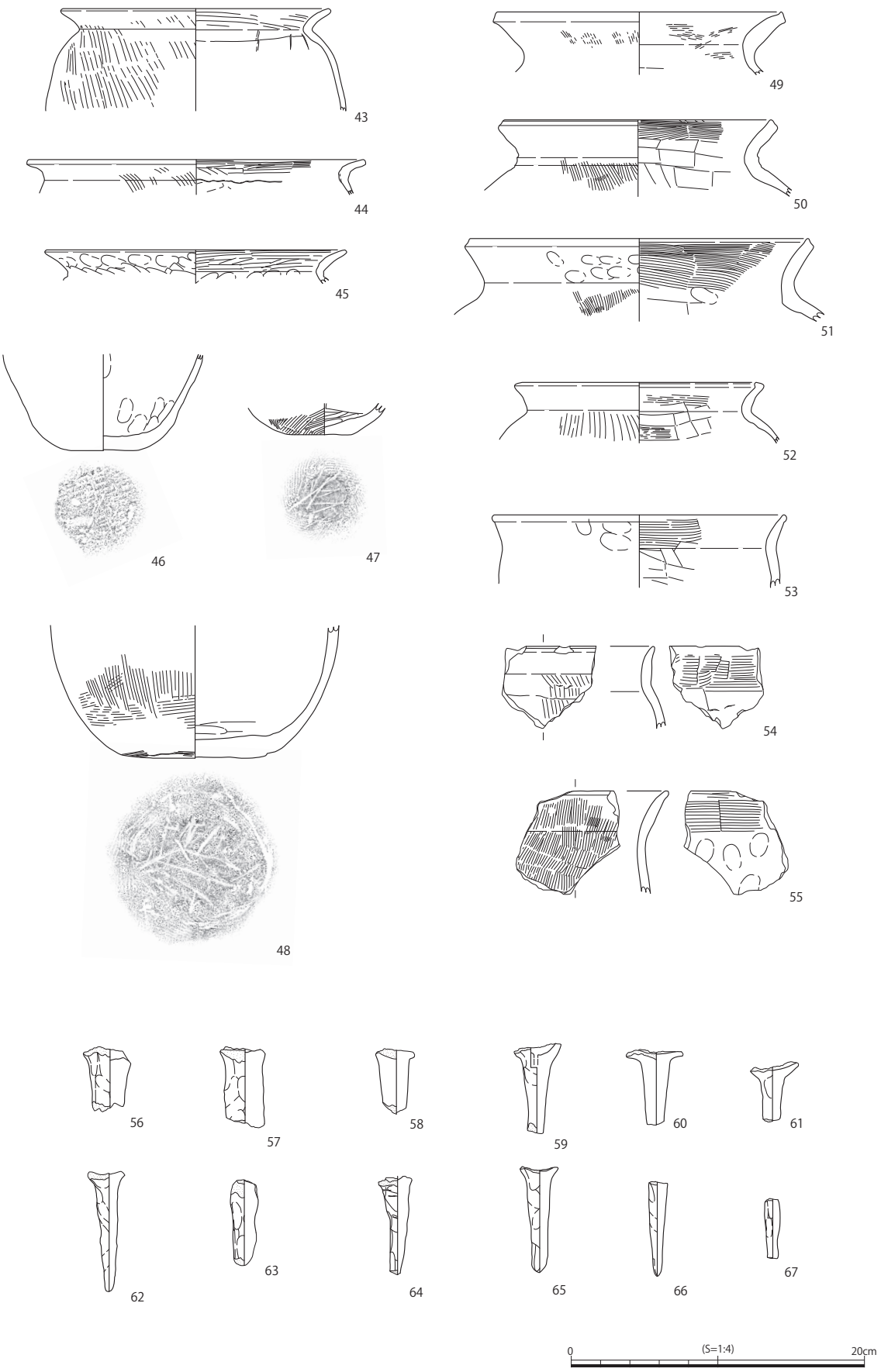
東畑遺跡　断面図（S=1/50）

図版11　遺構　東畑遺跡（3地点）

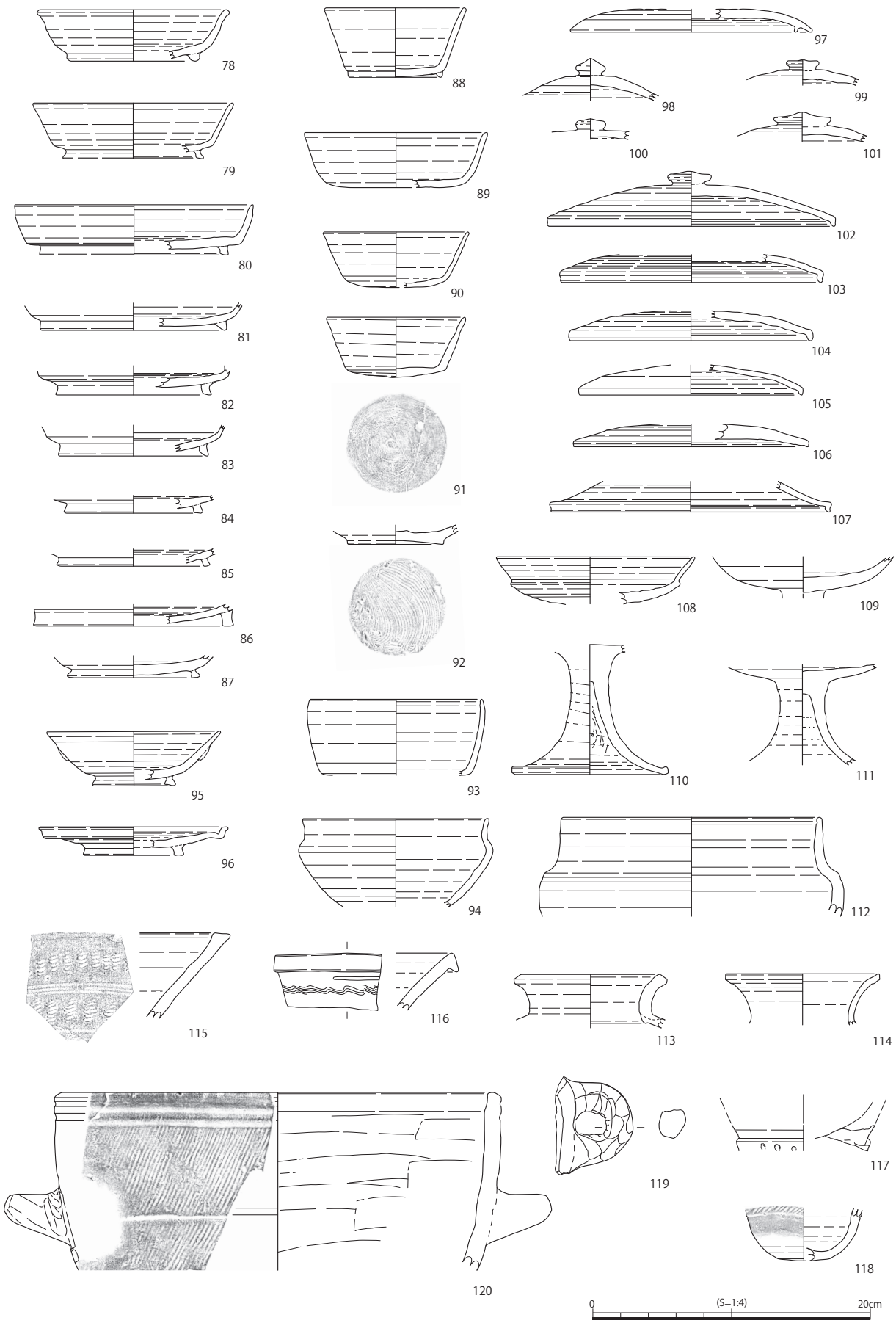
図版12　遺物　弥生時代の土器

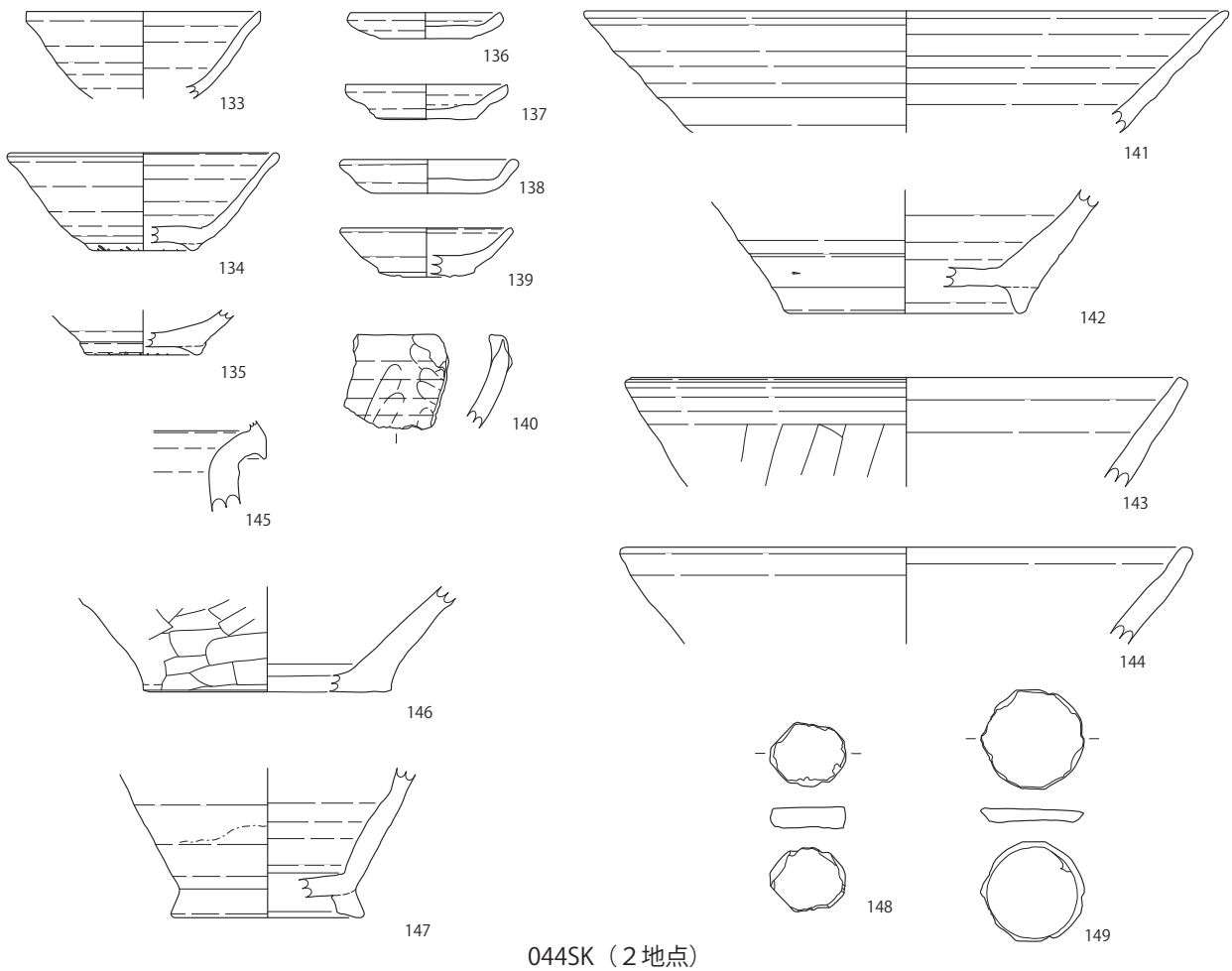


図版13　遺物　古代の土師器・製塩土器

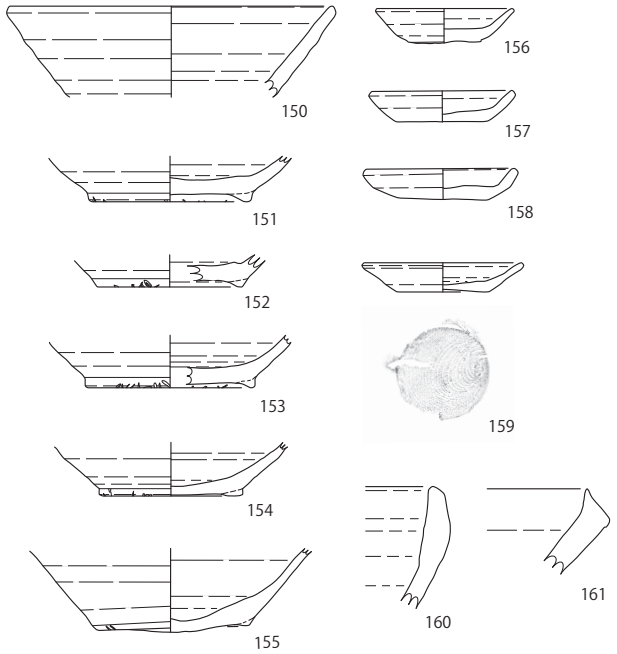


図版14　遺物　古代の須恵器

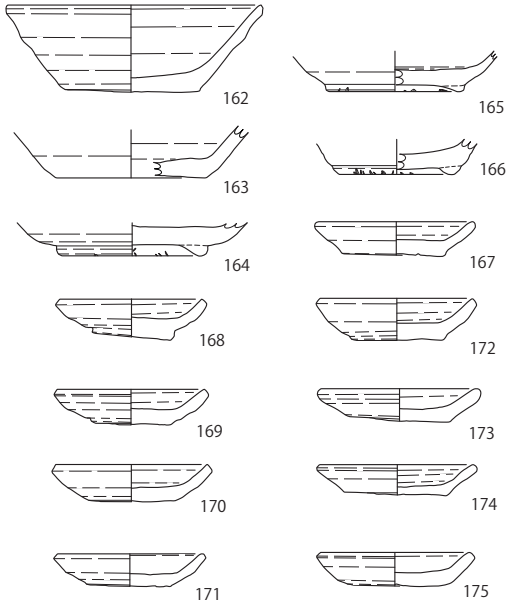




044SK（２地点）



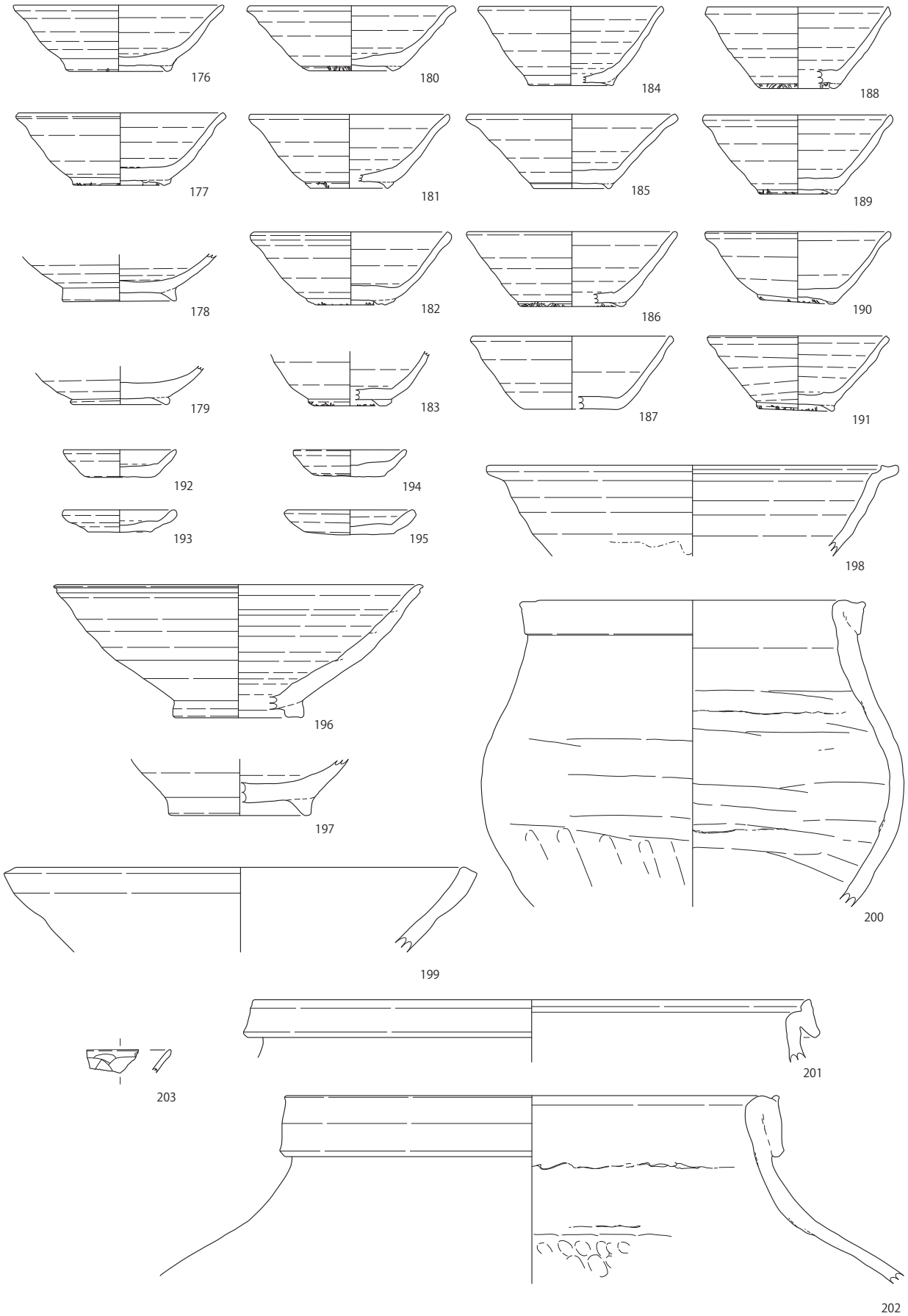
110・190SD（２地点）



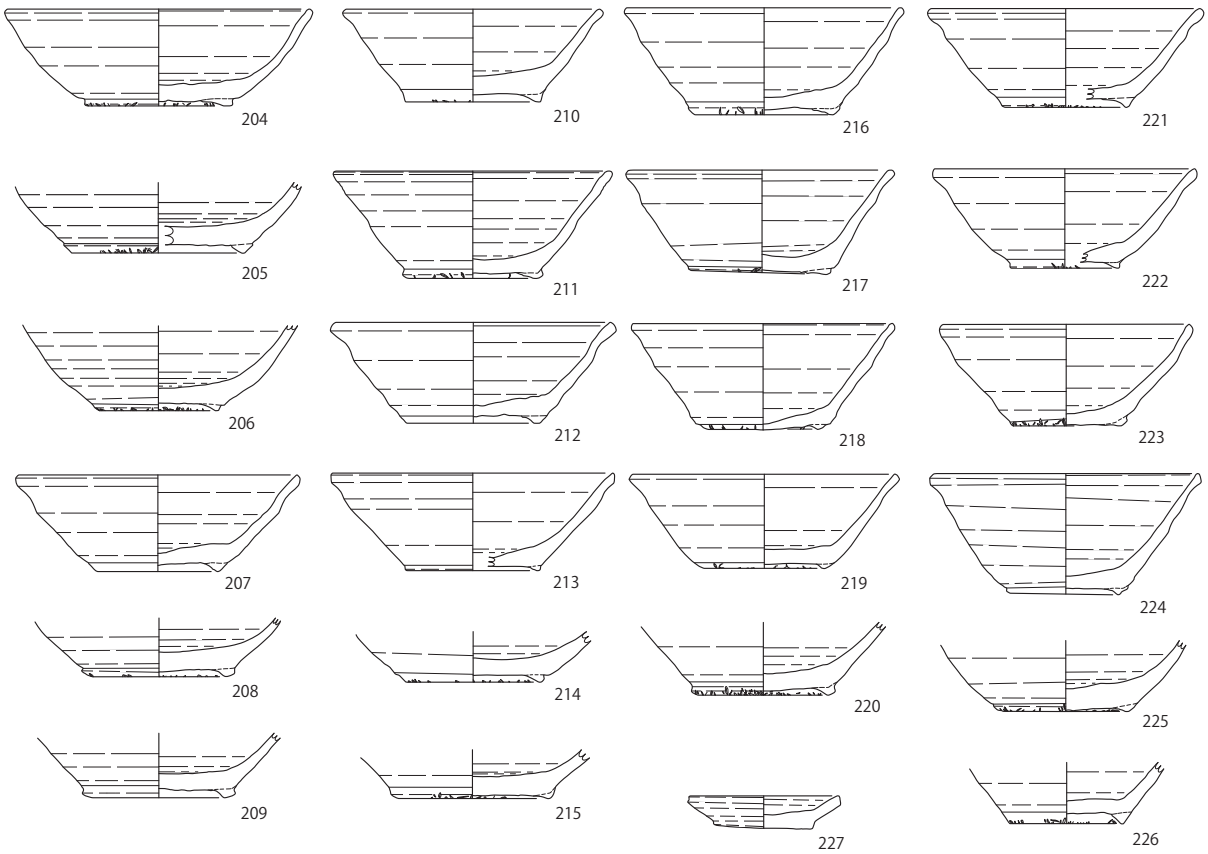
中世遺構（１地点）

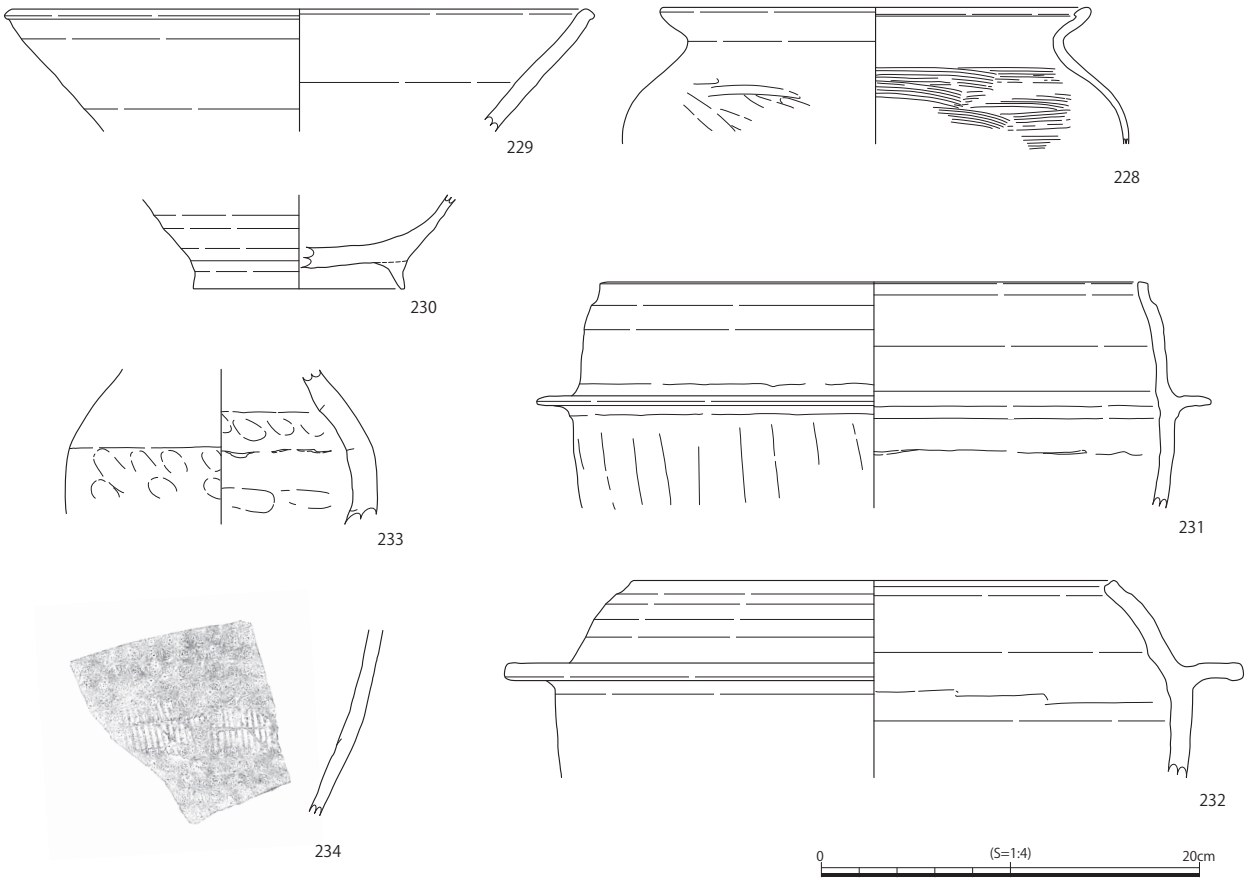
0　(S=1:4)　20cm

図版16　遺物　中世の土器・陶磁器2（160・230SD）

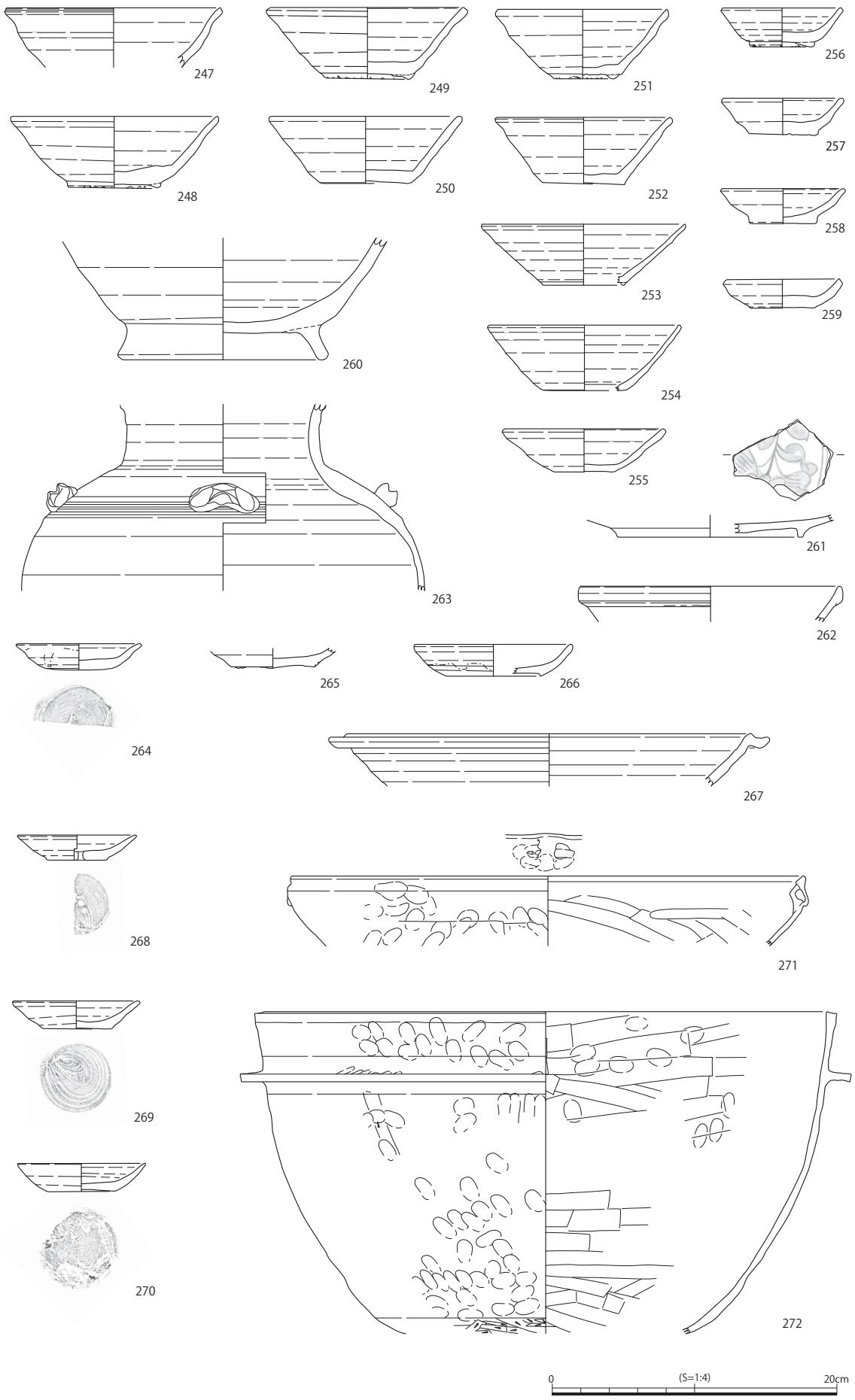


図版17　遺物　中世の土器・陶磁器3（223SK）





図版18　遺物　中世の土器・陶磁器4

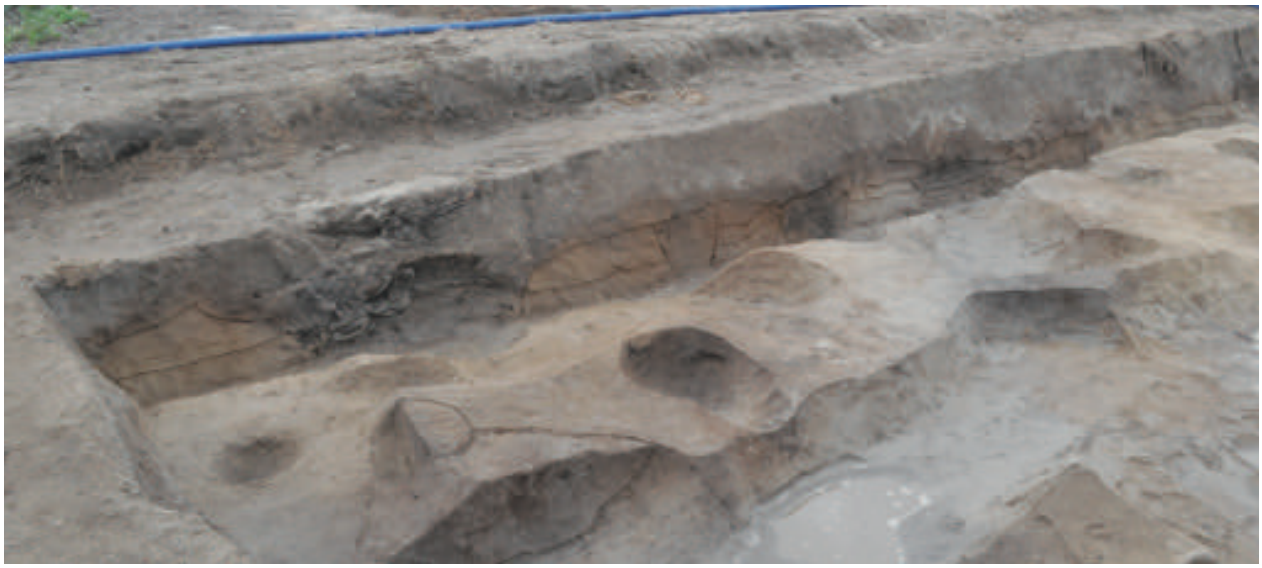


写真図版

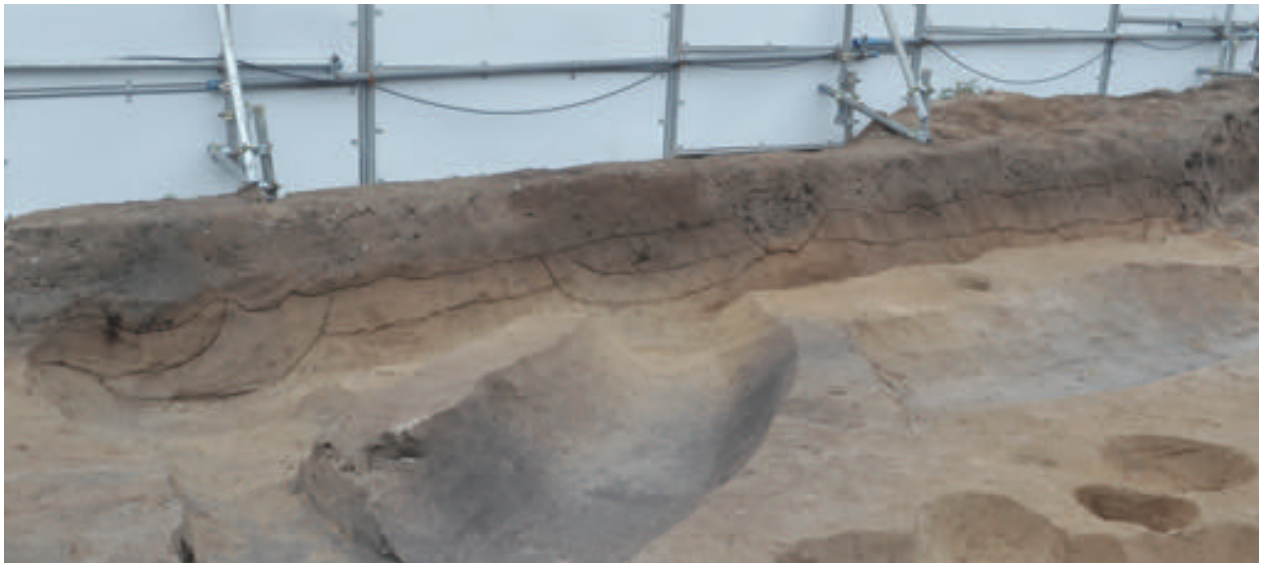
1　郷中遺跡全景（西北から）

2　郷中遺跡東部（東から）

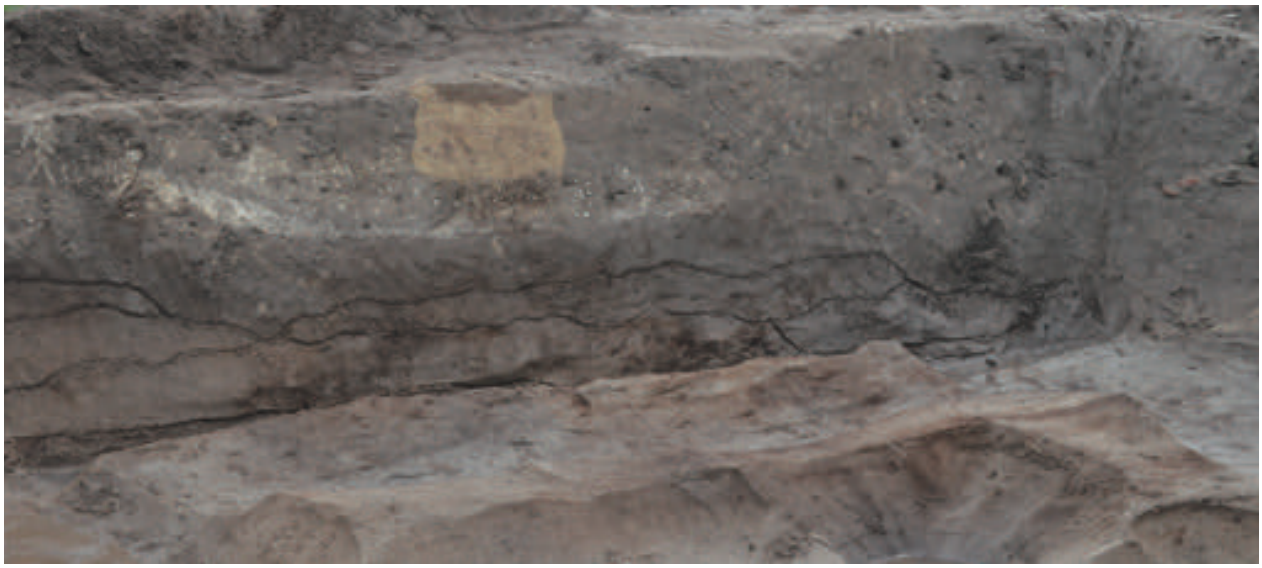
写真図版２　遺構　郷中遺跡（１地点）



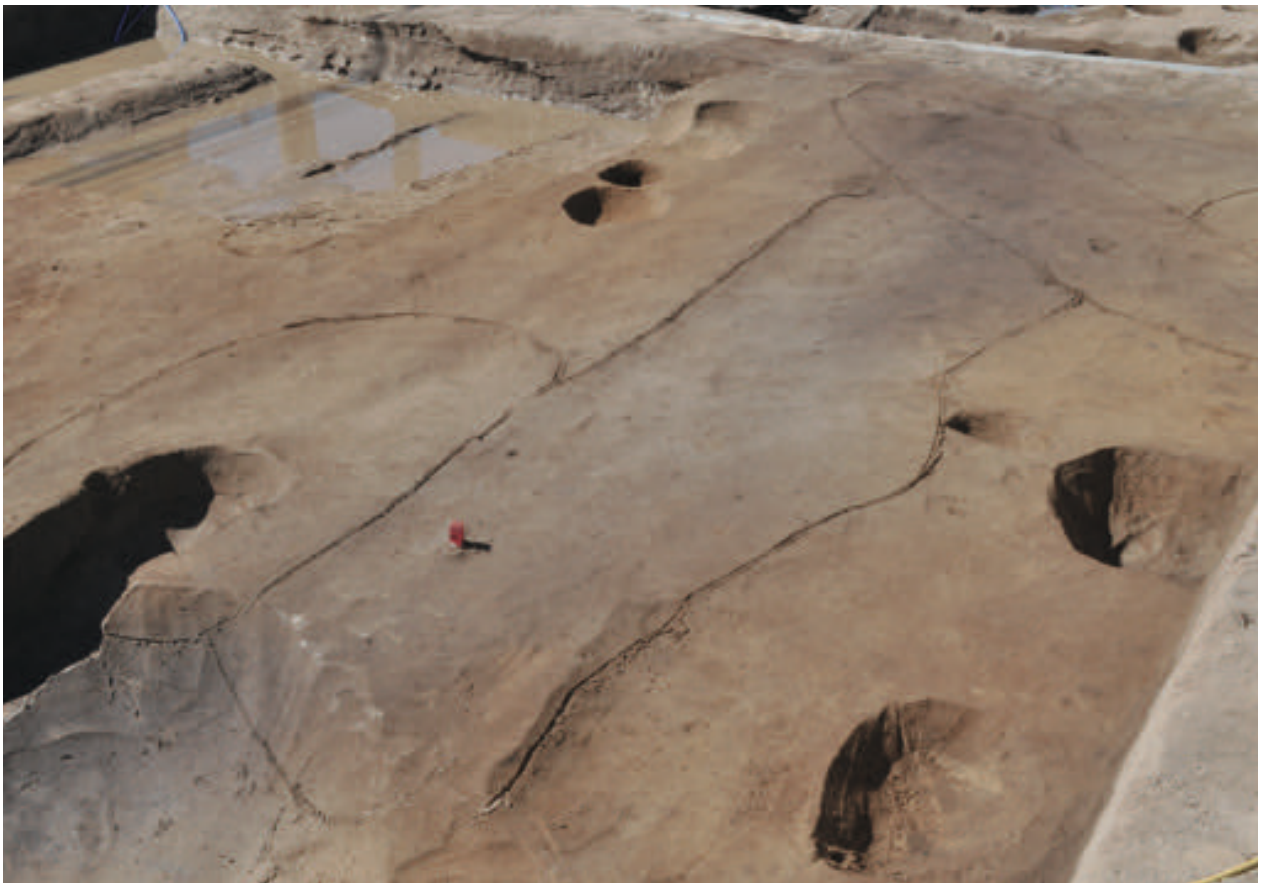
1　郷中遺跡北壁断面（西側）



2　郷中遺跡北壁断面（中央）

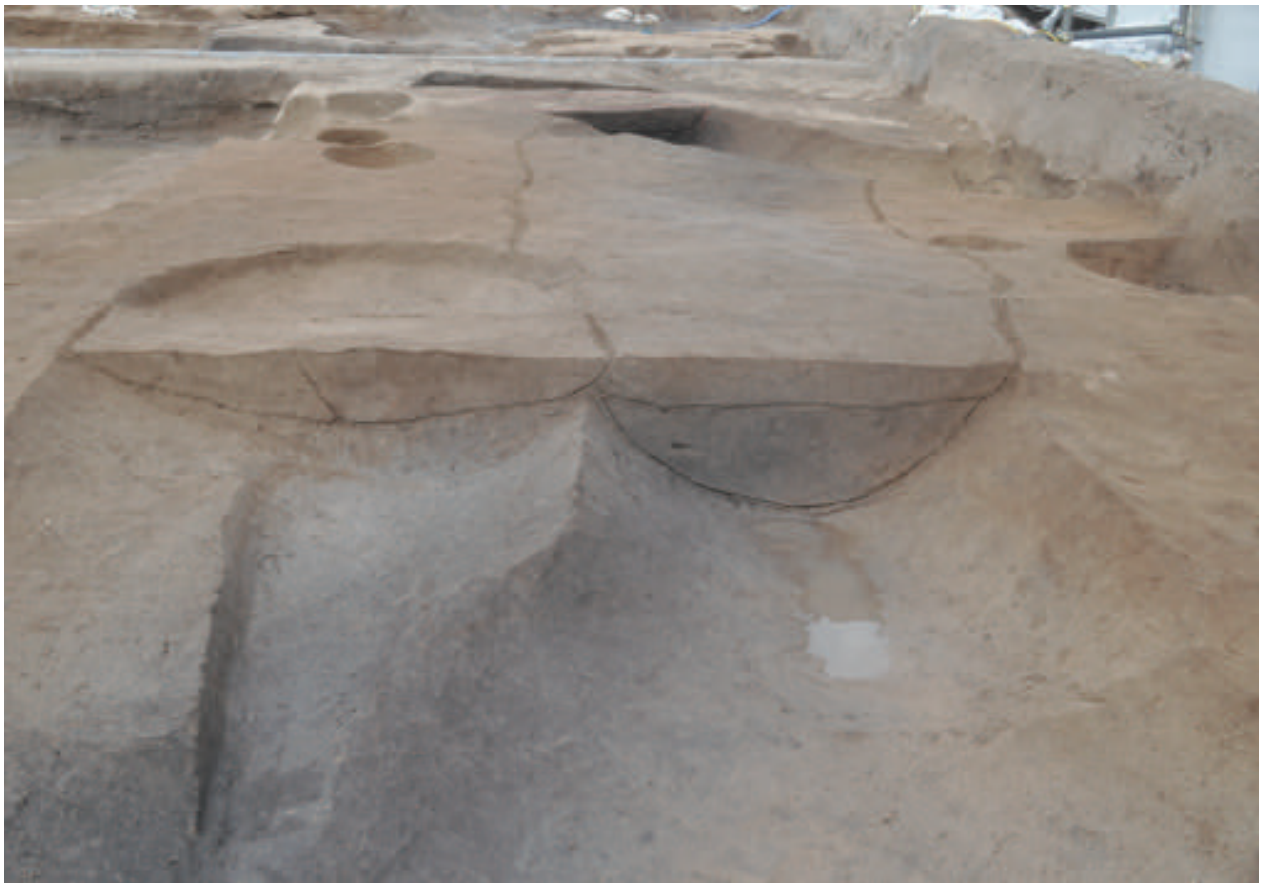


3　郷中遺跡北壁断面（東側）



1　001SD、005SD、035SD 検出（東から）

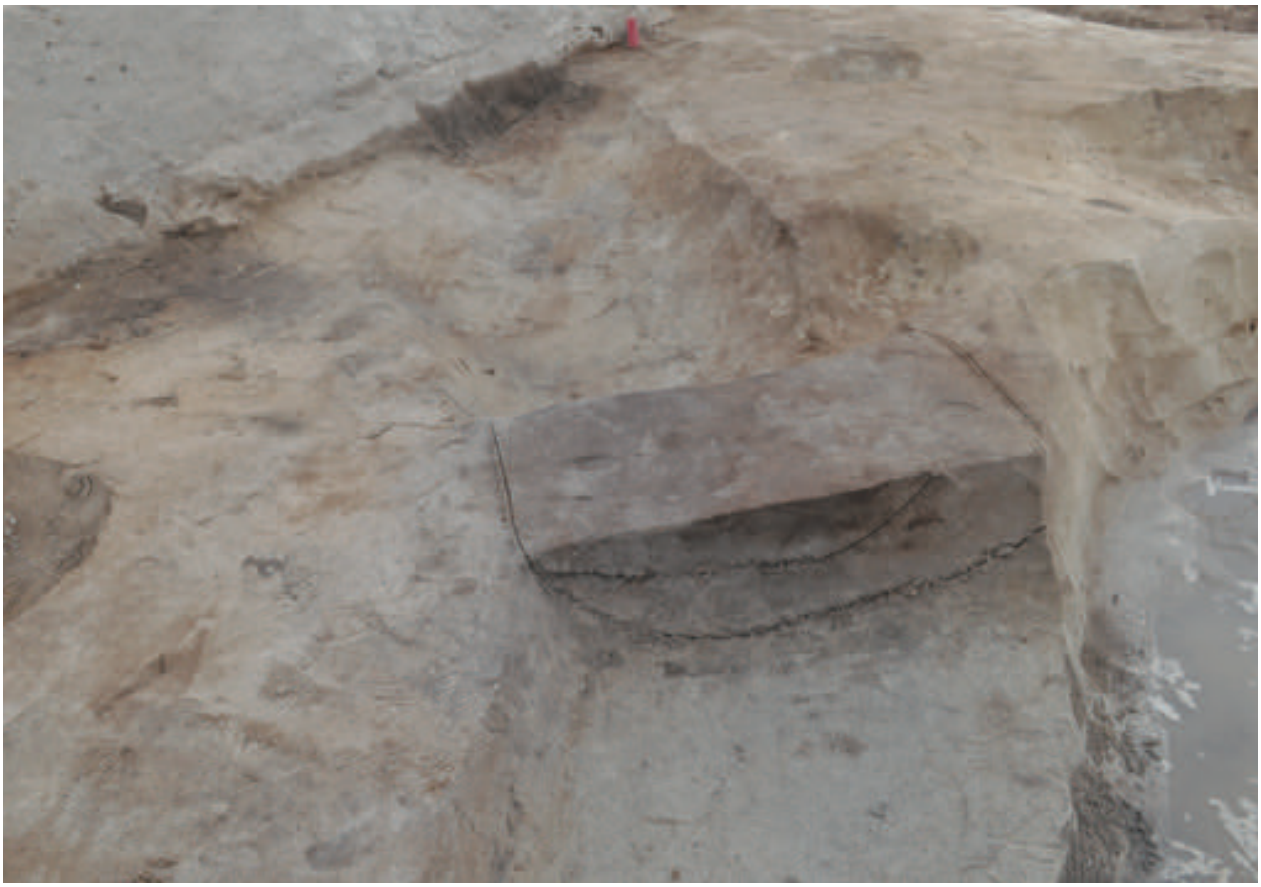
2　001SD、005SD、035SD（西北から）



1　035SD、001SD 断面（東南から）

2　021SD、020SD 断面（東南から）

1　040SD（西から）



2　040SD 断面（西南から）

1　040SD 検出（東から）

2　002SK（東から）

3　007SK（東から）

4　009SK（南から）

5　060SK（南から）

1　畑間遺跡西区全景南西部（北東から）

2　畑間遺跡西区全景北東部（西北から）

1　畑間遺跡東区全景（西北から）

2　畑間遺跡中区全景（西北から）

1　畑間遺跡西区北東部検出（西北から）

2　畑間遺跡西区南西部検出（西から）

1　畑間遺跡西区西壁断面

2　畑間遺跡西区北東部東壁断面

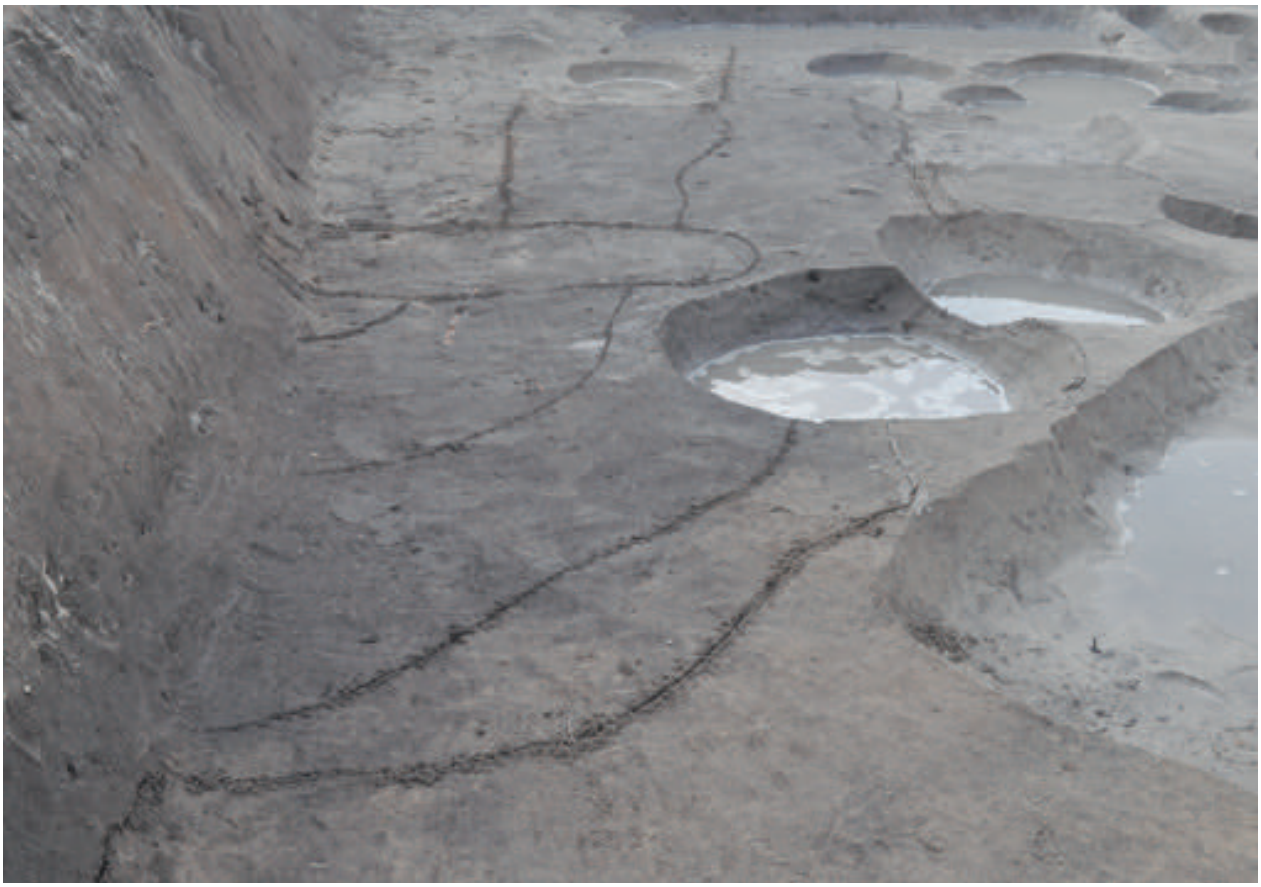
1　畑間遺跡中区北壁断面

2　畑間遺跡東区南壁断面

3　畑間遺跡東区東壁断面

1　110SD（西北から）

2　110SD 断面（西北から）



1　190SD 検出（東南から）

2　190SD 断面（西から）

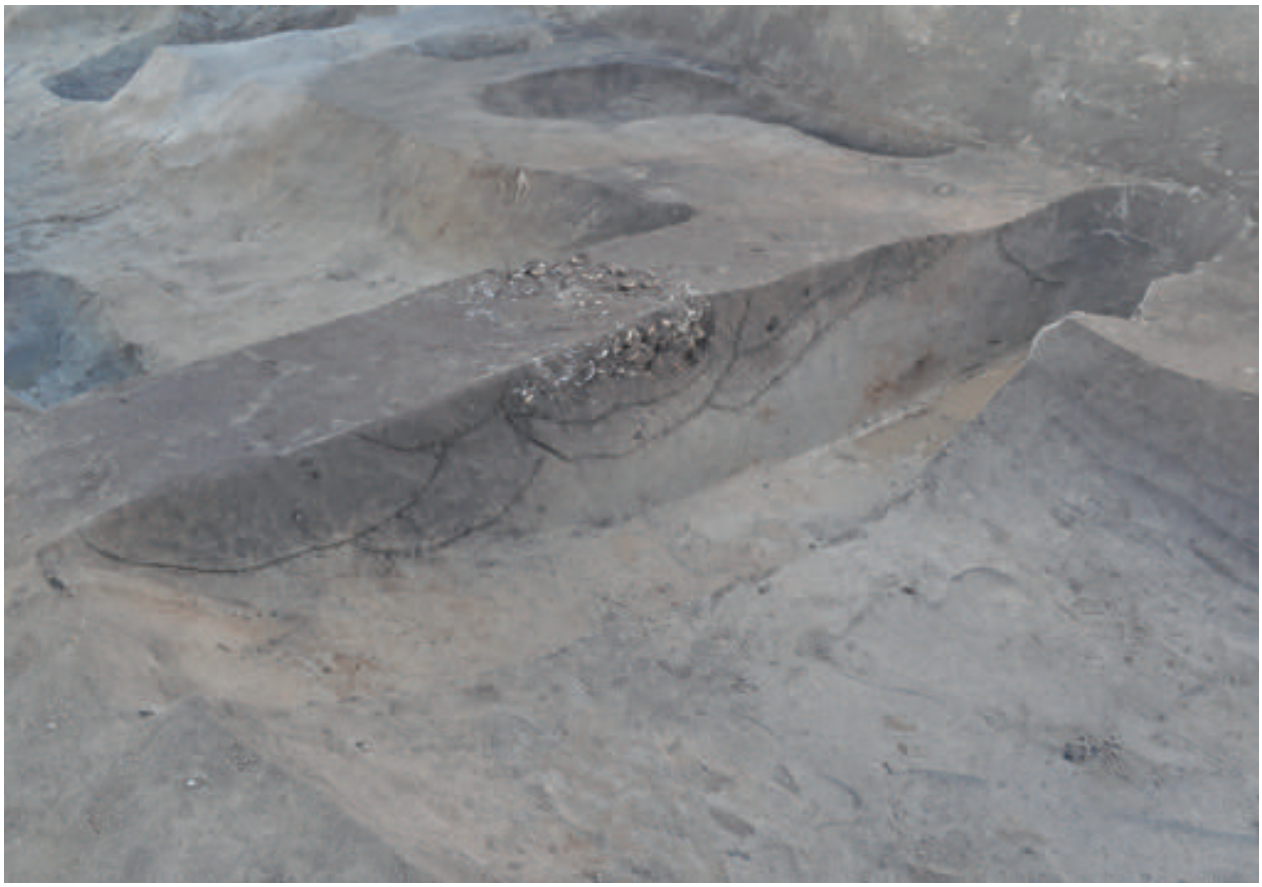
1　160・230SD 検出（東から）

2　160・230SD（西から）

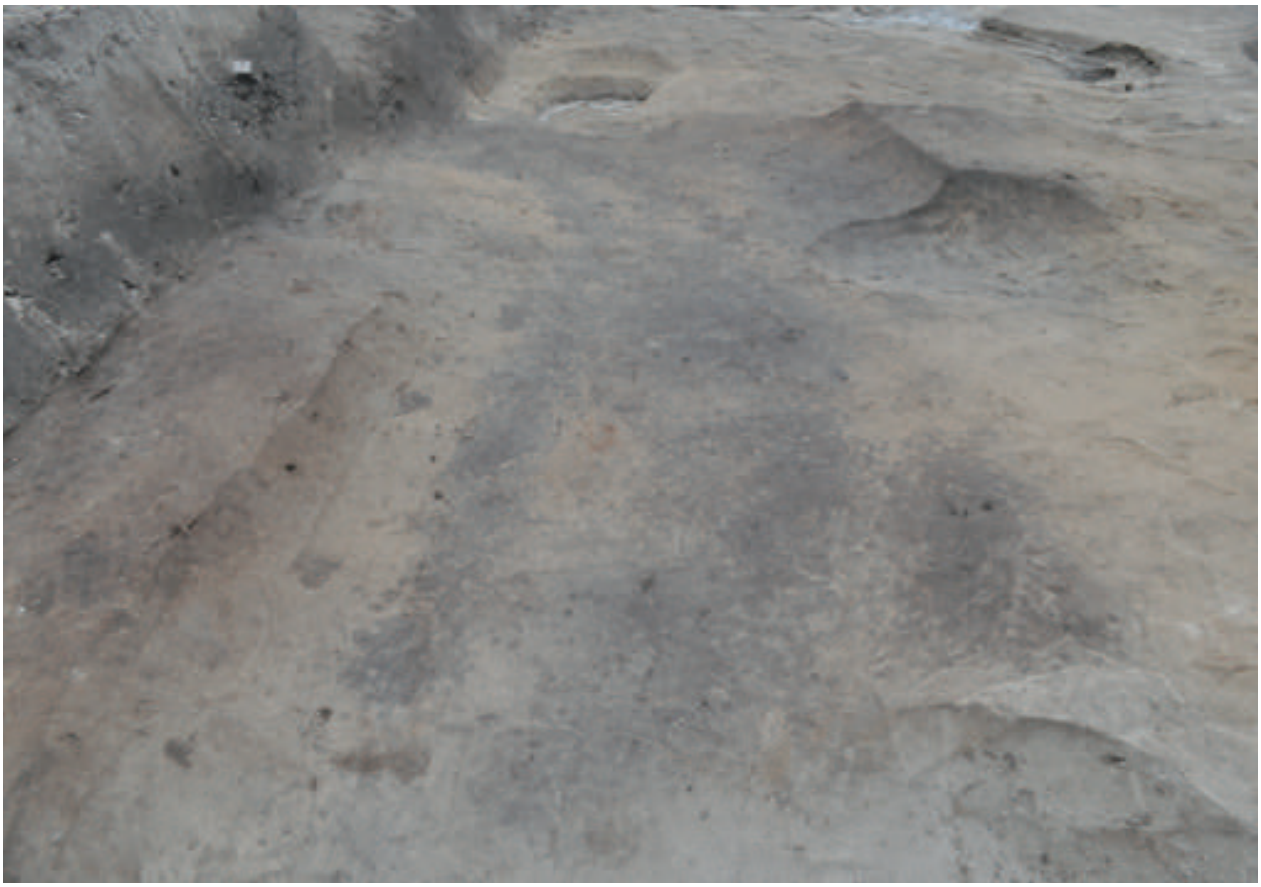
1　160・230SD 断面（西南から）

2　160・230SD 断面（東から）

1　170・210SD（東から）



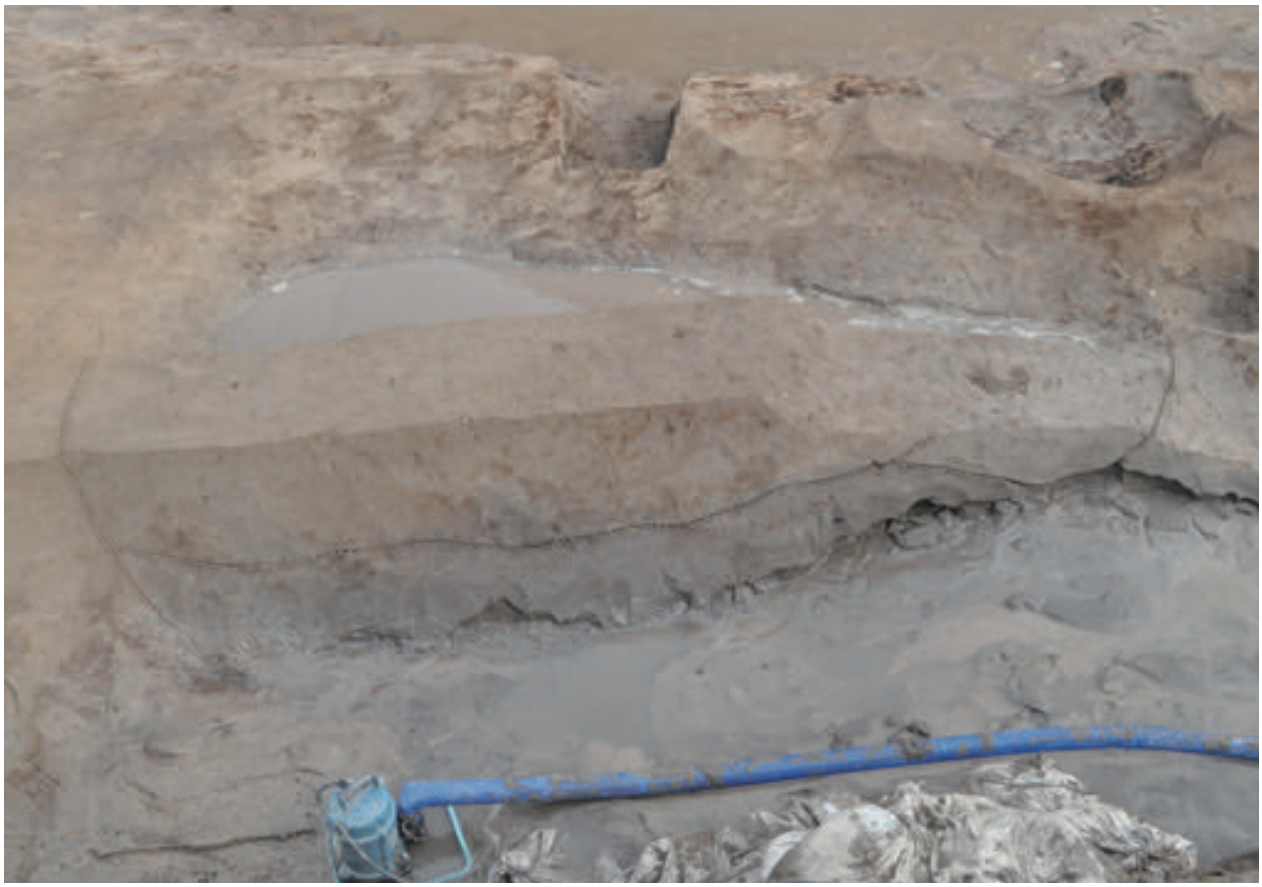
2　170・210SD 断面（西北から）



1　170SD 下層検出西側屈曲部（東から）

2　170SD 下層検出東側（東から）

1　223SK 遺物出土状況（南から）



2　233SX（南東から）

1　010SK（東北から）

2　010SK 出土土器（北から）

3　146SK 出土土器（南西から）

4　146SK（南西から）

1　東畑遺跡第１面全景（西から）

2　東畑遺跡第１面検出（北東から）

1　東畑遺跡第２面全景（西から）

2　東畑遺跡第２面検出（北東から）

1　東畑遺跡南壁断面

2　東畑遺跡西壁断面

1　002・003SD（西から）

2　002・003SD 断面（西から）

91

88

102

120

270

260

204

162

190

191

249

251

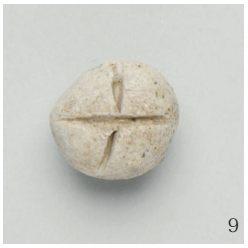
255

写真図版25　遺物　弥生土器・輸入陶磁器・土製品ほか

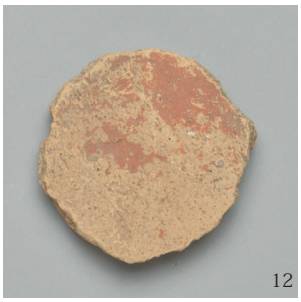
41

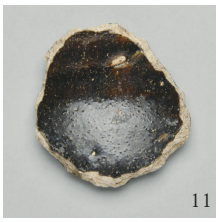
42

1


9

203


12


11

8

262

14

2

261

263

272

1　縄文晩期から弥生前期の土器

2　弥生中期の土器

3　弥生中期～終末期の土器

1　土師器甕

2　製塩土器

3　須恵器杯 H

4　須恵器碗杯と蓋

1　須恵器鉢、甕ほか

2　灰釉陶器

1　044SK 出土遺物

2　110・190SD、170・210SD、180SD、233SX 出土遺物

1　160・230SD 出土遺物

2　223SK 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はたま・ひがしはた・ごうちゅういせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平成 25 年度　畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	宮澤浩司　中村　毅　安部みき子　宮崎泰史
編集機関	株式会社アコード　名古屋営業所
所在地	〒 498 － 0021　愛知県弥富市平島町大脇 12 － 3 － 202　TEL　0567 － 65 － 6082
発行機関	愛知県東海市教育委員会
所在地	〒 476 － 8601　愛知県東海市中央町 1 丁目 1 番地　TEL　052 － 603 － 2211
発行年月日	2015 年（平成 27 年）3 月 31 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	市町村コード　遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
畑間遺跡（はたま いせき）	愛知県（あいち けん）東海市（とうかい し）大田町（おおた まち）	23222 43050	35° 1′ 11″	136° 53′ 42″	2013 年 8 月 26 日 ～ 2014 年 1 月 21 日	630.17㎡	土地区画整理事業
東畑遺跡（ひがしはた いせき）	愛知県（あいち けん）東海市（とうかい し）大田町（おおた まち）	23222 43052	35° 0′ 59″	136° 53′ 50″		25.52㎡	
郷中遺跡（ごうちゅう いせき）	愛知県（あいち けん）東海市（とうかい し）大田町（おおた まち）	23222 43122	35° 1′ 13″	136° 53′ 47″		313.73㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代と遺構	主な遺物	特記事項
畑間遺跡	集落	弥生時代～中世の柱穴・土坑・溝	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶磁器ほか	
東畑遺跡	集落	弥生時代～中世の柱穴・土坑・溝	弥生土器・中世陶磁器・石器ほか	
郷中遺跡	集落	弥生時代～中世の柱穴・土坑・溝	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶磁器ほか	

愛知県東海市
平成25年度
畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告書

平成27年３月10日印刷
平成27年３月31日発行

編　　集　株式会社アコード名古屋営業所
〒498-0021　愛知県弥富市平島町大脇12-３-202
TEL0567-65-6082
発　　行　愛知県東海市教育委員会
〒476-8601　愛知県東海市中央町１丁目１番地
TEL052-603-2211
印刷・製本　株式会社明新社
〒630-8141　奈良県奈良市南京終町３丁目464番地
TEL0742-63-0661